# 教育実習の手引き

## 小・中学校 Ver.7

Saitama University
埼玉大学
教育学部
Faculty of Education

# 教育実習の手引き　小中学校編目次


## Ⅰ　教育実習とは

1．教育実習の位置づけ…… 1
2．カリキュラムと教育実習…… 2
3．教育実習の流れ…… 4
4．教育実習生活…… 5
5．教育実習におけるトラブルについて… 8

## Ⅱ　小学生・中学生の特徴

1．小学生の一般的な特徴…… 10
2．中学生の一般的な特徴…… 12
3．問題を抱えた児童生徒について…… 13

## Ⅲ　教科および教科外の指導について

### 小学校編

1．小学校の教育課程…… 16
2．小学校の学級経営…… 17
3．学習指導の計画と実践…… 18
4．授業の準備と工夫…… 23
5．授業分析の方法…… 24
6．学習指導案とは：小学校の…… 26
教科指導と学習指導案事例
6. 1　国語科…… 27
6. 2　社会科…… 28
6. 3　算数科…… 29
6. 4　理科…… 30
6. 5　生活科…… 31
6. 6　音楽科…… 32
6. 7　図画工作科…… 33
6. 8　家庭…… 34
6. 9　体育科…… 35
6. 10　道徳…… 36
6. 11　外国語活動…… 37
6. 12　総合的な学習の時間…… 41
6. 13　特別活動…… 43

### 中学校編

1．中学校の教育課程…… 96
2．中学校の教科指導と学習指導案…… 97
2. 1　国語科…… 97
2. 2　社会科……104
2. 3　数学科……112
2. 4　理科……119
2. 5　音楽科……127
2. 6　美術科……133
2. 7　技術・家庭科……143
2. 8　英語科……153
2. 9　保健体育科……162
2. 10　道徳……171
2. 11　特別活動……175

## Ⅳ　教育実習の評価

1．基礎実習、教職入門Ⅱの評価……179
2．応用実習Ⅰ、応用実習Ⅱの評価……179

## Ⅴ　参考資料

1．関係法規……180
2．附属学校園などの紹介……188
3．教育実践総合センターの紹介……190

# Ⅰ　教　育　実　習　と　は

## 1．教育実習の位置づけ

教育実習は、みなさんが、学生として、教師として、そして人間として、多くのことを学びうる濃密な時間です。それは、大学４年間の教員養成課程における学びのプロセスの中核であるとともに、教師としての長いキャリアにおける実践的な学びの起点として位置づけられるものであり、一人ひとりの自己形成史における重要なターニングポイントとしての意味をもっているからです。

### 1.1　教員養成課程における“学び”の中核として

教育実習は、第一に、教員養成課程における学びの中核として位置づけることができます。

実習の毎日は、みなさんにとって新たな経験の連続となるでしょう。児童・生徒として体験したことのある学校現場も、教育をする立場であらためて経験してみると、教育を受ける立場のそれまでとは違った見方が形成されてくることはいうまでもありません。しかし、そのことは、これまでみなさんが教育を受ける立場で形成してきた見方をすっかり消し去ってしまうことを意味しているわけではないはずです。むしろ、そこで大切になることは、教育を受ける側とする側の二つの見方が総合されていくことにあり、その中で、学校とは、教師とは、授業とは何なのかということに対するみなさんの見方が、奥行きを増していくことに意味があるからです。

そのためには、１年次の「教職入門」、２年次の「基礎実習」「教職入門Ⅱ」、実際に教職体験をする「応用実習Ⅰ」（３年生、４週間）、および、「応用実習Ⅱ」（４年生、２週間）の時間が互いに緊密に連関し合うことで、実習以前の学習や実習後の学習とつながっていくことに意味があります。「基礎実習」「教職入門Ⅱ」は観察実習や模擬授業によって実際の教師の仕事への手ほどきを受ける時間であるとともに、実習以前にもすでにさまざまな場面で折りにふれて行ってきた学校観や教師観や授業観の吟味をあらためて行う時間だといえます。

大学入学時にはそれぞれの被教育体験に即した個々バラバラなものにしかすぎなかった教師像も、講義や演習や学生相互のコミュニケーションの中で徐々にその幅を広げてゆきます。教育実習の経験は、その教師像の再形成をさらにすすめるものになるはずです。しかし、ちょうどかつての被教育体験が個々バラバラであったように、みなさん一人ひとりの実習での教育体験もそれぞれに固有のものだといえます。その教師像を確かなものにしてゆくためには、それらの見方を互いに共有し合う中で経験の意味を掘り下げていく過程が必要です。

もちろん、被教育体験と教育体験、自己の体験と他者の体験、そして大学での学びと現場での体験は、簡単に総合されるものだとはいえません。学ぶということの意味は一つの経験ともう一つの経験を、一人の人間ともう一人の人間を、そして、一つの場所ともう一つの場所とを、互いに結びつける接点を見いだしていくことにもあるでしょう。教育実習はそれらの要素がつながりあう有機的連関の中核としての意味をもっているのです。

### 1.2　教師としての実践の場での“学び”の起点として

教育実習は、第二に、教師としての長いキャリアにおける実践的な学びの起点にあたるものとして位置づけることができます。

実際の教育実習の時間は、現実の教育の問題の深さを知る上でも、そこに蓄積された知見・知識・教師文化の奥行きを捉える上でも、また自分自身の教師としての方向性を見直す上でも、おそらく十分な長さをそなえているとはいえないでしょう。

しかし、実習生が実際に現場に身を置く、そのわずかな間にも、子どもや教師や学校はさまざまな出来事を織りなしながら、たえず動いていきます。そして、みなさんの判断や行動や存在自体もまた、確実にそこでの出来事を構成する重要な要素になっていくはずです。実践の場で学ぶということは、何よりもまず、そのような現在進行中の出来事の中に身を置いて学ぶことを意味しており、みなさんがその渦中で何を体験し、どういう問題に突き当たり、どんな反省（リフレクション）を行っていくのか、その体験と反省の在り方に教育実習における学びの質がかかっているといえます。

教師として必要な人間的な資質や専門的な力量は、実習期間のわずかなあいだに身につけることができるものではなく、むしろそれらのほとんどはこれから実際に教師として歩む長い道のりの中に学びつづけていくものです。だとすれば、教育実習において問われるべきは、あれこれの技術や知見の何が身についたかという以上に、その人が実践的な場の中で

己の経験をたえず更新しつづけていけるような学びのスタイルをどのように形成していくかということの方にあるはずです。

教師としての学びの本格的な第一歩が、初任教師として学校に赴任したときにはじめて記されるものだとすれば、教育実習における学びは、いわばそれに向かって半歩あゆみだすことにすぎないかもしれません。しかし、その半歩をみなさんがどのように踏み出すかということは、これからのみなさんの教師としてのライフコースの中で重要な意味をもっているのです。

### 1.3　教育実習における“学び”の二つの性格

以上のような実践的な場の中での学びは、子どもとのかかわりと教師とのかかわりという二つのかかわりを軸にして展開されるものとして、特徴づけることができます。

#### (1) 子どもとのかかわりの中での“学び”

第一に、それは子どもたちとのかかわりを軸に展開される学びだといえます。実習校には、一般論としての子どもや自分の中の子どものイメージではけっしてくくれない、さまざまな生活背景や個性をもった生身の子どもたちがいます。教育実習の期間は、その子どもたちや教師や友達どうしの間で複雑な関係を織りなす特定の世界に参加し、みなさんが一人ひとりの子どもとの間に関係を形成していく過程だといえるでしょう。朝の会、授業時間、休み時間、そうじの時間、放課後といったいくつもの場面で、子どもたちはさまざまな表情や行動をみせます。

そこでみなさんは、一人の子どもの授業の中でのこだわりが教室の友人関係や家庭の状況を背景としたものであることを知ったり、自分たちの子どもの頃では考えられないような子どもの姿に、その地域や現代社会の特質を見いだしていくかもしれません。ときには、子どもたちの学ぶ力や成長する力の豊かさに驚き、ときには自分が大切にしたいと思うものに逆行する状況にとまどいながらも、その中に何か大切なものを見いだしていくかもしれません。教師としての学びを、そのような子どもたちとのコミュニケーションにつなげていくことが、何にもましてこれからみなさんが豊かな教育実践をつくりだしていく上での土台になるはずです。

#### (2) 教師とのかかわりの中での学び

第二に、それは教師とのかかわりを軸にしながら展開する学びだということができます。教師という専門的な職業集団への参与という点では、教育実習は教師の仕事の中のほんの一部を経験するにすぎません。しかし、みなさんが経験する授業の計画・活動・反省過程という一連の営みは実践のもっとも本質的な部分だといえます。教育実習は、そのプロセスを共有する中で、他の教師たちとさまざまなかかわりをもつ時間でもあります。

教育実習においてみなさんは、授業に向けての子ども理解や教材解釈や授業案の作成の仕方、授業の中での説明や発問や子どもへの対応の仕方とその裏側にある熟慮や判断の在り方、授業後の反省過程における問題の焦点化やそれらを乗り越える手だての発見の仕方などについて、具体的に学んでいくことになります。実際に自分がその実践過程を経験するだけではなく、その都度の実践の局面で直面する課題や状況の中で出会う他の教師たちの行動や言葉から、みなさんは多くのことを学んでいくはずです。教師はけっしてひとりでは成長できません。みなさんが自分自身の学びをそのような実践者相互のコミュニケーションに参与しつなげていくことは、教師として成長しつづけていくために欠くことのできない土台になるはずです。

これまで述べてきたことは、言い換えれば、結果の良し悪しにではなく、試行錯誤の学びのプロセス自体に教育実習の価値を見いだすことだといえます。結果の成功とか失敗は、多くの場合、一面的なものにすぎません。そつなく体裁をととのえて成功したかに見える授業よりも、自分自身の考えにもとづいて行った失敗のうちにこそ、むしろゆたかな学びの源泉はあります。誰のものでもない自分自身の歩みを誠実に刻み、それを他者とともに謙虚にふりかえることができたなら、そのこと自体がすでに成功や失敗をはるかに越えた価値をもっているのであり、みなさんのその学びの姿こそが、教師たちにも子どもたちにも何かを伝えていくことになるでしょう。

## 2．カリキュラムと教育実習

### 2.1　カリキュラムと教育実習

教育実習は、教員養成系学部である本学部のカリキュラムにおいて重要な位置を占めるものです。教育実習はその体験を通して、教育学部学生としての一層の自覚を促し、将来の教職者としてこれからの学生生活をどう過ごしたらよいかを改めて考える、またとない機会を与えてくれるものです。

本学部の教育実習のカリキュラム上の位置づけは以下のようになっています。

| １　年　次 | ２　年　次 | ３　年　次 | ４　年　次 |
|---|---|---|---|
| 各専修の専門科目 | 各専修の専門科目 | 各専修の専門科目 | 各専修の専門科目 |
| 教科専門科目 | | ３　年　次　演　習 | ４年次卒業研究 |
| 教育学概説Ａ・Ｂ | 教育方法・課程論 | | |
| 特別活動論 | 道徳教育論 | | |
| 教育心理学概説 | 生徒・相談指導論 | | |
| | 教育相談 | | |
| | 各教科指導法 | 各教科指導法 | |
| 教職入門Ⅰ | 教職入門Ⅱ | 応用実習Ⅰ | 応用実習Ⅱ |
| | 基礎実習 | | |
| | 介護等体験 | （学校ﾌｨｰﾙﾄﾞｽﾀﾃﾞｨA） | 教職実践演習 |

カリキュラムの全体を概観してみると、１、２年次では、「応用実習」へ向けて、概説や指導法、道徳・特別活動に関する授業が並んでいます。また、教育学部における学生として、これから何をどのような立場で研究して行くべきかについての方向が示されています。「応用実習Ⅰ」を体験する３年次からは、各専修の専門科目・演習が多く入ってきます。「応用実習Ⅰ」と「応用実習Ⅱ」での教育実習の体験をふまえて、将来の自分の進路を考え、それにあった研究を深めていくことになります。４年次後期に履修する教職実践演習は、それまでに培ってきた自分の教員としての資質能力を統合して確認し、足らないところを自覚して深めるための科目です。

## 2.2　本学部における教育実習の履修要件

主免許（小学校教諭もしくは中学校教諭）の教員免許状の取得のためには、それぞれの校種に対応した「応用実習Ⅰ」を履修する必要があります（校種・教科などは所属する課程・コース・専修・分野によって異なります）。

「応用実習Ⅰ」を履修するためには、下記の履修最低要件を、履修前年度終了時までに満たさなければなりません。

**【応用実習Ⅰ履修の最低要件】**

| 小　学　校 | 単位数 | | 中　学　校 | 単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 初等教科専門科目 | 6 | | 中等教科専門科目 | 6 | |
| 教職入門Ⅰ | 2 | | 教職入門Ⅰ | 2 | |
| 教職入門Ⅱ | 1 | | 教職入門Ⅱ | 1 | |
| 基礎実習 | 1 | | 基礎実習 | 1 | |
| 教育学概説Ａ（本質） | 2 | 10以上 | 教育学概説Ａ（本質） | 2 | 10以上 |
| 教育学概説Ｂ（制度） | 2 | | 教育学概説Ｂ（制度） | 2 | |
| 教育方法・課程論 | 2 | | 教育方法・課程論 | 2 | |
| 道徳教育論 | 2 | | 道徳教育論 | 2 | |
| 特別活動論 | 1 | | 特別活動論 | 1 | |
| 教育心理学概説 | 2 | | 教育心理学概説 | 2 | |
| 生徒・進路指導論 | 2 | | 生徒・進路指導論 | 2 | |
| 教育相談 | 2 | | 教育相談 | 2 | |
| 総合的な学習指導法 | 1 | | 総合的な学習指導法 | 1 | |
| 初等教科指導法 | 12 | | 実習を実施する教科の指導法から | 12 | |
| 総単位数――上記科目を含んで<br>（「外国語・基盤科目」と「専門教育科目」の合計） | 62単位 | | 総単位数――上記科目を含んで<br>（「外国語・基盤科目」と「専門教育科目」の合計） | 62単位 | |

## ３．教育実習の流れ

埼玉大学教育学部では、学生が行う教育実習は、すべて学部で配当します。出身校で行う“母校実習”などは実施していません。学生諸君は、学部からの指示にしたがい、Web学生システムや、掲示などの連絡事項を見落とさないように注意してください。

教育実習履修は次のようなプログラムとして組まれています。

【１年次】

入　学　時……＊傷害保険・インターンシップ保険に加入
（加入していないと、実習を履修できません。）

前期……＊「教職入門Ⅰ」履修

【２年次】

４月～６月……＊「応用実習Ⅰ」の希望調査
（実習の時期（前期・後期）、実習希望地域などの調査を行います。）

前期……＊「基礎実習」「教職入門Ⅱ」の履修
（①大学での講義、②参観実習、③少人数による学習指導案作成の学習、模擬授業演習などで構成されています。参観実習は、附属学校園で行います。）

後期……＊教育実習ガイダンス（11～12月頃）
（「実習生調書」を作成し提出します。３月以降に実習の時期、実習校が決定されますが、希望通りにならない場合もあります。）

後期末……＊「応用実習Ⅰ」最低履修要件の確認
（履修要件をクリアできていないと履修できません。）

【３年次】

実習開始の３～４週間前……＊「応用実習Ⅰ」の事前指導
（実習の心得などを学部で指導します。）

実習開始まで……＊事前の実習校訪問
（実習校を事前に訪問し、挨拶をするとともに、実習を始めるに際して実習校からの注意などを確認しておきます。初めての訪問ですので、きちんとした姿勢・服装で臨みましょう。事前に学校に電話をして訪問日時の打合わせを行い、必ず全員一緒に訪問します。実習校への道順・所要時間なども確認しておきます。実習校の都合で、実習期間が、変更になるケースもあります。）

前期／後期……＊「応用実習Ⅰ」（４週間）実施
（子どもたち、先生方との交わりを大切にし、充実した実習になるように努めましょう。何か困ったこと、相談したいことがある場合は、一人で悩むのではなく、すぐ大学に連絡しましょう。実習後は、お礼の挨拶を忘れないように。）

４月～６月……＊「応用実習Ⅱ」の希望調査（選択者のみ）
（実習希望地域の調査を行います。）

後期……＊教育実習ガイダンス（11～12月頃）
（「実習生調書」を作成し提出します。６月以降に実習校が決定されますが、希望通りにならない場合もあります。）

後期末……＊「応用実習Ⅱ」最低履修要件の確認
（この要件をクリアできていない人は履修できません。）

【４年次】
実習開始の３～４週間前……＊「応用実習Ⅱ」の事前指導
（「応用実習Ⅰ」の時と同じです。）
実習開始まで……＊事前の実習校訪問
（「応用実習Ⅰ」の時と同じです。）
後期……＊「応用実習Ⅱ」（２週間）実施

# ４．教育実習生活

## 4.1　教育実習を行うにあたっての留意点

### (1) 基本的姿勢

各実習校は、後継者養成のために、多忙な時間をさいて実習生の指導をしてくださいます。このことを充分に理解して、謙虚な姿勢で実習に臨むことが必要です。また、一人ひとりが埼玉大学を代表して来ているという自覚をもって行動してください。

### (2) 実習校の先生方に対して

実習校の先生方に対しては、自分は指導を受ける立場にあるということを念頭において接します。挙措動作、言葉づかいにも注意しましょう。

### (3) 教師としての自覚と責任

教育実習生は、大学においては「学生」であっても、教壇に立ったり、児童・生徒と向かい合う場面においては、一人前の「先生」です。

「教師」としての自覚をもち、その責任を果たすことが求められます。体罰が厳禁であること、教師としての「守秘義務」があることなども確認しておきましょう。特に、児童・生徒のプライバシーには、最大限の配慮が求められます。

### (4)「学ぶもの」としての自覚

(3)にもかかわらず、教育実習生は「学生」でもあります。授業に関することはもちろん、休み時間・給食・清掃・部活動や学校行事など、学校に関わるすべてのことに興味をもち、積極的に関わって、たくさんのことを吸収しましょう。

### (5) 教育実習生仲間と代表者

一緒に教育実習をする仲間は、よきライバルであり、相談相手です。「代表者」を中心に、協力し合って充実した実習が送れるよう努力しましょう。「代表者」は、各実習校ごとに決定されます。実習生のまとめ役として挨拶や諸連絡の窓口となります。

### (6) 健康

長い教育実習をのりきるためには、なんといっても“健康第一”です。精神的・肉体的の双方で健康を維持するよう努める必要があります。実習開始前から健康を保つように留意しましょう。

## 4.2　勤務に関する留意点

### (1) 勤務時間

出勤時間は、それぞれの学校により異なりますが、勤務開始の10分程度前に出勤しましょう。時間を守り、ゆとりをもって行動するようにします。

### (2) 通勤手段

出勤は、徒歩または電車、バスなどの公共交通機関を利用します。自動車・バイクなどによる通勤は、交通安全の観点から原則として認められていません。自転車による通勤は、実習校の指示に従ってください。

### (3) 所持品

持ち物は、印鑑・教科書・筆記用具・「教育実習の手引き」（本書）・「教育実習の記録」・上履き・運動靴・弁当、その他、実習に必要なものです。

### (4)「教育実習の記録」

毎日欠かさず記入し、担当の先生に提出します。

### (5) 出勤簿

毎朝、出勤時に、出勤簿に押印します。

### (6) 外出

勤務時間内の外出は、原則として認められません。外出する際は、必ず許可をいただきます。教員採用試験の願書を提出に行くなどの場合が考えられます。

### (7) 欠勤・早退・遅刻

欠勤・早退・遅刻はできるだけないように努めるのが当然です。やむを得ない場合は、事前に実習校に連絡し、承認を得ます。

(8) 生活の場

生活の場として、「控え室」が与えられることが多いようですが、隣室に迷惑にならないように留意しつつ、研究・討論の場として活用します。所持品の管理にも注意しましょう。

(9) 昼食、間食

昼食・間食などについては、それぞれの学校の指示にしたがいます。ここが、学校であるということを、もう一度思い起こしましょう。

(10) 給食費など

給食費や、遠足などの学校行事に参加する際にかかる諸費用は、原則として自己負担です。金額や支払方法は、事前訪問の時に確認しておきましょう。

(11) 服装など

見苦しくない服装、動きやすく、実習にふさわしい服装を心がけましょう。

## 4.3 児童・生徒の指導に関する留意点

(1) 態度・言葉づかい・身だしなみ

児童との接触にあたっては、教育者としてふさわしい態度・言葉づかい・身だしなみを心がけます。

(2) 児童・生徒との接触

実習校においては、児童・生徒とは、常に明るく、気持ちよい態度で接することが肝要です。また、自分の担当するクラスの児童・生徒名を早く覚え、親しみ、かつ親しまれるよう努めます。児童・生徒の個性を理解するとともに、性別や個人による分け隔てが起こらないようにします。

(3) 学校外での接触

自分の配属された実習校の児童・生徒を、許可なく校外に引率したり、呼びだしたりしてはいけません。公務以外の電話をかけてはいけませんし、またかけさせてもいけません。実習終了後の児童・生徒との接触は、実習校の了解を得てからです。

(4) 学校の設備備品

設備備品を使用する場合は、担当の教職員の指示に従います。使用後は必ずもとあった場所に返納し、整理整頓に心がけます。

(5) 参観授業

他のクラスの授業を参観する場合は、事前に担当教師と連絡をとり、観点を決めて参観するようにします。挨拶やお礼を忘れずに。

(6) 児童・生徒の健康観察

親の立場になったつもりで、児童・生徒の健康に細心に留意しましょう。

## 4.4 実習計画の例（４週間の場合）

実習計画は、それぞれの学校で作成されます。一例を示しておきます。

★第１日

〔挨拶と紹介〕

職員集会での紹介・挨拶／講話（学校教育全般・教職員心得など）／クラス担任・教科担任との話し合い／校内施設見学／受け持ちクラスでの紹介・挨拶

★第１週

〔学校、クラス、児童・生徒を知ることに努める〕

授業見学、教材研究、授業計画の立案／学級活動、生徒指導、学校行事の指導・研修／クラブ活動・部活動への参加・研修

★第２・３週

〔授業を実践して指導法を深めるとともに、児童・生徒の理解を深める〕

＊普通授業の実施（全体で10～15時間程度）

指導案、指導法について、授業実施の前日までに、指導の先生の指導を受けます。実施後は、批評と指導をしていただきましょう。教育実習生同士の研鑽も大切です。（第１週から授業を行う場合もあります。）

＊研究授業の準備

研究授業の内容などについて細案を作ります。

＊学校行事にも、積極的に参加します。

★第３・４週

〔研究授業を行い、実習の成果を点検する〕

＊研究授業の実施

指導案の細案を作成し、担当指導者の指導を受けたのちに印刷します。実施の前日までに教職員全員に配布します。

＊研究協議会

研究授業の反省をし、学んだことの確認をします。他の実習生の研究授業からも、いろいろ学びましょう。

★最終日

〔実習のまとめ、実習終了の挨拶〕

実習のまとめ、反省／「教育実習の記録」の提出／教職員・児童・生徒に実習終了の挨拶とお礼。

お礼を述べに事後訪問し、提出していた「教育実習の記録」を受けとります。「教育実習の記録」は、大学の学部係へ提出します。

## 4.5　実習生の一日

実習生の日課は、配当された実習校によって異なります。また、毎日同じ日課だというわけでもありません。実際には、事前訪問の時か、実習初日に指示されることになりますが、一例を掲げておきます。

【小学校の例】

〔平日〕

| | |
|---|---|
| ～８：15 | 実習生登校（勤務開始） |
| ～８：25 | 児童登校 |
| ８：25～８：35 | 職員集会<br>（その日の予定等の打ち合わせを職員室で行います。児童は、朝の運動や自習をします。） |
| ８：35～８：45 | 朝の会<br>（教室で出欠、健康観察、児童への連絡等） |
| ８：50～９：35 | 第１校時 |
| ９：35～９：45 | 移動と準備 |
| ９：45～10：30 | 第２校時 |
| 10：30～10：50 | 休み時間 |
| 10：50～11：35 | 第３校時 |
| 11：35～11：45 | 移動と準備 |
| 11：45～12：30 | 第４校時 |
| 12：30～13：15 | 給食の時間 |
| 13：20～13：40 | 清掃の時間 |
| 13：40～14：00 | 休み時間 |
| 14：00～14：05 | 移動と準備 |
| 14：05～14：50 | 第５校時 |
| 14：50～15：00 | 移動と準備 |
| 15：00～15：45 | 第６校時 |
| 15：45～16：05 | 帰りの会 |
| 16：05～ | 下校 |
| 16：05～16：45 | 研究会、校務分掌に関する各種会議、課外活動、児童の提出物の処理、本日の反省と明日への準備（勤務終了、実習生下校） |

【中学校の例】

〔平日〕

| | |
|---|---|
| ～８：15 | 実習生登校（勤務開始）<br>生徒出席確認（健康観察含む） |
| ８：20～８：30 | 職員集会<br>（その日の予定等の打ち合わせ。生徒は、この間に自習や読書をします。） |
| ８：30～８：40 | 朝の会<br>（生徒へ連絡をします） |
| ８：40～９：30 | 第１校時 |
| ９：30～９：40 | 移動と休み時間 |
| ９：40～10：30 | 第２校時 |
| 10：30～10：40 | 移動と休み時間 |
| 10：40～11：30 | 第３校時 |
| 11：30～11：40 | 移動と休み時間 |
| 11：40～12：30 | 第４校時 |
| 12：30～13：10 | 給食と休み時間 |
| 13：10～14：00 | 第５校時 |
| 14：00～14：10 | 移動と休み時間 |
| 14：10～15：00 | 第６校時 |
| 15：05～15：20 | 清掃 |
| 15：25～15：40 | 帰りの会<br>（生徒へ翌日の連絡をします） |
| 15：45～16：45 | 部活動、委員会<br>（職員会議、研修会。生徒の提出物の処理、本日の反省と明日への準備など。<br>（勤務終了、実習生下校） |

＊出勤途上で児童・生徒と一緒になることがよくあります。学校外の児童・生徒の姿を知るよい機会です。交通マナーや交通安全にも気を配りましょう。

＊「朝の会」では、児童・生徒の様子をよく観察して、健康状態や心の状態を把握するようにします。

＊「休み時間」「給食」「清掃」も、学校生活の大切な時間です。積極的に参加して、児童・生徒、そして学校への理解を深めるようにします。

＊退勤する際には、教職員の方にきちんと挨拶して、退勤することを伝えます。

## 5．教育実習におけるトラブルについて

皆さんは普段は「学生」という立場ですが、教育実習先の児童生徒にとっては「先生」であり、職員室では「実習生」となります。その場その場の立場に応じて、相手を尊重し信頼する、また自分も相手から信頼されるような、適切なコミュニケーションがとれなければいけません。

しかしこれまで、教育実習では様々なトラブルが報告されてきました。トラブルをできる限り回避するために、そして、トラブルになってしまったときに迅速に対応するために、ここでは実際にあったトラブルの一部を紹介します。

### 5.1　性的な事柄をめぐるトラブル

ケース1

実習先の中学校の生徒から、「先生、彼女いるの？」と聞かれ、「いる」と答えた。すると、「彼女とどんな関係までいっているの？」と質問されたため、性的な内容に話題が及び、その日持っていた避妊具を生徒にせがまれて、しかたなく見せた。

実習先の児童生徒にとって、皆さんは親しみやすいお兄さん・お姉さんのようにうつるかもしれません。したがって、個人的な質問をされる機会もあるでしょう。

しかし、自分の恋愛や性的なことを話題にするといった行為は、皆さんのプライバシーの保護といった観点から望ましくありません。更に、皆さんが「先生」としての立場上の権限を利用し、児童生徒を不快にさせる「**セクシャルハラスメント**」の加害者とされてもおかしくない行為です。

大学の友達同士の会話なら許されることでも、実習先では厳禁です。プライバシーにかかわる質問をされたら、まずもって答えてはいけません。そして、「そのようなことは聞いてはいけないよ」と、児童生徒に伝えてください。

ケース2

実習先の生徒にせがまれ、メールアドレスを交換した。そして、後日、その生徒と学外で個人的に会った。

メールアドレスは個人情報ですので、児童生徒と実習生の双方の個人情報の保護のためにも、児童生徒とこのようなやりとりしてはいけません。更に、学外で個人的に会うという行為は、実習生としての関わりを大いに逸脱しており、大変な問題です。皆さんは、児童生徒と決して「対等」ではないのです。このような行為は「**セクシャルハラスメント**」の加害者とされてもおかしくないものです。

もし、児童生徒からこのような求めがあった場合は、指導教員の先生に相談し、指示を仰ぎましょう。

### 5.2　個人情報の扱いをめぐるトラブル

ケース1

実習の様子をFaceBookに掲載した。学校や児童の名前は書いていない。写真を掲載してはいるものの、自分の授業をする姿と、児童の後頭部がうつっているだけである。閲覧者は登録制にしているので、情報が拡散する危険性はないと判断した。

学校名や児童の名前が掲載されていなくとも、インターネット上（ブログ、ツイッター等も含む）に実習の情報を流すこと自体が大問題です。写真の扱いも、この写真なら大丈夫といったことではなく、掲載すること自体が問題なのです。

実際に、学校名が判別されないだろうと思われたインターネット上の情報から、実習先が割り出され、実習校や大学に「通報」されたケースがあります。また、そこで語られた実習の様子を、実習先の児童がたまたま読み、ショックを受けたといったこともありました。更に、FaceBookの閲覧者の制限も、実のところ機能していなかったこともあります。

今、各学校は個人情報の保護に懸命に取り組んでいます。実習生個人で判断できるような事柄ではないのです。インターネット上に、教育実習にかかわる情報は、一切出してはいけません。

ケース2

自分が担当させていただいた授業で、生徒たちから回収したワークシートを、自宅に持ち帰った。そして実習終了後、そのワークシートを燃えるごみに出した。

まず、ワークシートを含め、学校で回収した児童生徒の個人的な資料を、自宅に持ち帰ることは厳禁です。更に、回収したものを捨てるといった行為は、言うまでもなく大問題です。いずれも個人情報の保護に大いに抵触しています。

実習生の個人的な判断で、回収したものを持ち帰ったり、破棄したりしてはいけません。個人情報の保護を徹底しながら、次の授業に生かすための方法

については、実習先の指導教員の指示を仰ぎましょう。

## 5.3　教職員と実習生の間のトラブル

ケース1
　生徒や他の教職員の前で「実習生のくせに、これくらいわからないのか」と言われ、適切な指導助言を得られなかった。後日、職員室では「これだから埼玉大学の学生は嫌なんだ」と言われ、精神的にショックを受けた。

　皆さんは実習生として、実習先の先生方から様々な指導をいただくことになりますが、上記のような、厳しい言葉を投げかけられ、必要な指導を受けられなかったといったことが報告されることがあります。その際、「ここまで言われるのは、自分のせいだ」と過度に自分を責め、落ち込む必要はありません。一生懸命、職務に従事することはもちろん大切ですが、不十分なところがあって当たり前であり、指導をいただくべき立場、それが実習生なのです。
　このような行為は、必要な指導を行わない「**アカデミックハラスメント**」や、就労上の不適切な言動を意味する「**パワーハラスメント**」に相当します。皆さんは、ハラスメントの被害者になる可能性もあるのです。
　このような場合、ひとりで悩まずに、勇気を出して、大学学部係や、ゼミの指導教員等に相談しましょう。一緒に対策を考えます。

ケース2
　学校関係者から好意をもたれたようで、学内外で、つきまとわれている気がしていた。するとその後、デートに誘われた。

　相手が学校関係者となると、断り方に大変困るといった声がきかれます。しかし、「お世話になっている先生だから…」と誘いを受ける必要は全くありません。
　誘いを断りにくい状況が生まれていることからもわかるように、これは明らかに「**セクシャルハラスメント**」であり、皆さんは被害者になりうるということです。
　この場合も、やはりひとりで悩まずに、大学学部係や、ゼミの指導教員等に相談してください。実習を全うできるよう、一緒に対策を考えていきます。

## 5.4　教育実習をきちんと全うするために

　ハラスメントは、被害者に対してかなりの精神的ダメージを与えます。皆さんは、ハラスメントの加害者にも、被害者にもなってしまう可能性があることを、十分自覚しましょう。
　まずは、自分の立場をわきまえて加害者にならないための努力をすることが大切です。児童生徒に対しては、「先生」として適度な距離を保つことです。
　もしハラスメントの被害にあってしまったら、その責任を自分ひとりで引き受けてはいけません。困ったことがあれば、即、大学に相談してください。

# Ⅱ　小学生・中学生の特徴

## 1．小学生の一般的な特徴

小学生の６年間は、様々な面で大きな変化が見られます。同じような振る舞いをしても、発達段階によってその動機が全く違うことがありますし、大人が同じ言葉をかけても、異なる受け取り方をする場合があります。

一人ひとりの子どもの発達の速度は異なっており、しばしば大きな個人差が見られます。しかし、発達段階によって共通した特徴もまた、見られるのです。小学１年生に因数分解を教えても、理解できません。このように、子どもの発達の状態を踏まえて指導することは、教育の大前提であると言えます。各教科のカリキュラムは、子どもの発達に基づいて作られていますから、各発達段階の特徴を知っておくことで、「なぜこの年齢の子どもにこのような教育が必要か」ということを理解しやすくなるでしょう。

ここでは、低・中・高学年に分けて、身体的発達、認知的発達、社会的発達、情緒的発達の大まかな特徴を見ていきましょう。

### (1) 低　学　年

#### ①　身体的発達

・入学直後は、時間割や座席によって、時間や空間が区切られることに慣れていない。そのため、長時間座ってじっとしていたり、トイレを休み時間にすませておくことが難しい。
・しかし、集団生活を送るうちに、授業などの公的な場面と、それ以外の場面の区切りは、次第に形成されてくる。
・どの程度疲れているか、具合が悪いかなどの自分の状態を意識したり、言葉で表現したりすることが難しい。

#### ②　認知的発達

・直接経験したことや目の前にある具体的なものごとについて、論理的に考えられる。ただし抽象的なことは理解しにくい。
・親しい人との間で状況を共有しながら用いていたことば（例「昨日ポチと前に行ったのと同じ公園に行ったの」）に加えて、不特定多数の人にも理解してもらえることば（例「昨日飼っている犬のポチと、〇〇公園に行きました」）が用いられ始める。
・能力と努力の区別が明確ではなく、同じだけ努力すれば誰でも同じ結果が得られると思いやすい。

#### ③　社会的発達

・友達になるきっかけは、同じ遊びが好きだったり、座席や自宅が近いなどの理由が多い。仲間は遊びや同じ活動をすることを通して作られていく。
・力の強い子や運動好きな子がリーダーとなることが多い。
・集団生活が始まり、仲間と自分を比較することにより、自分自身を理解しはじめる。

#### ④　情緒的発達

・入学当初は、生活環境の大きな変化から不安になることが多い。特に、教師との一対一の関係の中で、自分の話を聞いてほしいという欲求が強い。
・親や教師は絶対的な存在であり、彼らがよいとすることを善、よくないとすることを悪と判断しやすい。
・他の人の行動を見たとき、行動の動機よりも結果に注目して、行動の善し悪しやその人の性格を判断する。

### (2) 中　学　年

#### ①　身体的発達

・伸長期にさしかかり、しだいに体力もついてくる。
・持続的で活発な活動をするようになる。
・少しずつ自分の身体の状態を意識し、調節できるようになる。

#### ②　認知的発達

・記憶力が伸び、頭の中で同時に処理できる量が次第に増える。
・論理的な思考が拡がり、上位概念―下位概念という階層性を理解したりする。また空間的な概念も変化し、遠近画法を用いた描画を理解できたりするようになる。
・努力と能力の違いを理解しはじめる。同じ量の努力でも能力によって結果が異なること、同

じ能力でも努力によって異なることなどを理解する。
・学年の進行とともに学力の個人差が拡大し、授業についていけない子どもの数が増加していく。(「９歳の壁」と呼ばれる)。

③　社会的発達
・自分たちで計画し活動したいという自律意識が生まれ、集団活動が活発になる。
・同じ価値や規則を共有した仲間集団を作るようになる。
・友達に対して忠誠や助け合いを期待するようになる。
・第三者の視点から、自分や他者を客観的に眺め、集団の協調を意識できるようになる。

④　情緒的発達
・直接行動することから、ことばによる行動へと移行していく。
・計画性が芽ばえ、考えてから行動するようになる。しだいに、先の見通しがもてるようになる。
・仲間と一緒にいることが、次第に大切になっていく。

(3) 高　学　年

①　身体的発達
・身長、体重、骨格が成長する。特に、女子の発達が著しくなる。
・男女とも性的成熟が著しくなってくる。第二次性徴が現れる子どももいる。
・調整力がほぼ完成する。
・運動能力は、しだいに男子優位になってくる。

②　知 的 発 達
・具体的な事物を超えた、抽象的な思考もできるようになる。加速度などの目に見えないものの理解や、「もし～だったら」という仮定の思考が可能になる。
・客観的に自分の能力をとらえられるようになる。
・自分の思考を意識し、計画を立てて考えることができる。

③　社会的発達
・対人関係において、友人(仲間)の比重が大きくなり、「相談相手」として親よりも友人を好むようになる。
・友人に対し、人格特性などの内面への共鳴や尊敬の気持ちが出てくる。
・親友ができるようになる。相手に対し、自分の欲求を満たしてくれる存在という一方的な見方から、互いの欲求を満たす存在であるという見方をするようになる。
・インターネット、テレビ、雑誌などからの情報を積極的にとり入れ、それらから影響を受けるようになる。

④　情緒的発達
・自己を社会的な存在として自覚し始める。
・自分は級友よりも走るのが速いけど、計算が苦手だ、というように、ある側面で自分よりも優れていたり劣っていたりする他者がいること、努力をしてもかなわないことがあることなどを知っていく。
・他者からネガティブに見られることにより、劣等感をいだくこともある。
・男女間の距離が生じてくる。
・公平さや公正さに敏感になる。

以上みてきたように、小学校の６年間で、身体が急激に大きくなり、思考は論理的になっていきます。また、親や教師とのタテの関係に加えて、友だちとのヨコの関係が急速に広がっていきます。そして集団生活の中で、他者と比較することで自分を見つめ、理解していきます。また他者との共同や葛藤を通して、社会性を育んでいきます。

学校の中にいると、「中学年に比べて低学年は・・・」というように、つい小学校の時期のみ切り離して、その中だけで発達の比較をしてしまいがちです。しかし、子どもは幼稚園や保育所を経て入学し、卒業後は中学校へと移行していく、その途上にあることを忘れてはいけません。子どもたちは、期待を胸に小学校に入学しますが、同時に大きな環境の変化を経験します。その環境の変化は子どもにとって時に険しく、学校への適応が大きな課題となる場合もあるのです。一人ひとりの子どもの「発達の連続性」を考慮しながら、その子どもにしかない、個性の育ちに寄り添っていくことが大切です。

## ２．中学生の一般的な特徴

小学校では「児童」と呼ばれていた子供たちも、中学校に入学したその日から「生徒」と呼び方が変わります。しかし、その中身はどのように変わっていくのでしょうか。ここでは、中学生の心身における変化の実態を追いながら、生徒理解について、そして生徒指導について述べていきます。

中学生の３年間は、子供から大人への過渡期に突入します。身体的には、体が大きく変化する「思春期」と呼ばれる時期と重なります。心理的には、大人っぽい考え方をし始める一方で、不安定な気持ちを抱えるという特徴があります。

### (1) 身体的発達

身長や体重が急激に変化し、中には１年間で身長が10㎝以上も伸びる生徒や、体格が大きく変わる生徒もいます。また、声変わりや初潮などの第二次性徴が現れ、男性らしい、あるいは女性らしい体になります。

近年、子供の発達が世代ごとに早くなる「発達加速現象」が報告されています。身長や体重の伸びや、第二次性徴の出現が昔より早い年齢で見られるという現象です。その結果、体は早く大人になっていきますが、精神面が追い付かず、心と体のギャップが見られる子供も多くなっています。

身体面での個人差が大きいことも、中学生の特徴です。周りと比べて、身長が伸びない悩み、体重が増えることに対する悩みなどを秘めている場合があります。また、第二次性徴が現れるのに伴い、急激に大人になっていく体を受けいれたくない、まだ子供でいたい、という気持ちを持つ生徒もいます。

### (2) 知的発達

抽象的な思考がさらに発達し、具体物や実際の場面を離れ、命題のみで考える論理的思考が可能となります。例えば、個々の物事を別々にとらえるのではなく、それらの共通性や法則性を一般化して考えることができるようになります。また、事実と反する仮定や、単なる可能性についても想像をめぐらせることが可能になります。そして、「人生とは」「恋愛とは」といった、幅広い範囲の対象について、大きな視点から考えるようになります。

### (3) 社会的発達

次第に「自分とはどのような存在か」という問いを持つようになります。つまり、「アイデンティティ」の形成のための試行錯誤をするようになります。そこには、同世代の友人との関係が、大きな影響を及ぼします。クラスメートや仲間から受け入れられているか、どう評価されているかということが、極めて重要な意味を持つのです。孤独を恐れ、皆の行動や流行に歩調を合わせようとする傾向も見られます。また、友人を強く求めると共に、厳しく選択しようとしたり、競争意識を持ったりすることもあります。

先に述べたように、現実とは異なる理想の世界を想定することができるようになるため、「理想の大人」と現実のギャップに敏感になります。これが、親や教師などへの反抗へとつながることもあります。一方で、自らが「こうありたい」というモデルを、親や教師に見出そうとすることもあります。

### (4) 情緒的発達

理想の自分と現実の自分との間の葛藤に悩み、自分自身に関して批判や疑問をもつことがあります。また、異性を強く意識し始め、異性関係に悩む生徒も多くなってきます。

中学生の時期は、対人関係や自分について様々な悩みを抱えるようになります。極端から極端へと、激しく気持ちが揺れ動くこともあり、不安定な心を抱えています。しかし、その激しい情動を内に秘め、外に表出しにくいのも大きな特徴です。そのため、教師は、表面上に現れる感情のみをとらえるのではなく、個々の子供の小さな行動の変化を、その背景とともに注意深く見て行く必要があります。

### (5) 環境の要因

近年では、携帯電話やインターネットの普及に伴い、保護者や教師の見えないところで、複雑な人間関係が展開されていることが少なくありません。生徒たちは、携帯メールによっていつでも相手とつながっている状態でいることで、安心感を抱くような密着した関係を築く傾向があります。その半面、相手からの返信がなかった時に不安や不信、孤独感を招きやすいこともあります。

また、インターネットの「学校裏サイト」ＳＮＳ等により、深刻ないじめが進行することもあります。教師はこれらのメディアについての理解を深め、常にアンテナを張っておくことが必要とされるでしょう。さらに家庭と協力体制を築くことが大切になります。

## 3．問題を抱えた児童生徒について

学級をのぞいてみると、実に様々な個性の子供がいます。たとえば、口の達者な子供、口より行動で示す子供、運動の得意な子供、運動よりも本が好きな子供、どんどんチャレンジする子供、石橋を叩きながら進めていく子供。違いがあるからこそ、お互いに学び合い、それぞれに違った活躍の場があり、学級としてまとまったときに素晴らしい力を発揮するのです。色々な仲間との学校生活を通じて、子供たちは学力を身につけ、仲間関係や社会性を育みます。学校で培った力や経験は、日々の学習や生活に生かされるだけでなく、子供たちが大人になったときの適応を支える大きな力になるでしょう。

しかし、中には単なる個性ではなく「理解と支援を必要とする個性」を持つ子供もいます。こうした子供たちは、学校生活にうまくなじめず、他の子供のように色々な力を順調に身につけていくことが難しくなります。ですが、多くの場合、周囲の理解と支援があれば、着実に伸びていくものです。本節では、こうした子供たちに目を向け、それぞれにみられる特徴や対応の仕方について基本的なことを説明します。

彼らは、教育実習生の皆さんにとっては、掴みにくく、指導に乗せにくい、「手ごわい」子供たちに思えるかもしれません。配属学級にそういう子供がいなければよいと思う人もいるでしょう。しかし、彼らは「問題のある子供」ではなく、「困っている子供」です。誰かが困り感に寄り添ってくれたときや、ちょっとした大人の配慮で何かを達成したときに見せる子供たちの笑顔を見たいと思いませんか。それに、こうした子供たちとの出会いは、皆さんが教員としての力を伸ばすチャンスでもあります。なぜなら、彼らとのかかわりの中に、特別な理解と支援を必要としない子供たちへの教育のヒントがたくさんあるからです。つまり問題を抱えた児童生徒は「指導の手立てを教えてくれる子供」なのです。

### 1．発達に遅れやかたよりのある子供たち

#### (1) 平均的な知能を下回る子供

特別な教育の場ではなく、通常学級を選んだ知的障害の子供たちが在籍していることがあります。また、通常学級には、元々、知的障害と平均的な知能の間くらいの子供たちが存在しています。これらの知能の発達が緩やかな子供は、様々な学習のペースも緩やかであり、小学校低学年の比較的生活に密着した、具体的な内容の学習は何とかついていくことができても、中学年以上の抽象的かつ言語的思考を多く必要とする学習には歯が立たなくなっていきます。つまずきは教科学習で顕著に表れ、読解や文章題が分からない、作文が短く構成が不十分などの様子が見られますが、日常生活の中でも、指示が分からず、周りの友達の様子を見てから動いている、会話が幼いなどの様子が見られます。

こうした子供たちには、短く、分かりやすい指示が効果的です。机間指導の折に個別に声かけするのもよいでしょう。周りと同じようにできない場合には、担任の先生（養護教諭　スクールカウンセラー）と意見交換をしながら、何をどこまで要求すればよいかを考えてください。

#### (2) ＬＤ（学習障害）のある子供

ＬＤは知能の明らかな遅れがないにもかかわらず、ある特定の学習に著しいつまずきを見せる子供たちです。入院や不登校で十分な教育を受けていない、外国籍である、視覚や聴覚の障害があるなど、他の要因で生じている学習のつまずきは該当しません。ＬＤは、他の障害同様、脳の働き方に原因があると考えられています。たとえば、視覚情報の処理が強く、聴覚情報の処理が極端に弱いという子供は、漢字や図形問題はできるけれども、出された指示を理解したり、九九を唱えたりすることは苦手でしょう。逆に、視覚情報の処理が弱いタイプならば、口は達者だけれども、漢字が覚えられなかったり、「ｂ」と「ｄ」の区別がつかなかったりするかもしれません。子供によって、つまずきの現れる領域や現れ方が多様であるため、行動に特徴が現れるＡＤＨＤや高機能自閉症に比べて、気づかれにくいようです。

教育実習という限られた時間で学習のつまずきを改善することは難しいでしょうが、子供たちのできているところ、頑張っているところに注目し、かかわることは大事です。子供たちの自信や意欲につながります。口で言った方が分かるか、図で示した方が分かるかなど、かかわりを通じて子供の理解の仕方を掴むのもよい方法です。

#### (3) ＡＤＨＤのある子供

ＡＤＨＤの子供たちは、集中困難（集中が続かない、些細なことに気を取られる、忘れ物が多い）、多動性（じっとしていることが難しい）、衝動性（指示の途中で口を挟む、後先考えずに動く）といった様子が見られます。ただし、多動性や衝動性があまり目立たないタイプのＡＤＨＤもあります。

ＡＤＨＤは、７歳までに特徴が現れ、長い期間にわたって、色々な場面で落ち着きのなさを見せます。

つまり、中学生になって急に落ち着きがなくなった、朝の会の時間だけ落ち着かないという場合は、ＡＤＨＤではなく、別の原因が考えられます。子供は、心配事や体調不良などの様々な理由で、集中力が低下したり、そわそわしたり、衝動的に行動したりするものです。「落ち着きがないからＡＤＨＤ」と判断する前に、子供の全体像を捉えてみてください。

こうした子供に指示を出すときには、注意を惹きつけてから簡潔に話す、言葉だけでなく文字など目に見える援助を併用することが効果的です。集中時間が短いために、授業に飽きて周りの注目を集めようとふざける子供もいます。そうしたときはあまり相手にならず、適切な言動に反応をしたときだけ注目するようにします。また、担任の先生は、子供が飽きて不適切な行動をとる前にその子供に合う課題を与えたり、褒めたりしているはずです。問題が起きる前に対応し、本人も周りも気持ちよく過ごせるようにすることは大切です。

### (4) 高機能自閉症のある子供

知的発達に明らかな遅れがない（つまり知的障害がない）自閉症を「高機能自閉症」と言います。自閉症グループの一員ですので、自閉症の３つの特徴である社会性の困難（状況を読むことや相手の心を推し量ることが難しい、常識を知らない）、コミュニケーションの困難（含みや喩えが分からず、言葉を文字通りに受けとめる、独特な表現を使う、表情が乏しい）、想像力の困難（興味が狭い、こだわり、変化に弱い）があります。

こうした特徴があるため、指示やルールを明確に伝えることや、「○○のときは○○する」と具体的に対応の仕方を教えること、活動の見通しを言葉やスケジュールで示すことが重要です。本人が興味を持っていることに関心を向け、話をしてみると、よい関係を作るきっかけになるでしょう。

また、騒がしいと苛立つ、洗剤の匂いがいやで掃除をしない、体温調整が困難で夏は外れがちなど、感覚の過敏さや鈍感さを持つ子供もいます。外れがちな場面を分析したり、本人から話を聞いたりするとこれらのことが明らかになり、対応できることがあります。不可避な場合であっても、本人の辛さに共感し、我慢していることを認めると、子供のいらいらが和らぐことはよくあります。

### (5) ２次症状のある子供

(1)～(4)の子供たちは、学習や対人関係など色々なことで失敗を重ねます。しかも、大人や友だちから注意されることも日常茶飯事です。「また、自分だけできなかった」「今日も叱られた」という経験を重ねるうちに、徐々に自信や意欲が下がり、「自分は価値のない人間だ」という自尊心の低い状態になります。学校は失敗しながら学ぶ場ですが、成功経験が極端に少なく、失敗ばかりならば、学校に行き渋るのも当然です。

よい行動やよい結果はもちろんですが、結果に至るまでの努力や工夫にも目を向けて褒めることが大事です。その際、年齢や所属している集団の特徴を考慮し、本人のプライドを損なわないように心がけてください。ベテランの先生方の「褒める」技を盗みつつ、皆さんの誠意を子供たちに伝えてみてください。褒めることをうまく見つけられなければ、子供が興味を持っていることを話したり、やったりするとよいでしょう。「大人が自分に肯定的な注意を向けてくれる」という意味では、褒めることと極めて近い行為なのです。

## ２．その他の配慮を要する子供たち

知能や学習、対人関係などの発達に遅れやかたより以外にも、配慮を必要する特性があります。それらの特性は、発達の遅れやかたよりに加えて見られることもありますし、単独でみられこともあります。

### (1) 体の病気のある子供

子供は色々な病気にかかります。程度は様々ですが、定期的・長期的な治療を受けている子供もいます。病気の症状、薬の副作用などによっては、学習などの学校での活動に取り組むことが大変なこともあります。担任の先生や養護教諭から配慮すべきことやその方法を教わってください。

### (2) 心の病気のある子供

年齢が小さい子供は、気持ちや考えを言葉で表現する力が未熟なので、心配や不安が、腹痛や頭痛といった体調不良として現れることがあります。多くの場合、心配事が解決されたり、満足のいく時間を過ごしたりすることで症状は軽減します。

また、近年は子供のうつ病も知られるようになっていますし、思春期・青年期は様々な精神疾患が発症し始める時期でもあります。２次症状が深刻化し、パニック障害やうつ病などに至る子供もいるでしょう。この場合は、医師や心理士による家族も含めた長期的なサポートが必要です。

いずれの場合も担任の先生から指導に際しての留意点が知らされるはずです。子供に丁寧に、真摯にかかわるという姿勢は、他の子供への対応となんら変わりません。

### (3)　家庭の事情を抱えた子供

同じ個性を持つ子供がいないのと同様に、保護者の年齢、学歴、仕事、家族構成、経済状況、育児能力、心理状態、時間的余裕も様々です。保護者や家庭の状態を把握しておくことは、子供を理解し、適切に指導する上で大事なことです。

色々な事情から、保護者からの世話や愛情が不足し、虐待を受けていると言った方がよい子供もいます。この場合、学校は児童相談所や市区町村の福祉課、医療機関などと連携をとりながら、対応を進めています。それぞれの学校や地区で培ったノウハウを使いながら、組織として対応していくのです。教育実習生の皆さんが、直接、保護者や家族に対応することはないでしょうが、先生方がどのように対応しているのかを学んできてください。

### (4) いじめにかかわる子供

特別な教育的ニーズのある子供はいじめの対象にも、いじめる側になりえます。子供社会では、いじめる側といじめられる側はいとも簡単に逆転するものです。きっかけや理由は様々ですが、認めてほしい、受けとめてほしいという想いがあることは両者に共通しています。いじめの対応については様々な提案がなされています。学校組織として対応していることもありますから、先生方から方針を教わって対応するとよいでしょう。

## 3．まとめ

最後に、特別な配慮を要する児童生徒への対応のポイントをまとめます。

### (1) 子供をよく見る

子供は一人として同じ育ち方をしません。性格も違いますし、育ってきた環境も違います。大切なのは「その子供をよく見ること」です。診断名が同じならば、似た特性は持っていますが、完全に同じではありません。診断名や障害名は、対応を考える際の手がかりになりますが、効果的とされる対応方法は、各々の状態に合わせたアレンジが必要です。

### (2) 学級全体に目を向ける

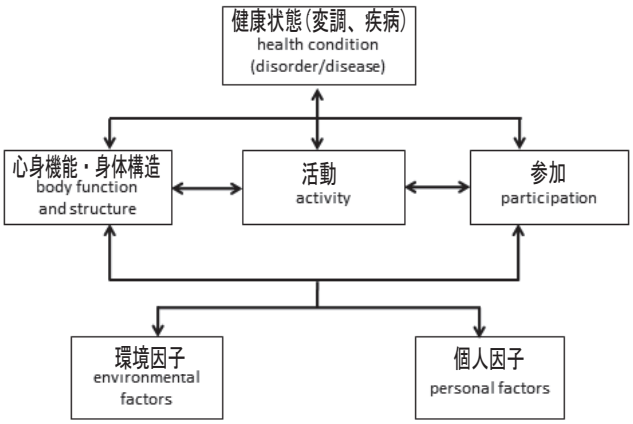
通常学級の中で、配慮の必要な子供に対応するには、学級全体を掴んでおくことが大事です。たとえ中学生であっても、子供は自分に目を向けてもらいたいし、頑張りを認めてほしいと思っています。周りの子供たちが「先生は自分のことも見てくれている」と感じられることは大切です。配慮を要する子供と周りの子供の関係性、個に合わせた配慮を行うことに対する周りの子供の受けとめ方、学級としての規律やまとまり・・・全体のバランスを考えた上で指導することが重要です。実習期間では、担任の先生の技を参考にしながら、全体への目配りをしてみてください。

### (3) 障害は環境との相互作用で捉える

障害について勉強したことのある人は、ＡＤＨＤや高機能自閉症の特性が、自分や身近な人にも当てはまることに気づいたでしょう。「障害」と「障害ではない」状態の間には明確な境界線はありません。両者は一つの連続線上にあるのです。ある特性があり、かつ、学習や生活や仕事に支障をきたしている状態、それが障害なのです。では、障害があるから支障をきたす状態になるのでしょうか。つまり、障害は個人の問題なのでしょうか。

1981年の国際障害者年以降、障害を個人の問題とするのではなく、環境との関係で捉える考え方が広まってきています。下図は世界保健機関（2001）がこの考え方をモデル化し、提唱している国際生活機能分類です。車いすを利用している身体障害のあるＡさんを例に考えてみましょう。学校にスロープやエレベーターが設置され、十分な幅の廊下があれば、Ａさんは自力で移動でき（活動）、別教室での音楽の授業も受けられます（参加）。しかし、それらの設備が整っていなければ、移動のたびに複数の人の手助けが必要で（活動の制限）、場所によっては音楽の授業には出席できないかもしれません（参加の制約）。Ａさんの障害は変わりませんが、周りの環境によって、Ａさんの抱える困難の大きさは変化し、活動における制限や社会参加の制約の度合いも変わるのです。合理的配慮は法的にも拘束力があるので現場で考えることが大切になります。

本節で解説してきた様々な教育的ニーズのある子供たちも同様です。スロープやエレベーターに代わるのは、周りの理解であり、指示の出し方や教室環境の調整といった教育の工夫であり、学校関係者や外部機関との連携です。




国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health:ICF)
(世界保健機関,2001)

# Ⅲ　教科および教科外の指導について

## ＜小学校編＞

## 1．小学校の教育課程

### (1) 教育課程とは

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画です。そして、各学校の教育目標の設定、指導内容の組織および授業時数の配当が、教育課程の編成の基本的な要素となります。

また、教育課程は、公教育の立場から法令にしたがって編成されるものです。

学習指導要領は法令に基づいて国が定めた教育課程の基準であり、各学校は、これに従い、児童の人間としての調和のとれた育成をめざし、地域や学校の実態および児童の心身の発達の段階や特性などを十分考慮して、適切な教育課程を編成しなければならないのです。

### (2) 教育課程編成の基本的な考え方

小学校教育は、心身の発達に応じて、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる資質を養うことを目的として行うものです。さらに次の基本方針を踏まえて教育課程を編成しなければならないのです。

① 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成する。

② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する。

③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成する。

別表第１　学校教育法施行規則（第51条関係）　　（平成23年度　施行版）

| 区分 | 各教科の授業時数 | | | | | | | | | | 道徳の授業時数 | 外国語活動の授業時数 | 総合的な学習の時間の授業時数 | 特別活動の授業時間数 | 総授業時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 | 体育 | 外国語 | | | | | |
| 第1学年 | 306 | | 136 | | 102 | 68 | 68 | | 102 | | 34 | | | 34 | 850 |
| 第2学年 | 315 | | 175 | | 105 | 70 | 70 | | 105 | | 35 | | | 35 | 910 |
| 第3学年 | 245 | 70 | 175 | 90 | | 60 | 60 | | 105 | | 35 | 35 | 70 | 35 | 980 |
| 第4学年 | 245 | 90 | 175 | 105 | | 60 | 60 | | 105 | | 35 | 35 | 70 | 35 | 1015 |
| 第5学年 | 175 | 100 | 175 | 105 | | 50 | 50 | 60 | 90 | 70 | 35 | | 70 | 35 | 1015 |
| 第6学年 | 175 | 105 | 175 | 105 | | 50 | 50 | 55 | 90 | 70 | 35 | | 70 | 35 | 1015 |

備考

1　この表の授業時数の１単位時間は、45分とする。

2　特別活動の授業時数は、小学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。

3　第50条第２項の場合において、道徳のほかに宗教を加えるときは、宗教の授業時数をもってこの表の道徳の授業時数の一部に代えることができる。（別表第２及び別表第４の場合においても同様とする。）

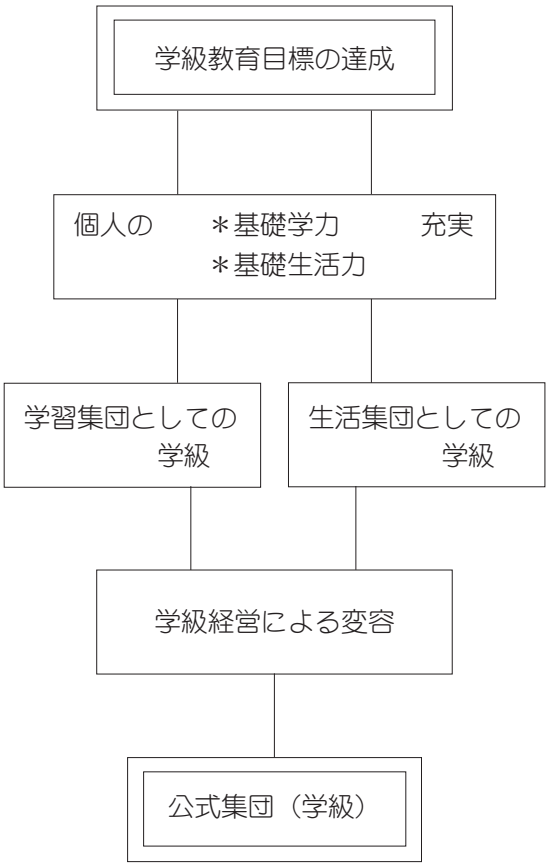
## 2．小学校の学級経営

### (1) 学級経営の意義と目的

学級経営とは、広義には「学級担任が行う教科・道徳・特別活動などを含む全教育活動である」と解されますが、学級経営の特質や焦点をさらに狭めて明確化し、通常では、「学級の児童・生徒一人ひとりの発達を促す物的・人的条件を整備すること」（橋本重治監修『学校・学級経営の評価』）ととらえられています。

「学級」は本来的には、学校教育目標の達成に向けて「学習活動をするために編成された集団」ですが、それは「児童が生活を共にする生活集団」でもあります。そのことから考えますと、学級経営が意図的に取り上げられる意味は、下図に示すように考えられるでしょう。

学級経営とは、学級担任と児童同士とが相互教育作用を通して望ましい学級社会を創造することにより、学級教育目標の達成を目指す実践機能であるといえるでしょう。




児童にとっての学級の善し悪しは、それが単に教科・領域の学習の善し悪しにとどまらず、学級経営による学校生活の善し悪し、さらには人間形成の善し悪しにまで影響を与える重要な問題です。

また、学校教育は、児童一人ひとりの最大限の開発を目指して行われるものであり、教科や領域での指導はその最も直接的、具体的な営みであるにすぎません。そこでこれらの指導が効率よく行われるためには、学習集団としての学級の望ましい計画、構想が立てられ、教室等の環境が整備され、心が通い合えるような児童同士の人間関係が調整され、また、一人ひとりのもつ悩みや問題の解消が図られるなど、常に学級全体に向上しようという雰囲気が保たれる必要があります。

### (2) 学級経営の内容

児童理解のためには、一人ひとりの個性、能力を知り、心身の両面から全体的に理解することが大切です。特に心情面についての理解は重要であり、児童のもつ心理的悩みや欲求などについて、常に的確に理解し、その解決方針を立てることは、生徒指導との関連からも学級担任として最優先の課題であるといえます。

① 学校生活のあらゆる機会を通して、児童と行動を共にし、児童理解に努める。
- 1) 児童の名前をできるだけ早く覚える。（指導の第一歩である）
- 2) 児童の中に入って遊ぶ。（開放された児童の中に真の姿がある）
- 3) 児童一人ひとりと話し合う。（児童のことばに素直に耳を傾け、受け入れることによって児童の心の本音（問題）を引き出すことができる）

② 学級経営のための必要な調査
- 1) 一人ひとりの特性を明らかにしようとするもの。
  - ・身体的特質（身長、体重、運動能力、視力、聴力など）
  - ・知的特質（知能テスト、学力テストなど）
  - ・情意的特質（性格、情緒、行動などの観察……性格テストなど）
  - ・興味と欲求（好きなもの、好きな遊び、欲しいもの、知りたいもの）
- 2) 集団として学級社会の特性（傾向）を明らかにしようとするもの。
  - ・交友関係（質問紙など）
  - ・学級の雰囲気（質問紙、作文、日記、感想、事例記録など）

③　諸記録、調査実施上の留意点
1)焦点を明確にし、目的に応じて調査する。
2)正しい整理の方法、結果の活用と保存の仕方について研究する。
3)諸記録、諸調査は必ず指導教員の指導のもとに行う。
4)教師には教育公務員として「秘密を守る義務」（地方公務員法第34条等）が課せられている。

**【物質的環境と整備】**

学習指導や生徒指導などが効果的に行われるためには、学級の物質的環境が十分に整備されていなければなりません。それには教室の効率的な運用と美的な配置の両面からみて、現在の設備をどのように最大限に活用するかについて工夫することが大切です。

①　学習意欲を高める学習資料の整備
②　子どもの作品の掲示、展示の工夫
③　子どもの活動を活発にする用具と整備
④　背面黒板や壁面の活用の工夫、机配置の工夫、安全、健康への配慮……など

**【望ましい人間関係・学級集団の育成】**

人間関係は、学級担任や児童同士の間に信頼関係が深まり、考え合い、助け合い、磨き合うことによって達成されるものであり、これが学級経営を行う担任の中核的な仕事であるともいえます。そして、それらが効果的に行われた場合には、学級は喜びの場となり、生きる力を身に付けていく場にもなります。

また、このことは、健全な心を育てるとともに、民主的な集団成員として望ましい態度を発達させることにもつながるのです。

①　学級の組織をつくる。（班編成、係や当番、学級グループなど）
②　学級のきまりを考える。（学習のときの約束、雨の日の過ごし方など）
③　仲間づくりを進める。（グループの旗や歌、学級のスポーツ大会など）
④　集団の活動を考える。（助け合い学習、グループ活動など）……など

**【道徳・特別活動・学級目標の構想立案】**

学級担任は、学級の実態を正しく把握し、学校教育目標・学年目標と関連させながら、学級の目標をより具体的にし、児童に分かりやすいものにしなければなりません。

**【家庭との連携】**

教育は学校だけで行おうとしても効果はあがりません。学校と家庭との連絡を密にし、教師と保護者が共通理解の上に立って児童の教育にあたらなければなりません。秘密を要する内容や複雑な内容にわたる場合がありますので、その方法については慎重に考えて行う必要があります。

**【学級事務】**

①　諸表簿、諸記録（指導要録・健康診断票・出席簿・会計簿……など）
②　金銭出納の処理

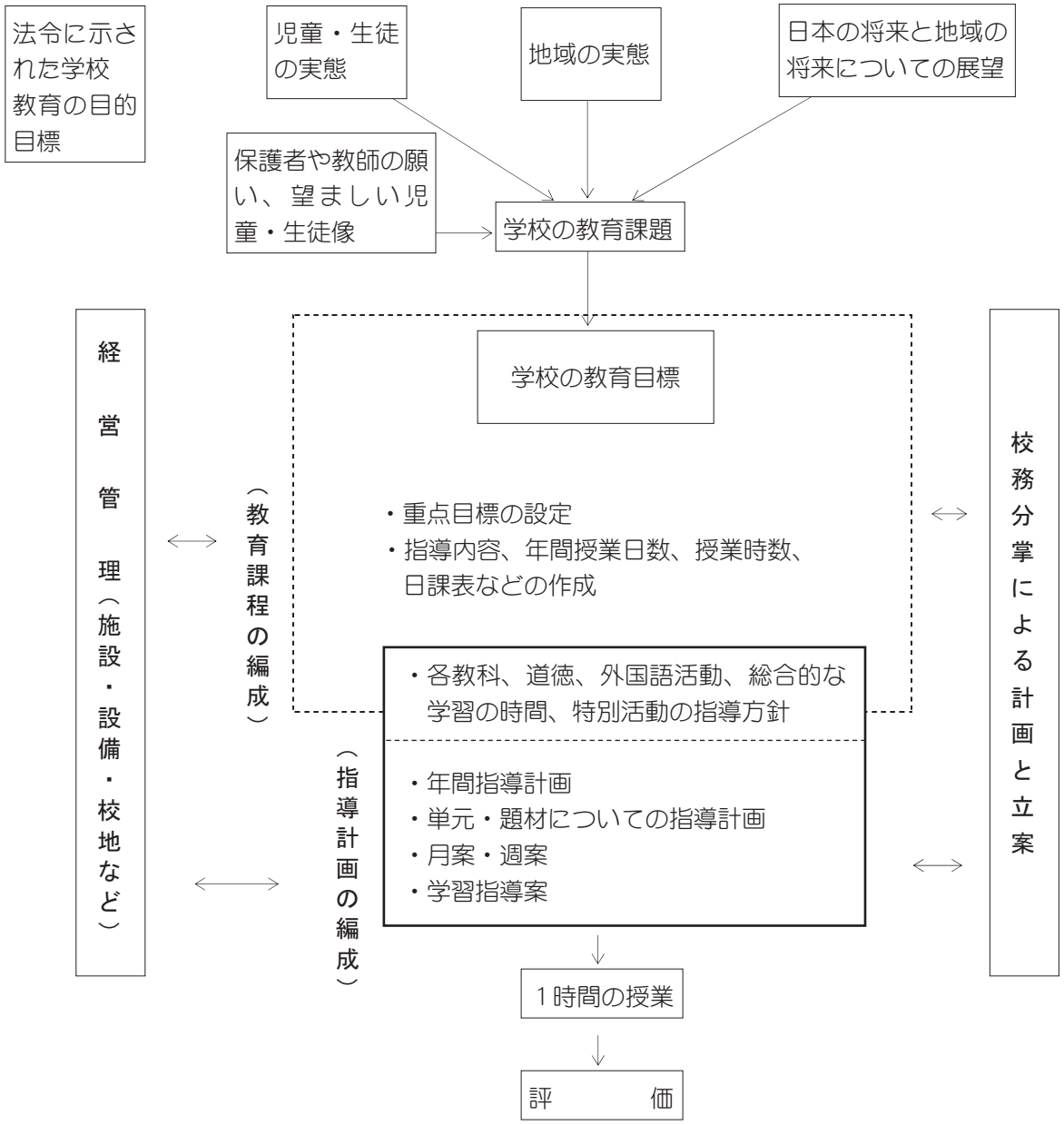
## 3．学習指導の計画と実践

### 1.1　学習指導案はどうやって作られるか

**(1)「1時間の授業」をめぐる様々な手続き**

授業は、学習指導案に基づいて行われます。学習指導案は、授業計画の一つで、指導計画は、学校の教育課程に基づいて作成されます。学習指導案を作成するためには、その位置づけを知っていなければなりません。

以下は、1時間の授業を行うにあたって必要とされる手続きを表したものです。




**(2) 教育課程が編成されるまでの手順**

学校の教育課程は、次のような手順で編成されます。

**①　国の方針**

1)憲法第26条
2)教育基本法第１条（教育の目的）
3)学校教育法第29条・第30条
（小学校の目的・目標）
第45条・第46条
（中学校の目的・目標）
第72条（特別支援学校の目的）
第77条・78条
（幼稚園の目的・目標）
4)学習指導要領　他

**②　教育委員会の教育方針**

**③　学校の教育方針**

1)学校教育目標
次の三つの側面を考慮する
・法体系からの規定
・地域の実態
・学校および児童生徒の実態
2)教育課程の編成
a）教育課程の意義
学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画
b）編成上の三原則
・法令および学習指導要領に示すところによる

・地域や学校の実態を考慮する
・児童生徒の心身の発達段階と特性を考慮する

c）編成の手順
・教育課程の編成に対する学校の基本方針を明確にする
・教育課程の編成のための具体的な組織と日程を決める
・教育課程の編成のための事前の研究や調査をする
・学校における教育課程の編成の基本となる具体的事項を明確にする
・教育課程を編成する

### (3) 指導計画作成の概略

#### ① 指導計画とは

各教科、道徳および外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動のそれぞれについての目標を達成するために学年ごとあるいは学級ごとに、指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材、指導の時間配当などを定めた、より具体的な計画を指導材、指導計画といいます。

#### ② 作成上の配慮事項

1)各教科、道徳および外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の相互に関連が図られる指導計画であること
2)発展的、系統的な指導が行われるような指導計画であること
3)効果的な指導ができるように、指導内容のまとめ方、順序および重点に適切な工夫を加えた指導計画であること
4)弾力的な指導計画であること

#### ③ 指導計画の種類

・年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画、単元指導計画、一単位時間の指導計画など
・入門期指導計画、個人差に応ずる指導計画、長期休業指導計画など

#### ④ 年間指導計画作成の手順・留意事項

| 手　　順 | 留　意　事　項 |
|---|---|
| (1) 実態の把握 | ア　児童生徒の興味・関心、知識・技能などをつかむ<br>イ　学校の施設設備、教材教具、職員構成などをつかむ<br>ウ　地域や家庭の環境をつかむ |
| (2) 学習指導要領などの研究 | ア　学習指導要領、指導書を研究する<br>・目標の明確な把握<br>・内容の系統や関連の明確化<br>イ　学校教育目標や指導の重点を検討する<br>・実態に即した内容の重点化 |
| (3) 教科書などの研究 | ア　教科書を下記の観点から検討する<br>・内容の配列、学習活動の構成、時間配当など<br>イ　教師用指導書や教科書付属教材教具を研究する |
| (4) 年間指導計画の作成 | ア　上記の研究に基づき、年間指導計画を作成する<br>・目標の設定<br>・内容の配列、重点内容の決定<br>・指導上の留意点<br>・時間配当　　など |
| (5) 授業の実際 | ア　目標は達成できたか<br>イ　学習に対し関心をもち、意欲的に取り組めたか |
| (6) 評　　価 | ア　指導の成果を評価し、修正を加え、指導計画の改善を図る<br>イ　評価の観点<br>・指導目標に沿っていたか<br>・内容は適切であったか<br>・指導の順序に無理はなかったか<br>・重点がおさえられていたか |

⑤　年間指導計画の形式例

| 月 | 単元 | 配当時数 | 指導目標 | 指導内容 | 指導上の留意点 | 資料 | 関連 | 反省 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |

(4) 学習指導案の作り方

①　学習指導案とは

学校の定めた指導計画に基づき、各教師が担当する学級の児童生徒の実態に応じて、その指導目標を達成するために作成する最も具体的な指導予定を組んだ計画を学習指導案といいます。

②　学習指導案を作成する前に

学習指導案は、学校の教育目標を実現するための最も具体的な指導計画です。そのため、その作成にあたっては、学校の教育目標をよく理解し、また、それが指導計画のどこに位置付くのかをふまえた上で、授業の準備が行われている必要があります。

実習での授業の準備は、そのほとんどが教材研究に費やされます。十分な教材研究が行われているか否かで、その授業の成否が決まってくるといっても過言ではありません。

また、学年別漢字配当表の基準を常に考慮しておくことも大切です。

次に挙げるのは、授業の三要素という観点から見た教材研究を行うにあたっての重要なポイントです。

**児童**

・個々の児童の一般的特性は？
・これまでにどんな学習をしてきたか？（既習事項の把握）
・今回の学習にどんな反応を示すか？（反応の予想）

**教材**

・教材としての特性は？
・難易度は？
・何を身に付けることができるか？
・既習教材や他教材、他教科の学習等との関わりは？
・補助教材の必要性は？

**教師**

・学習指導の目標やねらいは？
・どんな手順で？（導入、展開の工夫は？）
・どのような評価をどのような場面で、どのような方法で？
・何を活動の中心に据えて？
・必要な配慮事項は？

③　学習指導案の形式

実習において学習指導案を作成するにあたっては、実習させていただく学校での学習指導案の形式を尊重する必要があります。学習指導案の形式には、それまで培ってきたその学校の教育内容が反映しているからです。

学習指導案の作成にあたっては、このように内容との関係で、その形式の意味を考えるようにしてください。

以下に示すのは、学習指導案の形式の一例です。

ア）授業日時・授業者名

イ）題材名（単元名）

1時間の指導案も、題材名が書かれ、題材の指導案として書き始められ、そのなかに「本時」が位置付けられる。

ウ）題材の考察または題材設定の理由

1）その教材についての年間計画の中でその題材（単元）が占める系統的な位置をはっきりさせる（既習事項と将来への発展）。

2）題材そのものに対する指導者の解釈や内容の分析を行い、指導内容がもつ人間形成上の意義を明らかにする。

3）以上のことを学習者である児童の能力・生活経験・興味などの実態との関連において考察する。単に一般的な発達の段階だけからの考察に終わらないこと。

エ）学習指導の目標
　その題材（単元）全体のめあてを明記する。教科の本質に立って重点を明らかにし、しかも具体性をもたせること。
オ）学習指導計画
　題材全体に要する総時数と各部分に要する時間の予定・学習方法の大要についても記したい。本時が全体計画のどの部分にあたるかも示すこと。
カ）本時の学習
1）本時のねらい
　全体計画の一部としてその時限のねらいをはっきりさせる。
2）本時の展開
　指導する教師の活動（指導内容を含めて）、予想される児童の活動、指導上の留意点の三段に分けて、学習展開の過程を想定する。指導過程は、普通は導入、展開、まとめの三部分に大別される。導入の段階では興味の喚起、めあての確認など自主的な学習、積極的な活動のための「かまえ」をつくる手だてを考える。展開の段階では、主要発問、主要板書なども含めて、学習内容とそれに対する学習者の取組をどう導くかを計画する。まとめの段階では、学習内容に対する学習者の理解度の確かめや知識技能の定着、さらに、次時への発展をねらって重要かつ効果的な手だてを考える。

| 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 資料他 | 時間 |
|---|---|---|---|---|
| どんな活動を<br><br>児童主体の<br>授業の成立 | 何を学び、身に付けるのか<br><br>この明確化がポイント | どんなことに気を付けて<br><br>援助者としての学習活動への配慮 | 教師が用いる教具<br>児童が用いる特別な資料（ワークシートなど） | ＊一番大切な場面に多く用いる。 |

## 1.2　「１時間の授業」をどう構成するか

教材研究も済んで、本時の学習のねらいも決まりました。さて、いよいよ具体的な授業のイメージを構想する段階です。学習指導案の最も重要な部分です。また、教師としての一人ひとりの個性や創造性を最も発揮できるところでもあります。具体的な児童の学習の姿やそこで教材がどのように生かされることになるのかをイメージしながら、時間をかけて構想を練りましょう。

ここでは、そのための手掛かりになるポイントをあげておきます。

**①　授業の流れ**
導入・展開・まとめなど、そのときどきの学習課題が児童に無理のないようにします。
**②　授業の形態**
教師からの一方通行にならないよう、学習活動の形態を工夫します。
**③　発問**
授業の流れに即して、大・中・小、具体・抽象、表・裏など、さまざまな角度から準備しておきます。
**④　受け答え**
発問に対する児童の答えを可能な限りたくさん予想し、それに対してどのように受けとめるかを考えます。受け答えの仕方によっては、発問以上にその授業の内実を決定づけることがあります。
**⑤　教具、補助教材**
黒板、視聴覚機器などの教具や教科書以外の補助教材の準備およびその提示の仕方を工夫します。
**⑥　ノート、ワークシートなど**
児童がどのような学習内容の表現をすることが望ましいかという観点から、授業の流れに即した指導を行います。
**⑦　その他**
声、文字の大きさ、速さ、タイミング、口調、表情、身ぶりなど、授業者の意図が児童に的確に伝わるように工夫します。いずれにせよ、授業における児童の姿を様々な角度からイメージ化しておくことが大切です。

# ４．授業の準備と工夫

## 2.1　教育実習における機器等の利用

教育の場で、まず大切なことは、教師自身が自分の伝えたいと思うことをいかに正確に、数多くのしかも自分とは異なる認知形態をもつ児童に伝えられるかということです。さらに、大切なことは、どうしたら児童自身が自分の考えを他の児童に伝え、お互いの考えを交流し合うことができるかということです。

そのためにはいくつかの方法があると思います。
①　体を動かして表現する／させる。
②　ものを作らせて表現する／させる。
③　紙の上に言葉や絵で表現する／させる。
④　文章を書く／書かせる。
⑤　図や表・式で書く／表現させる。
⑥　口頭で説明する／答えさせる。

「百聞は一見にしかず。」という言葉があるように、言葉で説明するよりは、見せた方がはるかに分かりやすい。見せるより、体を動かした方がさらに明確化できることは、駅員が「出発進行！」といって指差唱呼しているのを見れば納得できるでしょう。

これらの表現方法、プレゼンテーション方法を工夫することが大切ですが、次のことはさらに大切です。

①　伝えたいと思うことを明確にすること。（何を伝えたいか、何をさせたいかの目標を少ない言葉で要約できるようにしておく。）
②　児童に先生はこれから何を言うのだろうか、何をするのだろうかという、受け入れ準備ができるように、期待感、注視、興味・関心をもたせる。
③　教授媒体（メディア）は所詮伝える用具・工夫にすぎません。伝える内容が大切ですが、内容に合わせて提示の仕方を変えることも必要です。

小学校の低学年では、みんなで体を動かして表現させて意図を伝えると比較的理解させ易いと思います。よく使われるのが、色画用紙を使ったり模型を作ったり、模造紙に絵を描いたりして、それを操作しながら考えを伝える方法です。

考えを書いたノートをそのまま実物投影機（教材提示装置）に載せて考えを発表させる方法もよくとられます。そのような機器がない場合でも、代表的な考えを持つ数人に模造紙や小黒板、マグネット付きパネルなどに書かせ、黒板にはって説明させるなどが、よく行われます。

パソコンの活用も、是非体験しておくとよいでしょう。指導案は人に読んでもらうものであるので、パソコンやワープロで指導展開例をつくり、修正を重ねられるようにしましょう。一度雛形を作っておくと、その形式を何度でも利用できるので便利です。

## 2.2　視聴覚機器の利用

### (1) 実物投影機（教材提示装置）

**①　教育効果**

教科書や副読本に載っている写真には、対象物を具体的にイメージできるという利点があります。しかし、その数に限りがあったり、小さかったりするとすべての児童によく見えません。そんなときには、実物投影機をテレビなどにつないで大きく示すことができます。児童の書いたノートを写し、発表の際に示すこともできます。より大きく見せたいのなら、プロジェクターに接続し、スクリーンに映すことも可能です。

**②　必要な設備**

テレビやプロジェクターとスクリーンが必要です。専用の接続コードも必要です。

### (2) デジタルカメラ

**①　教育効果**

従来のフィルムカメラとは違い、撮影したものをその場で確認でき、テレビやプロジェクターにつなげば拡大して見せることができます。ほとんどのデジカメが動画も撮影できるので、児童の活動の様子も記録でき、その場で見ることができます。また、授業後の評価に活用することもできます。撮影方法は、ビデオカメラよりも簡単です。児童でも簡単に撮影をすることができます。

簡単に撮影できる分、多くの写真を撮り過ぎてしまうことがあります。児童に情報を与え過ぎないように、示すものは絞っておく必要があるでしょう。

**②　必要な設備**

デジタルカメラを使用する際に必要なのは、記録媒体（ＳＤカードや、ＣＦカードなど）です。また、バッテリーの残量も事前に確認しておきま

しょう。テレビ等に映す際には専用のコードも必要です。

(3) 大型液晶テレビ

① 教育効果

実物投影機、デジタルカメラ、ビデオカメラ等の映像を大きく映すことができます。液晶の画面は、色等も鮮明になり、理科の学習等では、事象を提示するときなどに活用すると効果が大きくなります。

もちろん、ＤＶＤやＢＤプレイヤーに接続して映像を見るという一般的な活用方法もあります。

② 必要な設備

どの端子に、どのコードを接続するのかを事前に確認しておきます。

(4) 電子黒板

① 教育効果

パソコンやＤＶＤなどの映像を表示するだけでなく、タッチパネルとして児童が画面上に書き込みを行ったり、パソコンを操作することができます。大きな画面にパソコンソフトやインターネット、そして、これからはデジタル教科書の画面などを映し出し、児童の前で操作をしながら、授業をすることができます。

電子黒板上に書いた絵や図などをデータとして取り込むことも可能です。

② 必要な設備

ノートパソコンやＤＶＤプレイヤーなどを接続したり、電子黒板そのものにソフトをインストールしたりすることが必要です。

(5) その他の機器

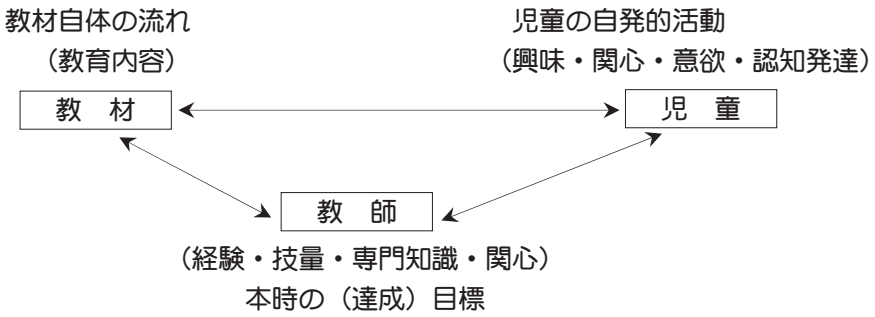
・タブレットタイプの端末が普及し、ノートパソコンよりも手軽に、そして多様に使用できるようになっています。
・ＩＣレコーダーの普及によって、児童の発言などの録音が、コンパクトに行えるようになり、データとしても保存できるようになりました。
・ほとんどの学校にパソコンルームが設置されています。児童が主体的にパソコンを操作する授業も行われています。

## 5．授業分析の方法

ここでは、実習生が自らの授業を反省して、明日の授業をよりよいものとしていくために、授業を振り返り反省する材料を提供することを目的として述べることにします。

この意味で、実験の検証授業や授業研究会などで行う分析方法とは異なります。授業参観の方法、授業構成論法などと重複するところもあるかと思いますので、それらの項も参考にしてください。

授業とは、教材に接した児童が自らの考えを主体的にまとめていけるように、教師が学習活動を支援していく過程であるといえます。したがって、授業にはいつも次の三者の相互作用（ダイナミクス）が問題となるでしょう。




授業の分析は、これら三者の均衡の状態を測るものといえるでしょう。

教科の流れを気にするあまり、流れが大人の流れになってしまって「児童がおいてきぼりになってしまった」とか、「児童の突拍子もない考えに翻弄されて、収拾がつかない授業になってしまった」とか、先生が用意した指導案の流れに忠実になりすぎて、「児童の素直な発想を切り捨ててしまった」など、多くの先生が、日々「苦闘している」現実がここから起こってきているといえるでしょう。

単に知識を伝達するのではなく、児童に自立的で

主体的な学習態度を身に付けさせることが期待されています。その分、指導が難しくなったといわれています。

授業をよく観察し、分析して、よりよい授業の創造に役立てましょう。

以下は、あくまでも目安です。教材によって異なることもあるでしょう。

【授業分析のための目安】

① 本時の目標が適切であったか
・認知的な面の目標、情意的な面の目標
② 児童の興味・関心をひく課題であったか
③ 児童が学習に入るための心の準備ができていたか
・特に、前の時間が体育などの屋外の活動を伴うときや、授業参観などで後ろに参観者がいるときなどの注意。
④ 指示が適切であったか
・十分な教材研究をしていたか。児童の適切な反応を見落とさずに捉え、授業に生かしていたか
・発達の段階に合わない言葉や専門的用語を使っていないか
・話す声が小さすぎる、または、大きすぎて聞きづらい
・間をとりながら簡潔で要領良く述べていたか
・実物投影機などの機器、操作活動・作業を通して、意図が適切に伝わったか
⑤ 児童の反応に適切に対処できたか
・発言する子と先生との一対一の問答になってしまわなかったか
・積極的に誉め、勇気づける発言ができたか
・机間指導で、意図的に助言や指導ができたか
・児童の視線に合わせた対応ができたか
⑥ 効率的な学習活動を組織できたか
・学習集団の組織作り、集団の協同活動に対する指示が適切か
・安全に対する配慮、準備や後片付けが上手に対処できたか
・課題が解決されるだけの準備ができているか
・遅れがちの子への配慮ができているか
⑦ 学習のまとめと次時の予告が明確にできたか
・確認練習、授業に対する児童の感想など
⑧ 授業への反省と今後への生かし方の考察

【授業分析の方法の具体例】

① 特徴的な児童と先生のやりとりを記録する。
紙にメモすることやビデオ、ＩＣレコーダーなどで、自分の授業を記録し、児童の特徴的な反応をプロトコールとして残して分析し、子どもの理解の仕方や学習指導のあり方の研究資料として残す。
ただし、デジカメによる撮影は、授業の妨げになるので、事前に指導の先生の了解を取っておくことが必要です。また、その使用にあたっては、個人情報の保護の問題などに十分な配慮が必要です。

② 指導案の展開と実際の授業との相違について検討する。
授業は、教材と教師と児童の三者のダイナミクスで成り立つもので、授業者の意思通りにはうまく運ばないことが多いものです。また、授業のしやすい教材や児童集団もあります。そのような時に、どのような展開をすればよいかを、記録に基づいて検討しておくとよいでしょう。

③ 機会があったら、先輩実習生による研究授業の指導案を読む。
実習期間最後の研究授業の指導案は、それぞれの年度の先輩たちが苦労して作り上げたものです。それは、ベテラン教師の指導案のように洗練されてはいないものの自分と同じ悩みを抱えて作られたものですので、自分の授業計画と対比して読んでみることを奨めます。

④ 教えることは最大の学習
「教えることは最大の学習」という言葉があるように、教育実習での授業体験は、実習生にとって自らの理解の仕方を問い直す絶好の機会でもあります。今までは、自分の好みの仕方で理解していれば事足りていましたが、教える立場になると、それでは対応できません。一つの概念であっても、そこに至る過程はさまざまにあり、その一つ一つを理解し、それぞれの発想をする児童に対応してあげる必要があります。

授業分析の最後は、概念の多様さ、理解の多様さに気付き、教材そのものに対する自己の理解を深めるものといえます。その意味で、日ごろ体験する様々な事象を自分なりに納得するまで調べてまとめてみる態度が大切になります。

## 6．学習指導案とは：小学校の教科指導と学習指導案事例

### (1) 学習指導案の意味

ここでは、一般的な学習指導案の書き方について述べます。各教科等については、それぞれの特質があるので、各項を参照して下さい。

学習指導案とは、学校の定めた指導計画に基づき、各教師が担当する学級の児童の実態を踏まえて、学校教育の目的や目標を達成するために作成する最も具体的なカリキュラムです。

### (2) 学習指導案の内容と形式

学習指導案は次のような項目で構成されています。

【1　授業日時・授業者名】

【2　単元名（題材名)】

【3　単元（題材）について】

・児童の実態と、その教科等や単元（題材）についての実態、そして、なぜその単元（題材）を学ぶ必要があるのかを明確に示す。
・その教科等についての年間計画の中で、その単元（題材）が占める系統的な位置をはっきりさせる（既習事項と発展)。
・単元（題材）そのものに対する指導者の解釈や内容の分析を行い、指導内容がもつ人間形成上の意義を明らかにする。

【4　単元（題材）の目標】

その単元（題材）全体のめあてを明記する。

教科等の本質に立って重点を明らかにし、しかもその観点から目標を明記する。

【5　単元の指導計画・評価計画】

・単元（題材）全体に要する総時数と学習内容の全般を大局的にとらえられるような単元（題材）全体構造を記述する。また、本時がその全体計画のどの部分にあたるかも示す。
・学習者がどのような学習を行うか、どんな学習内容なのかを明記する。
・評価の観点・内容・方法を明らかにして明記する。

【6　本時の学習指導】

＜本時のねらい＞

全体のねらいを達成するための一部として、その時間のねらいをはっきりさせます。

＜本時の展開＞

① ここでは、指導する内容や児童の活動、評価の観点と評価の具体的な方法、児童の活動に対する支援と指導上の留意点の三つに分けて、学習展開の過程を計画します。

学習活動・学習内容では、本時ではどのような学習をするのか、本時の目標を達成するために必要な活動を、導入、展開、終末に分けて記述します。

評価の観点・方法では、本時の目標に照らして、具体的な評価の観点を記述します。そして、児童一人ひとりの学習活動が目標に到達しているかどうかを、どのような方法で評価するのかも記述しておきます。

支援・指導上の留意点では、本時の目標に到達している児童に対して、あるいは目標に到達していない児童に対して、どのような手だてを講じるのか、授業中に教師が行う具体的な活動を記述します。また、授業を進めていくとき、特に気を付けなければならないこと、指導上大切なことを記しておきます。

② 指導過程は、一般に、導入、展開、終末の三つの部分に大別されます。導入の段階では、児童に興味・関心を起こさせ、学習意欲を高めるための学習材の提示の工夫や発問の工夫などを記述します。

展開の段階では、主要発問、主要板書なども含めて、児童一人ひとりが解決しようとしている学習活動を支援するための具体的な手だてや本時の目標に到達させるために最低限必要とする内容などを記します。

終末の段階では、本時の学習活動をどのようにしてまとめて整理するのか、あるいは、本時の目標に対する学習者の理解度の確かめや知識・技能の定着などの手だてを明記しておきます。そして、次時へのつながりを十分配慮して重要かつ効果的な手だてを記しておきます。

## ６・１　国語科

### （１）国語科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での国語科の目標

小学校学習指導要領には、国語科の目標として次のように示されています。

> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
>
> （１）　日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
>
> （２）　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
>
> （３）　言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科では、指導内容が〔知識及び技能〕及び〔思考力，判断力，表現力等〕から構成されています。

２学年ごとのまとまりの目標に応じて、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することが求められています。

### （２）学習内容

①国語科の内容

前述のとおり、国語科は、〔知識及び技能〕及び〔思考力，判断力，表現力等〕から内容が構成されています。なお、国語科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で整理し、「学びに向かう力，人間性等」については、教科及び学年等の目標においてまとめて示され、内容においては示されていません。

②学習内容の改善・充実

育成を目指す資質・能力が明確になるように新学習指導要領では内容が改善されています。

（ⅰ）語彙の改善・充実

語彙は「全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である」とされ、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示されるとともに、語句への理解を深める指導事項が系統化して示されています。

（ⅱ）情報の扱い方に関する指導の改善・充実

情報の扱い方に関する資質・能力の育成に向け、「情報の扱い方に関する事項」が新設されました。「情報と情報の関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示されています。

（ⅲ）学習過程の明確化

今回の改訂では、学習過程を一層明確にし、各指導事項が位置付けられています。この学習過程は指導の順序性を示すものではないため、アからオまでの指導事項を必ずしも順番に指導する必要はありません。

（ⅳ）我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

〔知識及び技能〕の「我が国の言語文化に関する事項」が四つの事項に整理されました。また、第１学年及び第２学年に、言葉の豊かさに関する指導事項が追加されました。

（ⅴ）漢字指導の充実・改善

都道府県に用いる漢字２０字が「学年別漢字配当表」の第４学年に追加されました。また、新学習指導要領への移行措置として、平成３０年度の新・第４学年から新たに配当された漢字を学習します。

（ⅵ）学習の系統性の重視

〔知識及び技能〕〔思考力，判断力，表現力等〕の指導事項について、それぞれの内容の明確化と系統化が図られました。また、それぞれの内容が系統的に整理されました。

（ⅶ）授業改善のための言語活動の創意工夫

(1)の指導事項に対し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかが、(2)の言語活動例として種類ごとに例示されています。言語活動例は全て例示であり、これ以外の言語活動を取り上げることも可能です。

（ⅷ）読書指導の改善・充実

〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項が示されています。また、「読むこと」の領域に学校図書館の利用に関する言語活動例が明記されました。

### （３）学習指導にあたって

国語科の学習指導を行う際に、特に次のことに配慮するとよいでしょう。

①目標並びに学習内容の明確化

単元や本時の学習で、児童に教える学習内容は何なのか、また、そのためには、どのような言語活動を通して学習内容を指導するのかを明確にしておくことが大切です。

②指導と評価の一体化

指導したことを適切に評価できるように、単元を構成することが重要です。

③まとめと振り返りの充実

国語科では、学んだことを生活に生きて働くように指導することが大切です。そのためには、毎時間の課題とまとめを一致させること、一単位時間あるいは単元ごとの振り返りを充実させ、児童が学んだことを自覚することができるようにすることが大切です。

## ６・２　社会科

### （１）社会科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での社会科の目標

> 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
>
> （１）地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
>
> （２）社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
>
> （３）社会的事象について、よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

社会科の教科の目標は、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養うことです。その具体的な柱が（１）～（３）で示されています。

「公民的資質」とは、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者、すなわち市民・国民として行動する上で必要とされる資質を意味しています。

### （２）学習内容

〈第３学年の内容〉

身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安産を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりに関する内容を取り上げています。

〈第４学年の内容〉

自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどに関する内容を取り上げています。

〈第５学年の内容〉

我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりに関する内容を取り上げています。

〈第６学年の内容〉

我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の遺業や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割に関する内容を取り上げています。

### （３）学習過程

社会科の学習は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」の問題解決的な学習過程で学習を進めていきます。

「つかむ」過程

学習内容に対する問いを生み出し、学習問題を導き出します。学習問題の予想をしたり、解決に向けて学習計画を立てたりします。

「調べる」過程

学習問題の解決に向けて、地図帳や地球儀、統計、年表、見学調査などを通して情報を集め、追究します。

「まとめる」「生かす」過程

調べたことを基に、学習問題の結論を導き出します。これまでの学習を生かして発展的に展開することもあります。

### （４）学習指導にあたって

社会科の教科の目標を達成するためには、次のような点に留意して社会科の授業を展開し、深い学びの実現を目指します。

- ○　学習の動機付けや振り返りの場面を重視するなどし、子供が主体的に学習問題を追究することができるようにします。
- ○　実社会の人々の話を聞いて話し合うなどし、子供が対話的に学習問題を追究することができるようにします。
- ○　社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会的事象の特色や意味などを考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりできるようにします。
- ○　子供を幅広い観点から評価し、指導に生かしていくようにします。社会科としては、
  ①知識及び技能
  ②思考力、判断力、表現力等
  ③学びに向かう力、人間性等
  の３観点から子どもを継続的に見ていき、伸ばしていくことが大切です。

## ６・３　算数科

### （１）算数科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での算数科の目標

算数科の目標は、次のようになっています。

> 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> (1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
> (2)日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
> (3)数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

今回の目標は、「数学的な見方・考え方」を働かせて、「数学的活動」を行い、資質・能力を育てることが強調されています。

(1)「数学的な見方・考え方」

「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」と整理されています。

(2)「数学的活動」

日常の事象を数理的に捉えて、算数の問題を見いだしたり、自立的、協同的に解決したりするなど、問題発見・解決する過程を重視しています。

### （２）学習内容

小学校の各学年で指導する算数の内容は、「Ａ数と計算」、「Ｂ図形」、「Ｃ測定」（下学年）、「Ｃ変化と関係」（上学年）、「Ｄデータの活用」の５つの領域から構成されています。

【A 数と計算】整数、小数、分数などの数の概念の形成や、数の表し方や計算の習得など

【B 図形】基本的な平面図形や立体図形の概念とその性質、図形の構成、図形の計量など

【C 測定（下学年）】身の回りにあるいろいろな量の概念の形成、測定の仕方、単位を用いた表し方など

【C 変化と関係（上学年）】伴って変わる二つの数量の変化や対応の表し方、別の二つの数量の関係との比べ方、割合や比の意味や表し方など

【D データの活用】目的に応じたデータの収集や分類整理、表し方、統計データの特徴の読み取り方、統計的な問題解決の方法

### （３）学習過程

算数では、児童の資質・能力を育成するために、問題解決的な学習を位置付ける必要があります。したがって、１時間あるいは１つの題材を通して次のような学習過程になります。

①問題把握、課題設定の段階

本時の問題から課題を設定するまでの段階

②自力解決の段階

課題を解決するための方法や結果の見通しをもち、その見通しに沿って、自らの力で解決をしていく段階

③比較検討（練り上げ）の段階

解決方法を発表し合い、それぞれの考えを比較検討する段階（解決を振り返り、よさを味わう段階）

④適用・発展の段階

学習したことを適用、発展する段階

⑤まとめの段階

本時の学習を振り返り、まとめる段階

### （４）学習指導にあたって

算数の授業を行うに当たり、特に留意したい点を以下に記しておきます。

①系統性を踏まえた学習指導を心がけること

算数の個々の内容は相互に関連し合うことが多いです。学年が進むにつれて内容がどのように発展していくのかを常に踏まえながら指導していくことが大切です。

②児童の考えを大切にした学習指導を心がけること（⇔教師主導の授業）

授業を終えての実習生の感想で、「指導案通りうまくいった」という言葉をよく耳にします。もちろん、その言葉通りの場合もありますが、多くの場合は、教師にとって都合のよい反応しか取り上げない教師主導の授業であることが多いようです。児童一人一人の考えを大切にした授業を心がけてください。

③用語の意味、用具の使い方等の確認をしてから授業に臨むこと

定規を使って直線を1本引くにしても、約束があります。また、「０」は、「れい」と読むのか、「ゼロ」と読むのか、「７」は、「しち」か「なな」か。「垂直」と「直角」の違いは…。誰もが、今まで学習してきたはずのことですが、誤った使い方をしている実習生も多く見られます。

用語の意味、用具の使い方、数字の読み方・書き方（書き順）等、改めて確認をした上で、児童の前に立ちたいものです。

## ６・４　理　科

### （１）理科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での理科の目標

小学校学習指導要領には、理科の目標として次のように示されています。

> 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> (1)　自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
> (2)　観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
> (3)　自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

②理科の特徴と重点

理科は、「児童が身近な自然の事物・現象を対象として学習活動を行うことによって、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成すること」が特徴です。そのため、まず「資質・能力」を育成することを重視しています。目標内の資質能力は、(1)→知識及び技能、(2)→思考力、判断力、表現力等、(3)→学びに向かう力、人間性等を示しています。また、「理科の見方・考え方」とは、理科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方です。この理科の見方・考え方を働かせながら知識及び技能を習得したり、思考・判断・表現したりして資質・能力を育成していくと同時に、学習を通じて、理科の見方・考え方が豊かで確かなものとなっていくようにします。

### （２）学習内容

理科では、学習内容をＡ・Ｂの二つの内容区分に分けています。

【Ａ区分　物質・エネルギー】

物質の性質や状態の変化、運動のきまりなどについての内容。何度も人為的に再現させて追究することができる特性をもっているため、児童が主体的、計画的に操作や制御など実験やものづくりを通して働きかけ、追究することに重点を置く。

【Ｂ区分　生命・地球】

動植物の体のつくりや働き、大地のつくりや変化、天気のきまりなどについての内容。児童が対象に主体的、計画的に諸感覚を通して働きかけ、追究することに重点を置く。

### （３）学習過程

理科の学習は、次の過程を含むことが多いです。但し、必ずしも１時間の学習でそれらの過程を全て含むことはありません。

①自然事象への働きかけ･･･問題発見の場
②問題の把握・設定･･･問題を醸成する場
③予想・仮説の設定
　　･･･問題に対する児童の意識の顕在化
④検証計画の立案
　　･･･観察・実験の計画を立てる場
⑤観察・実験･･･問題解決の中核
⑥結果の整理･･･表やグラフなどでの表現
⑦考察･･･観察・実験の結果を吟味し、予想や仮説の妥当性を検討する場
⑧結論の導出･･･より妥当な考えの構築

### （４）学習指導にあたって

理科の学習指導を行う際に配慮することをいくつか挙げます。

①目標の設定と評価の計画

本時の学習で、児童がどんなことをできるようになることが目標なのかを明確にし、その目標に対する評価の方法についての計画を立てる。

②実態の把握と学習の流れの検討

児童の考えや既習事項などを把握し、どんな学習の流れにしたらよいかを検討する。

③学習指導案の作成

問題解決の学習活動について、目標や評価、指導の流れ、指導形態、その他の留意点を検討し、学習指導案を作成する。

④教材の準備と安全面への配慮

予備実験、下見調査などを行い、児童が安全に学習できるように配慮する。

⑤環境の整備

板書計画や観察、実験のための準備をして、学習環境を整備し、児童が主体的な学習活動を進められるようにする。

⑥支援の計画と授業の実施

児童にどんな支援を行うかについて計画し、個々の学習活動に対応しながら、授業を実施する。

⑦授業後の考察

授業後の児童の変容を確認し、次時の授業の目標等を検討し、計画を立てる。

## ６・５　生活科

### （１）生活科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での生活科の目標

小学校学習指導要領には、生活科の目標として次のように示されています。

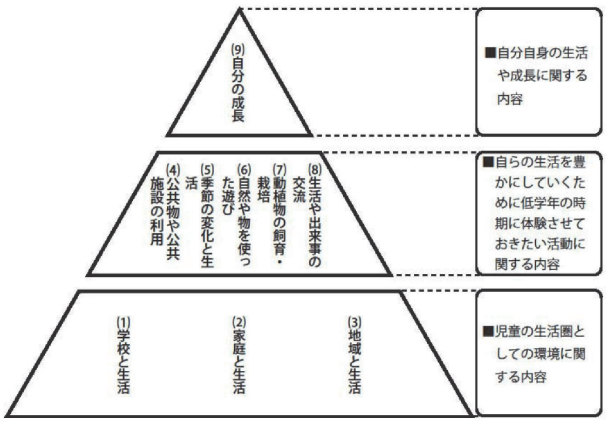
> 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。
> (1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
> (2)身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
> (3)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとしている。

②生活科の学習指導の特質

- 児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習活動にすること。
- 児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にし、本来一体となっている人や社会、自然と身体を通して直接関わりながら、自らの興味・関心を発揮して具体的な活動や体験を行うことを重視すること。
- 活動や体験の中で、感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげること。
- 表現したり、行為したりすることを通して、働きかける対象についての気付きとともに、自分自身についての気付きをもつことができるようにすること。

### （２）学習内容

生活科においては、次の(1)～(9)の内容で構成されています。




小学校学習指導要領解説生活編Ｐ.２６（平成２９年７月　文部科学省）より抜粋

### （３）学習過程

生活科においては、一連の学習活動の「まとまり」としての単元の中で、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていくようにします。単元を通して、次のような学習過程で活動に取り組みます。

①思いや願いをもつ

単元の導入において、活動に対する思いや願いをもつ。ただし、これは活動に取り組む中で少しずつ明確になることや修正・変更されることも考えられる。

②活動や体験をする

活動や体験は、教師の指示からではなく、児童の思いや願いから始まらなければならない。児童の思いや願いを大切にして、活動や体験の時間を十分に確保していく必要がある。

③感じる・考える

活動や体験の中で、児童は見方・考え方を生かして、低学年らしい思考や認識や意欲等を育んでいる。

④表現する・行為する

活動が充実すると児童は、「書きたい」「発表したい」という思いが生まれる。児童が伝え合ったり振り返ったりして表現することで気付きの質が高まっていく。

学習過程は、いつも①～④が順序よく繰り返されるものではなく、順序が入れ替わることもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もあります。また、必ずしも１時間あるいは単元に当てはまるものではありません。生活科の特質を踏まえ、弾力的に捉えるべきものです。単元の中で、時には日常生活の中にも広げながら、何度も繰り返され、児童一人一人の深い学びをつくりだし、気付きの質を高めていくものとして目安にすべきものです。

### （４）学習活動にあたって

①児童の意識を予想する

その単元における児童の意識を予想し、それを基に環境構成に配慮する。

②活動・評価計画の作成

単元における活動ばかりでなく、評価についても明確にし、評価規準から想定した具体的な子供の姿についても考えておく。

③環境構成の工夫

単元のねらいを達成するために、どのような環境で活動に取り組むのが効果的なのかを明確にしておく。児童が活動に合った環境を構成することも必要である。

## 6・6　音　楽

### （1）　音楽科の目標と重点

小学校学習指導要領では、音楽科の目標を次のように示しています。

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2)　音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3)　音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

また、学年の目標については、教科の目標との関係を明確にし、次の三つの観点から項目を構成しています。

(1)「知識及び技能」の習得
(2)「思考力、判断力、表現力等」の育成
(3)「学びに向かう力、人間性等」の涵養

### （2）　学習内容

小学校学習指導要領解説音楽編では、「Ａ表現」、「Ｂ鑑賞」と、それらをつなぎ合わせる〔共通事項〕の内容が示されています。また、学年の目標と内容は２学年ごとに、ア（思考力、判断力、表現力等）、イ（知識）、ウ（技能）でまとめられています。

音楽科の学習では、表現及び鑑賞の活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」、「知識」、「技能」に関する内容を相互に関わらせながら、一体的に育てていくことが重要です。したがって、「思考力、判断力、表現力等」、「知識」、「技能」を別々に育成したり、「知識及び技能」を習得させてから、「思考力、判断力、表現力等」を育成するといった、一定の順序性をもって指導したりするものではないことに留意する必要があります。

Ａ　表現

(1)歌 唱：自らの声で、曲の表現を工夫し、思いや意図をもって歌うものです。
(2)器 楽：楽器で、曲の表現を工夫し、思いや意図をもって演奏するものです。
(3)音楽づくり：創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音や音楽をつくるものです。

Ｂ　鑑賞

曲想と音楽の構造との関わりなどについて理解しながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くものです。

〔共通事項〕

表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を示しています。「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導と併せて、指導するものです。

※詳細については、小学校学習指導要領解説音楽編135頁を参照しましょう。

### （3）　教育実習にあたっての配慮事項

①児童の実態の把握

同じ学年であっても、学級ごとに児童の実態は違います。授業の計画を立てる際には、児童の発達段階や音楽経験、活動の様子などを把握することが必要です。

②児童の主体性を生かした指導の工夫

授業の主役は児童です。教師の一方的な教え込みでは、児童の意欲が高まりません。指導教員が、どのようにして児童の意見や活動を授業に生かしているかという観点をもって授業参観に臨むとよいでしょう。また、授業の計画を立てる際には、児童の主体性を生かしつつ、教師が積極的に指導すべき学習の場面を考えることが必要です。

③教材研究と事前の準備

教育実習においては、十分な教材研究はもちろんのこと、教具やプリントなどの補助教材の作成が、指導の際に大きな力となります。また、オーディオなどの教育機器の操作の練習も忘れてはならないことです。

## ６・７　図画工作科

### （１）図画工作科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での図画工作科の目標

小学校学習指導要領には、図画工作科の目標として、次のように示されています。

> 表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> （１）対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに，材料や用具を使い，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする。
> （２）造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
> （３）つくりだす喜びを味わうとともに，感性を育み，楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い，豊かな情操を培う。

②図画工作科の特徴と重点

図画工作科では、自分の思いを形や色などで表したり、よさや美しさを感じ取ったり考えたりし自分の見方や考え方を深める活動を通して、自らつくりだす喜びを味わうようにすることが大切です。そこで、児童が進んで見たり表現したりできる活動を提案していくことが重要となります。

### （２）学習内容

図画工作科の内容は、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の領域及び〔共通事項〕で構成しています。「Ａ表現」の領域は、児童が進んで形や色、材料などに関わりながら、かいたりつくったりする内容、「Ｂ鑑賞」の領域は、児童が自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見たり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める内容です。〔共通事項〕は、この二つの領域の活動を支える資質や能力であり、指導事項として示されています。その内容は、自分の感覚や活動を基に形や色などの造形的な特徴を理解することと、様々な事物や事象について自分なりのイメージをもつことです。

さらに、「Ａ表現」の内容には、次の二つの項目があります。

①「造形遊びをする」

材料や場所、空間に働きかけることから始まる活動のことで、身近にある自然物や人工の材料、その形や色の特徴などから思い付いた造形活動を行います。

②「絵や立体、工作に表す」

およそのテーマや目的を基に進める活動のことで、材料や用具、表現方法、用途や機能などを考えながら自分の表現を追求する造形活動を行います。

表現と鑑賞は互いに補い合って高まるものですので、それぞれの関連を図りながら指導していく必要があります。

### （３）学習過程

図画工作科の学習では、題材ごとに次のような過程を経て学習に取り組むことが多いです。

〇材料・場所・環境・技法などと出会う
　↑　行き戻りする　↓
〇活動への思いや願いをもつ（発想）
　↑　行き戻りする　↓
〇活動への思いや願いを実現する（表現）
　↑　行き戻りする　↓
〇活動や表現への思いを温める（鑑賞）

### （４）学習指導にあたって

図画工作科の学習指導を行う際には、次の事に留意します。

〇題材の選定及び目標の設定

どんな造形活動を通して、どんな児童の資質・能力を育成するのか、適切な題材・目標を設定します。

〇児童の実態把握と学習活動の内容検討

児童の造形活動への関心・意欲や既習事項を把握し、学習活動の内容を検討します。

〇教材研究

使用する材料や用具・技法を熟知するとともに、実際に使って試し、児童への効果的な提案の仕方や安全面の確認を行います。

〇学習指導案の作成

教材研究を基に、学習活動の内容、予想される児童の姿、指導の工夫、評価と手立て、評価方法を検討して、学習指導案を作成します。

〇学習環境の整備

材料や用具、机の配置、板書計画など、児童が主体的に造形的な創造活動に取り組める学習環境を整えます。

〇指導と評価を一体化した学習指導の実施

予め作成した評価規準や指導計画に基づき、共感的な態度で児童の活動状況を読み取り、それに合わせて適切な指導を行います。

〇学習指導の評価

児童の学習後の変容から、題材（本時）の活動を評価します。それを基に、次の題材（次時）の指導内容を検討し、計画を立てます。

## ６・８　家庭

### （１）家庭科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での家庭科の目標

小学校学習指導要領では、家庭科の目標を次のように示しています。

> 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。

②家庭科の特徴と重点

家庭科は、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを目指しています。

目標は、以下の視点が重視されています。

- 〇　家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにします。
- 〇　日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養います。
- 〇　家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養います。

### （２）学習内容

家庭科の内容については、生活の営みに係る見方・考え方を踏まえ、小・中・高の系統性を明確にする視点から、「Ａ家族・家庭生活」、「Ｂ衣食住の生活」、「Ｃ消費生活・環境」の３つの内容で示されています。また、空間軸や時間軸の視点から学習対象を捉え、育成する資質・能力を明確にした学習過程を重視しています。内容は、２学年まとめて示されています。第４学年までの学習を踏まえ、２学年間の学習の見通しをもたせるガイダンスを設けるとともに、中学校での学習に効果的に接続するよう内容の示し方を工夫しています。

### （３）学習過程

家庭科では、次のような過程を経て学習を進めていくことが多くあります。

①自分の身近な生活を見つめ直す
②課題をもつ
③自分の考え・見通しをもつ
④課題解決に取り組む
⑤解決の結果を振り返る
⑥意見を交換する
⑦実生活に生かす見通しをもつ

さらに、実習をする際には、③から④へ進む際に「どのような方法で実習するか」、「時間内でできそうか」等について児童自身が計画を立て、教師がその実習の計画について指導、助言する時間を確保する必要があります。

### （４）学習指導にあたって

家庭科の学習指導を行う際に配慮しておくべき点を挙げておきます。

①家庭環境への配慮

学習の始めに、これまでの家庭生活での経験や、「おうちの方はどうしているか。」などを問うたりすることがありますが、各家庭の事情や個人的な問題に触れることがないように配慮する必要があります。

②衛生・安全面への配慮

調理実習等を始めとして、食べ物を扱うことの多い教科の特性から、まず第一に手洗いや身支度などの衛生、安全について、児童自らが配慮しながら学習を進められるようにします。

また、特に火や刃物を扱う実習中は、児童の安全を確保するべく、机間指導や支援を十分に行う必要があります。

③教材、教具の準備

教師が充実した資料・道具を準備しておくことで、児童自らが主体的に活動する時間を増やすことができます。事前に道具や機械の扱い方を熟知しておくことはもちろん、どんな危険性をもっているかについても事前に十分に把握し、児童に指導することが必要です。また、調理や製作などの実習時には、事前に児童の立てた計画を入念にチェックすることが不可欠です。

④評価の在り方

発言やノート等の記述内容、作品などから「分かったか（知識）」、「できたか（技能）」を評価するだけでなく、家庭生活への関心が高まっているか、生活をよりよくしようとする実践的な態度が育っているかという点についても十分把握し、評価することが必要です。また、評価後には、個に応じた助言や称賛の方法を工夫し、指導に生かします。

## ６・９　体育科

### （１）体育科の目標と特徴

①小学校学習指導要領での体育科の目標

小学校学習指導要領には、体育科の目標を次のように示されています。

> 体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。

②体育科の特徴と重点

「体育の見方・考え方」とは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けこと」であると考えられています。

また、「保健の見方・考え方」とは、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスク軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」であると考えられています。

ア「生涯にわたって心身の健康を保持増進すること」

身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解することを通して、自らの生活行動や身近な生活環境における学習課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うことを示しています。

イ 「豊かなスポーツライフを実現すること」

生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくためには、小学校の段階において、その基礎を確実に育成することが重要です。児童の能力・適性、興味・関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が必要です。

### （２）学習内容

体育科の各学年ごとの領域構成は以下のようになっています。

第１・２学年

Ａ　体つくりの運動遊び
Ｂ　器械・器具を使っての運動遊び
Ｃ　走・跳の運動遊び　Ｄ　水遊び
Ｅ　ゲーム　Ｆ　表現リズム遊び

第３・４学年

Ａ　体つくり運動　Ｂ　器械運動
Ｃ　走・跳の運動　Ｄ　水泳運動
Ｅ　ゲーム　Ｆ　表現運動　Ｇ　保健

第５・６学年

Ａ　体つくり運動　Ｂ　器械運動
Ｃ　陸上運動　Ｄ　水泳運動
Ｅ　ボール運動　Ｆ　表現運動　Ｇ　保健

### （３）学習過程

学習過程の構成の基本的な考え方として、単元及び１時間ごとのねらいを明確にする必要があります。そして、１時間の評価の観点も、原則一つとして、焦点化をしましょう。

指導案の評価計画には、学習活動に即した評価規準と評価方法を記入しておきます。また、評価する場面も予め計画しておきましょう。

### （４）学習指導にあたって

①低学年の体育

ア　各領域を学習する中で、遊びの要素を十分に取り入れて、多種多様な動きをできるようにします。

イ　きまりを理解できるようにし、仲間と仲良く活動することができるようにします。

ウ　運動課題は、できるだけ具体的に、細かく指示します。

②中学年の体育

ア　低学年期と同様に動きづくりを重視しますが、運動の強度、量を増やします。

イ　競争的場面を多く設定し、仲間意識を養えるようにします。

ウ　段階的に運動課題を与え、挑戦を繰り返すことによって、成就の喜びを味わうことができるようにします。

③高学年の体育

ア　評価カード・学習カード等の活用により個人の学習の計画やねらいを明確にして課題解決が図られるようにします。

イ　集団意識が高まるので、ペアやグループ間で見合ったり、教え合ったりする協力学習の場面を増やすようにします。

## ６．１０　特別の教科　道徳

### （１）道徳教育及び道徳科の目標と特徴

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこととしています。

道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが挙げられています。

### （２）学習内容

道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を四つの視点から、「第１学年及び第２学年」、「第３学年及び第４学年」、「第５学年及び第６学年」に分けて示されています。

すなわち、道徳科の内容は、児童の道徳性を四つの視点からとらえ、その視点から内容項目を分類整理し、内容の全体構成及び、相互の関連性と発展性を明確にしているわけです。

Ａ　主として自分自身に関すること。
Ｂ　主として人との関わりに関すること。
Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること。
Ｄ　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること。

Ａの視点は、自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに関するものです。

Ｂの視点は、自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに関するものです。

Ｃの視点は、自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに関するものです。

Ｄの視点は、自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに関するものです。

この四つの視点は相互に深い関連をもっています。

### （３）学習過程

ねらいに含まれる道徳的価値について、児童が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができるようにするという特質を十分考慮し、それに応じた学習の指導過程や指導方法を工夫することが大切です。一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。

導入・・主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階です。

展開・・ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階です。

終末・・ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

### （４）学習指導にあたって

①学習指導の多様な展開

・多様な教材を生かした学習指導（詩、長文の物語や伝記、劇、実話、意見文など）
・体験の生かし方を工夫した学習指導
・各教科等と関連をもたせた学習指導
・家庭や地域社会との連携を図った学習指導
・図書館等の施設や校外の場所を生かした学習指導

②道徳科に生かす指導方法の工夫

・学習への興味の喚起や動機付けの工夫
・教材を提示する工夫
　絵、紙芝居、人形劇、ペープサート、写真、音声、ビデオ映像、などの活用
・発問の工夫
　考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考える発問
・話合いの工夫
　座席の配置、討議形式、グループやペアによる話合いなど
・書く活動の工夫
・役割演技、動作化など表現活動の工夫
・板書を生かす工夫
　思考の流れや順序を示す、対比的、構造的に示す
・説話の工夫
　教師の体験談や願い、日常生活の問題、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどで取り上げられた問題

## ６．１１　外国語活動

**◎創設の経緯**

「外国語活動」創設に関する答申等

○　昭和６１年４月　臨時教育審議会「教育改革に関する第二次答申」の第３部第１章（３）「外国語教育の見直し」

○　平成８年７月　第１５期中央教育審議会第一次答申「２１世紀を展望した我が国の教育の在り方について」において、「小学校における外国語教育については、教科として一律に実施する方法は採らないが、国際理解教育の一環として『総合的な学習の時間』や特別活動などで地域や学校の実態に応じて、英会話等に触れる機会や外国の生活・文化に慣れ親しむ機会を持たせることができるようにする。」とされた。

○　平成１７年２月　文部科学大臣より中央教育審議会に対して要請

○　平成１７年４月　中央教育審議会　審議開始

＊教育基本法改正、学校教育法改正が行われ、知・徳・体のバランス（教育基本法第２条第1号）とともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び学習意欲を重視し（学校教育法第３０条第２項）学校教育において、これらを調和的にはぐくむことが必要である旨が法律上規定された。

○　平成１８年３月　中央教育審議会外国語専門部会「小学校における英語教育について」「高学年においては、中学校との円滑な接続を図る観点からも英語教育を充実する必要性が高いと考えられる。」

○　平成２０年１月　中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」答申

○　平成２０年３月　小学校学習指導要領　公示

学習指導要領改訂により、小学校第５学年及び第６学年に外国語活動が新設された。

○　平成２９年３月　小学校学習指導要領　公示

学習指導要領改訂により、小学校３学年及び４学年に外国語活動が新設された。

また、小学校第５学年及び第６学年で、従来は領域としての外国語活動であったが、教科である外国語科となった。

### １　教育課程上の「外国語」活動の位置づけ

○実施時数　…３，４年生に外国語活動として年間３５時間の計画（週１時間）

５，６年生に外国語として年間７０時間の計画（週２時間）

○本校では、英語を取り扱うことを原則とする。

### ２　目標

外国語活動（第３学年・第４学年）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴知識・技能について

外国活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

⑵思考力、判断力、表現力等について

身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

⑶学びに向かう力、人間性等について

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## 3　外国語活動（第３学年・第４学年）における「指導計画の作成」及び「内容の取扱い」の要点

**☆指導計画の作成上の配慮事項の要点**

○ 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすること。

○ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、２の（1）に示す事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、英語を初めて学習することに配慮し、 簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にした体験的な言語活動を行うこと。

○ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。

○ 授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

**☆「内容の取扱い」の要点**

○ 英語でのコミュニケーションを体験させる際は、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。

○ 文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと。

○ 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること。

○ 学習形態について適宜工夫すること。

○ 視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

○　児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

4　外国語（第５学年・第６学年）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴知識・技能について

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

⑵思考力、判断力、表現力等について

コミュニケーションを行う目的や場所、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

⑶学びに向かう力、人間性等について

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

**5　外国語（第５学年・第６学年）における「指導計画の作成」及び「内容の取扱い」の要点**

**☆指導計画の作成上の配慮事項の要点**

○　児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながらコミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

○　第３学年及び第４学年において第４章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること

○　児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて第１章総則の第２の３の（2）のウの（イ）に掲げる指導を行うことにより、指導の効果を高めるよう工夫すること。

○　言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、 学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

○　学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図

るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

**☆「内容の取扱い」の要点**

○　2の⑴に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること

○　音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して２の⑴のアに示す言語材料を指導すること。また、音声と文字とを関連付けて指導すること。

○　文や文構造の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

①児童が日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために、効果的な指導ができるよう工夫すること。

②文法の用語や用法の指導に偏ることがないよう配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

○　学習形態について適宜工夫すること。

○　視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

○　児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

**◎教育実習にあたっての配慮事項**

○　児童の実態の把握

同じ学年であっても、学級ごとに児童の実態は違います。授業の計画を立てる際には、児童の発達段階や活動の様子などを把握することが必要です。

○　児童の主体性を生かした指導の工夫

授業の主役は児童です。教師の一方的な教え込みでは、児童の意欲が高まりません。指導教員が、どのようにして児童の意見や活動を授業に生かしているかという観点をもって授業参観に臨むとよいでしょう。

○　教師が指導すべき内容の決定

授業は、児童と教師が共につくり上げるものです。授業の計画を立てる際には、児童の主体性を生かしつつ、教師が積極的に指導すべき学習の場面を考えることが必要です。

○　教材研究と事前の準備

教育実習においては、十分な教材研究はもちろんのこと、教科書などの教材を基に、教具やプリントなどの補助教材の作成が、指導の際に大きな力となります。

また、ALTの先生や担任の先生との打ち合わせを綿密に行っていくことが必要となります。どの部分をHRTが説明し、どの部分をALTに発音してもらうかなど、役割分担を具体的に決めるとよいでしょう。

また、チャンツなどに使用するパソコン、電子黒板などの教育機器の操作の練習もしておくとよいでしょう。

## ６．１２　総合的な学習の時間

### （１）教育課程上の位置付け

学校教育法施行規則第５０条において各学校で必置とされています。

> 小学校の教育課程は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育及び外国語の各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成するものとする。

### （２）授業時数

総合的な学習の時間の授業時数は、学校教育施行規則第５１条の別表第１に定められています。

第３学年・第４学年・第５学年・第６学年　　年間７０単位時間

### （３）総合的な学習の時間の目標

> 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
> (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
> (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

〇目標の趣旨

(1)　探究的な見方・考え方を働かせる
　①各教科等における見方・考え方を総合的に働かせること
　②総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせること
(2)　横断的・総合的な学習を行う
　※各学校において、目標を実現するにふさわしい探究課題の設定。
(3)　よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく
　※「考えるための技法」の活用

### （４）探究課題について

探究課題・・・目標の実現に向けて学校として設定した、児童が探究的な学習に取り組む課題。

ア　現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
イ　地域や学校の特色に応じた課題
ウ　児童の興味・関心に基づく課題

### （５）内容の取り扱いについての配慮事項

> (1)　各学校において定める目標及び内容に基づき、児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。
> (2)　探究的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。その際、例えば、比較する、分類する、関連付けるなどの考えるための技法が活用されるようにすること。

(3)　探究的な学習の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。

(4)　自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

(5)　体験活動については、第１の目標と各学校で定める目標及び内容を踏まえ、探究的な学習の過程に適切に位置付けること。

(6)　グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ、全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと

(7)　学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

(8)　国際理解に関する学習活動を行う際には。探究的な学習に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

(9)　情報に関する学習を行う際には、探究的な学習に取り組むことを通して、情報を収集・整理・発信したり、情報が日常社会や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること。プログラミングを体験しながら論理的思考力を身につけるための学習活動を行う場合には、プログラミングを体験することが、探究的な学習の過程に適切に位置付くようにすること。

### （6）総合的な学習の時間の学習指導のポイント

1　学習過程を探究的にすること

①課題の設定・・・体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
②情報の収集・・・必要な情報を取り出したり収集したりする
③整理・分析・・・収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
④まとめ・表現・・・気付きや発見、自分なりの考えなどをまとめ、判断し、表現する

2　他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

①多様な情報を活用して協働的に学ぶ
②異なる視点から考え協働的に学ぶ
③力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

### （7）　総合的な学習の時間の評価

総合的な学習の時間における児童の具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であることの三つが重要です。具体的には、次のようなものが考えられます。

・発表やプレゼンテーションなどの表現による評価
・話合い、学習や活動の状況などの観察による評価
・レポート、ワークシート、ノート、絵などの制作物による評価
・学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
・評価カードや学習記録などによる児童の自己評価や相互評価
・教師や地域の人々等による他者評価　など

## ６．１３　特別活動

### （１）特別活動の目標と特質

①小学校学習指導要領での特別活動の目標

小学校学習指導要領には、特別活動の目標として、次のように示されています。

> 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
> (1)　多様な他者と協働する様々集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。
> (2)　集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。
> (3)　自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

②特別活動の特質と重点

特別活動では、「集団活動」と「実践的な活動」を特質とすることが強調されてきました。この特質を継承しながら、以下のことに重点を置くことが求められています。

(1)特別活動の特質を踏まえた資質・能力の育成
(2)学級経営の充実と特別活動
(3)各教科等の学びを実践につなげる特別活動
(4)学級や学校の文化を創造する特別活動

### （２）活動内容

特別活動は、次にあげる四つの各内容から構成されています。これらの内容は、それぞれねらいをもつ教育活動ですが、最終的に特別活動の総括的な目標をめざして行われるものです。

①学級活動

学級活動は、共に生活や学習に取り組む同年齢の児童で構成される集団である「学級」において行われる活動である。学級生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら自主的、実践的に取り組むことにより、活動することの楽しさや成就感、達成感を得たり、自己有用感を高めたりすることにつながるものである。

②児童会活動

児童会活動は、学校全体の生活を共に楽しく豊かにするために学校の全児童をもって組織する異年齢集団の児童会による自発的、自治的な活動である。運営については主として高学年児童が行うことになるが、学年、学級を超えて全ての児童から構成される集団での活動であり、異年齢の児童同士で協力したり、よりよく交流したり、協働して目標を実現しようとする活動である。

③クラブ活動

クラブ活動は、主として第４学年以上の児童で組織される学年や学級が異なる同好の児童の集団によって行われ、個性の伸長を図りながら、資質・能力の育成を目指す活動である。

④学校行事

学校行事は、全校又は学年という大きな集団を単位として行われ、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら資質・能力の育成を目指す活動である。

### （３）学級活動の内容

(1)学級や学校における生活づくりへの参画
ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決
イ　学級内の組織づくりや役割の自覚
ウ　学校における多様な集団の生活の向上
(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ア　基本的な生活習慣の形成
イ　よりよい人間関係の形成
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の育成
エ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
(3)一人一人のキャリア形成と自己実現
ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成
イ　社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
ウ　主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

### （４）学級活動の学習過程

上記の学級活動の学習過程は、例えば次のように表すことができます。

①問題の発見・確認
②解決方法等の話合い
③解決方法の決定
④決めたことの実践
⑤振り返り
↓
次の課題解決へ

# 第３学年〇組　国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　　印
指導教員　〇〇　〇〇　　先生

**１　単元名・教材名**　　組み立てにそって、物語を書こう「たから島のぼうけん」

**２　児童の実態と本単元の意図**

本学級の児童は、書くことについて、１学期に「気になる記号」、２学期には学校文集に取り組み、調べたことや、日頃考えていることを書いて伝えることを学習してきている。多くの児童が意欲的に活動に取り組み、文章を完成させることができている。一方で、構成を意識して書くことや、内容を吟味して書くことには、やや課題が残った。

本教材「たから島のぼうけん」は、たから島の地図の挿絵を基に、児童が想像を広げて物語づくりに取り組むことのできる教材である。これまで多くの物語に触れてきている児童にとっては非常に魅力的な教材であり、意欲的に活動に取り組むことが予想できる教材である。また、直前に取り組む「３年とうげ」を基に、物語の構成を考えることができるなど、既習の内容を活用しやすい教材である。

本単元を指導するに当たって、小学校学習指導要領（平成２９年度）の「思考力、判断力、表現力等」のＢ書くことの「イ　書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること」に重点を置いて指導していく。具体的には、まずは、導入でこれまでに読んだ物語を想起できるようにしていく。自分の好きな物語や、既習の教材の構成や登場人物を想起しながら、登場人物二人の設定や「はじめ」と「終わり」について大まかに考えられるようにする。その後、「中」（①出来事、②出来事の変化）の部分を具体的に考え、明確にしながら、「はじめ」「中」「終わり」の構成を意識して下書きを書くようにする。さらに、書き表し方を工夫して清書に取り組み、最終的には完成したものを学級の友達と読み合うようにする。友達と作品を読み合う際には、友達の作品のよいところについて考えながら、その上で自分の作品のよさにも気付けるようにしていきたい。

本時では、児童が物語の構成の内、特に「中」（①出来事、②出来事の変化）について考えられるように指導していく。まずは、「中」の部分について様々な展開を考えることができるように、グループごとに地図から道を選び、そこで起きる出来事と、その変化について考えるようにする。その際には、一人一人に短冊を配り、それに書いたことを出し合うようにする。その後、学級内を児童が自由に歩き、他の班の考えた内容を見て、さらに「中」の部分について考えを広げられるようにする。この際、特に「どういうきっかけで出来事が起きるのか」「その出来事がどのように変化するのか」の二点について詳しく考えていくように助言する。そして、「はじめ」と「終わり」も含めて、物語の構成についてそれぞれの児童が考えをまとめられるようにする。

本単元を通して児童が身に付けた構成を考えて書く力は、例えば、４年国語「自分の考えをつたえるには」や、３年総合的な学習の時間「別所沼へ行こう」等、文章を書いて伝え合う学習において生かされることを期待している。

**３　単元の目標**

(1)　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。

（知識及び技能）(1)オ

(2)　書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

（思考力，判断力，表現力等）Bイ

(3)　試行錯誤しながら文章の構成を考え、読み手に内容が伝わるように物語を書こうとしている。

（学びに向かう力，人間性等）

## 4　単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

| | 【知】知識・技能 | 【思】思考・判断・表現 | 【主】主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価規準 | ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 | ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 | ・試行錯誤しながら文章の構成を考え、読み手に内容が伝わるように物語を書こうとしている。 |
| 学習活動に即した評価規準 | ①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 | ①集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。<br>②書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。<br>③間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 | ①試行錯誤しながら読み手に内容がより伝わるように構成について考えようとしている。<br>②繰り返し友達の物語を読み、自分の物語に生かせることを見付けようとしている。<br>③試行錯誤しながら物語づくりに取り組み、友達により内容が伝わるように、書き表し方を工夫したり、推敲をしようとしたりしている。<br>④粘り強く学習を振り返り、学んだことを自覚し、生かそうとしている。 |
| | ④書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 | | |

## 5　指導と評価の計画（全８時間扱い）本時２／８時

| 時 | 主な学習活動 | 学習内容 | 評価規準・評価方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | ○単元の見通しをもち、物語の内容を大まかに考える。 | ○単元の見通し | 【思】①<br>・ノートにおける記述の考察 |
| ② | ○地図をグループや全体で見て物語の四つの場面の構成を考える。 | ○文章の構成の仕方 | 【思】②<br>・ノートにおける記述の考察 |
| 3 | ○考えた構成を基に物語の下書 | ○文章の構成の仕方 | 【知】①　【思】②　【主】① |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・<br>4 | きをする。 | | ・作品の記述の考察<br>・教師による行動観察 |
| 5 | ○友達の下書きと自分の下書きを比べて推敲したり、アイデアを広げたりする。 | ○工夫した物語の書き方 | 【思】②　【主】②<br>・作品の記述の考察<br>・教師による行動観察 |
| 6<br>・<br>7 | ○これまでの学習を生かして物語を清書し、推敲をする。 | ○文章の構成の仕方<br>○表現の工夫の仕方<br>○推敲の仕方 | 【知】①【思】②③【主】③<br>・作品の記述の考察 |
| 8 | ○書いた物語を読み合い、自分の物語のよさに気付き、学習を振り返る。 | ○振り返りの仕方 | 【思】④　【主】④<br>・作品の記述の考察<br>・ノートにおける記述の考察 |

**6　本時の学習指導**　（本時２／８時）

(1)　目　標

○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

(2)　評価規準（１時間の授業に即した具体的なもの）

| |
|---|
| 【思】思考・判断・表現 |
| ②書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 |

(3)　展　開（○は指導上の留意点　------- 内は評価を表す）

| | |
|---|---|
| 前時の学習内容 | ○単元の見通し |

| 学　習　活　動 | 学　習　内　容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　本時の学習課題をつかむ。 | ・学習の見通し | ○前時までを振り返り、本時に意欲的に取り組めるようにする。<br>○本時の学習ポイント（主な学習内容）が「物語の組み立て方」であることを児童に示すようにする。 | 2 |
| どのように物語を組み立てればよいのだろう。 | | | |
| 2　既習の物語の構成を振り返る。 | ・文章の構成の仕方 | ○「三年とうげ」、「もうすぐ雨に」、モデル文を取り上げて、「中」に「出来事」と「出来事の変化」が書かれていることを助言する。 | 3 |
| 3　教科書の地図からグループごとに道を選び、物語の「中」の部分を考える。 | ・物語の「中」の書き方 | ○グループごとに道を選んで、「中」（中①「出来事」と中②「出来事の変化」）を考えるよう助言する。<br>○中①と中②をそれぞれ色分けした | 15 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 短冊に書き、考えた構成をグループ内で伝え合えるようにする。 | |
| 4　他のグループのカードを見て、構成について考える。 | ・物語の「中」の書き方 | ○自由に動き、他の班で出た考えを多く見られるようにすることで考えをより広げられるようにする。 | 10 |
| | | ○各グループの短冊は裏返しておき、中①、中②の順番でめくるように助言することで、構成を確実に捉えられるようにする。<br>○面白いと思った構成について、友達と伝え合い、さらに考えを広げたり絞ったりするように助言する。 | |
| 5　自分の物語の構成を考える。<br>〈出させたい内容の例〉<br>　はじめ「兄妹の二人がたから島の地図を手に入れた。」<br>　出来事「落ちていたバナナを食べたらそれはゴリラのものだった。」<br>　出来事の変化「バナナの皮を投げたらゴリラが足を滑らせた。」<br>　終わり「二人は宝物を手に入れて幸せに暮らした。」 | ・文章の構成の仕方 | ○「出来事」と「出来事の変化」を具体的にするよう助言する。 | 8 |
| | | ○「はじめ」「終わり」については、現時点で考えている大まかなものでよいことを助言する。ただし、本時の学習を通して付け足しや修正したいことが出てきた場合にはそれも認めていく。<br>【思】書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（ノートにおける記述の考察）<br>〈出させたい内容の例〉のように、「中」の「出来事」「出来事の変化」を明確に書いた上で物語の組立を考えていれば、「概ね満足できる状況である」と判断することができる。<br>《手立て》<br>・構成を考えられている児童は称賛し、次時に向けて、さらに伝えたいことが明確になるように詳しい内容を考えるよう助言する。<br>・構成を考えられていない児童には、教師が一緒に本時の学習を振り返り、内容のまとまりを意識して構成を考えられるようにする。 | |
| 6　本時のまとめをする。 | ・本時のまとめ | ○「出来事」と「出来事の変化」を具体的に考え、明確に書くことで、物語を構成しやすくなることを振り返るようにする。 | 2 |
| 7　本時の学習を振り返る。 | ・振り返りの仕方 | ○学習についてグループで話した後に個でまとめるよう助言する。 | 5 |

| | |
|---|---|
| 次時の学習内容 | ○文章の構成の仕方 |

**7　備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第４学年〇組　社会科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　　教生　〇〇　〇〇
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　小単元名　　地域のよさと人々のくらし　～くらづくりの残るまち・川越～

## ２　小単元について

（1）　本学級の児童は、第一学期の小単元「水はどこから」の学習において、蛇口、大久保浄水場、ダムといった個々に存在をしていた社会的事象について、理解を深めることができた。ダムから蛇口までの水の流れを図や文章にして表すことで複数の社会的事象どうしの関係をつなぎ、飲料水が計画的に、協力的に確保され、地域の人々の健康な生活の維持向上に役立っているという社会的な見方や考え方を獲得していった。しかし、児童の中には、実生活において飲料水を無駄に使う姿が見られた。これは、実社会における飲料水に関する問題と自分とのかかわりを考える指導が不十分であったことが原因であるととらえた。そこで、ダム建設を事例とし、ダム建設地に住んでいる住民と首都圏の飲料水を安定して確保したい行政のそれぞれの立場に立って、ダム建設を考える活動を組み入れた。

（2）　本小単元は、小学校学習指導要領解説社会編（平成２９年７月）第４学年の内容（５）ア（ア）（イ）イ（ア）をねらいとしている。展開にあたっては、つかむ過程において、児童は、観光客でにぎわう川越市内の様子、主な観光施設の分布や観光客数の統計資料の読み取りなどから問題意識を高め、学習問題Ⅰを導き出す。次に、調べる過程において、児童は、文献資料やパンフレットなどの資料の読み取り、関係者への聞き取り調査、フィールドワークなどから学習問題Ⅰについて調べていく。最後に、まとめる過程では、調べたことを相関図に表現し、学習問題Ⅰの結論Ⅰを導き出す。そして、新たな学習問題Ⅱを立て、児童は、様々な立場の人の視点で調べ、最終的な結論Ⅱを導き出せるようにする。

（3）　本時は、パネルディスカッション形式で話し合い、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直し、最終的な結論を導き出すことを目標としている。そのための１つ目の手立てとして、調べた事実、結論、理由を図式化することで、自分なりの結論を整理したり、自分なりの結論の変容を振り返ったりできるようにする。二つ目の手立てとして、地域の方々から児童の提案に対するアドバイスをいただくことで、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直し、最終的な結論を導き出せるようにする。

## ３　小単元の目標と評価規準

地域の資源を保護・活用している川越市の位置、伝統を生かしたまちづくりに関する活動の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳やイベント等の各種資料で主体的に調べ、蔵造りのまちを軸とした観光に関する取組について、川越市の伝統を生かしたまちづくりの特色を考えること ができるようにする。また、関係図にまとめたり、文章で記述したりすることを通して、川越市では人々が協力して、伝統を生かしたまちづくりをしていることを理解できるようにする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①地域の資源を保護・活用している地域の位置や環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係、国旗などについて地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み | ①地域の資源を保護・活用している川越市の位置や環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、地域の様子について考え表現している。 | ①地域の資源を保護・活用している川越市について、予想や学習計画を立てたり、 |

| | | |
|---|---|---|
| 取り、地域の様子を理解している。<br>②調べたことを白地図や文、図　などにまとめ、特色あるまちづくりや観光などの発展に努めていることを理解している。 | ②地域の資源を保護・活用している川越市の取組や経緯、人々の協力の様子について、比較・関連付け、総合などして地域の特色を考え、表現している。 | 振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

4　小単元の指導計画（１２時間扱い　本時１２／１２時）

〇内の数字は時間を表す。　　**知**：知識及び技能　　**思**：思考力，判断力，表現力等

〈 〉内は評価の方法を表す。　　**態**：主体的に関わろうとする態度

| | 学習活動・学習内容 | 評価の観点・内容・方法 | 資料 |
|---|---|---|---|
| つかむ | ①観光客でにぎわう川越市内の様子、主な観光施設の分布や観光客数の統計資料などを調べたり、ＮＨＫ連続小説ドラマ「つばさ」の舞台に　川越市が選ばれたことを予想したりして、学習問題Ⅰを導き出す。<br>・観光施設、駐車場の分布<br>・グラフ「観光客数の変化」の読み取り<br>・学習問題を導き出すこと<br>学習問題　Ⅰ<br>川越市の人々は、どのようにして観光客が多く来る「魅力ある街」にしたのだろう。 | **思**　調べたことを基に問いをもち、学習問題を導き出している。<br>〈発言・ワークシート〉 | ・川越市内の写真<br>・主な観光施設分布図<br>・観光客数の統計 |
| 調べる | ②学習問題Ⅰを解決するための計画を立てる。<br>・フィールドワークや聞き取り調査といった調べ方を考えること<br>・学習計画とフィールドワークの計画を立てること<br>・聞き取り調査の仕方を学んだり、質問事項を考えたりすること | **態**　学習問題に対する予想を整理し、主体的に学習問題を解決しようとしている。<br>〈発言・ワークシート〉 | ・見学カード |
| | ③④フィールドワークや観光に携わる人々、川越市街地域で生活をしている人々などへの聞き取り調査から川越市の人々のまちづくりの工夫について調べ、まとめる。<br>・計画に沿ってフィールドワークをすること<br>・街並みや観光客の様子の観察<br>・観光客が増えてよかったこと、問題点の聞き取り調査 | **知**　フィールドワーク、聞き取り調査などから調べ、歴史ある建造物や街並み、祭りなどを保護・活用したまちづくりや観光などの産業が盛んな人々の生活の様子について理解する。<br>〈見学カード〉 | ・見学カード |
| | ⑤⑥文献資料やパンフレットなどの収集した資料、関係者への聞き取り調査、川越市関係のホームページなどから川越市の人々のまちづくりの工夫について調べ、まとめる。<br>・川越市に観光客が集まる理由<br>・市役所の観光に関する政策<br>・川越市の人々（商工会、観光協会など）が観光客を集める工夫や努力 | **知**　収集した資料、聞き取り調査、川越市のホームページなどから調べ、観光などの産業が盛んな人々の生活の様子及び他地域や外国との関わりを理解する。<br>〈発言・ノート〉 | ・文献資料<br>・パンフレット<br>・川越市ホームページ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| まとめる／つかむ／調べる／まとめる | ・ＮＨＫ連続小説ドラマ「つばさ」プロデューサーへの聞き取り調査 | | |
| | ⑦調べたことを基に、川越の人々の生活について関係図に表現する。<br>・様々な立場の人々（市内在住、市役所、観光協会、商工会議所、川越蔵の会）の生活の様子 | 思　川越市の人々の生活の様子を関係図に表現する。　〈関係図〉 | |
| | ⑧調べたことを基に、学習問題Ⅰについて話し合い、学習問題Ⅰの結論を導き出し、新たな問いをもって学習問題Ⅱを導き出す。<br>・学習問題Ⅰについて話し合い、学習問題Ⅰの結論を導き出すこと<br>**学習問題Ⅰの結論**<br>**川越市の人々は協力して、歴史ある建造物や街並み、川越祭りを中心にした特色あるまちづくりをすること、また、地域の伝統と文化を保護・活用し、観光の発展に努めることで、観光客が多く来る「魅力ある街」にした。**<br>・新たな問いをもって学習問題Ⅱを導き出すこと<br>学習問題Ⅱ<br>一番街通りが「魅力ある通り」であり続けるために、これからどのようなことを改善していけばよいのだろう。<br>・学習問題Ⅱを解決するための計画を立てること | 思　調べたことを基に、学習問題の結論を導き出す。　〈ノート〉 | |
| | ⑨⑩文献資料、関係者への聞き取り調査、川越市関係のホームページなどから、様々な立場の人の視点で、一番街通りの改善策について調べる。<br>・様々な立場（一番街通りに住んでいる人々、市役所、観光協会、商工会議所、川越蔵の会）の視点で問題点を調べ、改善策を考えること<br>・学習問題Ⅱに対する自分なりの結論をもつこと | 思　調べたことを基に、学習問題の結論を導き出す。　〈ノート〉 | ・文献資料<br>・川越市ホームページ |
| | ⑪⑫パネルディスカッション形式で話し合い、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直し、最終的な結論を導き出す。**（本時１２／１２時）**<br>・パネルディスカッション形式で話し合うこと<br>・一番街通りの問題点と改善策を川越市在住の方に提案すること<br>・川越市在住の方のアドバイスを基に、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直すこと<br>・最終的な結論を導き出すこと<br>**学習問題Ⅱの結論**<br>**歴史ある建造物や街並み、川越祭りを保護・活用しながら、観光客と住民の両方の立場を考えて、改善策を考えることが大切である。** | 思　パネルディスカッション形式で話し合い、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直し、最終的な結論を導き出す。〈学習カード〉 | ・学習カード |

## 5　本時の学習指導（１２／１２時）

(1)　目　標

〇パネルディスカッション形式で話し合い、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直し、最終的な結論を導き出す。　**【思考・判断・表現】**

(2)　展　開　　（「評価と支援の工夫」の評、→は、目標にかかわった評価と支援を表す）

| 学習活動　・学習内容 | 評価と支援の工夫 | 時間 |
|---|---|---|
| 1　学習問題Ⅱを振り返り、本時の課題をつかむ。<br>・学習問題Ⅱを振り返り、本時の課題をつかむこと | 〇「魅力ある通り」とはどんな通りであるかを想起させて、目指す改善の方向性を共有できるようにする。 | 5 |
| 学習問題Ⅱ<br>一番街通りが「魅力ある通り」であり続けるために、これからどのようなことを改善していけばよいのだろう。 | | |
| 本時の課題<br>改善策を川越市の方に提案し、よりよい改善策にしよう。 | | |
| 2　調べたことを基に、学習問題Ⅱについてパネルディスカッション形式で話し合う。<br>・視点を明確にして話し合うこと<br>（問題点、歴史と文化の保護・活用、観光客の立場、住民の立場）<br>・川越市在住の方からアドバイスを聞くこと<br>「トイレの数が少なく、並んでいる人が多かったので、数を多くすれば観光客がもっと快適に過ごせると思いました。」<br>「観光客だけでなく、地元の地域の人々にとっても魅力的であることが必要であると思います。」 | 評　パネルディスカッション形式で話し合い、自分なりの学習問題Ⅱの結論を捉え直し、最終的な結論を導き出している。**【思・判・表】**<br>→問題点、改善策、根拠などについて記述できれば、「おおむね満足できる」状況であると判断する。<br>→記述できない児童には、まずは問題点に着目して記述できるように支援する。<br>〇観光客の立場で考える児童が多いと思われるので、地域の方々には、住民の立場でアドバイスいただけるようにする。<br>〇自分なりの学習問題Ⅱの結論の変容を振り返りながら、最終的な結論を考えられるようにする。 | 25 |
| 3　話し合ったことを基に、最終的な結論を導き出す。<br>・学習問題の結論を導き出すこと | | 10 |
| **学習問題Ⅱの結論**<br>**明治維新では、いろいろな人が関わり、武士の政治を終わらせて新しい政府をつくり、欧米に追いつくために強い国づくりを進めた。人々の生活や学問は欧米の影響によって大きく変わった。新しい政府への不満から、国民の声が届く政治の仕組みに変わり始めた。** | | |
| 4　小単元の学習を振り返る。<br>・小単元の学習を振り返ること | | 5 |

**6　備　考**　　在籍児童数　　４０名　　川越市在住の方　　２名

# 第５学年〇組　算数科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　題材名　小数のわり算

## ２　題材について

(1)　本題材では、除数が小数の場合も乗法の場合と同様に、除数が整数の場合の除法の意味を拡張すればよいことが分かるとともに、その計算の仕方を既習の計算と関連づけて考えたり、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解したりすることが、主なねらいである。

児童はこれまでに、次のようなことを学習してきている。

・除数が整数の場合の除法の二つの意味（等分除、包含除）
・除法は乗法の逆算であること
・小数÷整数の計算で、除法の意味を整数÷整数の場合と同じように考えたり、被除数の小数を整数化して計算すること
・被除数と除数に同じ数をかけても同じ数で割っても商は変わらないこと
・商を概算によって見当をつけること

そこで本題材では、これらの学習を基に、除数が小数の場合でも整数の場合と同じように、除法を適用できるのか、できるとすればどのような根拠でいえるかなど、小数で割ることの意味について考えるようにする。そして、その計算の仕方について、既習の計算で用いた単位の考えや、わり算のきまりなどをもとに考えられるようにしていく。ここで、これらの小数で割ることの意味や計算の仕方について、児童が自ら見付けたり、気付いたり、説明したりできるようにすることが大切である。

(2)　本時では、まず、（ ）ｍで４２０円のリボン１ｍ分の値段を求める場面を提示する。（ ）に自由に数値を入れ、１ｍ分の値段を求めていく。ここでは、立式するとともに、除法が適用できる場面の一つ（等分除の場面）であることを確認する。そして、実際のリボンの長さは、2.8ｍ（（ ）＝2.8）であることを知らせ､除数が小数の場面であることに気付くようにする。児童は、整数から小数に変わったことで、単に、形式的に小数を用いて立式することが予想される。そこで、小数で割ってもよいのかを問い、その根拠を追求するようにしていく。その際、整数との比較で考えていけばよいという見通しをもてるようにしてから考えられるようにしていく。

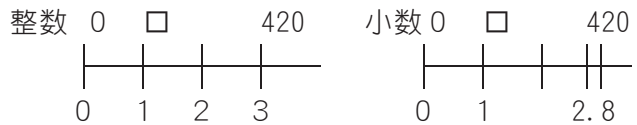
除法の意味について、整数との比較を通して、右の３つの観点を中心に話し合っていく。

本時では、前題材の「小数のかけ算」同様、数量の関係が同じ場合に、整数の場合に成り立つ式の形は、小数の場合にも同じように用いていくという考えをもとに、除法の意味の拡張を図っていきたい。

①言葉の式　（代金）÷（長さ）＝（１ｍの値段）から

整数　420÷２（＝210）　小数　420÷2.8
　　420÷３（＝140）

②数直線の関係から




③乗法の逆算と考えて

整数　□×３＝420　　小数　□×2.8＝420

## 3　児童の実態

本学級の児童は、算数の学習に主体的に取り組み、自ら適切な課題を設定できるようになったり、既習の考えと関連付けながら、自分の考えをもてるようになってきている。しかし、その一方で、導いた考えの根拠を述べたり、他者に伝えたりすることに苦手意識を持っている児童が多い。本題材の学習を通して、数直線を活用しながら、数量の関係や計算の意味を捉えられるようにする。

## 4　題材の目標

〇除数が小数の場合でも除法が用いられることや、小数の除法の意味を理解し、計算することができる。（知識・技能）

〇小数の除法の意味や計算の仕方を整数の場合と関連付けて考えることができる。（思考・判断・表現）

〇小数の仕組みや計算のきまりを用いて、小数の除法の計算の仕方を考えようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

## 5　題材の指導計画（１５時間扱い）

(1)　整数÷小数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４時間（本時１／２）
(2)　小数÷小数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間
(3)　商の大きさ、わり進みの計算とあまりのあるわり算・・・５時間
(4)　倍とわり算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間
(5)　練習のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

## 6　本時の学習指導（１／１５時）

(1)　目　標

〇除数が小数の場合も数量の関係が整数の場合と同じであることに気付くことができる。（数学的な考え方）

(2)　展　開

| 学　習　活　動 | 指　導　上　の　留　意　点 | 時間 |
|---|---|---|
| 問題　リボンを１ｍ買おうと思います。<br>※店の表示　（　）ｍで４２０円のリボン<br>１ｍの代金はいくらでしょうか。 | | 8′ |
| １　本時の問題場面について、知り、課題をつかむ。<br>Ｃ１　（　）ではわからないよ。<br>Ｃ２　３ｍなら420÷３で、140円だ。<br>Ｃ３　2.8mなら、420÷2.8だ<br>Ｃ４　2.8で割ってもいいのかな。 | 〇上記のような条件不足の問題を提示し、何ｍ分で420円かが分かれば１ｍ分の代金が求められることをおさえる。<br>〇除数が整数（３など）の場合について、確認した後、（　）に2.8　の数値を入れる。（　）に自由に数値を入れる場面で小数を考えた児童がいれば、その数値にもふれる。<br>〇全体に「420÷2.8」と立式してもよいかを問い小数で割ることについて課題意識をもてるようにする。 | |
| 課題　420÷2.8（÷小数）と立式してよいのか、そのわけを考えよう。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 2　各自、立式の根拠を考える。<br>Ｃ１　言葉の式にあてはめて<br>Ｃ２　数直線で<br>Ｃ３　かけ算で考えて<br>□×2.8＝420 | ○乗法の意味の拡張の時、どのように考えたかを振り返り、式の根拠を考えた経験を想起できるようにする。<br>○見通しがもてない児童が多かった場合、方法についての見通しがもてるよう除数が整数の場合との比較を通して考えるようううながす。 | 10′ |
| 3　立式の根拠を発表し話し合う。<br>(1)　各自の考えを発表し、話し合う。 | ○各自の根拠を発表させその妥当性を吟味する。<br>○言葉の式にあてはめ、それを根拠にした考えをもとに、これまでの除数の意味である「等しく分ける」と、2.8で割ることの意味の違いを明らかにする。<br>○乗法と除法を関連づけ、除法は乗法の逆算ととらえられることをおさえる。そして、小数の場合について考えると既習の小数倍の考えが適用できることに気付くようにする。<br>○数直線で表現したものについては、数の関係に着目できるようにする。 | 15′ |
| (2)　整数の場面との比較をする<br>Ｃ１　今までは等しく分けた。<br>Ｃ２　2.8が、３と同じ場所にあるな。<br>除数が整数の場面<br>0　□　420円<br>0　1　(3)ｍ | ○数直線をもとに、導入時に用いた、除数が整数の場合と比較する活動を設定し、その違いや共通点を明らかにする。<br>○これまでの「等分」では、2.8（小数）で割ることはできないことに気付くようにする。しかし、数量の関係でとらえると同じとみられることから、除数が小数になっても、これまでの整数と同様に除法を適用していくと考えることにより、小数の場合の式をつくっていく。 | |
| 4　他（2.8以外)の数について考える。<br>Ｃ１　3.5や1.5でも同じだ。<br>Ｃ２　0.8でも同じかな。 | ○各自、2.8以外の数について数直線をもとに、数の関係を吟味する。<br>○１未満の小数についても数直線をもとに数量の関係が同じととらえることができるかを話し合うようにする。<br>○数量の関係や倍の考えから除法が適用できることをおさえ、意味の一般化を図るようにする。<br>評　除数が小数の場合も数量の関係が整数の場合と同じであることに気付くことができる。<br>（数学的な考え方） | 7′ |
| 5　本時の学習についてのまとめをする。 | ○数量の関係が、同じとみられる場面は、数の範囲が広がっても同じように立式していこうと考えたことをまとめる。<br>○次時は、小数で割る計算の仕方を考えることが課題であることをおさえる。 | 5′ |

7　**備考**　　在籍児童数　　３５名

# 第３学年〇組　理科学習指導案

令和〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　　〇〇　〇〇　　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　　先生

## 1　単元名　　チョウを育てよう

## 2　単元について

(1)　児童は、これまでに生活科や理科の学習で植物の栽培を行ってきた。そこでは積極的に植物に関わり、生き物を大切にする態度が身に付いてきた。また、第３学年「春の自然探し」では、身の回りの植物の葉や花を観察し、植物にはいろいろな色、形、大きさがあることを理解している。さらに、生活科の学習を通して、ザリガニやバッタなど動物の飼育も経験しており、児童の多くは、モンシロチョウを見たり、飼育したりした経験をもち、その成長過程はおよそ理解している。

(2)　本単元では、児童が、身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、これらの様子や周辺の環境、成長の過程や体のつくりに着目して、それらを比較しながら、生物と環境との関わり、昆虫の成長のきまりや体のつくりを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題を解決しようとする態度を育成することがねらいである。

(3)　展開に当たっては、第一次では、まずキャベツ畑を飛んでいるモンシロチョウの様子を観察し、チョウが卵を産んでいることに気付くようにする。そして、モンシロチョウの飼育を通して、「モンシロチョウはどのように成長するのだろうか」という問題をつくる。ここでは、児童一人一人が卵を採取し、飼育することで、生き物への愛着と責任感を養えるようにする。次に、卵、幼虫、蛹、成虫と成長過程を追いながら観察を行い、その成長の様子を記録する。理科の授業だけでなく、休み時間などの日々の世話を通して、自分のモンシロチョウの変化に気付いていけるようにしたい。第二次では、成虫になったモンシロチョウの様子を観察し、体のつくりを調べ、モンシロチョウが昆虫であることを理解できるようにする。第三次では、これまでの観察記録を整理し、モンシロチョウの育ち方をパンフレットにまとめ、理解の定着を図る。

(4)　本時では、「モンシロチョウの成虫は、幼虫の時とどのようなところがちがうのだろうか。」という問題をつくり、モンシロチョウの成虫の体のつくりを整理していく。まず、成虫の様子を記録する。その後、成虫と幼虫の観察記録を比較し、その違いを整理していく。自分のモンシロチョウが成虫まで育っている児童は学級の半数くらいであるため、グループで観察するようにする。また、一度スケッチにより記録することで、成虫の様子を細部まで観察できるようにする。次に、成虫と幼虫の違いを整理する。ここでは、児童の発言を「様子」と「体のつくり」の二つの視点で教師が板書に整理していく。最後に、昆虫の体のつくりをまとめ、モンシロチョウは昆虫の仲間であることをとらえることができるようにする。

(5)　この学習は、生命についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「生物の構造と機能」、「生命の連続性」、「生物と環境の関わり」に関わるものであり、第４学年「Ｂ(1)人の体のつくりと運動」「Ｂ(2)季節と生物」、第６学年「Ｂ(2)植物の養分と水の通り道」、中学校第２分野「(1)いろいろな生物とその共通点」の学習につながるものである。

## 3　単元の目標（評価規準）

自然の事物・現象について、理科の見方・考え方を働かせ、問題を追究する活動を通して、身の回りの生物についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに、問題解決の力や生物を愛護する態度、主体的に問題を解決しようとする態度を養う。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあることを理解している。<br>・生物は、周辺の環境と関わって生きていることを理解している。<br>・昆虫の育ち方には一定の順序があること、また、成虫の体は頭、旨及び腹からできることを理解している。<br>・身の回りの生物について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 | ・身の回りの生物について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題を解決している。<br>・身の回りの生物について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 | ・身の回りの生物についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。<br>・身の回りの生物について学んだことを学習や生活に生かそうとしてる。 |

4　**単元の指導計画**（８時間扱い）

第一次　チョウはどのように育つのだろうか・・・・・・・・・・・・・・５時間
第二次　チョウの成虫を育てよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
第三次　成長のきろくをまとめよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間

5　**本時の学習指導**（第二次　１／１時）

(1)　目　標

〔知識・技能〕　身の回りの生物について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録することができる。[記録]

(2)　準　備　　実物投影機　記録カード　虫眼鏡

(3)　前時までの活動

「モンシロチョウはどのように育つのだろうか」という問題をつくり、飼育と観察を行いながら、モンシロチョウの成長過程について、学習を進めてきた。半数の児童もモンシロチョウがさなぎで半数の児童のモンシロチョウが成虫になっている。

(4)　展　開

| 学習活動 | ・児童の反応と◆教師の支援 | ○留意点〔　〕評価の観点 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　モンシロチョウの様子から問題をつくる。 | T₁ みんなの育てているモンシロチョウはどんな様子になりましたか。<br>・成虫になった。<br>・まださなぎのまま。<br>・幼虫だけど大きくなった。<br>モンシロチョウの成虫は、幼虫の時とどのようなところがちがうのだろうか。 | ○モンシロチョウの成虫については、観察し易くするため、透明な容器に入れる。<br>○観察はスケッチのみでよいことを伝えるなど、記録の仕方、虫眼鏡の使い方を確認する。 | 5 |
| 2　観察を行い、カードに記録する。 | T₂ モンシロチョウの成虫を観察して、観察カードに記録しましょう。<br>・幼虫の時はずいぶん形が違うね。<br>・羽は何枚あるのかな。 | ○机間指導を行い、昆虫の体のつくりを誤ってとらえている児童には、体のつくりや足の数などもう一度よく | 20 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・よく動いているね。<br>◆成虫の形が捕らえられない児童には、大まかな形を示し、細部を観察して付け足す記録方法を提案する。<br>◆モンシロチョウの様子を実物投影機を用いてテレビに映しておき、成虫が動いて観察できない児童が参考にできるようにする。 | 観察するよう、促す。<br>〔知識・技能〕<br>身の回りの生物について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。［記録］ | |
| 3　観察した記録と幼虫の時の記録を基に、幼虫と成虫の違いについて発表する。 | T3 モンシロチョウの成虫と幼虫の違いで、気が付いたところを発表しましょう。<br>・幼虫は緑だけど、成虫は白でした。<br>・幼虫は羽がないけど、成虫には羽があります。４枚ありました。<br>・幼虫はキャベツを食べたけど、成虫は花の蜜を吸います。 | ○記録を書き終わった児童には、幼虫との違いを探すよう声をかける。<br>○児童の発表内容はモンシロチョウの体のつくりと様子の二つの視点に分けて表に整理する。 | 15 |
| 4　昆虫の体のつくりの特徴を整理する。 | T4 モンシロチョウの成虫の体のつくりをまとめましょう。<br>・体が分かれていました。<br>・足が６本、羽が４枚ありました。<br>モンシロチョウの幼虫と成虫では色や形が大きく違う。成虫は体が頭、胸、腹に分かれていて、胸に足が６本ついている。<br>このような虫を「こん虫」という。 | ○成虫の記録で体が三つに分かれて書かれている児童のスケッチを全体に紹介することで、正しく捉えることができていない児童がもう一度実物を観察できるようにする。<br>○成虫は、ベランダから屋外に放ち、自然に返すことを伝える。 | 5 |

## 6　備　考

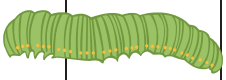
在籍児童数　　３５名

## 7　板書計画

0/0
晴れ

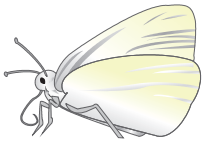
モンシロチョウの成虫は、よう虫の時と、どのようなところがちがうのだろうか。

〈けっか〉



よう虫

| | モンシロチョウのよう虫 | モンシロチョウの成虫 |
|---|---|---|
| 体のつくり | ・足がたくさんある<br>・はねはない<br>・色が緑色<br>・ | ・足は６本<br>・はねがある（４まい）<br>・色は白と黄色で黒いもようがある<br>・顔がある（体が分かれている）<br>・しょっかくがあった |
| ようす | ・キャベツを食べる<br>・歩く | ・花のみつをすう<br>・とぶ |



成　虫

〈分かったこと〉

・モンシロチョウの幼虫と成虫では色や形が大きく違う。
・成虫は体が頭、胸、腹に分かれていて、胸に足が６本ついている。⇨ こん虫

# 第２学年〇組　生活科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

**１　単元名**　　やさいよ大きくなあれ

**２　単元について**

(1)　児童の実態について

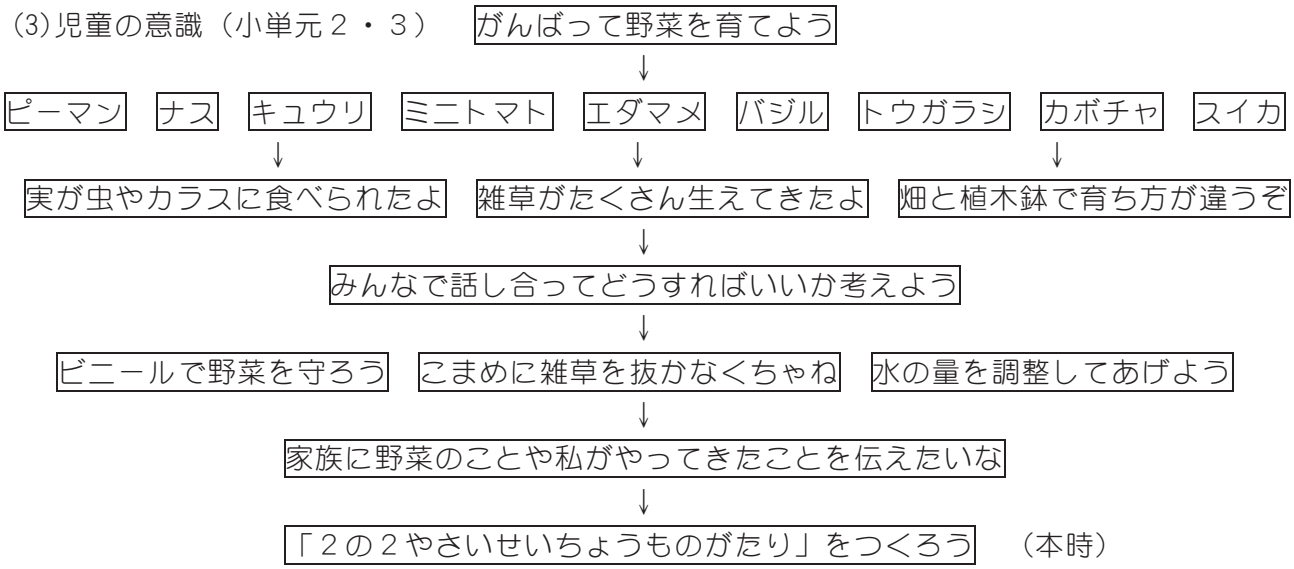
本学級の児童は、１年生の１学期に自分の思いや願いを基に、自分の育てたい花を選び栽培した。毎日、水をあげたり、葉っぱについている虫を捕ったりするなど、花の成長を楽しみながら世話をすることができた。２学期には、秋の花を選び、１学期の栽培経験を生かし、１学期の花と比較しながら継続的に世話に取り組んだ。季節の違いを感じ、水のあげ方を変えるなど世話の仕方を変えている児童もみられた。２年生では、夏野菜の栽培を行っている。１年生での花の栽培経験を生かし、自分の思いや願いを基に、選んだ野菜を楽しみながら育てている。野菜の世話では花との共通点や相違点を見付けたり、野菜によって世話の仕方が違うことに気付いている。

(2)　単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、児童の実態と小学校学習指導要領の内容（７）を受けて設定したものである。ここでは、児童が自らの手で継続的に野菜を栽培する活動を通して、身近な植物に興味・関心をもち、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、野菜への親しみをもち、大切にすることができるようにすることを目指している。

単元を構成するに当たっては、児童の思いや願いを基に、野菜選びを行うところから始め、継続的に野菜を栽培し、親しみをもって関わることができるようにしていく。また、単元を通して栽培活動の様子を写真に残し、それを掲示し、学びの過程を振り返ることができるようにしていく。活動の様子や児童の考えを掲示することで活動を振り返りやすくなるようにしていく。単元の終末には、野菜のよさや自分たちががんばってきた栽培活動の様子を家族に伝えたいという思いを基に、「やさいせいちょうものがたり」を劇で表現していくようにする。野菜との関わりや自分たちの活動を劇化し、振り返ることができるようにすることで、野菜の立場に立って野菜の気持ちを考えたり、自分たちの世話のよさを改めて感じたりすることができるようにしていく。

(3)児童の意識（小単元２・３）



## 3　単元の目標

野菜を栽培する活動を通して、野菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、野菜は生命をもっていることや成長していることに気付き、野菜への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

## 4　単元の指導計画・評価計画（２５時間扱い）

(1)　単元の評価規準と小単元の評価規準

| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|---|
| 単元の評価規準 | | 野菜を育てる活動を通して、野菜が生命をもっていることや成長していることに気付いている。 | 野菜を育てる活動を通して、野菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 | 野菜を育てる活動を通して、野菜への親しみをもち大切にしようとしている。 |
| 小単元の評価規準 | ～～～～<br>２<br>やさいをうえてそだてよう（10） | ～～～～～～～～～～～～<br>②育てている野菜に生命があることや野菜によって成長や変化の様子に共通点や相違点があることに気付いている。 | ～途　中　略～～～～～～<br>②野菜との関わりを振り返り、野菜とのよい接し方について考えたり、野菜の成長や変化の様子を自分なりに工夫して表したりしている。 | ～～～～～～～～～～～～<br>②野菜の様子に関心をもち、野菜の世話に継続的に取り組もうとしている。 |
| | ３<br>やさいをしょうかいしよう（13） | ③野菜への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分自身に気付いている。 | ③育ててきた野菜について感じたことや気付いたことを自分なりに工夫して表現している。 | ③自分たちが育ててきた野菜について自分なりの表現方法で野菜を紹介しようとしている。 |

(2)　単元の指導計画・評価の視点

| 小単元名・ねらい | 主な活動（時数） | 評価規準から想定した具体的な子供の姿　評価方法 | |
|---|---|---|---|
| ～～～～～～～～<br>２　やさいをうえてそだてよう（１０時間）<br>◎野菜の世話を通して、自分なりに工夫した接し方や野菜の成長や変化の様子について気付くことができるようにする。 | ～～～～～～～～<br>①野菜の世話の仕方を調べる。（1）<br>②野菜の世話の仕方について考える。（1）<br>③野菜のお世話や観察をする。（2）<br>※②、③を繰り返し行う。 | 途<br>知-②<br>思-②<br>主-② | 中　略～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～<br>・野菜が生命をもっていることや成長していることに気付いている。 発・作・ノ<br>・野菜の成長や変化の様子を自分なりに工夫してノートに表している。 作・ノ<br>・野菜が元気に育ちやすい環境になるように話し合っている。 発・つ<br>・自分が育ててきた野菜を収穫を楽しみにしている。 行・発<br>・野菜の立場に立ち野菜の世話の仕方や育てる環境について考えている。 発・作・ノ<br>・野菜に思いやりをもって、水やりや世話をしようとしている。 行・ノ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ３　やさいをしょうかいしよう（１３時間）<br>**※本時８／１３**<br>◎野菜のよさを紹介する活動を通して、野菜への親しみを感じるとともに、上手にお世話ができるようになった自分自身に気付くことができるようにする。 | ①まとめ方について話し合う。(1)<br>②野菜のことや世話をしてきたことを劇にまとめる。(4)<br>③劇を披露して意見交換する。(2)<br>④劇を振り返り、内容を改善する。(3)<br>⑤劇を披露する。(2)<br>⑥今までの活動を振り返る。(1) | 知−③<br><br><br><br><br><br>思−③<br><br><br><br><br>主−③ | ・野菜は生命があることや継続して世話を続けてきた自分自身に気付いている。 発・ノ・つ<br>・劇をつくる中で、野菜の成長の様子や上手に世話ができるようになった自分に気付いている。 発・ノ・つ<br>・家族のことを思いながら、分かりやすいように自分なりに工夫して野菜のよさを表現しようとしている。 行・発・ノ・つ<br>・これまでの野菜と自分との関わりを振り返り、それを友達と伝え合っている。 行・発<br>・友達と伝え合い交流したことを基に、劇の内容を見直し、工夫している。 行・発・ノ・つ<br>・野菜の栽培活動で感じたことや気付いたことを劇に自分なりに表現している。 行・発・ノ<br>・自分が育てている野菜に関心をもち、継続して栽培したり、世話したりしている。 発・ノ・つ |

【行行動、発発言、作作品、ノノート、つつぶやき、自自己評価カードによる評価を示す。】

**5　本時の学習指導（第３次　８／１３時）**

(1)　目　標

○劇をよりよくする方法について友達と伝え合い交流する活動を通して、野菜の気持ちや友達の思いについて考えられるようになった自分に気付き、劇で野菜や自分のよさを表現できるようにする。

(2)　展　開

| 児童の活動・意識 | 評価（●）と支援（○） | 準備 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　前時のグループごとに見せ合った劇について全体で振り返る。<br>・前回の劇では、野菜のお世話の仕方で大切なことを上手く伝えることができなかったな。<br>・観察の仕方では、見るポイントなどは伝えられたけど、もっと楽しく伝えられないかな。 | ●これまでの野菜と自分との関わりを振り返り、それを友達と話し合っている。<br>主−③　行・発<br>○前時の劇の様子を動画で流すことによって、具体的に自分たちの活動を振り返ることができるようにする。<br>○掲示物や活動の様子を写した写真を使用し、これまでの活動を振り返ることができるようにする。<br>○児童の思いや願いなどを板書で可視化し、全体で本時の課題について共有することができるようにする。 | ・掲示物<br>・台本<br>・生活ノート | 5 |
| 2　自分たちの劇をよりよくする方法についてグループで伝え合い交流する。 | ●友達と伝え合い交流したことを基に、劇の内容を見直し、工夫している。<br>思−③　行・発・ノ・つ | ・ワークシート<br>・台本 | 15 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・私たちも野菜役の人がその時の気持ちを伝えられるようにしたいね。<br>・台詞を言うときに、観察するポイントを一つずつ確認できるようにしたいな。<br>・実際に、野菜をもってどこがいいのかを話した方がわかりやすいと思うな<br>・野菜を食べている時や観察しているときに自分の気持ちを台詞にいれるといいんじゃないかな。 | ○前時の劇の動画を基に、自分たちの劇の内容や表現の仕方を伝え合い交流しながら振り返り、よりよい劇をつくることができるようにする。<br>○ワークシートを活用しながら、事前に考えていた内容と今の自分たちの考えを比較したり、関連づけたりすることができるようにする。<br>○改善したいポイントを付箋紙に書き込み、ワークシート上に貼ることで、気付きを可視化し、課題を明確にすることができるようにする。<br>○伝え合い交流する活動が停滞しているグループには、掲示物や台本を使いながら、家族に伝えたいことや該当場面での自分たちの気持ちや野菜の気持ちを考えることができるようにする。 | ・掲示物<br>・iPad<br>・付箋紙 | |
| 3　グループで改善したことを基に、他のグループと伝え合い交流する。<br>・私たちは、新しく野菜とお話をする場面を入れてみたからわかりやすいかどうか見て欲しいな。<br>・私たちは、収穫する時に大切にしたいポイントを新しく入れてみたから見て欲しいな。 | ○他のグループと伝え合い交流する活動を行う際には、付箋を使い、相手から互いに価値付けてもらうことができるようにする。<br>○友達の反応から自分たちの活動を見直し、次の活動の見通しをもつことができるようにする。<br>○互いに劇を見せ合うことで、共通点や相違点に気付くことができるようにする。<br>○友達に自分たちのよりよくする方法を伝えることで自分たちのよさを自覚することができる。 | ・ワークシート<br>・台本<br>・生活ノート<br>・掲示物<br>・iPad | 15 |
| 4　伝え合い交流したことを基に、全体で振り返る。<br>・野菜のお世話をする時に、大きくなあれと応援している人がいて、野菜に話しかけるのは大切だと思いました。<br>・どの場面でも何を伝えたいのかポイントを決めることが大事だと思いました。<br>・ただ台詞を言うだけじゃなくて自分がどんな気持ちでお世話していたのか考えて台詞を言うと見ている人によく伝わると思うな。 | ●劇をつくる中で、野菜の成長の様子や上手に世話ができるようになった自分に気付いている。<br>**気－③**　発・ノ・つ<br>○伝え合い交流したことを踏まえ、全体で劇をよりよくする方法について気付きを共有することができるようにする。その際、児童から出た考えのつながりが分かるように板書していく。<br>○野菜の立場に立って考えることができている児童を取り上げ、野菜の気持ちや野菜にどのように接してあげればいいのか考えることができるようにする。<br>○劇をよりよくする方法について発言した児童を教師が価値付けることで、次の活動への意欲を高めたり、自分自身の成長を実感したりすることができるようにする。 | ・台本<br>・生活ノート<br>・掲示物 | 10 |

**6　備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第４学年〇組　音楽科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　題材名　　音楽で心の輪を広げよう

## ２　題材について

（1）　本題材は、主に、小学校学習指導要領解説音楽編　Ａ表現（１）歌唱　ア「歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。」、ウ「思いや意図に合った表現をするために必要な、(ｳ)互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けること。」に関連している。本題材では、ともに音楽をつくり上げることを通して友達との心の輪を広げ、歌詞の内容や曲想から感じ取ったことを基に、歌い方を工夫することをねらいとしている。

（2）　本学級の児童は音楽への学習意欲が高い。歌唱では、部分二部合唱の学習を通して、旋律を重ねて歌うことのよさや美しさを感じ取る経験を重ねてきた。教師の投げかけに対して素直に反応し、一人一人が美しく歌いたいという思いをもって学習に臨んでいる。その一方で、思いや意図をもっていても、音楽を形づくっている要素と関連させて説明することを苦手としている様子が見られ、表現の工夫について共有が十分に行えていない実態が見られた。

（3）　本題材では、歌詞の内容や曲想から感じ取ったことを基に、歌唱表現の工夫を行う。そこでは、児童がもつ楽曲へのイメージを歌詞の朗読や話合いを通して明らかにしていく。そして、児童がもつ楽曲へのイメージと実際の歌唱表現が関連するように、音楽を形づくっている要素を視点に、音で検証していくようにする。その際、タブレット端末を用いて、児童の歌唱を録音し、客観的に振り返ることができるようにする。また、児童の感じ取ったことや考えた歌唱の工夫を楽譜に記入し電子黒板に投影することで、表現意図の共有化を図る。

## ３　題材の目標

〇曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付き、思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌唱で表すようにする。

〇音色、旋律、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつようにする。

〇歌詞の内容及び曲想にふさわしい表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むようにする。

## ４　教材の選択　（◎は本時で扱う教材）

〇「花束をあなたに」杉本　竜一　　作詞・作曲
〇「リズムでなかよくなろう」（音楽づくり）
〇「さくらさくら」日本古謡

◎「ふるさと」小山　薫堂　作詞　　ｙｏｕｔｈ　ｃａｓｅ　作曲　　桜田　直子　編曲

ふるさとを大切に思うことで、自分を育ててくれる人々や自然を尊ぶ気持ちが高まっていくメッセージ性のある歌詞になっている。歌詞の内容や曲想から感じたことを思い浮かべながら歌ったり、表現したりするのに適している教材である。

## 5　本題材で主に取り扱う〔共通事項〕と学習の関わり

| 〔共通事項〕ア | 音色 | 旋律 | 強弱 | 音の重なり |
|---|---|---|---|---|
| 〔共通事項〕イ | | ♭ | ｐ～ｆｆ | |
| 主な学習活動 | ・歌詞の内容及び曲想に合った歌声について話し合い、表現を工夫する。 | ・旋律の特徴が生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の内容及び曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 | ・強弱記号を基に、表現の工夫をする。 | ・旋律が重なる美しさを感じ取って歌唱する。<br>・旋律の重なり方によって響きが変わることを感じ取り、表現の工夫をする。 |

## 6　題材の指導計画（６時間扱い）

・「花束をあなたに」を歌詞唱する。　・・・・２時間
・「リズムでなかよくなろう」で音楽づくりをする。　・・・・１時間
・「さくらさくら」を歌詞唱する。　・・・・１時間
・「ふるさと」を歌詞唱する。　・・・・２時間（本時２／２）

## 7　本時の学習指導

(1)　目　標

〇音色、旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつようにする。

(2)　本時で主に扱う〔共通事項〕：ア　音色　旋律　強弱 ／ イ　ｐ～ｆｆ

(3)　展　開（６／６時）

| 学習内容　・学習活動 | □ 内は学習活動に即した評価規準<br>指導上の留意点（・）　評価方法【　】 | 時間 |
|---|---|---|
| 1　学習の雰囲気をつくる。<br>・「ふるさと」を二部合唱する。 | ・明るく和やかな雰囲気づくりをするために、気持ちよく声を出して歌うようにする。<br>・児童の歌唱をタブレット端末を用いて録音し、客観的に振り返ることができるようにする。 | 7 |

| | | |
|---|---|---|
| 2　歌詞の内容及び曲想にふさわしい歌い方の工夫を行う。<br>・「ふるさと」の歌詞の内容及び曲想について話し合う。<br>・自分たちの歌唱について振り返る。<br>Ｃ：朝焼け空の静かな場面なのに、怒鳴って歌っているね。<br>・自分たちの課題を解決する歌い方を考える。<br>Ｃ：朝焼け空の静かなイメージがあるから、優しい声で歌いたいです。<br>Ｃ：始めの部分は、小さくても弱々しい感じではないから、口をしっかり開いて、はっきりした声で歌いたいです。<br>・歌い方の工夫を伝え合い、音で検証する。<br>Ｃ：口を開いて歌うと言葉がはっきりするね。 | ・言葉の抑揚やリズムを感じ取れるようにするために、繰り返し朗読するようにする。<br>・歌詞の内容及び曲想をフレーズごとに確認し、どの場面で、どのように感じたかを整理して考えることができるようにする。<br>・タブレット型端末の録音を基に、歌詞の内容及び曲想と歌唱が結び付いているかについて話合いを行うようにする。<br>・歌詞の内容及び曲想と実際の歌唱表現が結び付いていない箇所を課題とし、全体で共有する。<br>・歌詞の内容及び曲想と歌唱が、音楽を形づくっている要素と結び付くようにするために、「音色」「旋律」「強弱」に関わる言葉を用いて表現の工夫を考えるようにする。<br>・考えた工夫を楽譜に書き込むことで、歌唱に生かせるようにする。<br>・楽譜に工夫を書き出せずにいる児童には、対話を通して考えを引き出し、書き表すことができるようにする。<br>〇思考・判断・表現【楽譜への記述内容】<br>旋律、音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。<br>・歌い方の工夫について話し合う場を設け、音で確かめながら、どのように表現していくかを決定していくようにする。 | 30 |
| 3　工夫した表現を基に「ふるさと」を歌唱する。<br>・表現の工夫を行うことで、自分たちの歌唱がどのように変化した振り返る。 | ・再度録音を行い、歌詞の内容及び曲想と歌唱が結び付き、自分たちの考えた表現の工夫ができているかを検証するようにする。<br>・変容した点について大いに称賛し、自信をもち意欲的に歌唱に取り組むことができるようにしていく。 | 8 |

**8　備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第６学年〇組　図画工作科学習指導案（図画工作室）

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

**１　題材名**　木と金属でチャレンジ（Ａ表現(1)イ、(2)イ、Ｂ鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ）

**２　題材について**

(1)　児童の実態について

本学級の児童が第４学年で取り組んだ題材「トントンつないで」では、のこぎりで切った角材を板材と釘でつなぐことで動く仕組みをつくり、その動きから表したいことを見付ける学習を行った。また、第５学年で取り組んだ題材「アルミ缶、切って、開いて、くっつけると・・・」では、アルミ缶を切ったり、組み合わせたりすることで表したいことを見付ける学習に取り組んだ。このように本学級の児童は木や金属を扱い、材料のよさや美しさ、特徴などから表したいことを見付けたり、どのように表すか考えたりする経験を積んできている。

(2)　本題材を指導するに当たって

本題材は、これまでに経験してきた木や金属を主材料に、それらを組み合わせることで生まれる材質感の違いを生かしながら、表したいことを見付ける学習である。児童は、３年生で角材、４年生でアルミ線や板材、５年生でアルミ缶を使った題材を経験してきている。これまでの経験を生かしながら、異なる材料を組み合わせることのよさや美しさを感じ取ったり考えたりするように提案していく。

形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を理解することの指導に当たっては、木や金属の形や色の材質感の違いに注目しながら発想や構想をしたり、工夫してつくったりしている児童を積極的に価値付けたり、意味付けたりする。

表したいことに合わせて表し方を工夫することの指導に当たっては、第３時において児童の作品について学級全体で話し合う場を設定し、それぞれの工夫を学級全体で共有するようにする。

形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基にして、自分のイメージをもつことができるようにすることの指導に当たっては、児童の状況に応じて対話を行い、児童の思いを理解したり、誘発したりする。

表したいことを見付けたり、どのように表すかについて考えることの指導に当たっては、第１時において、第４学年で行った題材「トントンつないで」と第５学年で行った題材「アルミ缶切って、開いて、くっつけると・・・」を思い出すようにして、木や金属のよさや美しさ、特徴について振り返るようにする。そして、木や金属を使っていろいろと試す時間を設定し、表したいことを見付けるきっかけをつくる。児童の状況によっては、アイデアスケッチをかくようにする。また、第４時において、自他の作品を見合う時間を設定し、どのような主題をどのように表しているか見るようにすることで、互いのよさや美しさを自分の表現に生かしていくようにする。

表現のよさや美しさを感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を深めることの指導に当たっては、第４時において、学級全体で友人の表現を鑑賞する時間を設定し、表現のよさや美しさについて話し合うようにする。教師は、児童の活動を捉え、価値付けたり、意味付けたりしていく。また、第６時後半には、お互いの作品について話し合ったり、説明したりする時間を設定する。その際、児童と対話をしながら自分の見方や感じ方を深めている姿を価値付けるようにする。

## 3　題材の目標・評価規準

(1)　題材の目標

〇自分の感覚や行為を通して、形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を理解する。（知識）

〇表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの木やアルミ缶などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。（技能）

〇形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。（思考力、判断力、表現力等）

〇木や金属を使って想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。（思考力、判断力、表現力等「発想や構想」）

〇自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。（思考力、判断力、表現力等「鑑賞」）

〇主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関して楽しく豊かに生活を創造しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

(2)　題材の評価規準

| 題　材　の　評　価　規　準 | | |
|---|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知自分の感覚や行為を通して、形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を理解している。<br>技表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの木やアルミ缶などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 | 発形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、木や金属を使って想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。<br>鑑形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 | つくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 |

## 4　題材の指導計画・評価計画（６時間扱い）　本時２／６時

※主体的に学習に取り組む態度は、全ての時間を通し見取っていくため中央の欄左側に点線で表記した。

| 時間 | 学習活動 | 題材の評価規準との関連 | 〇学習に即した評価規準・〈評価方法〉 |
|---|---|---|---|
| 第<br>1<br>・<br>②<br>・<br>3 | 1　木や金属の材料の使い方をいろいろと試してみる。<br>2　木や金属の材料を使って表し | 思考・判断・表現発<br>**第２時全児童記録**<br>技能<br>**第３時全児童記録** | 〇形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、木や金属を使って想像したことから、表したいことを見付けている。〈行動観察・対話・表現・記録〉<br>〇表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの木やアルミ缶などについての |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・4・5 | たいことやどのように主題を表すかについて考える。 | | 経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 〈行動観察・対話・表現〉 |
| ・6時 | ↑　行き戻り　↓<br>3　木や金属の材料を使って表したいことを工夫してつくる。 | 主体的に学習に取組む態度 | ○つくりだす喜びを味わい、主体的に表現する学習活動に取り組もうとしている。 〈行動観察・対話・表現〉 |
| | | 思考・判断・表現発<br>**第4時全児童記録** | ○形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 〈対話・表現・記録〉 |
| | | 知識<br>**第5時全児童記録** | ○自分の感覚や行為を通して、形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を理解している。 〈対話・表現・記録〉 |
| | 4　自他の作品を鑑賞する。 | 主体的に学習に取組む態度 | ○つくりだす喜びを味わい、主体的に鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。 〈行動観察・対話・表現〉 |
| | | 思考・判断・表現鑑<br>**第6時全児童記録** | ○自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 〈行動観察・対話・記録〉 |

**5　本時の学習指導**（2／6時）

(1)　目　標

○形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、木や金属を使って想像したことから、表したいことを見付ける。　（思考力、判断力、表現力等）

(2)　準　備

○教師　木、アルミ線、アルミ缶、万能ばさみ、ベルトサンダー、ペンチ、のこぎり、かなづち、ヒートン、フック、釘、ハトメパンチ、ハトメ、ホットメルト、化学接着剤、木工用接着剤、作品棚

○児童　アルミ缶、軍手

(3)〔共通事項〕（小学校学習指導要領解説図画工作編より抜粋）

ア　自分の感覚や活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

(4)　展　開

| 学習活動、予想される活動∞具体的な児童の姿「」 | 指導の工夫 | 評価と手立て、評価規準、【評価方法等】 | 時間 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| 提案　木や金属を生かしながら、表したいことを見付けよう。 | | | |
| 1　前時の活動について | ○前時の活動で、木や金属を使って試 | | 10 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学級全体で話し合う。<br>∞　前時に試したことを思い出しながら本時の学習の見通しをもつ。 | したことを思い出すようにしながら、本時では、自分の表したいことを見付けるようにすることを伝える。 | | |
| 2　材料の形や色、材質感の違いなどを生かしながら、表したいことを考える。<br>∞　木やアルミ缶などを組合せながら、表したいことを考える。<br>「試しに切ってみたアルミ缶と木を組み合わせたら花になりそうだな。」<br>「木にアルミ線を巻いたら、ロボットになりそうだ。」<br>↑　行き戻り　↓<br>∞　木を削ったり、アルミ缶を切ったりしながら表したいことをつくる。<br>「切り開いたアルミ缶を組み合わせて、魚にして、板で海をつくったよ。」 | ○材料を選んだり、組み合わせたりする活動を捉え、形や色、材質感の違いを生かして活動している児童を価値付けていく。<br>○児童の状況によっては、アイデアスケッチをかくようにする。<br>○形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基にして、自分のイメージをもつことができるようにする。そのために児童の状況に応じて対話を行い、児童の思いを理解したり、誘発したりする。<br>○活動の途中でも、友人の作品を見に行ってもよいことを伝え、表現と鑑賞を相互に関連させるようにする。<br>○表したことについて対話し、どのようなことを考えているか、児童の思いを価値付けたり、意味付けたりする。 | 思形や色、材質感の違いなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、木や金属を使って想像したことから、表したいことを見付けている。<br>【対話・表現・記録】<br><br>［努力を要する状況と評価した児童への手立て］<br>○表したいことが見付からない児童には、一緒に考えたり、他の児童の表現を参考にするようにする。 | 30 |
| 3　本時の活動を振り返る。<br>∞　本時を振り返る。 | ○導入時に全体で話し合ったことを基に本時を振り返り、次時への活動の意欲がもてるようにする。 | | 5 |

## 6　備　考

(1)　在籍児童数　　３５名

(2)　環境構成図（略）

# 第５学年〇組　家庭科学習指導案（家庭科室）

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　題材名　　日本の味　ご飯とみそ汁

## ２　題材について

（1）　児童観

児童は、これまでに食生活に関する内容として、ゆでるという調理操作によって、日常よく使用される食品を調理することを学習してきた。そこでは、自分たちが疑問に思ったことを課題とし、野菜の切り方や加熱時間、火加減による火の通り方や味の違いなどを調べてきた。児童は、体験的に調理操作を学ぶとともに、課題を見いだして解決し、その後の学習や家庭で実践に生かす楽しさを味わうことができた。

米に関しては、５年生の社会科において、米の産地を調べるなどの学習経験がある。このため、自分の家庭で食べている米の銘柄以外にも、多くの米の銘柄について知っている。事前に行った炊飯のアンケートでは、多くの児童が米を洗って、炊飯器で炊いた経験があると答えている。しかし、炊飯するときの水加減については、炊飯器の釜の目盛りに合わせて入れればよく、火加減については、変化の様子を見ることもない。このため、毎日の生活の中で、児童が炊飯という調理操作の仕組みについて疑問に感じることは少ないと考えられる。

みそ汁については、自分で作ったことがあると答えた児童は少ない。また、ご飯を毎日食べているという児童は多いが、みそ汁を毎日食べていると答えた児童は少ない。自分の家庭で実としてよく使われる材料については、たくさん挙げることができ、作り方よりも実の組み合わせをどのようにするかということに関心が高い児童が多い。

（2）　題材観

本題材では、日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心をもち、おいしい調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりすることをねらいとしている。

米は日本人の主食として欠かせないものであり、日本国内で自給できる数少ない食品のひとつである。その銘柄は国産のものだけで２００種以上あり、最近では、外国産の米や古代米と呼ばれる赤米や黒米、また、玄米や胚芽米、発芽米、無洗米など精白の状態も様々なものが広く販売されている。ここでは、米の種類の多さや精白の状態によって栄養価が違うことなどに触れ、自分が家庭で食べているご飯はどのような米なのか関心をもつことができるようにする。また、鍋で炊飯する実習を通して、炊飯器で炊くときには見られない炊飯の様子を見ることができる場を設定する。適度な水加減や火加減の調節について体験的に学習し、おいしい米の炊き方がわかるようにしたい。

一方で、大豆を原料とするみそは、その原料の多くを輸入に頼るようになった今日でも、日本の代表的な食品として親しまれている。おいしいみそ汁には風味、うま味のあるおいしいだし汁

をとる必要がある。だしの取り方による味の違いに気付き、自分や家族の好み、または実に使用する材料に合っただし汁でおいしいみそ汁を作ることができるようにしたい。また、実の取り合わせによっては、はじめから入れて煮る場合と途中から入れる場合などがある。そのようにするわけを考え、自分の選んだ実の場合はどのようにするのかを判断できるようにしたい。

(3)　指導観

展開にあたっては、米の炊き方、みそ汁の作り方のどちらにおいても、まずは米やみその実物を見たり、触ったり、味わったりしながら、感覚を働かせたい。その後、条件の違うものを食べ比べることで、おいしい炊き方、作り方について知りたいという意欲を高めることができるようにする。炊飯の際の水加減の違いやみそ汁のだし汁の違いについて学習を進めた上で、自分の好みにあったご飯とみそ汁を作ることを課題としていきたい。

実習にあたっては、４～５人のグループで行い、米の炊飯とみそ汁作りのときには、グループの中で２つの条件を設定して、食べ比べてみることができるようにする。

本時は鍋でのご飯の炊き方について学習する。炊飯に使う調理器具を確かめたり、実際に米を計量したりしながら、鍋でご飯を炊く手順を知り、注意する点についてまとめていく。炊飯の流れを理解した上で、班で話し合って役割分担をし、次時の実習への関心を高めたい。

## 3　題材の目標

〈家庭生活についての知識及び技能〉

〇伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。

〈家庭生活についての思考力、判断力、表現力等〉

〇おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。

〇おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。

〇おいしく食べるために調理計画や調理の仕方について、考えたことを分かりやすく表現している。

〈学びに向かう力、人間性等〉

〇調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。

〇調理の基礎について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

〇調理の基礎について、学んだことを生活に活かすために工夫し、実践しようとしている。

## 4　題材の指導計画・評価計画（１０時間扱い）

〇　おいしいご飯の秘密を知ろう　　・・・・・・４時間　（本時　２／１０時）

〇　おいしいみそ汁の秘密を知ろう　　・・・・・・３時間

〇　日本の味ご飯とみそ汁を作ろう　　・・・・・・３時間

## 5　本時の学習指導（本時　２／１０時）

(1)目　標

〈家庭生活についての知識及び技能〉

〇伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。

(2)展　開

| 時間 | 学　習　活　動 | 教師の働きかけ（〇）と評価規準(◇) | 資料等 |
|---|---|---|---|
| 3 | 1　本時のめあてを確認する。 | おいしいご飯の炊き方を知ろう | |
| 30 | 2　炊飯の様子を見ながら、炊飯の手順や注意する点について知る。<br>・米の計り方<br>・米の洗い方<br>・吸水時間について<br>・炊飯時の水加減について<br>・炊飯時の火加減の調節について<br>・蒸らし時間について | 〇米の計量については、炊飯器の付属品のカップで1カップ（180ml）と計量カップでの1カップ（200ml）は異なることをおさえる。<br>〇すりきり１杯の計り方を確認しながら、計量するよう助言する。<br>〇米の洗い方では、吸水量と時間の関係を表すグラフを掲示し、米は洗米中も吸水していることに気付くようにし、手早く洗うことを確認する。<br>〇水加減については、炊飯器の目盛りで入れるとどれだけ入っているのかを確認し、重量と体積の両方での求め方をおさえる。<br>〇火加減については、火力を調節するタイミングを蒸気の噴き出し方やその時の音などと関連させて、理解できるようにする。<br>◇伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。〈知識・技能〉（発言・学習ノート）<br>→一人で米を計量したり、水加減や火加減を調節したりすることに不安を感じている児童には、あいまいな点を確認し、助言する。<br>→炊飯の手順について理解できている児童には、吸水時間や水加減と炊き上がったご飯の様子を整理してまとめるよう促す。 | ・学習ノート<br>・計量カップ（180ml・200ml）<br>・１合升<br>・米<br>・ボール<br>・ざる<br>・デジタルばかり<br>・炊飯器の釜 |
| 10 | 3　炊飯するときの手順について班ごとに確認し、炊飯の計画を立てる。 | 〇自分の家庭で食べているご飯について、意見を交換しながら、自分たちの好みに合った炊き方にするには、どんなところを工夫したらよいかを考える。<br>〇好みに合わせるために吸水時間、水加減、蒸らし時間などの条件を変えて試してみてもよいことを伝える。 | ・学習ノート |
| 2 | 4　本時の学習のまとめをし、次回の学習の見通しをもつ。 | 〇次回の準備や持ち物について、予告する。 | |

**6　備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第６学年〇組　体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　単元名　　「ハードル走」（陸上運動）

## ２　運動の特性

（1）　一般的特性

〇一定の距離に置いたハードルをリズミカルに走り越して、自分の力に合った記録に挑戦したり、仲間と競走したりする運動である。

（2）　児童からみた特性

| ハードル走の楽しさや喜びを感じる要因 | ハードル走を遠ざける要因 |
|---|---|
| ・ハードル走をリズミカルに走り越すことができたとき<br>・競走に勝ったり、記録が伸びたりしたとき | ・ハードルにぶつかったり、転倒したりしたとき |

## ３　児童の実態

（1）　知識及び技能

第５学年のハードル走で、「第１ハードルを決めた足で踏み切って走り越えること」と「インターバルを３歩のリズムで走ること」を学習してきており、多くの児童が身に付けている。

（2）　思考力，判断力，表現力等

第５学年時には、よい動きと自分の動きを比較することで、自分に合った課題を把握することができていた。しかし、学習カードの記述を見てみると、「うまくいかなかったから、１台目が課題。次は、１台目に気を付ける。」などといったように振り返りによる課題の根拠と改善点の記述が明確ではない児童が多かった。

（3）　学びに向かう力，人間性等

本学級の児童は、運動への関心が高く、体育の授業に対して意欲的に取り組んでいる。第５学年時には、積極的にハードルを走り越える姿が多く見られた。

## ４　教師の指導観

（1）　知識及び技能

６学年間を見通した系統性のある指導計画を立てることで、目指す動きの重点化をした。第６学年では「ハードル上で上体を前傾させること」を目指す動きとし、第５学年よりも高いハードルを使用する。少し高さのあるハードルでもリズミカルに速く走り越えるために、「ハードル上で上体を前傾させること」に必要感をもつことができるようにする。

（2）　思考力，判断力，表現力等

昨年記録しておいた第５学年時の低いハードルを走り越える自分の動きと現在の高いハードルを走り越える自分の動きや友達のよい動きと自分の動きを比較する場面を設定する。動きを比較することで、共通点や相違点を見付けることができる。相違点は自分に合った課題の根拠となり、その課題を解決するために、動きを改善したり、必要な練習を選んだりすることにつながると考える。

（3）　学びに向かう力，人間性等

ハードルにぶつかると板が左右に分かれるハードルを使用することで、ハードルに対する恐怖心を取り除き、進んでハードル走に取り組めるようにする。単元後半には、チーム対抗４０ｍハードル走を設定することで、優勝を目指して仲間と協力して取り組めるようにする。

## ５　単元の目標

（1）　ハードル走の行い方を知り、ハードルをリズミカルに走り越えることができるようにする。
【知識及び技能】

（2）　自分の力に合った課題の解決を目指して、練習や競走の仕方、記録への挑戦の仕方を工夫することができるようにする。　【思考力、判断力、表現力等】

（3）　ハードル走に進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしたり、学習の場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。　【学びに向かう力、人間性等】

## 6　単元及び学習活動に即した評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 単元の評価規準 | ○ハードル走の行い方を知り、競走したり、記録を高めたりするための基本的な技能を身に付けている。 | ○自分の力に合った課題の解決を目指して、練習や競走の仕方、記録への挑戦の仕方を工夫している。 | ○ハードル走の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようとしたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりしている。 |
| 学習活動に即した評価規準 | ①ハードル走の行い方を知っている。<br>②３歩のリズムでハードルをリズミカルに走り越えることができる。<br>③ハードル上で、上体を前傾させることができる。 | ①よい動きの技術ポイントを基に、自分に合った課題を見付けている。<br>②自分の課題にあった練習の場や方法を選んでいる。 | ①競走したり、目標記録に挑戦したりする楽しさや喜びに触れることができるよう、ハードル走に進んで取り組もうとしている。<br>②約束を守り、友達と助け合って練習や競走をしようとしている。<br>③用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たそうとしている。<br>④運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配っている。 |

## 7　単元の計画

(1)　領域（陸上運動系）の取り上げ方

| 学年 | 短距離走・リレー系 | ハードル走系 | 走り幅跳び系 | 走り高跳び系 |
|---|---|---|---|---|
| 第１学年 | 置き換えリレー遊び<br>６時間 | 置き換え障害物リレー遊び<br>５時間 | 幅跳び遊び<br>３時間 | |
| 第２学年 | 折り返しリレー遊び<br>６時間 | 折り返し障害物リレー遊び<br>６時間 | | 高跳び遊び<br>３時間 |
| 第３学年 | 小トラックリレー<br>５時間 | 小型ハードル走<br>６時間 | 幅跳び<br>５時間 | |
| 第４学年 | トラックリレー<br>５時間 | 小型ハードル走<br>６時間 | | 高跳び<br>５時間 |
| 第５学年 | 短距離走・トラックリレー<br>５時間 | ハードル走<br>６時間 | 走り幅跳び<br>６時間 | |
| 第６学年 | 短距離走・トラックリレー<br>５時間 | ハードル走<br>６時間 | | 走り高跳び<br>６時間 |

(2)　運動種目（ハードル系）の取り上げ方

| 学年 | 教材 | 高さ | ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ | 目指す動き |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 置き換え障害物リレー遊び<br>(障害物は、ｹﾝｽﾃｯﾌﾟ、ﾀｲﾔ、ｶﾗｰｺｰﾝ) | | | 直線、蛇行、回旋などいろいろな方向に走ったり、片足や両足で連続して跳んだりすること |
| 2 | 折り返し障害物リレー遊び<br>（障害物は、平面的なシート） | ０cm | 非一定 | 片足で前方に踏み切って、逆足で着地して走ること |
| 3 | ８秒間ハンディキャップ走（４０m）<br>折り返し小型ハードルリレー | 30cm<br>程度 | 非一定 | 非一定間隔に小型ハードルを置いて、いろいろなリズムで調子よく走り越えること |
| 4 | ８秒間ハードル走（４０m）<br>小トラック小型ハードルリレー | 30cm<br>程度 | 一定 | 一定間隔に小型ハードルを置いて、一定のリズムで調子よく走り越えること |
| 5 | チーム対抗４０m/ハードル走<br>（低いハードル） | 40cm<br>程度 | 一定 | 第１ハードルを決めた足で走り越え、自分に合ったインターバルを３歩のリズムで走ること |
| 6 | チーム対抗４０m/ハードル走<br>（第５学年よりも高いハードル） | 60cm<br>程度 | 一定 | 自分に合ったインターバルで、少し高さのあるハードルを上体を前傾させて走り越えること |

(3)　指導と評価の計画（６時間扱い）　本時は〇印　４／６時

| 時 | 1 | 2 | 3 | ④ | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ねらい | 〇学習の見通しをもち、安全に気を付けて協力して運動しよう。 | 〇高いハードルに進んで挑戦しよう。 | 〇頭の高さを変えずにリズミカルにハードルを走り越えよう。 | 〇記録を伸ばすために、自分に合った課題を見付けよう。 | 〇友達と協力して、課題に合った練習をしよう。 | 〇３歩のリズムでリズミカルに最終ハードルまで走り越えよう。 |
| 指導の内容 | ・学習の進め方<br>・チーム編成<br>・運動の行い方<br>・タブレット型端末の使い方 | ・ハードルの高さの違いによる跳び方の違い<br>・足の振り上げ方 | ・高ハードルでもスピードを落とさないための前傾姿勢 | ・１台目まで、インターバル、前傾姿勢の中から自分に合った課題把握 | ・課題解決のための練習の場や方法の選択、活動決定 | ・スタートからゴールまでリズミカルに走るための三つの技術ポイントの確認 |
| 学習過程 | 1　集合、整列、挨拶をする。<br>2　準備運動をする。 | | | | | |
| | 《オリエンテーション》<br>3　単元の学習内容と本時のねらいを確認する。<br>4　学習の仕方や進め方に見通しをもつ。<br>・学習過程<br>・１時間の流れ<br>・用具の確認<br>・学習の場づくり<br>・学習カード<br>※掲示物を用いて、わかりやすく効率的に説明する。<br>5　チーム編成をする。<br>・1チーム5名<br>6　試しの運動をする。<br>・感覚つくりの運動<br>・４０ｍフラット走<br>・４０ｍフラット走のタイムから個人の目標タイムを算出<br>・４０ｍハードル走<br>※どの用具をどこに置くのかを示した学習の場づくりの掲示物を用いて、短時間で安全に準備をできるようにする。<br>※試しの運動をしながら具体的に説明をする。<br>※タブレット型端末を活用して、動画を記録するとともに、操作方法を身に付けるようにする。 | 3　感覚つくりの運動をする。4種類の運動をローテーションして行う。<br>(1)１台目ハードル競走<br>※１０ｍ先の１台目を走り越え、振り上げ足が地面につくのはどちらが早いかをペアで競走する。自分に合った歩数で走り、決めた足で１台目を踏み切れるようにする。<br>(2)１歩ハードル走<br>※約２ｍのインターバルでハードルを８台置く。「トン・１」のリズムでハードルを跳ぶことで、力強い踏み切りを身に付けられるようにする。<br>(3)ミニハードル走<br>※ラダー上、４マス毎にミニハードルを置く。「トン・１・２・３」のリズムで走れるようにする。<br>(4)ハードルウォーク<br>※約１ｍのインターバルでハードルを８台置く。歩きながらハードルをまたぐことで、振り上げ足をよっすぐ、踏み切り足の膝を外に開くように上げることができるようにする。<br>4　本時のねらいを確認する。<br>5　共通課題学習をする。<br>・振り上げ足をしっかり上げること<br>・ハードル上で上体を前傾し、リズミカルに走り越えること<br>・動きを比較して、自分に合った課題を見付けること<br>・動きの技術ポイントを知識として獲得<br>・自分の課題を確認、グループ員と共有<br>※当たっても痛くないハードルを用いて恐怖心を除去できるようにする。<br>※技能上位の児童によるモデリングや動きの連続写真を活用することで、よい動きを全体で共有できるようにする。<br>※タブレット型端末の動画スローモーション再生機能を活用して、モデルのよい動きと自分の動きを比較できるようにする。<br>6　４０ｍハードル走をする。<br>※目標タイムとの差を得点化する。高得点を取るために、意欲的に取り組むことができるようにする。<br>※色分けしたインターバル表示とグラウンドに打ったスズランテープを活用することで、個に応じたインターバル（５．５ｍから７．０ｍまで、０５ｍ毎）に短時間で設定できるようにする。 | | 5　チーム毎に課題別練習をする。<br>・チーム毎に各個人の課題別練習<br>・互いのよい動きや各自の課題の確認と練習方法の選択<br>・観察、計測、記録などの役割分担とローテーション<br>※感覚つくりの運動の学習の場づくりを基にして、練習方法を選択できるようにする。<br>※ゴムやケンステップなどの教具を練習に活用できるようにすることで、選択した練習方法に工夫を加えられるようにする。<br>※毎回同じ集合場所や準備の仕方、学習の流れで進めていくことでマネジメント時間を短縮し、練習時間を確保する。<br>6　チーム対抗４０ｍハードル走をする。<br>※個人の得点をチームで合計し、平均値によって順位を決定することで、チーム間の競争が生まれるようにする。また、集団化することで、記録を伸ばそうという意欲を高めるようにする。 | |
| | 7　本時の振り返りをする。<br>・学習カードへの記入<br>・ねらいに沿った振り返り<br>8　整理運動、挨拶をする。<br>9　後片付けをする。 | | | | | 7　本時と単元の振り返りをする。<br>・学習カードへの記入<br>・ねらいに沿った振り返り<br>・単元を通しての感想発表 |

| ４０m走タイムとの差 | 得点 |
|---|---|
| 0.4 秒以下 | １０点 |
| 0.5～0.6 秒 | ９点 |
| 0.7～0.8 秒 | ８点 |
| 0.9～1.0 秒 | ７点 |
| 1.1～1.2 秒<br>0.3 秒×4台＝1.2 秒 | ６点 |
| 1.3～1.5 秒 | ５点 |
| 1.6～1.8 秒 | ４点 |
| 1.9～2.2 秒 | ３点 |
| 2.3～2.6 秒 | ２点 |
| 2.7 秒以上 | １点 |

| 評価計画 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 知・技 | | ① | ② | | | ③ |
| | 思・判・表 | | | | ① | ② | |
| | 態 | ③④ | ① | | | ② | |
| | 方法 | 観察 | 観察 | 観察 | 観察、学習カード | 観察、学習カード | 観察、ビデオ |
| | 場面 | 6 | 5、6 | 6 | 5 | 5 | 6 |

## 8　本時の学習と指導（４／６時）

(1)　ねらい

〇よい動きの技術ポイントを基に、自分に合った課題を見付けることができる。

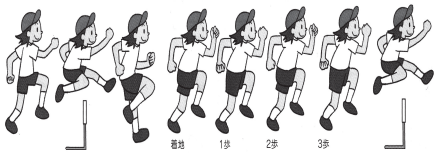
【思考・判断・表現】

(2)　準　備

・ハードル　・ストップウォッチ　・学習カード　・掲示資料　・インターバル表示

・タブレット型端末

(3)　展　開

| 段階 | 学習内容・活動 | 指導上の留意点（〇指導　◆評価規準） |
|---|---|---|
| 導入12分 | 1　集合、整列、挨拶をする。<br>2　準備運動をする。<br>3　感覚つくりの運動をする。<br>(1) 1台目ハードル競走　(2) 1歩ハードル走<br>(3) ミニハードル走　(4) ハードルウォーク | 〇身なりを整え、気持ちよく学習を始めるようにする。<br>〇一つ一つの動きを正しく行えるようにする。<br>〇ハードル走に関する基本的な技術を身に付けるために、毎時間取り入れていく。４種類の場をローテーションして取り組めるようにする。 |
| 展開28分 | 4　本時のねらいを確認する。<br>記録を伸ばすために、自分に合った課題を見付けよう | |
| | 5　共通課題学習をする。<br>・動きを比較して、自分に合った課題を見付けること<br>・自分の課題を確認し、グループ員と共有すること<br><焦点化した技術ポイント><br>①スタートから1台目<br>  <br><br>  <br><br>②インターバル<br>③前傾姿勢（頭の高さ） | 〇これまで学習してきた技術ポイントを基にして、よい動きと自分の動きを比較することで、自分に合った課題を見付けることを共通課題とする。<br>〇技術ポイントを焦点化して、どこに着目して動きを比較すればよいのかわかるようにすることで、自分に合った課題を把握できるようにする。<br>〇タブレット型端末の動画再生機能を活用し、自分の動きを可視化して動きの比較をすることで、効果的な振り返りができるようにする。<br>◆よい動きの技術ポイントを基に、自分に合った課題を見付けている。　（観察・学習カード）【思】<br>△努力を要する状況（C）の児童への手立て<br>・掲示資料を見たり、これまでの学習を想起したり、友達に動きを見てもらったり、タブレット型端末の動画を見たりするよう声かけをする。<br>◎十分満足できると判断できる状況（A）の児童の具体的な姿<br>・焦点化した技術ポイントを振り返りの視点として、確な根拠をもって自分に合った課題を見付けている姿である。 |
| | 6　４０ｍハードル走をする。<br><４０ｍハードル走の行い方><br>・４０ｍフラット走のタイムから個人の目標タイムを算出する。<br>４０ｍフラット走のタイム　＋　1．2秒　＝　目標タイム<br>（0．3秒Ｘ４台）<br>・目標タイムに対する得点表から、フラット走との差を得点化する。<br>本日のタイム－４０ｍフラット走のタイム＝フラット走との差<br>・自分に合ったインターバルで記録に挑戦する。 | 〇１台目の歩数が合わない、３歩のリズムで４台目まで走り切れない、途中でリズムが変わってしまう、上体が前傾していないなど、動きの技術ポイントを振り返りの視点とし、明確な根拠をもって自分に合った課題を見付けている児童を称賛する。<br>〇タイムを計測して毎時間記録することで、自分や友達の技能の高まりに気付けるようにする。その際、高まった要因はどこにあるのかを考えられるように声かけをする。 |
| 整理5分 | 7　本時の振り返りをする。<br>8　整理運動、挨拶をする。 | 〇本時のねらいに沿って学習を振り返り、ねらいを達成した個人や互いに高め合っていたグループを紹介し、全体に広めるようにする。<br>〇ゆったりとした動作で全体をほぐすようにする。<br>〇次時の予告をし、挑戦的意欲を高めるようにする。 |

## 9　備　考　　在籍児童数　　３５名　　男女混合異質８チーム（１チーム４～５名）編成

# 第２学年〇組　道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

１　**主題名**　助け合う友だち〔内容項目Ｂ－(9)〔友情・信頼〕〕

２　**資料名**　ともだち先生　（出典：学研）

３　**主題について**

(1)　ねらいとする価値について

この主題は、友達を大切にするとともに、互いに仲良く助け合い、励まし合っていこうとする心情を育てることをねらいとしている。人は、自分以外の多くの人々と関わりながら生活している。そして、相手の気持ちを考えて行動したり、互いによさを認め、助け支え合ったりしていくことで、よりよい人間関係を築き、気持ちよく生活していくことができる。

本資料を通して、相手の気持ちを考えた行動は、よりよい人間関係を築くことができ、生活を楽しく豊かにしていけることに気付かせ、互いに助け合おうとする心情を育てていきたい。

(2)　ねらいに関わる児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で、声を掛け合って一緒に遊んだり活動したりすることが多く見られる。しかし、数人のグループになって競う遊びなどでは、自分の得意な種目にしようとしたり、結果が思うようにいかないと、普段は特に仲がよい友達に対しても、何となく非難したり投げやりになってしまったりする場面が見られることがある。

そこで、本資料を通して、互いによさを認めたり、励まし合ったりすることは気持ちよく生活していくために大切であるということに改めて気付かせ、友達を大切にする心情を育てたい。

(3)　資料について

本資料の「ともだち先生」では、「けんじ」と「まさお」の仲のよい二人が支え合い、励まし合いながら日々を送っている様子が描かれている。けんじもまさおも、得意なことと苦手なことがある。鉄棒の得意なまさおは、苦手なけんじに対して、自慢したり傷つけたりすることなく、親身になってやさしく教えてあげることができる間柄である。逆に水泳の苦手なけんじが、得意なまさおから教わり、検定を受け、見事合格できたという内容である。話し合いの視点として、「鉄棒が苦手なけんじと得意なまさお」、「水泳の検定でまさおに応援されているけんじ」、「手を振っているまさおを見たけんじ」の三つの場面を取り上げ、話し合いを通して、苦手なことも友達の励ましによって克服しようとする意欲が湧くことや、相手の気持ちを考えてやさしく教え励ますこ

との大切さを捉えることができるようにする。そして、その積み重ねでよりよい友情や人間関係を育んでいることに共感できるようにしたい。

## 4　指導計画

１時間（本時）

## 5　本時の学習指導

(1)　ねらい

互いに仲良く助け合い、励まし合っていくことのよさに気付き、友達を大切にしようとする心情を育てる。

(2)　展　開

| 学　習　活　動 | 主な発問と予想される児童の反応 | 教 師 の 支 援 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　友達との関わり（ありがたみ）について、経験を振り返る。 | ○　友達がいてよかったなと思ったのはどんな時ですか。<br>・困ったときに助けてくれたとき。<br>・一緒に遊んで楽しかったとき。<br>・やさしくしてもらったとき。 | ○身近な生活場面から考えられるようにし、友達の存在のよさを想起することができるようにする。 | 3´ |
| 2　資料「ともだち先生」を読み、話し合う。<br>場面①<br>鉄棒が苦手なけんじと得意なまさお。算数が苦手なまさおと得意なけんじ | ○　鉄棒を教えてもらっているけんじは、どんな気持ちで練習しているのでしょう。<br>・頑張って練習して、できるようになりたいな。<br>・本当はいやだけど、まさおくんが教えてくれているからがんばるぞ。<br>・まさおくんみたいに、うまくなりたいな。<br>○　まさおはどんな気持ちで算数の宿題をしているでしょう。<br>・苦手だな、早く終わらないかな。<br>・難しくてよくわからない。<br>・けんじくんが教えてくれているから、がんばろう。<br>・やり方がわかってきた。うれしいな。 | ○けんじもまさおも苦手なことがあるが、互いに励ましあうことによって、前向きに取り組めていることに共感できるようにする。<br>○どちらも対等であり、決して優位にたとうとするのではなく、相手のために教え励ましている心情を感じ取れるようにする。 | 25´ |
| | ○　水泳検定を受けているけんじはどんな気 | ○検定を受けている | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 場面②<br>水泳の検定でまさおに応援されているけんじ | 持ちで泳いでいたでしょう。<br>・合格できるかな。<br>・まさおくんに教えてもらったんだからがんばるぞ。<br>・あ、まさおくんの声が聞こえる。応援してくれているんだな。<br>○ まさおは、どんな気持ちで見ていたのでしょう。<br>・がんばって！合格してね。<br>・もう少しだからがんばれ！ | けんじが、自分の力だけでなくまさおの励ましによってさらに力を発揮できたことに共感できるようにする<br>○けんじを応援しているまさおの心情を感じ取れるようにする。 | |
| 場面③<br>手を振っているまさおを見たけんじ | ○ ゴールしたけんじは、どんな気持ちだったでしょう。<br>・やったあ、合格したぞ。<br>・まさおくん、ありがとう。<br>・がんばってよかったな。<br>○ まさおは、ゴールしたけんじに何と言ってあげたでしょう。<br>・よかったね、おめでとう。<br>・がんばってえらかったね。 | ○けんじの合格について、けんじとまさおの両方の立場で考え、互いに友達のことを自分のことのように大切に考えている心情を感じ取れるようにする。 | |
| 3　これからの友達との接し方について考える。 | ○ これから、どんな気持ちで友達と過ごしていきたいですか。<br>・友達となかよくしたい。<br>・友達が困っているときは、助けたり教えてあげたりしたい。<br>・相手の気持ちを考えて、やさしくしてあげたい。<br>・友達と助け合っていきたい。 | ○けんじとまさおの友情の様子から自分と友達の過ごし方を振りかえると共にこれからの友達との関わり方について考えをまとめるようにする。 | 14´ |
| 4　教師の説話を聞き、まとめをする | ○ 友達と互いに助け合いながら、なかよくできることのよさを互いに確かめ合う。 | ○友情・助け合いのよさや価値について考えることができるようにする。 | 3´ |

**6　備　考**　　在籍児童数　３５名

**7　板書計画**　（略）

# 第５学年〇組　道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

１　**主題名**　　相手の身になって〔内容項目Ｂ－(7)〔親切・思いやり〕〕

２　**資料名**　　「くずれ落ちただんボールばこ」（出典：学研）

３　**主題について**

(1)　ねらいとする価値について

この主題は、だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って温かく接し親切にする心情を育てることをねらいとしている。人と人とが互いに思いやりの心をもち、相手の身になって考え、誰に対しても温かく関われるようになることは、よりよい人間関係をつくるために極めて大切なことである。

人間は、自己中心的な考えから、困っている人を目の前にしながらも、手を差し延べることができずにいる場合が少なくない。しかし、相手の立場や気持ちを真剣になって考えたときに、自ずと思いやりの心をもって、相手に温かく接することができる人間でありたいという願いは、だれももっている。

ここでは、中心価値の実現を支える「公正・公平、正義」や「助け合い」という価値と関連させながら、たとえ人に認められなくても、相手の立場を考え、温かく接することの大切さに重点を置いた指導をしたい。

(2)　ねらいに関わる児童の実態

本学級の児童は、明るく自分なりの考えを主張する子が多い。バスケットボール大会に向けての練習では、自分の考えを主張したり、相手の考えを聞き入れたりして互いに助け合おうとする意識は、芽生えつつある。しかし、特定の友達に対してのみ手を差し延べて助けたり、親切にしたりする児童も見られ、相手の身になって、誰とでも助け合ったり、誰にでも親切にしたりできる児童は、あまり多くない。

(3)　資料について

本資料の「くずれ落ちただんボールばこ」は、主人公と友達の友子さんが町に買物に出かけ、男の子が、積んであったダンボール箱を崩しておばあさんが片付けている場面に出会った。周りの人は、だれも手伝おうとしなかったが、２人は、片付けを手伝った。そのうち、男の子が見えなくなり、おばあさんが後を追いかけた。店の人がきて、訳も聞かれずに叱られた。片付けがすっ

かり終わると店の人はいなくなり、おばあさんが、男の子を連れて戻ってきた。丁寧にお礼の言葉を繰り返し言われた。２週間後、始業式に校長先生から店長のお詫びの手紙を読み聞かせられ、行為を誉められたという内容である。話し合いの視点として､｢店の人に訳も聞かずに叱られる場面｣｢おばあさんにお礼を言われる場面｣｢朝会が終わる場面｣の３つの場面を取り上げ、話し合いを通して、身近にいる困っている人への思いやりの心をもち、相手の立場に立ってあたたかく接しようとする心を育てていきたいと考える。

本時の学習では､｢気付く｣段階において、事前の共通の体験や一人一人の体験に関連した課題を思い浮べるようにし、課題意識をもちながら学習に取り組んでいけるように支援していきたい。また､｢今までの自分を見つめる｣段階においては、児童会活動や学級の係活動についてまとめたひとりひとりの感想文を配り、自己を見つめる機会としたい。

## 4　指導計画

１時間（本時）

## 5　本時の学習指導

(1)　ねらい

困っている人への思いやりの心をもち、相手の立場に立ってあたたかく接しようとする心情を育てる。

(2)　展開

| 学　習　活　動 | 主な発問と予想される児童の反応 | 教　師　の　支　援 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　アンケートの結果について話し合う。 | ○　アンケートの結果を見て、自分の生活を少し振り返ってみよう。 | ○ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 | 5´ |
| 2　資料「くずれ落ちただんボールばこ」を読んで話し合う。<br>場面１<br>店員さんに叱られる場面 | ○　店員さんに叱られたとき、私は、どんな気持ちだったか。<br>・なんで叱られるの。<br>・私は、悪くないのよ。<br>・訳をちゃんと聞いてよ。<br>・叱られて、むしゃくしゃするな。<br>・何で私が叱られるの。いやになっちゃうな。<br>・店員さんを手伝わなければよ | ○資料の内容を捉えやすいように、登場人物や条件を板書する。<br>○訳も聞かれずに店員に叱られた主人公のやるせない気持ちに共感できるようにする。<br>○周りの人に見られ、顔がほってった主人公の様子から、主人公の心 | 25´ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | かったな。 | の内を捉えられるようにする。 | |
| 場面２<br>おばあさんにお礼を言われる場面 | ○　おばあさんにお礼を言われているとき、私はどんなことを考えたか。<br>・やっぱり、手伝ってよかったな。<br>・店員さんもこの場にいてくれたらいいのにな。<br>・おばあさんにお礼を言われてちょっと恥ずかしいけれど、うれしいな。 | ○役割演技をした後に主人公の気持ちを発表できるようにする。<br>○おばあさんと主人公の役割演技をすることにより、お礼を言われたときの主人公の気持ちをとらえられるようにする。 | |
| 場面３<br>朝会が終わる場面 | ○　朝会で校長先生の話を聞き終えた私は、どんな気持ちになったか。<br>・分かってくれてうれしい。<br>・また困っている人がいたら助けてあげよう。 | ○リズムに乗って軽やかな足どりになった様子をとらえ、主人公のはれやかな気持ちに共感できるようにする。 | |
| ３　今までの自分を振り返る。 | ○　今までの自分の生活を振り返って、その時の自分の気持ちを考え、行動を深く見つめよう。<br>・喧嘩したとき、自分のことだけ考えていたけれど、相手の気持ちをもっと考えよう。 | ○ねらいとする道徳的価値に照らして、個に応じた資料を提示することにより、自己をじっくり見つめられるようにする。 | 10´ |
| ４　実践への心構えをつくる。 | ○　目を閉じて、今日の学習を静かに振り返ってみよう。<br>・相手の身になって話したり、助けたりすることが、大切なんだな。 | ○相手の身になって親切にすることの大切さについて語り聞かせることにより、実践化への方向付けをする。 | 5´ |

**６　備　考**　　在籍児童数　３５名

**７　板書計画**　（略）

# 第６学年〇組　外国語学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生
ＡＬＴ　〇〇〇　〇〇〇　先生

## １　単元名　「オリジナルの劇をつくろう」（４時間扱い）

## ２　単元について

本学級の児童は、外国語活動に対する興味・関心の高い児童が多い。児童はこれまでに、英語でのあいさつやＡＬＴとの関わり、チャンツ、歌、ゲームを通して、英語に親しんできた。１学期に行った「アルファベットで遊ぼう」「いろいろな文字があることを知ろう」では、歌やアルファベット・カルタの活動を通して、アルファベットには大文字と小文字があることを知り、身の回りにある英語で書かれている看板や店名、ブランド名に目を向けることができた。「友だちの誕生日を知ろう」では、進んで友だちとコミュニケーションをとり、外国語の活動を楽しんでいる児童の姿を見ることができた。また、「Hi, friends」に、ＡＬＴから学んだ外国の文化や言語の意味などについて、進んで書いている児童も見られた。しかし、英語を用いた発表や歌に苦手意識をもっている児童も少なくない。その理由として、英語を話したり聞いたりする力に自信がないことが多いようである。

本教材「オリジナルの劇をつくろう」は、創作劇を通して、まとまった話を理解したり、誰かに指示を出したりすることをねらいとしている。この単元で扱う「大きなかぶ」は児童にもよく知られた物語であり、内容についてはイメージがわきやすい題材である。この物語を基にして、オリジナルの劇をつくることによって、英語を用いたコミュニケーションの楽しさを感じられるようにし、ジェスチャーや表情にも着目できるようにしていきたい。

本単元の具体的な指導として、まず第１時では、様々な物語の一部を英語で聞き、興味をもてるようにする。その後、「大きなかぶ」の物語を聞かせ、登場人物や場面の絵を使いながら、話のあらすじが分かるようにする。

第２時では、「大きなかぶ」で扱う表現に慣れた後、自分たちで登場人物を考える活動を通して、オリジナルの「大きなかぶ」をつくって、表現する楽しさに気付くことができるようにする。

第３時では、グループごとに、英語を用いたオリジナルの「大きなかぶ」の劇をつくる。これまでに学習した表現を使ったり、ALTに教わったりしながら、英語のセリフを考えていく。また、ジェスチャーを使い、うまく伝える表現方法の工夫も考えるようにしていきたい。

そして、本時では、学習した表現を活用して自分たちのオリジナルの「大きなかぶ」の劇を楽しんで表現するとともに、他のグループの発表を見て、英語のセリフやジェスチャーなどから話の内容を理解できるようにする。

## ３　単元の目標

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・物語に出てくる外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解している。<br>・外国語で演じることや単語、文を書くことに慣れ親　しんでいる。 | ・外国語で演じる目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり　話したりしている。<br>・外国語で演じる目的や場 | ・物語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうと |

| | | |
|---|---|---|
| ・物語に出てくる外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによるコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身につけている。 | 面、状況などに応じて、音声で慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を生かして読んだり書いたりしている。 | している。 |

## 4　単元の指導計画

①「大きなかぶ」をはじめとする数種類の物語の一部を、英語で聞くことを通して、英語の物語への興味・関心を高められるようにする。
②「大きなかぶ」で扱う表現に慣れた後、自分たちで登場人物を考える活動を通して、登場人物を変えた「大きなかぶ」をつくって表現できるようにする。
③グループごとに、英語を用いたオリジナルの「大きなかぶ」の劇をつくれるようにする。具体的には、演じる場面と登場人物とセリフとジェスチャーをグループで考えるようにする。
④グループごとに、英語を用いたオリジナルの「大きなかぶ」の劇を楽しんで表現できるようにする。また、他のグループの発表を見て、登場人物や英語のセリフ、ジェスチャーなどから話の内容を考えるようにする。

## 5　扱う表現

○turnip（かぶ）　○grandpa（おじいさん）　○grandma（おばあさん）　○girl（女の子）
○dog（犬）　○cat（猫）　○mouse（ねずみ）　○pull（引く）
○police officer（警察官）　○sumo wrestler（関取）　○doctor（医者）○fire fighter（消防士）
○carpenter（大工）　○magician（魔法使い）　○Please help me.（私を手伝ってください。）
○What's the matter?（どうしたのですか。）　○Look at this.（これを見てください。）
○Who are you?（あなたはだれですか。）I'm ～.（私は～です。）Let me in, too.（私も入れて。）
○OK. Sure.（いいよ。）

## 6　教材・教具

○Hi, friends 2

## 7　本時の展開（４／４時）

(1)　目　標

○　グループでオリジナルの「大きなかぶ」の劇を発表したり、他のグループの発表を聞いたりして、外国語の音声や語彙、表現を活用してコミュニケーションをとることができる。
（知識・技能）

(2)　展　開

| 学　習　活　動 | H　R　T<br>○：指導上の留意点 | A　L　T<br>評：評価 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　あいさつをする。 | ○外国語活動を行う上での学習の雰囲気作りを行うことで、積極的にコミュニケーションができるようにする。<br>○これまでの学習内容を振り返る掲示物を利用し、自分の健　康状態に合わせて、〝I'm fine〟以外の表現もできるよう　にする。 | | 3´ |
| (1)　HRTとあいさつ | HRT:Hello, everyone. | ALT:Hello, everyone. | |
| (2)　ALTとあいさつ | 児童:Hello, Mr.Sutoh. | 児童:Hello, Mr.Plitnik. | |
| (3)　児童同士であいさつ | HRT:How are you? | ALT:How are you? | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 児童:I'm fine, thank you. And you?<br>HRT:I'm fine, too, thank you. | 児童:I'm fine, thank you. And you?<br>ALT:I'm fine, too, thank you. | |
| 2　CDを使い、チャンツをする。 | ○「Yo-heave-ho!」をリズムに合わせて、発音できるようにする | | 5´ |
| 3　前時までに学んだ表現を発音する。 | ○前時までの学習内容を振り返り、発音やジェスチャーに気を付けて、楽しい雰囲気で行えるようにする。 | | 10´ |
| (1)　ALTと児童で行う。 | ○前時までに学んだ表現を確認し、本時での発表会で生かせるようにする。<br>〈既習の表現〉<br>Please help me.（私を手伝ってください。）<br>What's the matter?（どうしたのですか。）<br>Look at this.（これを見てください。）<br>Who are you?（あなたはだれですか。）<br>Let me in, too.（私も入れて。）<br>OK. Sure.（いいよ。） | | |
| (2)　グループごとに発表の内容を確認する。 | HRT:Practice in your groups. If you have any questions, raise your hand. | ALT:Do you need any help? You are doing good. Good job. | |
| 4　グループごとにオリジナルの「大きなかぶ」の劇を発表する。 | ○グループごとに決めたテーマに合わせて、オリジナルの劇を上演することを確認する。<br>○他のグループの発表が終わるたびに、どのような登場人物や動物が出てきたかを、ワークシートの表に書いていくことで、聞き取れた内容について確認する。<br>○各グループの発表を見た感想や、よかったところを意図的な指名を入れながら、発表していく。<br>HRT:Now let's start. First group is Group A.<br>HRT:Please start. Very good. Excellent! You spoke loudly and clearly. Their pictures are very good. Next group is Group B. | ALT:Group A was very good. Their voice was loud and clear. The word "....." is very good. Their pictures are so nice. They did a good job. I enjoyed it. It was easy to understand. Thank you. | 25´ |
| 5　終わりのあいさつをする。 | 評劇を発表したり、他のグループの発表を聞いたりして、外国語の音声や語彙、表現を活用してコミュニケーションをとることができる。（行動観察）<br>○児童の態度や英語を用いたコミュニケーションについて、よかったところを具体的にあげることで、児童の次時への意欲が高まるようにする。<br>HRT:That's all for today. See you next time.<br>児童:See you. | ALT:See you.<br>児童:See you. | 2´ |

**8　備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第５学年〇組　「おおとりの時間」学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　単元名　「みんなが気持ちよくくらすには」（クラス別選択テーマ）

## ２　単元について

（1）　単元設定の理由

児童はこれまでに、第４学年のおおとりで「ごみの事実をさぐる」、社会科で「住みよいくらしをささえる」を学習してきており、特にごみ問題に対する関心は高い。しかし、自分たちの身の回りには、もっと多くの環境問題があることに気付いている児童は少ない。また、気付いたとしても、それを自分たちの問題としてとらえる段階までは至っていない。そこで、本単元では、みんなが気持ちよくくらすためにはどうしたらよいかということを考えながら、身近な環境問題を自分たちの問題としてより広い視野でとらえていくようにする。そして、現状はどうなのか、本当に解決しなければいけないことなのかを考え、その解決のために自分たちにできることを実践していくことで、自らの生き方を見つめ直していけるように本単元を設定した。

（2）　展開にあたって

児童の多くは環境問題というと、本やメディア等の情報から解決しなくてはならないものと感じてはいる。しかし、児童はそれらを身近な問題としてとらえたり、自分の生活と結びつけたりはしていない。また、その現状について調べたり、要因を考えたりする機会もほとんどない。

そこで、「つかむ」過程では、地域を繰り返し探索し、身近な環境問題について目を向けられるようにしていく。そして、その現状を調べたり、要因を考えたり、話し合ったりすることで、身近な環境問題について理解し、必要感や切実感をもって課題をとらえ、解決していきたい。

次に、「もとめる」過程では、自分たちが課題とした身近な環境問題について、そこにかかわる人から話を聞いたり、体験活動を行ったりすることで、さらに探究できるようにしていく。また、それらの過程で得たことを報告し合うことで、学びを共有していきたい。報告し合う中では、なぜそのような状態になったか、なぜそのような活動を行ったのかなどの根拠を、調査の結果や体験の中から明らかにしていく。そして、様々な人の意識や行動、自らの生き方を振り返り、どのような生き方が大切かを考えるきっかけとなるようにしていく。

最後に「ひろげる」過程では、これまでの学習を通して、課題解決に向けて自分にできることを考え、取り組めるようにしていく。そして、これらの学習を通して、今の自分に何ができるのか、何をしていくべきなのか考えることで自己を磨けるようにしたい。

## ３　単元の目標・評価規準

◎必要感や切実感をもって調査・体験活動を行ったり、互いの考えを交流させたりすることで、身近な環境問題についての意識を高め、どのような生き方が大切なのかということを考え、実践しようとしている。

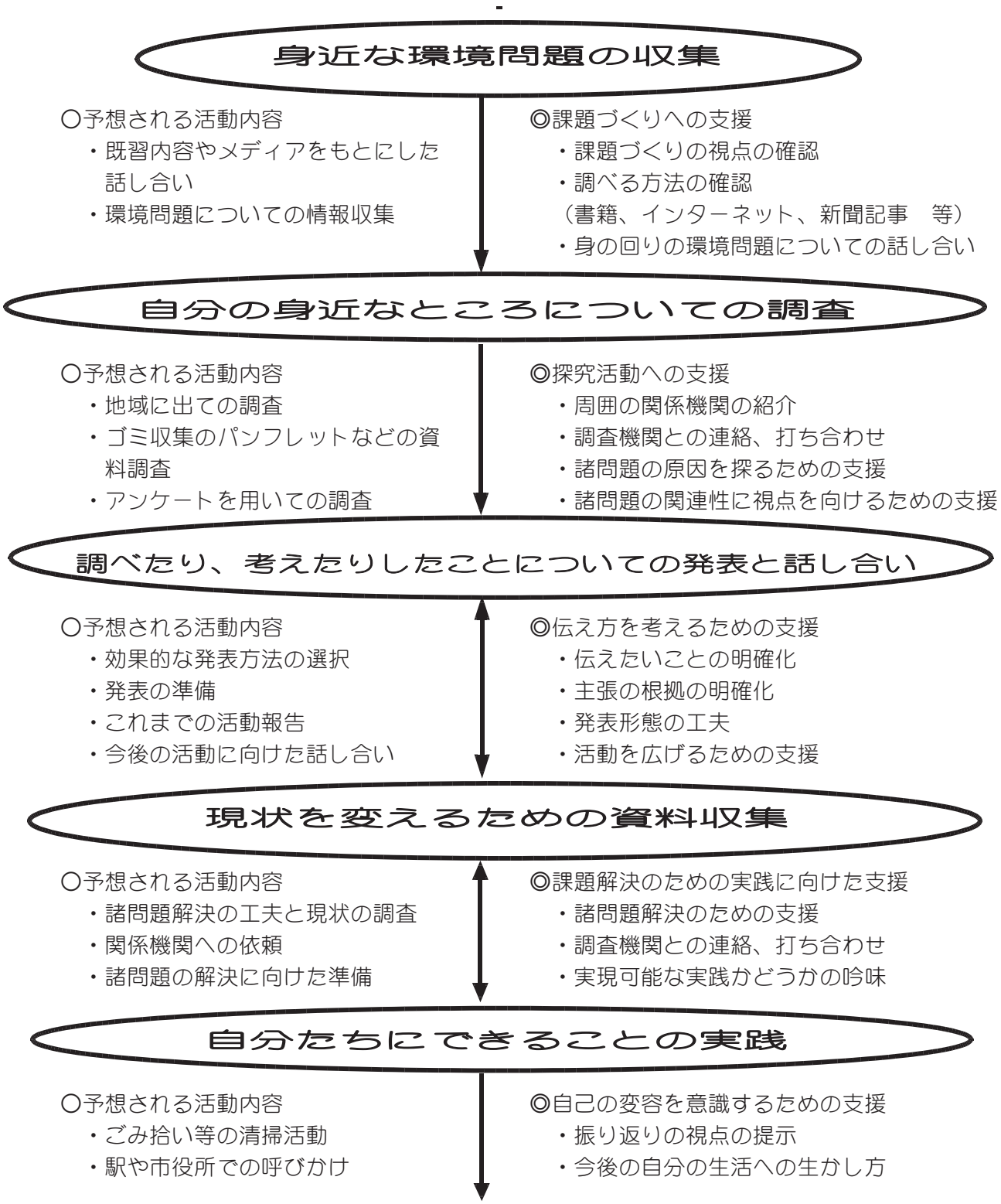
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 自分たちが気持ちよくくらすために問題となっていることに対して、解決に必要な知識・技能を身に付け、課題に対する概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 | 実生活における身近な環境問題の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 | 課題を解決する中で、自分の活動を振り返り、他者と協働的に学習を進めていくとともに、地域や社会、自分の生活をより広い視野から見つめ直していこうとする。 |

4　単元構想

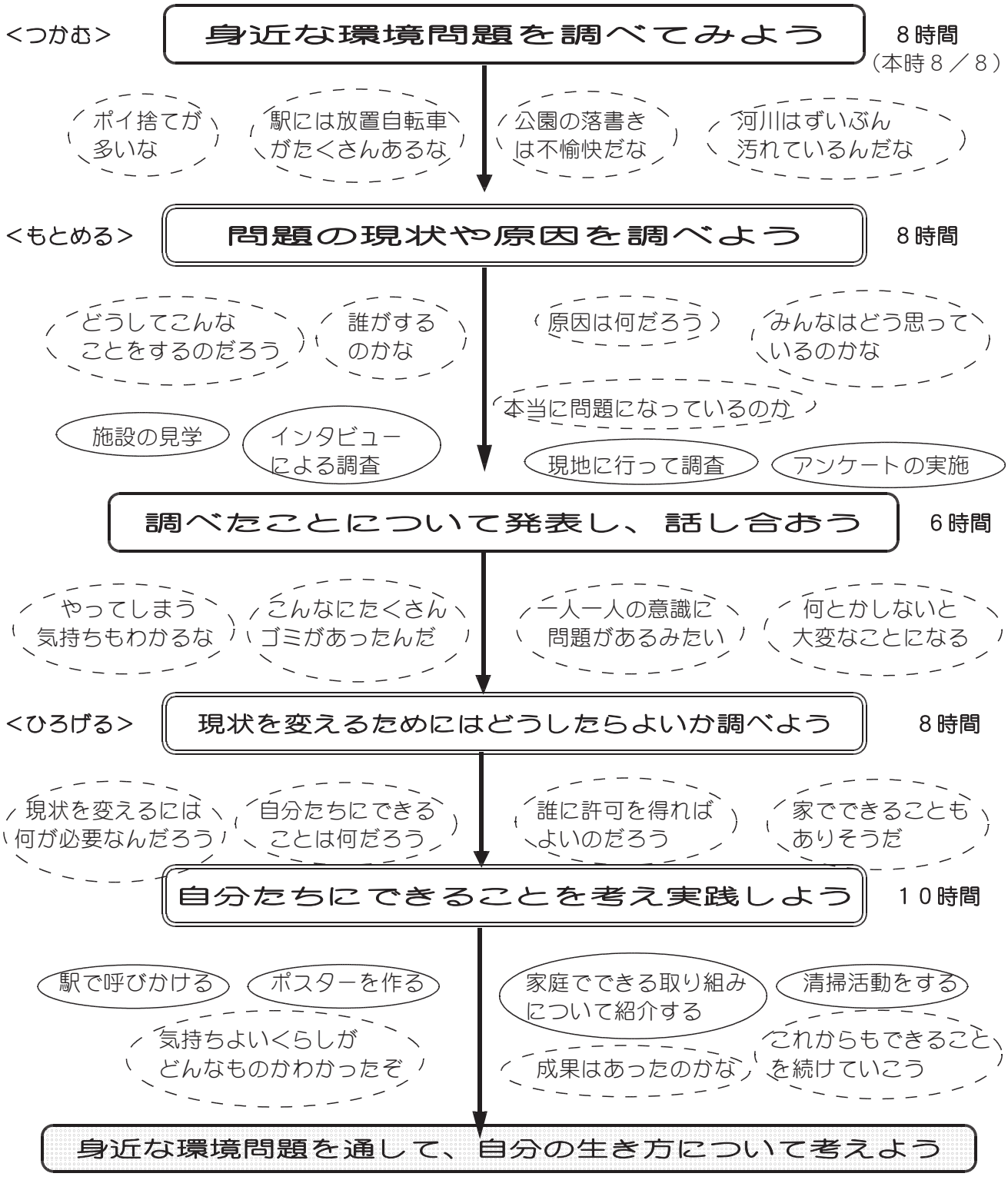
**◎探究課題**：身近に起きている環境問題とそこかかわる人々の思いや願い

**◎これまでの学習との関連**

・４年生のおおとり「ごみの事実をさぐる」
・４年生の社会科「住みよいくらしをささえる」等



5　指導計画　（４０時間扱い）




指導上の留意点
〇つかむ過程では、様々な情報収集活動の中で身近な環境問題の問題点について明確にできるように留意する。
〇もとめる過程では、身近な環境問題が起こる原因について意識して探究できるように留意する。
〇ひろげる過程では、身近な環境問題の現状と問題点について考え、自分たちが実践できることを考えられるようにする。

## 6　評価計画

(1)　学年の目標（第５学年）

| |
|---|
| 身近な地域や社会で起きている問題から自らの課題を見出し、対象と進んで関わりながら解決を図り、地域や社会、自分の生活をより広い視野から見つめ直せるようにする。 |

(2)　観点別評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 第５学年の趣旨 | 身近な地域や社会で起きている事象から、課題を見いだし、探究的な学習の過程において課題の解決に必要な知識・及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 | 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 | 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 |
| 単元の評価規準 | 自分たちが気持ちよくくらすために問題となっていることに対して、解決に必要な知識・技能を身に付け、課題に対する概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 | 実生活における身近な環境問題の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 | 課題を解決する中で、自分の活動を振り返り、他者と協働的に学習を進めていくとともに、地域や社会、自分の生活をより広い視野から見つめ直していこうとする。 |

## 7　本時の学習指導（本時８／４０時）

(1)　目　標

班ごとにまとめた情報を基に、クラス全体で話し合い、自分の意見や考えを振り返り、課題を更新していくようにする。

(2)　本時までの取組

本単元の導入での話合いから、環境問題の解決について取り組んでいくことになり、これまでのおおとりの学習や他教科での学習を踏まえ、話合いを深めていった。その過程で、テレビや新聞などで話題になっている『地球温暖化問題』に児童の意見が集約していった。しかし、このままでは、あまりにも問題が大きすぎるので、自分たちで解決できることを見出していけるよう促すと、地域調査として別所沼公園で「みんなが気持ちよくくらせる工夫を探してみよう」という課題が設定された。体験活動の結果、「自然を守ろうとしている」「生き物が安心して暮らせる」などの工夫に気付く一方で、沼の汚れやポイ捨ての実態に気付き、「ゴミ拾いをした方がよい」という意見が出てきた。また、「他の場所ではどうだろう？」という意見も出てきた。そこで、北浦和公園、北浦和駅付近で同様の情報収集を行い、情報の整理・分析を行った。

(3)　展　開

| 学習活動・児童の意識 | 指導上の留意点（〇）　評価（評）　支援の工夫（→） | 時間 |
|---|---|---|
| 1　前時の学習を振り返り、本時の活動に見通しをもつ。<br>・　この写真には、みんなで考えなくてはいけない問題が示されている。<br>・　この写真には、みんなが気持ちよくくらせる工夫が示されている。<br>・　２分しか発表時間がないから、できるだけ簡潔に発表しよう。 | 〇前時に整理・分析した情報をどのように発表するのか班ごと話し合うことができるようにする。<br>〇「どのような意味をもつ情報なのか」「他者に分かりやすい発表なのか」を考えられるように促す。<br>〇色によって、情報の意味が簡単に識別できるように分類しておくよう助言する。<br>〇班ごとにまとめた情報をどのように関連付けていくのか話合いの視点を考えておくようにする。<br>「似ている意見」「異なる意見」「課題設定につながる意見」等 | 5 |
| 前時の活動 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ○収集してきた情報について、個人で整理・分析をする。<br>「ぼくたちのＡ情報は、△△△△△だから、みんなが気持ちよくくらせる工夫になっています。でもＢ情報は、▲▲▲▲▲なので、みんなが気持ちよくくらすことを妨げているものとなっています。」<br>○個人の意見を基に、収集してきた情報について、班でまとめる。<br>「色別の画用紙を使って、発表がスムーズに行えるように情報の整理をしよう。」 | | |
| 2　本時の課題を知る。 | | 2 |
| | 班ごとの発表を基に、自分の思い・考えを整理しよう | |
| ・　いろいろな意見を基に、自分の考えを見直していこう。<br>3　班ごとに発表し、発表したことを基に全体で話し合う。<br>・　落ちているゴミに注目している班が多いです。<br>・　みんなが楽しむ公園なのに、ゴミが落ちているのはやだな。<br>・　駅の近くには、ゴミの分別のためのゴミ箱があった。だから、ゴミが落ちていなかったんだと思う。<br>・　こんなにゴミが落ちているなら、自分たちで拾えばいいんだよ。<br>・　市役所でゴミ問題に対する策について聞いてみようよ。 | ○本時の学習活動を通して、自分の思い・考えをみつめ、新しい課題を設定できるようにする。<br>○時間の短縮を図れるように、児童が用いた物を直接掲示できるようにしておく。<br>○それぞれの班ごとの意見なので、同じような見方をしている意見か異なる見方による意見か、発表を聞いてノートに整理していくよう指示する。<br>○思ったこと、考えたことを自由に発言するよう促す。話合いが進まない場合には、「同じような意見・考え方」があったか問い、その意見を基に話し合いを展開していくようにする。<br>○「みんなが気持ちよくくらすには」という大きなテーマを根底にした話し合いを進めながら、意見の交換ができるように意図的に指名をするようにする。 | 20 |
| 4　話合いを基に、自分の思い・考えを記述する。<br>・　話合いをしていたら、自分にできるゴミ拾いをしてみようと思った。<br>・　○○が分かりにくかったから、どこかで聞いてみたい。<br>・　説得力のある意見にするために、アンケート調査をしてみたい。<br>・　同じような意見をもっている友達ともっと意見交流したい。<br>・　自分の家のゴミ調査をしてみよう。<br>・　自分たちの身の回りは、気持ちよくないことも多い。なんとか改善していきたい。 | ○意見の中で、話合いを活性化できるような視点が出てきたときには、それを取り上げ、話合いを続ける。（例　「自分たちにできること」「今後の活動ですべきこと」など）<br>○話合い活動を踏まえて、自分の考えや思いについて記述するよう促す。<br>○前時までのノート記述を基に思いや願いの記述ができるようにする。<br>評他者の意見を基に自分の考えや思いを振り返り、改めて考えたことや改善点をノートに記入している。<br>→他班の意見や友だちの意見から今後の自分が取り組むべきことを明らかにしている児童には、学び方を認め自信をもてるようにし、さらに追究活動を発展させていく意欲をもてるようにする。<br>→自分の意見や考えが記述できない児童には、「みんなが気持ちよくくらすために、自分だったらどうしたい」という発問をし、記述を促す。 | 8 |
| 5　本時の学習を振り返り、次時の活動への見通しをもつ。<br>・　インタビュー調査もいいんじゃないかな。<br>・　いろいろな意見を基に、次の活動が見えてきたぞ。 | ○数名の発表を聞いて、さらに、自分の意見を修正したい場合にはそれを奨励する。そして、どのように修正したのかを発表できるようにする。<br>○次時は本時のノート記述を基に、意見を集約して、新たな活動の計画を立てることを伝える。<br>○次時までに新たな活動の計画が思い浮かんだ児童には、その計画をメモしておくことを促す。 | 10 |

**8　備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第３学年〇組　学級活動学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　題材名

目ざせ！歯みがき名人
～自分の歯ならびに合った歯みがきの方法を考えてみがこう～

## ２　児童の実態と題材設定の理由

本学級児童は、日頃より歯みがきをはじめとする口腔ケアを積極的に行っている。事前調査によると、朝食、給食、夕食後の歯みがきはほぼ全員が実施しており、治療率も１００％という状況である。この結果から、児童自身はもちろんのこと、保護者の歯科保健に対する関心が高いことが推察される。

その一方で、保護者による仕上げみがきは「実施していない」と回答した児童が〇名と、大半を占めていることが分かった。

小学校中学年児童の歯と口の発育状態は、乳臼歯が抜けて、第一小臼歯、第二小臼歯が萌出してくる時期に当たる。そのため、歯並び（特に歯の高さ）が凸凹で歯垢がたまりやすく、本人がしっかりみがいたと思っていても実際はみがけていないことがよく見受けられる。したがって、仕上げみがきは第３学年頃まで実施することが望ましい。以上のことから、歯が生え替わり、適切に歯をみがくことが難しいこの時期に本題材を扱う必要があると考える。

本題材は、自分の歯並びにあった歯みがきの方法を考え、それを日々の歯みがきで実践していくことができる児童の育成を目指している。指導に当たっては、事前の活動として、調査を実施し、歯みがきの実施状況や食行動（おやつの内容や食べ方など）について振り返る。また、実際に自分の口腔内を観察し、自分の歯並びやむし歯などといった疾病の有無について確認する。これらの活動によって、自分の口の中に関心をもち、進んで歯並びや疾病などといった口腔内の状態を観察しようとする意欲を高められるようにする。

本時では、歯垢の染め出し検査を行うことにより、児童が自分の歯みがきの状態について把握できるようにする。このことによって、本時の学習課題に対する意欲を高められるようにする。また、みがき残した部位を確認することによって、今の時期は歯の生え替わりの時期に当たり、歯並びが凸凹で歯みがきが難しいことに気付くことができるようにする。さらに、歯みがきの方法が自分の歯並びに合っていなかったことへの気付きから、大切な歯を守るためには自分の歯並びに合った歯みがきの方法を考える必要があることも理解できるようにする。

事後の指導としては、一週間歯みがきの実施状況について学習カードに記録する活動を行う。この活動を通して、自分の歯並びに合った歯みがきの方法を考えながらみがくことを実生活でも実践できるようにする。また、家庭への啓発（児童の歯みがきの状況や仕上げみがきの必要性を伝えるなど）を行うことによって、家庭でも適切な口腔ケアを実践できるようにする。

## ３　題材の目標

〇　自分の歯並びにあった歯みがきの方法を考え、進んで実践することができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】

〇　自分の口の中に関心をもち、進んで口の中の様子を観察しようとすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】

## ４　題材の指導計画・評価計画（１時間扱い）

| 時間 | 指導計画 | 評価計画 |
|---|---|---|
| 事前 | 〇事前調査を実施し、歯みがきの実施状況や食行動（おやつの内容や食べ方など）について振り返る。 | 【主体的に学習に取り組む態度】<br>〇自分の口の中に関心をもち、進んで歯並 |

| | | |
|---|---|---|
| の指導 | ○自分の口の中を観察し、歯並びや疾病など、口腔内の状況を知る。 | びや疾病など、口腔内の状況を観察しようとしている。〈観察〉 |
| 本時 | ○歯みがき名人認定試験（歯垢染め出し）を行う。<br>○みがけていない部位を観察し、学習カードに色を塗る。<br>○みがけなかった理由を考え、発表する。<br>○自分の歯並びにあった歯みがきの方法を考え、実際にみがく。 | 【思考・判断・表現】<br>○自分の歯並びにあった具体的な歯みがきの方法を考え、進んで実践している。<br>〈学習カード・観察〉 |
| 事後の指導 | ○自分の歯並びにあった歯みがきの方法を考え、日々の歯みがきで実践する。 | 【思考・判断・表現】<br>○自分の歯並びにあった具体的な歯みがきの方法を考え、進んで実践している。<br>〈学習カード・観察〉 |

## 5　本時の学習指導（1/1時）

(1)　目　標

○　自分の歯並びにあった歯みがきの方法を考え、実践することができる。　【思考・判断・実践】

(2)　展　開

| 学　習　活　動 | 指導上の留意点(○)、評価(評)、評価を生かした支援(→) | 時間 |
|---|---|---|
| 1　歯みがき名人とはどんなことができる人か考え、発表する。<br>・むし歯がない人<br>・歯がきれいな人<br>（歯並び、歯の色がきれいな人）<br>・歯みがきが上手な人<br>（食べかすが残っていない人） | ○　歯みがき名人とはどんなことができる人か具体的に考えることによって、本時で目指す「歯みがき名人」のイメージをもてるようにする。 | 3 |
| 2　歯みがき名人認定試験（歯垢の染め出し）を行う。 | ○　手順を確認するために、染め出しをしているつもりで一度練習してから実施する。<br>○　赤い色素が飛び散ることを防ぐために、私語は禁止する。 | 5 |
| **《　歯みがき名人認定試験の方法　》**<br>①カラーテスターを袋から出す。<br>②口の中へ入れ、左の奥歯で１０回かむ。<br>③右の奥歯で１０回かむ。<br>④前歯で１０回かむ。　※ツブツブがなくなるまでかみつぶす。<br>⑤舌で外側と内側をなめまわす。<br>⑥舌で奥歯（上下４本）をなめ回す。歯全体にまんべんなくつける。<br>⑦紙コップに吐き捨てる。<br>⑧水でぶくぶくうがいを１回する。 | | |
| 3　手鏡を使って、みがけていない所を観察して色を塗り、みがき残しが多い順に場所の番号を記入する。 | ○　児童がどこを色塗りすればよいか判断できるようにするために、写真を例として提示し説明する。<br>○　赤く染まった所が歯垢（プラーク）であること、歯みがきの目的は歯垢を取り除くことであることを理解することによって、児童が自分の歯みがきの状態に対して課題意識をもてるようにする。 | 10 |
| 4　どこがみがけていなかったかを発表する。<br>・奥歯の溝<br>・歯と歯肉の境目<br>・生えてきたばかりの歯 | ○　みがき残しの場所を歯の模型で児童に指示させ、発言に出た場所の絵カードを提示する。 | 5 |

| | | |
|---|---|---|
| ・歯と歯が重なって生えている所<br>5　みがけなかった理由を考え、発表する。<br>・雑なみがき方だったから<br>・歯ブラシが奥へとどかないから<br>・歯並びがガタガタしているから<br>（歯みがきが難しい）<br>・自分の歯並びに歯みがきが合っていなかったから | ○　みがけなかった場所とその理由を考えることによって、歯みがきの方法が自分の歯並びに合っていなかったことに気付くことができるようにする。そして、大切な歯を守るためには、自分の歯並びに合った歯みがきの方法を考え、確実に歯垢を取り除くことが重要であることを理解できるようにする。 | 5 |
| 目ざせ！はみがき名人<br>～自分の歯ならびに合ったはみがきのほうほうをかんがえて、みがいてみよう～ | | |
| 6　試行錯誤しながら、みがき残しの場所をみがいていく。<br>**《　歯みがきの進め方　》**<br>①初めは、みがき残しの多い番号の場所から順番に、１か所ずつみがいていく。みがく時間を１分間に区切る。<br>☆歯垢を落とすことができた児童<br>：学習カードに歯ブラシをどのように使ってみがいたか記入する。<br>★歯垢を落としきれなかった児童<br>：「歯みがき秘伝書」を参考にみがく。<br>②この後は、時間を区切らずに、学習カードの上から順番に、一か所ずつみがいていく。みがけたら、その都度、「歯ブラシをどのように使ってみがいたか」に記入する。 | ○　児童を集中させてみがかせるために、初めは、１カ所をみがく時間を１分間に区切る。その後は時間を区切らずに、一か所ずつ考えながらみがかせるようにする。<br>○　「歯みがき秘伝書」は、児童が上手に歯をみがけずに児童自身がその必要性を感じたときに渡す。<br>○　しっかりみがけているか確認するために、舌で歯の表面をさわって（ゴリラ顔をする）ツルツルしているか確認するように助言する。<br>評　自分の歯並びにあった具体的な歯みがきの方法を考え、進んで実践している。【思考・判断・表現】<br>〈学習カード・観察〉<br>→　具体的な歯みがきの方法を考えることができている児童には、それを称賛し、他の児童にもその方法を伝え、学びを皆で共有できるよう促す。<br>→　具体的な歯みがきの方法を考えることができていない児童には、「歯みがき秘伝書」を基に歯みがきの基本を再度説明し、それを自分の歯みがきに取り入れるよう指導する。 | 12 |
| **《　机間指導での指導内容　》**<br>○歯みがきの基本<br>①毛先をきちんと当ててみがくこと　②軽い力でみがくこと<br>③小刻みに動かす（コショコショみがき）<br>○歯みがきのコツ<br>※ポイント：毛先を、みがけていない歯の面にしっかり当てる。<br>①奥歯：口は小さめに開き、横から歯ブラシを入れてみがく。<br>②前歯や引っ込んでいる歯<br>・側部：歯ブラシの「わき」部分を使う。　・中央部：毛先全体を使う。<br>③前歯の内側：歯ブラシの「かかと」部分を使う。<br>④歯の内側　：毛先の部分を使い分ける。<br>参考：文部科学省『「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり（平成２３年4月）』 | | |
| 7　歯みがき名人になるためには、どのようなことに気を付けてみがけばよいか考え、学習カードに記入する。 | ○　歯みがき名人になるためには、本時で学んだことを毎日の習慣として続けることが大切であり、そのことが生涯にわたって健康な歯をつくることにつながることを確認し、まとめとする。 | 5 |

6　**備　考**　　在籍児童数　　３５名

# 第３学年〇組　学級活動指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
授業者　教生　〇〇　〇〇　印
指導教員　〇　〇　〇　〇　先生

## １　議　題　「なかよくなる会」をしよう

## ２　児童の実態と議題設定の理由

本学級の児童は、新しい学級の生活にも慣れはじめている。休み時間には、全員外に出てドッジボールなどをして遊んでいる。しかし、男女で一緒に遊んでいる児童もいれば、中には、自分の思いを相手に上手く伝えられず、友だちとの関わりが上手くできない児童もいる。話合い活動では、積極的に考えを発表する児童がいる一方で、集中力に欠けて、手遊びや私語をしてしまう児童が見られる。

本議題は、休み時間などの様子や児童の話などから考え、実践することにした。理由としては、児童がクラス全員の名前と顔が一致していないこと、自分の思いを相手に伝えるのが苦手な児童などが活動を通して、望ましい人間関係づくりのきっかけとなればと思っているからである。そこで、集会の中で、みんなで遊べる遊びを入れ、話合いで決めた約束を守りながら活動を進めていくことで、達成感と学級への所属感をクラス全員の児童が味わえるようにしたい。

## ３　評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| みんなで楽しい学級生活を作ることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の計画的な進め方などについて理解している。 | 楽しい学級生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。 | 学級の生活上の問題に関心をもち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。 |

## ４　事前の活動

| 月日（曜日） | 活動の場 | 活動の主体 | 活動内容 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|---|
| ５月10日(火) | 朝の会 | 教　師 | ・クラスみんなで遊んでみたいことを集約する。 | ・学級会を開くことを知らせて、見通しをもたせる。 |
| ５月11日(水) | 20分休み | 計画委員 | ・議題についてのイメージをつかむ。 | ・想定される発表内容について相談することで、議題についてのイメージがもてるようにする。 |
| ５月12日(木) | 20分休み | 計画委員 | ・学級会の準備を行う。 | ・役割分担を決めて、進行のイメ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ージがもてるようにする。 |

5　本時のねらい

〇話合いの約束などに気をつけ、話合い活動に参加することができるようにする。

6　展　開

| 第１回学級活動　活動計画　平成〇〇年〇月〇日（〇）〇時間目 | |
|---|---|
| 議　題 | 「なかよくなる会」をしよう |
| 役割分担 | 司会（〇〇）（〇〇）、提案者（〇〇）、黒板記録（〇〇）（〇〇）、ノート記録（〇〇） |
| 提案理由 | 「なかよくなる会」をやって、クラスぜんいんの顔と名前をおぼえて、気がるに声がかけられるようになるといいからです。そして、まだ３年〇くみのなかよくなっていない人と、早くなかよくなって友だちになりたいからです。・・・ |
| めあて | 話合いのやくそくに気をつけ、話合いにさんかしよう。 |
| 決まっていること | やる日……５月13日（金）２時間目<br>やること …ぜんいんで楽しめること、名前がおぼえられるようになる遊び<br>場所は、校庭か体育館 |

| 話合いの順序 | 気を付けること | 資料・時間 |
|---|---|---|
| 1　はじめの言葉<br>2　計画委員会の紹介<br>3　議題の確認<br>4　提案理由の説明<br>5　話合いのめあて<br>6　きまっていることの確認<br>7　話合い活動<br>〇どんな遊びをするのか<br><br><br>8　きまったことの確認<br>9　振り返り<br><br>10　先生の話<br>11　終わりの言葉 | ・大きな声ではっきりと話す。<br>・めあてと名前をきちんと話す。<br>・ゆっくりていねいに話す。<br>・ていねいに話してもらう。<br>・黒板に書いて忘れないようにしてもらう。<br>・大きな声ではっきりと話す。<br>・いろいろな子が発表できるように、指名するときには名ぼをつかって、チェックしていく。<br>・決まっていることに気を付けて話し合えるようにする。<br>・前のレクのことを思い出して、話し合えるようにする。<br>・記録係がはっきりと伝える。<br>・自分のことや友だちのことをふり返る。友だちのことはよいところをたくさん書けるようにする。<br>・先生の顔を見て、しっかりと聞く。<br>・「なかよくなる会」が楽しみになるように、元気よく話してもらう。 | ５分<br><br><br>提案資料<br><br><br>３５分<br><br><br>５分　ワークシート |

## 7　指導上の留意点

| 話合いの順序 | ○指導上の留意点 |
|---|---|
| 1　はじめの言葉 | ○計画委員会の児童に役割ごとのめあてをおさえ、意欲的に取り組むことができるようにする。 |
| 2　計画委員会の紹介 | ○計画委員会の児童には、名札を付けさせ、意識を高めて役割を果たすようにする。めあてが言えるように事前指導をしておく。 |
| 3　議題の確認 | ○大きな声ではっきりと発声できるように声をかける。 |
| 4　提案理由の説明 | ○話合いの根拠となるように、提案資料を用意し、それを掲示することで、常に意識できるようにする。 |
| 5　話合いのめあて<br>6　きまっていることの確認<br>7　話合い活動<br>○どんな遊びをするのか | ○大きな声ではっきりと発声できるように声をかけ、全員が意識しながら、話合い活動に臨めるようにしていく。<br>○発言者が偏らないように、司会係に助言していく。<br>○根拠に基づいた考えを発言した児童を称賛するようにしていく。<br>○学級全体のことを考えた意見に対し称賛していく。<br>○なかなか発言できない児童には、机間指導を通して個別に指導していく。 |
| 8　きまったことの確認 | ○意見の集約の仕方、計画委員会の進行の方法、それに従い意見を発表していく方法等に関して、よかった点について称賛する。 |
| 9　振り返り | ○自己評価とともに、友だちのよかったところなどが記述できるように声をかけていく。 |
| 10　先生の話 | ○全体を意識した発言を称賛するとともに、話合いの仕方における今後の課題も話す。 |
| 11　終わりの言葉 | ○計画委員会へねぎらいの言葉をかけるとともに、事後の活動への見通しと意欲がもてるように話をする。 |

## 8　事後の活動

| 児童の活動 | ○指導上の留意点 |
|---|---|
| 【５月13日（金）朝の会】<br>・全体で確認　係の準備<br>【５月13日（金）２校時】<br>・「なかよくなる会」<br>・感想を書く。 | ○話合いで決まった約束のもと、みんなで遊ぶことを確認する。<br>○必要な用具等を十分に確保する。<br>○学級全体を考え、協力して活動している児童を称賛していく。<br>○体験したこと、感想をワークシートに記入する。なお、自己評価とともに、友だちのよかったところなどが記入できるように声をかけていく。 |

## 9　備　考　　在籍児童数　　３５名

# ＜ 中 学 校 編 ＞

## 1．中学校の教育課程

### (1) 教育課程とは

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数の配当が教育課程の編成の基本的な要素となる。

また、教育課程は、公教育の法令に従って編成されるものである。

学習指導要領は法令に基づいて国が定めた教育課程の基準であり、学校はこれに従い、生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成しなければならない。

### (2) 教育課程編成の基本的な考え方

中学校教育は、小学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、各個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる資質を養うことを目的として行うものである。さらに、次の基本方針を踏まえて教育課程を編成しなければならない。

① 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成する。

② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する。

③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成する。

別表第２　学校教育法施行規則（第73条関係）

| 区　分 | 各教科の授業時数 | | | | | | | | | 道徳の授業時数 | 総合的な学習の時間の授業時数 | 特別活動の授業時数 | 総授業時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 音楽 | 美術 | 保健体育 | 技術・家庭 | 外国語 | | | | |
| 第１学年 | 140 | 105 | 140 | 105 | 45 | 45 | 105 | 70 | 140 | 35 | 50 | 35 | 1,015 |
| 第２学年 | 140 | 105 | 105 | 140 | 35 | 35 | 105 | 70 | 140 | 35 | 70 | 35 | 1,015 |
| 第３学年 | 105 | 140 | 140 | 140 | 35 | 35 | 105 | 35 | 140 | 35 | 70 | 35 | 1,015 |

（備考）１　この表の授業時数の１単位時間は、５０分とする。

２　特別活動の授業時数は、中学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係わるもの除く）に充てるものとする。

# 2．中学校の教科指導と学習指導案

## 2.1 国　語　科

### (1) 学習指導案を書く前に

国語教室の中で、一人ひとりの生徒が生き生きと学び続けるよりよい授業を構築するためには、教師自身が常に学び続けなければならない。よりよい授業をするために、教師が学ぶこと、これが教材研究である。十分な教材研究なしには、充実した授業はあり得ない。この教材研究のエッセンスが、学習指導案である。そこで学習指導案の書き方について述べる前に、教材研究の進め方について簡単に触れておく。

#### Ⅰ　作品論的教材研究

一人の読者として、あるいは研究者としての姿勢で文章に接するのが作品論的教材研究である。この段階では、生徒の存在、あるいは授業の中で何をどのように扱うかなどといったことについては考えない。そして次にあげるような点について、なるべく多くの情報を収集するように心がける。

①教材名
②注釈（読み、語句の意味、語法、事象、等）
③作品の周辺事項（作者・筆者、出典、制作事情、時代思潮や文芸思潮とのかかわり、関連作品 等）
④解釈（主題・要旨、構想、叙述 等）
⑤鑑賞・批評（人物像、心理の推移、情景描写、表現の美、ものの見方や考え方、問題意識、作品の価値等）

#### Ⅱ　学習指導論的教材研究

Ⅰの作品論的教材研究によって集めた多くの情報の中から、何を（内容）、どのように（方法）指導し、どのような力（国語の力・言葉の力）を身に付けさせるかを考えるのが、学習指導論的教材研究である。この段階で初めて、作品や文章は「教材」となり、生徒の存在やその反応を考える必要が出てくる。以下に、学習指導論的教材研究の項目とその概要を述べる。

**①　教材について**
- 教材としてどんな価値をもった作品か。（教材としての価値）
- 生徒はどう読むか。（生徒の実態と反応の予想）
- この教材によってどんな力をつけられるか。（指導事項）
- この教材を授業の中でどう扱うか。（授業者ビジョン）

**②　学習指導の目標**
- 何を学ばせるか。
- どんな力をつけるか。
- どんな人間性を育成できるか。

**③　学習指導計画**
- 何時間で扱うか。
- どんな手順で、何を、どのように扱うか。

**④　本時の学習**
- この時間で学習することの中心は何か。
- どのように学習を展開するか。（学習活動、学習内容、学習形態、時間配分、留意点、評価の観点・方法、板書計画 等）

なお、この学習指導論的教材研究を進めるにあたっては、（ア）当該学年、国語科の指導目標・指導内容、（イ）当該学年の生徒の生活・心理、（ウ）生徒たちの言語能力、（エ）使用教科書の構成・教材の体系等について、その内容を十分に把握しておく必要がある。また、ここに略述した教材研究の進め方はあくまでも一つの方法に過ぎない。教材や生徒の実態、研究内容に併せてさまざまに工夫してみるとよいだろう。

### (2) 学習指導案の形式とその内容

埼玉県教育委員会「埼玉県中学校教育課程編成要領」の「国語」、文部科学省「中学校学習指導要領解説　国語編」、国立政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校　国語】」の内容を基本として、学習指導案の形式と、それぞれの項目に何をどのように書くのか、その概要を述べる。

**①　単元（教材）名**

**②　生徒の実態と本単元の意図**

（ア）本単元に至るまでの指導の系統

指導の系統性を重視するため、本単元の指導と同じ「内容」「育成すべき国語の能力」「学習内容」を中心に記述する。２、３年生の場合には、前学年の指導について記述することも考えられる。

（イ）生徒の実態と本単元の意図
- 生徒の実態
  →この教材を読むまでに、生徒がどんな学習をしてきたか。教材の内容に対する生徒の好みや興味などの一般的傾向。この教材とかかわる生徒の国語の学力の実態等
- 作品としての価値
  →この教材が作品としてどのような価値をもっているか。（主として作品論的教材研究の成果をまとめる。）
- 教材としての価値
  →生徒の反応の予想。この教材を生徒に与えることによって、どのような国語の力・言葉の力をつけることができるか。（主として学習指導論的教材研究の成果をまとめる。）

**③　単元の目標**

（ⅰ）「知識及び技能」の目標
（ⅱ）「思考力、判断力、表現力等」の目標
→（ⅰ）（ⅱ）については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。
（ⅲ）「学びに向かう力、人間性等」の目標
→（ⅲ）については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

④　本単元における言語活動

・単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。

⑤　単元の評価規準

・学習指導における評価にあたっては、目標として取り上げた観点についての指導を徹底する。

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

以下の❶から❹の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」とする。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

❶粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉

❷自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉

❸他の２観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）

❹当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

⑥　指導と評価の計画

・何時間で扱うかを明確にし、その時間ごとに中心となる学習活動と、その活動の中で学ぶべき学習内容を簡潔に書く。

・各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

・それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の例、「努力を要する」状況（Ｃ）への手立ての例を想定する。

⑦　本時の学習指導

・目標

→「③ 単元の目標」のうち、本時のねらいを述べる。

・展開

→５０分間の学習指導の展開〈学習活動〉〈学習内容〉〈指導上の留意点・評価〉のそれぞ れの項目について、時間の流れに従って書く。

〈学習活動〉

・授業中の生徒の活動を、「～する」の形で書く。「学習課題を解決する。」というような大きな活動の下に、「文章を黙読する」「根拠となる表現を探す」「周囲で話し合う」等の具体的活動 を順次書き並べるとわかりやすい。

・１時間の授業の中で、導入、展開、まとめのそれぞれの段階を意識して、生徒の学習活動の流れを整理して書く。

〈学習内容〉

・それぞれの学習活動を通して、その中で何を学ぶかというポイントを、主なものに絞って書く。この「何を……」は、当然ながら本時の目標や、その単元（教材）の学習指導目標を達成する内容になるはずである。例えば、「学習課題を解決する」という学習活動に対する学習内容として、まず解決すべき学習課題を書く。そしてその課題を解決するための根拠として、おさえるべき文章表現を取り上げる。また、どのような点に注目し、どのように考えたら課題の答を導くことができるかという押さえ方を明示する。さらに、そのような根拠をもとに、そのような押さえ方をすれば解決されるであろう学習課題の解決結果としての答を書く。

この「根拠」「押さえ方」「答」が、学習内容として明確に書けるかどうかが、輪郭のはっきりした授業のための大切な条件となる。学習内容があいまいだと、結局何を指導したのか（生徒にとっては何を学んだのか）がはっきりしなくなる。「活動あって学び（内容）なし」などという授業にもなりかねない。

生徒は、学習課題を解決するという学習活動を通して、注目すべき文章表現や、課題解決の見通し・方法などを学び、それが国語の力となって定着する。別の文章を読むときにも、このようにして身に付けた国語の力を使って、さらに文章を読み深めていくわけである。そのためにも、この〈学習内容〉の欄をしっかりと書き込み、生徒にとって何を学んだかが明確な授業を展開しなければならない。

〈指導上の留意点・評価〉

・学習指導上、授業者としてあらかじめ留意しておくべき事柄を簡潔に書く。必要によっては、資料配布、板書等の時期を記す場合もある。

・学習内容としての「押さえ方」と混乱する場合があるので注意を要する。例えば、学習課題を解決する場面で、「題名の意味について考えさせる」などという事柄は、課題解決のための重要な手だてとなるので、〈学習内容〉の押さえ方の部分に記入することになる。（題名にこめられた筆者の意図に注意して文章内容を読み取る方法は、基本的な学習内容として是非定着させたい事柄である。）

・単に指導上の留意点だけでなく、授業途中における評価の方法や内容を記入する方法もある。その場面について、どういう方法で本時の目標の達成度を評価するか、達成度の低い生徒には、どのような指導をするかなど、その主なものを書くのである。評価は学習指導後にのみ行うものではない。また、教師による評価だけではなく、生徒相互の評価や生徒の自己評価なども必

要である。１時間の授業の中に、こうした評価が多彩に取り入れられ、その後の指導と一体のものとして機能したとき、よりよい授業が展開されることになる。どういう方法で、何を評価し、そのあとの展開にどう生かしていくか、工夫して書き入れることが大切である。

### (3) 学習指導案の実際

〇月〇日（〇）　第〇時

# 第１学年〇組国語科学習指導案

**授業者　〇　〇　〇　〇**

1　単元名・教材名

「『少年の日の思い出』を表現して味わおう」

・「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ　高橋健二訳

2　生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

| 育成すべき国語の能力〔思考力、判断力、表現力等〕 | 学習内容 | 単元・教材名〈実施時期〉 | 学習活動と関連する他領域等の指導 |
|---|---|---|---|
| ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。（C(1)イ）<br>・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。（小５・６C(1)エ） | ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化の捉え方<br>・人物像や全体像の想像の仕方 | 「その気持ちどう表す？」・『花曇りの向こう』〈１年４月〉<br>『海の命』〈小６年 12 月〉 | ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。〔知識及び技能〕(3)オ |

(2) 生徒の実態と本単元の意図

中学当初から生徒達は読書に親しんできた。読書記録も継続的にとらせることで、本を読む習慣は身に付いている。しかし読んでいる本には個人差があり、近代文学を読む生徒がいる一方で、小学校に読んでいた児童文学やライトノベルを中心に読む生徒も少なくない。読書記録を見ると、翻訳小説としては「星の王子さま」と「モモ」は読んでいるものの、訳の違いを味わうというような読み方をしている生徒は見受けられない。

また４月に行った単元「その気持ちどう表す？」では『花曇りの向こう』の各場面における主人公、明生の心情を捉えるという活動を行ったが、単一の描写を根拠としてしまっている生徒も一定数見られ、大雑把な心情理解に留まってしまっているという課題が見られた。

そこで本単元では、教科書教材「少年の日の思い出」の印象に残った場面を演じるという場を設定し、どのように表現するかを工夫させることで、「場面と場面、場面と描写を結び付け、内容を解釈する」力を発揮できるようにした。ある部分を表現するには、その行動をする人物の描かれ方を明確に捉える必要が生じるからである。離れた場面を関連付けたり、いくつかの描写を集めたりして、人物像を多面的・多角的につかむことをねらいたい。また表現する場面を導くナレーションを考えさせることで、「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える」力を育成することを目指した。

さらに解釈が深まってくる第４時に岡田朝雄訳を配布し、翻訳作品ならではの訳の違いを味わわせることで、読書が「自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解」させることをねらった。翻訳小説の楽しみにも触れることができたら、生徒の今後の読書活動にも変化を与えることが可能になろう。読書記録などを通して、変容を見取りたい。

留意したいのは、言語活動自体を評価するのではなく、指導事項に基づいて指導した内容について評価するということである。本単元では表現の仕方を工夫することとナレーションを考えることを通して、C(1)ウとイを指導することをねらっている。よってそれぞれノートの記述とワークシートの記述で評価をすることとした。「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、C(1)ウを身に付けさせることに重点を置いているので、表現の仕方を工夫するために、自分が取り組む場面だけでなく関連する他の場面の描写を探し、新たな意味づけを行おうとする過程で、特に粘り強さを発揮させたいと考えた。また文章中の描写について学習課題に沿って自分の考えたことを語り合う活動の中で、自らの学習の進め方を調

整できるようにしたいと考えた。そこで評価規準を下記の通り設定し、「表現する場面が、他の場面や描写とどのように結びつくのかを語り合ったり、気付いた内容をワークシートに加筆したりしようとしている」姿を「おおむね満足できる」状況（B）と捉え評価した。評価の具体は後述する。

### 3　単元の目標

(1) 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。
〔知識及び技能〕(3)オ

(2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ

(3) 場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

(4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

### 4　本単元における言語活動

小説を読み、内容を解釈して表現の仕方を工夫したり、考えたことを伝え合ったりする。
（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ）

### 5　本単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。（(3)オ） | ①「読むこと」において場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ）<br>②「読むこと」において場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈している。（C(1)ウ） | ①積極的に場面と場面、場面と描写などを結び付け、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。 |

### 6　指導と評価の計画（全 6 時間）

| 時 | 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 |
|---|---|---|---|
| 1 | ○学習のねらいや進め方をつかむ。<br>○文章を通読し、話の展開や内容の大体をつかみ。感想をもつ。<br>○感想に基づいて演じる場面を決め、ワークシートにナレーションを書く（100 字から 150 字）。 | ○表現の仕方<br>○場面の展開・登場人物の相互関係・心情の変化 | ○三つの場面を選んでおく。 |
| | 場面Ａ：クジャクヤママユを盗み出す「僕」<br>場面Ｂ：「そうか（略）」と言うエーミール<br>場面Ｃ：ちょうを押しつぶしてしまう「僕」 | | ［思考・判断・表現］①<br>ワークシート<br>・ここでは、演じる場面までの話の展開や「僕」とエーミールなど登場人物同士の関係を正しく捉えられているかを確認する。 |
| | 場面Ａのナレーションの例<br>宝物だったコムラサキをこっぴどく批評された「僕」。あれから二年が経っても、ちょうへの熱情は絶頂にあった。そんな中、例の批評家、エーミールが誰もが欲しがっていたクジャクヤママユをさなぎからかえしたというわさを聞きつける。居てもたってもいられなくなった「僕」は無断で彼の部屋に忍び込んでしまうのだった。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2・3（本時） | ○客が「もう、結構。」という場面を用いて、全体で表現の工夫及びその理由を考える。<br>○個人で自分が選んだ場面の表現の仕方を考える。<br>○同じ場面を選んだ４人でグループを作り、表現の工夫や結び付けた描写などを交流する。<br>○同じ場面を選んだ異なるグループや別の場面を選んだグループと交流する。 | ○場面と場面・場面と描写の結び付け方<br><br>○本文の描写を根拠にした読み方 | ○表現の仕方や場面の結び付け方を全体で確認することで、個人で試行錯誤できるようにする。<br>○関連する別の場面の描写を探したり、なぜそのように表現するのかなどの理由をワークシートに書かせたりする。<br>［主体的に学習に取り組む態度］①<br>ワークシート・観察<br>・ここでは、表現する場面が、他の場面や描写とどのように結びつくのかを語り合ったり、気付いた内容をワークシートに加筆したりしようとしているかを確認する。 |
| 4 | ○自分の選んだ場面に対応する岡田朝雄訳を読み、感想をもつ。<br>生徒の感想の例<br>訳を変えてみるとエーミールがそれほどショックを受けていないように感じられた。外国文学は訳者の解釈が訳に含まれているので、読み比べてみるとおもしろい。<br>○グループごとに演技の練習をする（ナレーター１名、演者１名）。 | ○翻訳小説の味わい | ［知識・技能］①<br>ノート<br>・ここでは、別訳を読んで自分の考えを広げることができているかを確認する。 |
| 5・6 | ○発表会を開き、表現の仕方を検討し合う。<br><br>○自分が選んだ場面と特に関連があった場面や描写を考察し、選んだ場面にどのような意味をもたせることができたかについて考えをまとめる。<br>○単元を振り返る。 | ○場面と場面・描写の結び付け方<br><br>○本文の描写を根拠にした読み方 | ○各グループから２名ずつ前に出て表現する。同じ場面の発表が終わったら、演じた理由などについて本文を根拠に議論する。<br>［思考・判断・表現］②<br>ノート<br>・ここでは、他の場面や描写と結び付けることで選んだ場面に新たな意味付けを行うことができているかを確認する。 |

7　本時の学習指導（３／６）

（1）　目標

・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

(2)　展開

【前時の学習内容】
○表現の仕方　○場面の展開・登場人物の相互関係・心情の変化

| 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 |
|---|---|---|
| 1　前時の学習を振り返り本時の課題を確認する。 | | ○自分の書いたワークシートの記述を確認させ、本文を根拠にグループの生徒に説明ができるように準備させる。 |
| 他の場面や描写を結び付けて、表現の仕方を検討しよう。 | | ○その場面からだけでなく、関連する別の場面の描写を探したり、なぜそのように表現するのかなどの理由をワークシートに書かせたりする。 |
| 2　同じ場面を選んだ４人でグループを作り、表現の工夫やその理由、結び付けた描写などを交流する。 | ○場面と場面・場面と描写の結び付け方<br>○本文の描写を根拠にした読み方 | ○加筆する際は自分の考えと区別できるように色を変えさせる。 |
| 3　同じ場面を選んだ異なるグループや別の場面を選んだグループと交流する。 | 〈関連させたい描写の例〉<br>場面Ａの場合<br>・幾度となく、僕は…その挿絵を眺めた<br>・クジャクヤママユほど僕が熱烈に欲しがっていたものはなかった。<br>・あのなんともいえない、むさぼるような、うっとりした感じ<br>・大きな満足感のほか何も感じていなかった。 | ○教科書を持参し、考えの基になった本文の描写に印を付けながら交流させる。<br>**評価場面**<br>**〈評価規準〉**<br>**［主体的に学習に取り組む態度］**の①<br>**〈評価方法〉**<br>ワークシート、観察<br>・ここでは、表現する場面が、他の場面や描写とどのように結びつくのかを語り合ったり、気付いた内容をワークシートに加筆したりしようとしているかを確認する。<br>・例えば、場面と描写を結び付けようと同じグループの生徒と語り合おうとする姿から主として粘り強さを確認した。また実際に表現をするために、他の生徒と語り合う中で気が付いたことをワークシートに加筆している姿から主として自らの学習の調整を確認した。<br>**〈「努力を要する」状況（Ｃ）への手立て〉**<br>・対話を一度しようとしただけで、他の生徒の考えを参考にしようとする姿が見られない生徒については、Ｃと判断し、単元の学習課題や学習の見通しについて再度確認するように指導した。 |
| 4　再度同じグループで集まり、考えたことや収集した情報を共有し、表現の仕方を検討する。 | 場面Ｂの場合<br>・クジャクヤママユをさなぎからかえした<br>・繕うために努力した跡が認められた<br>・模範少年<br>・「君がちょうをどんなに取りあつかっているか、ということを見ることができたさ」<br>場面Ｃの場合<br>・母が根掘り葉掘りきこうとしないで…うれしく思った。<br>・自分の宝物<br>・幼い日の無数の瞬間を思い浮かべるのだ。<br>・一度起きたことはもう償いのできないものだということを悟った。 | |
| 5　単元のまとめをする。 | | ○何ができるようになり、まだできるようになっていないのかをじっくり振り返らせ、次時への見通しをもたせる。 |
| 時系列の異なる場面と場面を結びつけると、登場人物の人物像をより明確に捉えることができたり、登場人物の言動の意味を適切に理解したりすることができるようになる。 | | |
| 6　学習を振り返る。 | | |
| 〈期待される生徒の振り返り〉場面と描写を結びつけたことで、エーミールの悔しさを読み取ることができた。「そうか」には深い失望の念が感じられた。今後は離れた場面や描写と意識して関連付けて読み、文学を味わっていきたい。 | | |

### (4) 授業分析の方法、授業参観の視点

#### ① 授業参観の前に

授業は、教師が生徒の主体的な学習活動を構築することによって、学習指導のねらいを達成しようとする営みである。そして、そのための計画書が学習指導案である。したがって、授業を参観する場合は、参観の前に学習指導案を十分に読み込み、そこから教材に対する授業者の姿勢やその授業の全体的な構想、学習活動の展開に対する授業者の意図等を読み取っておくべきである。そうすることによって授業中の教師の発問や、それに対する生徒の反応のもつ意味をより深くとらえることができる。

また、授業で使われる教材にも、事前に目を通し、自分なりの「読み」をもって授業参観に臨むべきだろう。できれば学習指導案の教材としての価値から、その教材に対する授業者の「読み」をつかみ、自分の「読み」との違いを明確にさせ、それを一つの問題意識として授業参観に臨むとよい。もちろんそのためには、教材となる文章を教師の目で読み込む力を磨いておかなければならない。

#### ② 授業参観において

実際に授業を参観するとき、参観者として何をどのように参観すればよいのか、まとめてみる。

〈教師の働きかけ〉

- どのように生徒の学習意欲を喚起しているか。
  →学習の場の雰囲気作り、教材や学習資料の提示、導入の工夫、発問・指示の配慮等
- どのように生徒の思考を掘り起こし、生徒の反応を取り上げているか。
  →発問・指示、思考する時間の確保、指名等の配慮、発表内容に対する評価、板書等
- 机間指導の様子（ねらい、タイミング等）
- 視線、声の大きさや抑揚等

〈生徒の反応〉

- 発問に対する生徒の答え（内容、答え方等）
- 生徒個々の反応の違い（生徒の個性、理解力）
- 教師が予想した反応とのずれ（その理由、教師の対応等）

〈板書〉

- どのように生徒の反応を反映させているか。
  →板書の位置、文字の大きさ、色チョークの使用による強調等
- 正しい文字が書けているか。
  →文字の正しさ、丁寧さ、書き順の正しさ等
- 板書計画とのずれ

〈時間配分〉

- 生徒の反応に合わせて、柔軟な時間配分がなされているか。

→学習指導案の時間配分とのずれ（その理由、教師の対応等）

これらを別々の項目として参観するのではなく、授業者の意図やねらいがどのように表れているか、あるいは生徒がそれをどの程度達成しているかという視点で参観する必要がある。

その他、授業参観に当たっては、次のような点にも注意することが大切である。

#### （ⅰ）問題意識をもって授業参観をすること

上記の参観の観点を、１時間の授業の中ですべてチェックするのは困難である。自分なりにその時間の中での参観のポイントを絞り、問題意識を持って授業参観に臨むとよい。

#### （ⅱ）生徒の学習活動の妨げにならないようにすること

生徒の活動の様子や生徒のノートなどは、十分観察する必要があるが、常識的な範囲にとどめること。あまり前の方まで出ていって参観するのは、生徒の学習活動や、授業者の学習指導の妨げになる。また、活動中の生徒への話しかけや指示、参観者同士の私語はつつしむ。

#### （ⅲ）授業記録をこまめにとること

授業者の発問や指示、生徒の反応、板書内容、主な時間の経過等、参観した授業の記録は綿密にとる。そして、参観後に感想や疑問点、自分なりの解決案などを書き加えて授業者に提出し、互いにその後の教材研究に生かすように心がける。

#### （ⅳ）生徒の見かけの活動だけで判断しないこと

生徒の挙手・発言の人数や回数など、表面的・形式的な面からのみ授業を評価することがないように注意する。仮に生徒が活発に活動していていても、その活動から何を学ぶか、どんな国語の力・言葉の力を身につけたかという「学習内容」が明確でない授業はよい授業とはいえない。表面的には活発な学習活動が見られなくても、黙々と書き込んだり、じっくり考え込んだりする中で、多くの力を身につけられる授業もありうる。

#### （ⅴ）より多くの授業を参観すること

同一クラスの生徒が、他の教材ではどのように反応するか、同一の教材で他のクラスの生徒はどのような反応の違いがあるか、学年が違うと生徒の反応や指導方法にどのような違いがあるかなど、教材、クラス、学年を越えてより多くの授業を参観し、比較研究するとよい。

## 2.2 社　会　科

### (1) 指導案を書く前に

#### ①　指導案作成のポイント

指導案を作成するためには、入念な教材研究が不可欠です。そこで、最初に「社会科では」「生徒に、何を、どのように」指導し、「この時間で身に付けさせる資質・能力は何か」という視点から、指導案を書く前に押さえておくべきポイントについて述べたいと思います。

**ａ）「社会科では」**

学習指導は、意図的な営みです。教科の目標を常に念頭におきつつ、この授業を通して生徒に身に付けさせるべきことは何かを考えます。このことを踏まえて、学習内容と学習活動を検討し、指導案を考えることが肝要です。社会科は内容教科と言われますが、資料活用の技能や思考力、判断力、表現力等の育成も重視しています。そして、「公民的資質の基礎を養うこと」を教科目標として定めていることに留意する必要があります。

さらに、社会科は、国際理解教育や人権教育、法教育、消費者教育、環境教育、開発教育など、社会の要請に直接的にこたえる学習内容を展開しています。このような教科の特性についても理解を深めておくことが大切です。

中学校社会科の構造は、第１学年と第２学年では地理的分野と歴史的分野を並行して学習し、その基礎の上に公民的分野を学習します。３年間の総時数は合計 350 時間であり、各分野に配当する授業時数は、地理的分野 115 単位時間、歴史的分野 135 時間、公民的分野 100 単位時間です。地理的分野は、第１、第２学年あわせて 115 単位時間、歴史的分野については 95 単位時間、第３学年においては最初に歴史を 40 単位時間履修してから公民的分野を 100 単位時間履修します。

**ｂ）「生徒に（生徒観）、何を（教材観）、どのように（指導観）」**

**●生徒観**

学習活動の主体は生徒です。そこで、社会科の授業との関連で生徒の実態（発達段階や学習経験、学習内容や活動に対する関心や意欲、学習に対する思いや願いなど）や地域の実態を把握しておく必要があります。その方法として、アンケート調査やレディネステストなどを用いることもあります。

**●教材観**

取り上げる事象（内容）の特色や教材としての価値分析、単元の系統性など教材関わる研究成果を簡潔にまとめます。学習指導要領や教科書を読み込んだり、参考文献で調べたりして教材研究を深めておきましょう。

**●指導観**

生徒の実態や教材の特性などを踏まえ、学習指導に関わる教師の授業に対する意図や願いなどを簡潔にまとめます。具体的には、どのような力を生徒に身に付けさせたいのか、そのためにはどのような学習過程を組むのか、どのような指導法を用いるのかなどを述べます。指導過程や学習形態、学習環境、学習活動、教材教具などの工夫についても検討しておくとよいでしょう。

**ｃ）「この時間で身に付けさせる資質・能力は何か」**

学習指導要領に示された教科や分野の目標を押さえることが必要です。各学校では、年間指導計画が作成され、それに基づいて学習指導が計画的、系統的に行われています。指導案を書く際に、この点も留意し、この単元を通してどのような力を養うのかなど、単元や本時の目標を明確に捉えておくことが大切です。

そして、教材の配列や配当時間などを考慮し、単元ごとの学習指導計画を立て、本時の学習指導計画を位置付けます。さらに、目標の達成度を評価する場面とその方法についても検討しておくとよいでしょう。

#### ②　教材研究のポイント

**ａ）授業で取り扱う事象に対する理解を深める**

生徒の主たる教材となる教科書の記述や掲載資料を分析します。複数の教科書を参照するとよいでしょう。また、取り扱う事象についての専門書を複数読むように心がけましょう。

社会科では、原典資料にあたることも重要です。必要に応じ、博物館や資料館、文書館、図書館などとの連携を図るとよいでしょう。インターネットの活用方法や統計資料（RESAS、e-stat）についての知識があると、一層効率的に資料を収集することができます。

**ｂ）学習指導法に対する理解を深める**

学習過程や学習形態を工夫します。例えば「導入→展開→整理」という流れや、課題解決的な学習過程として「課題意識→課題把握→追究」という流れが考えられます。学習形態では、個別、グループ、一斉の各形態の特色やゲストティーチャーを交えての授業形態など様々な学習形態の工夫について理解を深めておく必要があります。

社会科では、ＤＶＤなどの映像教材、ＯＨＣ（実物投影機）、コンピュータ、タブレット型端末などの教育機器の活用が効果的です。それぞれの特性や操作方法について理解し、適切に授業に活用することが求められます。

**ｃ）教材の開発、作成に取り組む**

授業の目標や生徒の実態を踏まえ、生徒の目の高

さに立って教材を開発することが大切です。例えば、入手した資料をそのまま提示するのではなく、データの地図化やグラフ化など、生徒の実態や授業のねらいに即して「加工する」ことが大切です。そのためには、資料の扱いや加工の方法などについても理解を深めておく必要があります。

なお、教材の作成に際しては、資料の出展を明示するとともに、著作権に留意する必要があります。

### ③　指導案の形式とその内容

指導案の形式、それぞれの項目に記述する内容について、その概要を後に示す学習指導案を基に述べます。

〇単元名

〇単元について

先に述べた生徒観、教材観、指導観について教材研究の成果を簡潔に記述します。

〇単元の指導計画

指導目標と評価規準、単元の指導計画を示します。指導目標は、生徒の実態や学習内容、特性などをもとに三つの観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）を踏まえ、単元を通しての指導目標を具体的に記述します。

評価規準は、指導目標を踏まえ、観点別に設定し、概ね満足ととらえられる生徒の学習状況を記述します。

単元の指導計画について、時数、各時間の主な学習内容と学習活動の配列、評価の観点などを簡潔に記述します。

〇本時の学習

目標と展開を示します。本時のねらい（目標）では、授業のねらいを具体的に記述します。

展開では、１時間の学習指導の展開を「過程」「学習活動・学習内容」「指導上の注意点と評価の観点」「資料」のそれぞれの項目について、時間の流れに沿って記述します。表形式やフローチャート形式などの書き方があります。

**＜過　程＞**

指導課程と、各過程にあてる時間配分を示します。

**＜学習活動・学習内容＞**

学習内容と授業時の生徒の活動を生徒が主語となる文体で「～する」と記述します。具体的に活動内容を記述するように心がけましょう。その際、各学習活動に応じた生徒の反応を予想しておくと、授業の流れを具体的にイメージできるでしょう。このことを必要に応じ指導案に記述することもあります。

本時の学習課題は、枠で囲むなどして明示するとよいでしょう。

**＜指導上の留意点と評価の観点＞**

〇指導上の留意点

学習活動でおさえさせるべきポイントや資料の扱い方、安全面における配慮事項、個に応じた対応の留意点、生徒の実態に応じた指導や支援などについて記述します。学習指導上、授業者として生徒に指導すべき事項については、教師が主語となる文体で「～させる」と記述します。また、授業者自身の留意点について「～する」と記述します。

生徒の実態を踏まえ、学習活動における生徒の反応を予想しながら考えると、指導上の留意点がつかみやすくなります。例えば、学習活動に対して、うまく取り組めない生徒が現れることが予想できれば、その対応策として「ヒントカードをもとに考えさせる」「活動内容を絞るように助言する」などの教師の対応を示しておくという具合です。

〇評価の観点

生徒の学習活動に対する評価の観点とその方法を記述します。具体的には、「どの場面で」「どういう方法で」「具体的にどのような姿が見られれば目標を達成したと考えるのか」などの点を記述します。指導と評価を一体のものとして機能させるよう、達成度の低い生徒に対する具体的な指導の手だてなども留意点として示すとよいでしょう。

**＜資　料＞**

「学習内容・学習活動」に対応して、提示や配布する資料について記述します。必要に応じて準備する教育機器や学習環境について記述することもあります。

以上、指導案の形式とその内容について概略を述べました。必要に応じ、発問計画や板書計画、座席表を指導案に示すなどの工夫も考えられます。また、ティーム・ティーチングや知識構成型ジグソー法などの導入など、それぞれの授業計画に応じて指導案の形式も工夫していくことが望まれます。

**(2) 学習指導案の実際**

令和○年　○月　○日（○）　第○時

# 第１学年○組　社会科学習指導案

**授業者　　○○　○○**
**指導者　　○○　○○先生**

## 1　単　元　名　　民衆の成長と新たな文化の形成

～なぜ、室町文化は多くの人々に広まり、現代につながっているのだろう～

## 2　単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領（平成 29 年告示）　2　内容　B　(1)に以下のように位置付けられるものである。

> B　近世までの日本とアジア
> (2) 中世の日本
> 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
> ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
> (ｱ) 武家政治の成立とユーラシアの交流
> (ｲ) 武家政治の展開と東アジアの動き
> (ｳ) 民衆の成長と新たな文化の形成
> イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
> (ｱ) 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ｱ)から(ｳ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。
> (ｲ) 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

この中項目では、12 世紀頃から 16 世紀頃までの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて学習することをねらいとしている。この時期のわが国では、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジアの中で大きな変化が見られ、それが我が国の政治や社会に大きな影響を与えた。また、農業など諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが成立したり、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたりした。これらが、現代を生きる我々の社会生活の基盤に関連があることに気付かせることで、中世の特色を理解し、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるだけでなく、現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする態度を育成できることができる教材であると考える。

(2) 指導観

本小単元においては内容の取扱いにあるように、「『武士や民衆などの多様な文化の形成』については代表的な事例を取り上げてその特色を捉えさせるようにすること。」を受け、生徒の関心を高めるため、現在身の回りに見られる室町時代の文化の影響を受けた社会的事象を取り上げ、単元に対する関心を高める。そこで「なぜ、室町文化は私たちの生活に息づいているのだろう」と単元を貫く学習問題を設定し、何を学んだ学習問題が解決できるか学びの見通しをもたせる時間を設定した。

当時の民衆や大名がどのように成長し社会や文化に影響を与えたか考察することで学習問題を解決させることで時代や文化の特色にせまり、単元のまとめとして学習を振り返ることで、時代や文化の特色を捉えさせていきたい。そして、このような指導を通じて社会における課題を把握し、その解決への見通しをもつことができる生徒を育成できると考えている。

## 3　単元の指導計画

(1) 単元の目標

・我が国の中世の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技術を身に付けるようにする。

・中世の歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互関係や現在とのつながりに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
・中世の歴史に関わる諸事情について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

(2) 中項目の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景にした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。<br>・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジアとの密接なかかわりが見られたことを理解している。<br>・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会や文化が生まれたことを理解している。 | ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして武家政治の成立とユーラシアの交流から民衆の成長と新たな文化の形成までについて、中世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。<br>・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察している。 | ・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

＊歴史を大観させるため中項目を単元として評価基準を設定した。

(3) 中項目の指導計画・評価計画例(13 時間扱い)

○「評定に用いる評価」●「生徒の学習改善につなげる評価」

| 時程 | 学習活動等 | 評価の観点 知 | 思 | 態 | 評価規準等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 導入（1時間扱い） | 中項目を貫く問い<br>「あなたは，中世社会の特色はどのようなものであり，どのように展開し，近世へつながったと考えますか。」 | | | | |
| | ・教科書や資料集、これまでの学習や小学校の学習を踏まえて、中項目を貫く問いに対して考察し、ノートに記入する。 | | | ● | ・小学校での学習などを基に、中項目を貫く問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。 |
| 小単元１　武家政治の成立とユーラシアの交流<br>小単元の問い「武士はどのように成長していったのだろう」(4 時間扱い) | | | | | |
| 小単元２　武家政治の展開と東アジアの動き<br>小単元の問い「東アジアとの交流は社会にどのような影響を与えたのだろう。」(３時間扱い) | | | | | |
| 小単元３（４時間扱い） | 小単元の問い「なぜ，室町文化は多くの人々に広まり，現代につながっているのだろう。」 | | | | |
| | ①　第１時の問い「室町時代はどのような特色をもった文化が展開したのか。」について関心をもち、単元の学習の見通しをもつ。 | | | ● | ・室町時代の文化の特色について関心をもち単元の学習の見通しをもっている。（振り返りカード） |
| | ②　第２時の問い「室町時代はなぜ様々な職業が生まれたのだろうか。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 | ● | ● | | ・資料から学習上の問いにつながる情報を適切に読み取っている。（観察）<br>・２時の問いについて、農業などの諸産業の発達の背景について考察し、文化と関連付け適切に表現している。（振り返りカード） |
| | 博学連携<br>埼玉県立歴史と民俗の博物館　板石塔婆等 | | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ③　第３時の問い「惣村や自治都市はどのように自治を行っていたのだろうか。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 | ● | ● | | ・資料から学習上の問いにつながる情報を適切に読み取っている。<br>・３時の問いについて、社会の変化の背景について考察し、文化と関連付け適切に表現している。（振り返りカード） |
| | ④　第４時の問い「応仁の乱で人々はどのように生活を守ったのだろう。」について資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 | ● | ● | | ・資料から学習上の問いにつながる情報を適切に読み取っている。<br>・４時の問いについて、社会の変化の背景について考察し、文化と関連付け適切に表現している。（振り返りカード） |
| | ⑤　これまでの学習内容を踏まえて、単元の問い「なぜ、室町文化は多くの人々に広がり、現代につながっているのだろう。」について考察し、振り返りカードに記入する。<br><br>〇中項目を貫く問いとの関わりを確認する。 | 〇 | 〇 | | ・民衆の成長を背景とした社会や文化の形成に着目して、小単元の問いについて考察し、結果を表現している。（振り返りカード）<br>・「新たな文化の形成」について説明しようとしている。（観察）<br>・自己の学習について振り返り、調整しようとしている。（振り返りカード） |
| まとめ（１時間扱い） | 中項目のまとめの問い１<br>「中世の日本の学習を踏まえ、これまで学習した時代との共通点や相違点に着目して、中世社会の変化について自分の考えを振り返りカードにまとめよう。」 | | 〇 | | ・中世社会の変化の様子について、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などの他の時代との共通点や相違点に着目し、比較したり関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し獲得した知識を活用して学習を振り返る中で、時代の特色を文章等でまとめている。（振り返りカード）（定期テスト） |
| | 中項目のまとめの問い２<br>「中世社会の変化の学習を振り返り、そのつながりに着目して、近世に大切になると思うキーワードを三つあげ、その理由を記述しよう。」について振り返りカードにまとめる。 | | | 〇 | ・この中項目における自身の学習の経緯について振り返り、中世社会の変化の様子から近世に向かう動きを上げるなど、次の学習へのつながりを見出そうとしている。（振り返りカード） |

（4）本時の学習

① ねらい

室町時代の文化に関心をもち，現在に結び付くものが見られることに気付かせる。また、武士や民衆などの多様な文化の背景にある社会の変化に着目させ、小単元の学習の見通しにつなげる。

② 展開

| 過程 | 学習活動等 | ・指導上の留意点<br>★「見方・考え方」を働かせる手立て | 観点具体の評価規準（評価方法） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(5) | １　現代に見られる室町文化に触れる。 | ・小学校で学習した資料を基に、現代に見られる室町時代の文化についてその特色を読み取らせ、発表し関心を持たせる。<br>・問いの例「現在の文化と，どのような点が関連しているのだろうか。」 | |
| 課題提示 | 本時の問い　室町時代はどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 | | |
| | | ・振り返りシートと本時の学習プリントを配布し、本時の問いを確認する。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 展開<br>2<br>(10) | 2　北山文化と東山文化について調べ、共通点について整理する。 | ・幕府の位置を確認し、武士と公家の文化の融合について理解させる。<br>★書院造から、現代の住環境に関連のあるものを読み取らせる。（畳・床の間）<br>・問いの例「書院造りと現代の和室を比較すると，どのような共通点と相違点を見いだすことができるだろうか。」<br>・禅宗様の影響と日明貿易について関連付ける。<br><br>★衣・食・住の視点で現代にもみられる室町文化の影響を調べまとめさせる。<br>・問いの例「室町時代の食事と現代の食事を比較すると，どのような共通点を見いだすことができるだろうか。」 |
| 展開<br>2<br>(15) | 3　庶民に広がった文化について資料を読み取り、現代とのつながりを確認する。 | ・農作業で行われた田楽と能を比較し、関連付ける<br>・問いの例「田楽と能の共通点に注目すると，どのような傾向が見いだせるだろうか。」<br>★前の時代の庶民の文化と比較し、庶民に文化が広まった背景に関心をもたせる。<br>態　民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことに関心をもっている。（振り返りカード）（観察） |
| まとめ<br>(10) | 4　本時の学習を振り返り、まとめを小単元３振り返りカードに記述す | ・本時の学習を振り返って、記述させる。<br>・具体的な記述になるよう、時期、展開、変化、特色、背景などに着目させ表現を工夫させる。 |

本時のまとめ(例)
　幕府が室町に置かれたことで武士と公家の文化の融合が見られ、日本的な美意識や生活様式をもった文化は現代の生活につながる部分がある。

小単元の問い　なぜ，室町文化は多くの人々に広まり，現代につながったのだろう。

| | | |
|---|---|---|
| 単元の見通し<br>(10) | 5　小単元の問いに対する初発の考えを記述する。<br>6　小単元の問いについて何を学んだら解決できそうか見通しをもたせ、話し合い、発表する。 | ・机間指導をし、生徒の記述の傾向を把握しておく。<br>・代表的な記述を発表させる。<br><br>★文化の担い手に着目させ、既習事項である武家政権やその中での人々の生活や小学校の既習事項から、室町時代の世の中の様子や人々の生活と関連付ける。<br>・ホワイトボード等を用いて、話し合いの結果を簡潔に記述させ掲示し、比較・分類をすることによって、学習の見通しをもたせる。<br>態　話し合いを基に、問いを解決するために必要な学習について見通しをもつことができている。（振り返りカード）（観察） |

(5) 備考

参考　板書計画例

○/○　　室町時代の文化
　課題　本時の問い　室町時代はどのような特色をもった文化が展開したのだろう。

1　現代につながる生活様式
　身近にある室町時代の文化
　衣：木綿の衣服
　食：うどんなどの麺食・喫茶
　住：畳・床の間
その他：茶の湯、生け花、盆踊り
　おとぎ話（一寸法師など）

2　北山文化と東山文化
　背景：幕府の転移→武家と公家の文化の融合

| | 北山文化 | 東山文化 |
|---|---|---|
| いつ | 足利義満のころ | 足利義政の頃 |
| 代表 | 鹿苑寺（金閣） | 慈照寺（銀閣） |
| 特徴 | 寝殿造り+禅宗様 | 書院造+禅宗様<br>↓<br>水墨画・枯山水 |

3　庶民の間に広がった文化
　背景：農業や商業の発達→村と都市の自治（寄合）
　田楽：田植えから芸能へ→能（観阿弥・世阿弥）
　御伽草子：庶民が主人公の物語

本時のまとめ(例)
　幕府が室町に置かれたことで武士と公家の文化の融合が見られ，日本的な美意識や生活様式をもった文化は現代の生活につながる部分がある。

### (3) 授業分析の方法

#### ① 授業者として授業を分析する

自分の授業を振り返り、評価することはきわめて大切です。それは、自分自身の指導力向上のためでもありますが、同時に授業改善した上で次の授業に臨むことは、何よりも生徒のためになるからです。生徒の資質・能力の育成のために、授業を冷静に分析し、反省点をふまえて改善していくことを忘れないようにしましょう。

**授業者として授業を振り返る観点**

○授業のねらいが明確であり、しかも十分に達成されたか。
○ねらいの達成に向けて授業者が工夫した活動や資料は有効に機能していたか。
○生徒の調査、試行、話し合い等の活動時間が十分に確保できたか
○生徒が生き生きと、意欲的に活動していたか。
○生徒が基本的な内容について理解できていたか。
○指導と評価の一体が図れたか。

たとえ同じ指導案を使うときでも、生徒の反応はさまざまなので、まったく同じように進む授業はありません。ですから、授業後はその時間ごとに反省会を行い、分析し、必ず改良をして次の授業に生かすようにします。

**授業分析が指導の改善に役立つ点**

生徒の学習成果を検討する
・生徒のつまずきを明らかにする
・生徒の学習上の課題を把握する
↓
原因を検討する
↓
指導改善の方策を検討する
・指導計画（単元構成）を再検討する
・学習過程を再検討する
・指導の方法を工夫改善する
・生徒の学習活動を見直す
・授業者の発問や指導の手だてを見直す
・提示した資料の適切さを見直す
・評価の方法を見直す

「授業反省会」では自分の反省を述べるだけでなく、参会者の意見を真摯な態度で受け止めましょう。反省会の内容は、その日のうちにまとめ、実習の記録やノートに記録紙、次の授業の教材研究に生かすようにします。

#### ② 参観者として授業を分析する

授業を参観するときは、授業者が精一杯教材研究を行ったうえで、授業に臨んでいることを前提に考えましょう。ともすると、悪いことばかりが目に付き、批判が多い授業分析になりがちですが、本来の意図は生徒の資質・能力の育成のためによりよい授業を創造するための授業参観であり、授業反省会です。したがって、その授業（授業者）の良い点を自分の授業の改善に役立てるつもりで参観し、同時に、「自分ならばこうしたい」という問題意識を常にもつことも忘れてはなりません。

そこで、大きく次の三つに分けて授業分析を行うこととします。

**ア 授業参観前の観点（指導案からわかる内容）**

指導案は、学習指導のねらいを達成するための計画書です。また、その内容は前述の通り、授業者が精一杯教材研究を行った結果をまとめたものです。したがって、授業を参観する場合は、事前にその指導案で、自分が教材研究するつもりで、十分に読むことが大切です。その際、次の点に留意して授業者の意図を読み取っておきましょう。

・授業の全体的な構想（前時までの授業の概要を含む）
・本時のねらい（学習指導要領「解説」と照らす）
・生徒主体の授業展開のための授業者の具体的な指導や支援の方法
・資料活用のねらい（意図）と活用方法
・生徒の予想される反応
・具体的な評価の方法

**イ 授業参観中の観点（生徒とのかかわりからとらえられる授業力）**

前述の通り、指導案は計画書ですから、事前に十分研究してあっても生徒の反応等により授業の具体的展開が変更される場合もあります。生徒の反応を生かしつつ、指導のねらいを達成するために発問・板書・資料提示等を含めて、どんな工夫・努力をしているかを中心に参観します。また、「自分ならばこう発問する」「板書する」「提示する」という意識をもって参観することも大切です。

参観にあたって、参観者として何をどのように参観すればよいか、その主な項目は次の通りです。もちろん、これらがすべてが必要というわけではありません。また、参観の際、記録用紙（チェックシート）を活用する方法もあります。

授業の展開
・導入が工夫され、生徒の学習意欲が喚起されているか。
・生徒の社会的思考や主体的な活動を促す発問か。
・一方的な知識の伝授だけではなく、生徒が情報を

もとに施行する場面があるか。
・机間指導が意図をもって行われているか。
・指導案通りに進んでいるか、進んでいない場合にはその理由は何か。
・生徒の反応は予想通りか、また、それを生かした展開になっているか。
・学習形態に工夫があるか。（小グループの活用やＴ．Ｔ．、ロールプレイングなど）
・授業の終末は課題の解決につながるか。
・生徒の学習状況を適切に評価し、必要な助言を与えているか。

学習環境
・学習をする雰囲気がつくられているか。
・教室の環境が学習に適した状況か。

資料の活用
・使用する意図が明確な資料や史料が準備され、その意図に合うような活用方法の工夫が見られるか。
・出典を明らかにし、必要な部分を加工して生徒にわかりやすく作られているか。

話し方
・声の大きさ、話すスピード、抑揚、言葉遣い、視線などが適切か。
・繰り返し同じことを言っていないか、生徒の立場で聞いてわかりやすい説明の話の内容か。

板書
・計画的・構造的で見やすいか。
・生徒の反応が生かされているか。
・板書に資料が適切に配置されているか。
・文字・内容に間違いはないか。

時間
・時間配分は適切で、計画通りに進んでいるか。

### ウ　授業参観後の留意点（反省会）

授業後には「授業反省会」を行います。授業者・指導担当教諭・参観者が参加します。「授業反省会」は、授業者反省→研究協議→指導講評の順で進められることが一般的です。

**○授業者反省**

反省を聞く際には、授業参観前の学習指導案の自分の読み取りと授業者の意図との違いに気をつけます。疑問点等があれば、次の研究協議でその点を明らかにします。

**○研究協議**

授業参観中の記録をもとに、授業の良い点を積極的的に評価します。また、さらに改善するには自分ならばどうするかという具体的な方策を付け加えて、よりよい授業になるように、前向きな姿勢で臨みます。

**○指導講評**

指導担当教諭の指導・助言を直接受ける大切な機会です。自分が授業者のつもりで聞くようにします。

なお、授業参観全体を通して、特に留意したいのは、生徒の表面的な様子だけを捉えて、活発に動いていたからよいとか、活動が少なかったから悪いといった評価をするべきではないということです。一見、生徒が活発に活動しているように見えても、ねらいや学習内容に沿ったものでなければ適切とは言えません。静かな場面でも、じっくりと資料を読み取り、社会的思考が深められている場合もあります。

また、常識的なことですが、参観者同士の私語はもちろん、授業者の学習指導や生徒の学習活動の妨げになるようなことは慎みます。

### エ　多くの授業の参観

真剣な授業の参観は、自分で授業をしたのと同じくらいの価値があります。実習中は自分が担当する授業時数には限りがあります。ですから、分野、学級、学年を越えて、より多くの授業を参観し、生徒の反応や指導方法の相違などを比較研究することで、実習の内容を充実させていきましょう。配属学年でない授業の参観を希望する場合や他教科の授業を参観したい場合は事前に指導担当教諭と相談して許可を受けることを忘れずにしましょう。

## 2. 3 数 学 科

### (1) 学習指導案を書く前に

教室の中で一人一人の生徒が生き生きと学び続けるよい授業を構築するためには、教師自身が常に学び続けなければなりません。よりよい授業をするために、教師が学ぶこと、これが教材研究です。十分な教材研究なしには、充実した授業はあり得ません。この教材研究のエッセンスが学習指導案です。そこで学習指導案の書き方について述べる前に、教材研究の進め方について簡単に触れておきます。

#### ① 系統的な位置づけ

なぜ、この時期にこの教材を扱うのか。そもそもなぜこの教材を学ぶのかを、教師が熟知することが指導の第一歩になります。

- 教材の系統や発展、あるいは他教科との関連を明らかにする。
- 教材の内容をよく理解し、学習指導の見通しを立てる。
- 教材を通して、どのような見方・考え方を働かせながら、どのような資質・能力を育成すればよいかという目標を明確にする。

具体的には、手始めにいろいろな出版社の教科書を見比べてみることが考えられます。同じ学習内容に対して、様々な教材やアプローチが存在します。教科書をベースにしながら、比較検討の中でその意図や価値をしっかりと捉えようとすることが、まずは大切です。

#### ② 生徒の実態把握

学習の主体者である生徒の実態を把握しなければ、いかに深い教材研究をしたところで、教師の伝えたい内容や感動は生徒に伝わりません。常に、目の前の生徒の立場に立って教材を選択し、構成していかなければなりません。

- 教材に関する生徒の既有知識や学習経験を知る。
- 教材に関する生徒の興味・関心等を知る。
- 学級の学習姿勢の一般的傾向を知る。

つまり、教材に対する生徒の反応、指導内容に対する生徒の理解度、発問に対する生徒の予想される反応や活動を、学習者としての生徒の立場に教師が立ち返って、調査・予想することが重要です。

具体的には、レディネステストの実施や、小学校の教科書等を基にした既習内容・学習活動の確認が考えられます。また、実習中であれば授業参観で生徒の反応をつぶさに観察し分析していくことが欠かせない要素です。

#### ③ 指導計画と評価規準及び評価方法について

以上のことを踏まえ、具体的にどのような課題を用意し、どのような指導計画で学習を進めていくのかを決定します。1 時間の授業は、ただその時間のねらいを達成するためだけに作成されるわけではありません。単元もしくは小単元ごとの指導計画に基づいて、毎時間の授業が位置づけられます。

ア 単元全体の計画

- その単元で身に付けさせたい資質・能力を明らかにしたうえで、それに基づく単元の評価規準及び評価方法を設定する。
- その評価規準にのっとり、学習課題や数学的活動を設定する。
- 教材を、生徒の興味・関心を喚起し、能力に応じる内容に精選する。

イ 1時間の授業の計画

- 本時のねらいを「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準から明らかにする。
- 教師が教える内容は何か、生徒が気付き、考え、深める内容は何かを明らかにする。
- 導入・展開・整理等、各段階における学習活動の配列、時間配分、具体的な発問および予想される生徒の反応を考える。
- 学習場面のどこで、どのような学習形態（一斉・個別・小集団等）を用いるか、ねらいを明らかにして計画する。
- より適切な指導にするために、どこでどのように評価し、フィードバックするかを計画する。

### (2) 学習指導案の形式とその内容

埼玉県教育委員会「埼玉県中学校教育課程編成要領」の「数学」、文部科学省「中学校学習指導要領解説　数学編」、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校　数学】」の内容を基本として、学習指導案の形式と、それぞれの項目に何をどのように書くのか、その概要を述べます。

#### ① 単元（教材）名

- 学習のひとまとまりを表す言葉で示す。

#### ② 単元について

**(1)題材観**

- 何を学習するのか、これまでの学習や今後の学習とのつながりなどを示す。

**(2)生徒観**

- 学習する生徒の実態はどうか、どのような力をつけていきたいのかなどを示す。

**(3)指導観**

- 授業の中でどのように指導するのか、その意義や工夫などを示す。

③　単元の目標

（ｉ）「知識及び技能」の目標

（ii）「思考力、判断力、表現力等」の目標

（iii）「学びに向かう力、人間性等」の目標

④　単元の評価規準

学習指導における評価にあたっては、目標として取り上げた観点についての指導を徹底する。

（ｉ）「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

基本的に，単元の目標と「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に，中学校学習指導要領の内容における〔用語・記号〕，［内容の取扱い］の各事項も含めて評価規準を設定する。

（ii）「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

基本的に，単元の目標と「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に，中学校学習指導要領の内容における〔用語・記号〕，［内容の取扱い］の各事項も含めて評価規準を設定する。

（iii）「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

基本的に，単元の目標と「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に，当該内容のまとまりで育成を目指す「知識及び技能」や「思考力，判断力，表現力等」の指導事項等を踏まえて評価規準を設定する。例えば，第１学年の「正の数と負の数」の単元において，「内容のまとまりごとの評価規準（例）」は「正の数と負の数のよさに気付いて粘り強く考え，正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている」である。これを基に，単元の評価規準を，「正の数と負の数の必要性と意味を考えようとしている」「正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている」「正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている」などと分割して設定する。

⑤　指導及び評価計画

生徒の学習内容を基に、前述した３観点を考慮して指導と評価の計画を立案します。本時の展開が指導計画にどの部分にあたるか記載し、前時までの学習事項や資質・能力のつながりを示します。

⑥　本時について

(1) 本時の目標

単元の目標のうち、本時の目標を述べる。

(2) 展開

50 分間の学習指導の展開を「学習活動」「教師の発問・予想される生徒の反応」「記録に残す評価・指導に生かす評価・支援・指導上の留意点」のそれぞれの項目について、時間の流れに従って書く。

(3) 指導案の実際

令和〇年〇月〇日（〇）　第〇校時

| 検　印 |
| --- |
| |

# 第２学年〇組　数学科学習指導案

授業者　〇　〇　〇　〇

1　単元名　平方根

2　単元について

(1) 中学校第１学年では，取り扱う数の範囲を正の数と負の数に拡張して，正の数と負の数の必要性と意味を理解し，その四則計算について学習している。第２学年では，文字を用いた式や方程式，関数，確率などについての学習を通して，数についての理解を一層深めている。第３学年では，二次方程式を解く場合や，三平方の定理を活用して長さを求める場合には，有理数だけでは不十分なので，数の範囲を無理数にまで拡張する。新しい数として平方根を導入することで，これまで扱うことができなかった量を考察の対象とすることができる。このような正の数の平方根の必要性と意味を理解し，正の数の平方根を含む簡単な式の計算ができるようにするとともに，具体的な場面で平方根を用いて表したり処理したりすることを通して，それを具体的な場面で活用することができるようにする。

(2)本時は正の数の平方根の加法の計算方法について，既習の考え方と比較しながら考察し，説明する活動を行う。正の数の平方根の加法について，生徒は乗法と同様に $\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$ となると予想し，考察することが考えられる。しかし，この予想は成り立たない。$\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$ が成り立たないことを示すには，例えば，反例を一つあげればよい。このように，反例をあげることで，ある事柄が常に成り立つとは限らないことを説明できることは第２学年の「Ｂ図形」の領域で学習しているが，繰り返し確認することが大切である。$\sqrt{2}+1$ や $\sqrt{2}+\sqrt{3}$ などは，これ以上簡単には表せない数であり，それぞれ一つの無理数を表している。このことは，文字を用いた式において $a$ や $b$ が数を表すとき，$a+1$ や $a+b$ もそれぞれ一つの数を表すものとみることと同様である。正の数の平方根を含む加法や減法の式の計算の方法について，文字を用いた式の計算の方法を振り返りつつ考察することが必要である。

## 3　単元の目標

(1) 数の平方根の必要性と意味を理解することができる。
(2) 数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。
(3) 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。
(4) 既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現することができる。
(5) 数の平方根を具体的な場面で活用することができる。

## 4　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①数の平方根の必要性と意味を理解している。<br>②有理数や無理数の意味を理解している。<br>③数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。<br>④具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。 | ①既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現することができる。<br>②数の平方根を具体的な場面で活用することできる。 | ①数の平方根のよさを実感して粘り強く考えようとしている。<br>②数の平方根について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。<br>③数の平方根を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 |

## 5　指導と評価の計画(16 時間)

学習評価については，教師の指導改善や生徒の学習改善に生かすことが重要であり，指導と評価の計画を立てる段階から，評価のタイミングや方法等を考えておくことが大切である。観点別学習状況の評価が適切に実施できるよう，日々の授業の中では生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置きつつ，「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については，単元や題材等のまとまりの中で，それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行うなど評価場面の精選をすることが大切である。そこで，以下のとおり参考となるような指導と評価の計画を作成した。

本単元「平方根」を，内容のまとまりである三つの小単元と単元のまとめで構成し，それぞれの授業時間数を次のように定めた。

| 小単元等 | 授業時間数 | |
|---|---|---|
| 1．平方根 | 5 時間 | 16 時間 |
| 2．根号をふくむ式の計算 | 6 時間 | |
| 3．平方根の利用 | 3 時間 | |
| 単元のまとめ | 2 時間 | |

各授業時間の指導のねらい，生徒の学習活動及び重点，評価方法等は次の表のとおりである。

| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ・いろいろな面積の正方形をかく活動を通して、正方形の１辺の長さに着目し、その長さを表す方法を考えられるようにする。 | 知 | | 知①：ノート |
| 2 | ・２乗して自然数になる数について調べる活動を通して、平方根を根号を使って表し、平方根の２乗を求めることができるようにする。 | 知 | | 知①：行動観察 |
| 3 | ・平方根の大小を調べる活動を通して、平方根の定義に基づいて平方根の性質を考えたりすることができるようにする。 | 思 | | 思①：行動観察 |
| 4 | ・これまでに学んできた数を振り返り、有理数や無理数について調べる活動を通して、有理数や無理数の意味を理解できるようにする。 | 知 | ○ | 知②：小テスト |
| 5 | ・$\sqrt{2}$ が有理数か無理数かを考える活動を通して、平方根の定義に基づいて平方根の性質を考えたりすることができるようにする。<br>・平方根に関する練習問題に取り組み、これまで学習してきたことがどの程度身に付いているのかを自己評価することができるようにする。<br>・振り返りシートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 | 思<br>知<br>態 | <br>○<br>○ | 思①：行動観察<br>知①：小テスト<br>態①：ノート |
| 6<br>7<br>8 | ・平方根の乗法や除法のしかたを考える活動を通して、数の平方根を含む簡単な式の乗除をすることができるようにする。<br>・既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の乗除の方法を考察し表現することができるようにする。 | 知<br>思 | ○<br>○ | 知③：小テスト<br>思①：行動観察<br>ノート |
| 9 | ・平方根の乗法や除法のしかたを考える活動を通して、数の平方根を含む簡単な式の乗除をすることができるようにする。<br>・既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根を含む式の加減の方法を考察し表現することができるようにする。 | 知<br>思 | ○<br>○ | 知③：小テスト<br>思①：行動観察<br>ノート |
| 10 | ・これまでに学んだ計算のきまりを使って、根号を含む式を計算する活動を通して、計算の方法を考察し表現することができるようにする。<br>・平方根の計算過程を振り返って評価・改善しようとできるようにする。 | 思<br>態 | | 思①：行動観察<br>態③：行動観察 |
| 11 | ・平方根の計算に関する練習問題に取り組み、これまで学習してきたことがどの程度身に付いているのかを自己評価することができるようにする。<br>・振り返りシートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 | 知<br>態 | ○<br>○ | 知③：小テスト<br>態③：ノート |
| 12 | ・コピー用紙の大きさをもとに、具体的な場面に含まれる平方根を見いだし、考察する活動を通して、数の平方根について学んだことを生活や学習に生かそうとすることができるようにする。 | 態 | ○ | 態②：ノート |
| 13 | ・パッチワークの模様に含まれる図形の長さの中から平方根を見いだし、問題解決する活動を通して、具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができるようにする。 | 知 | | 知④：行動観察 |
| 14 | ・具体的な場面に含まれる平方根に関する練習問題に取り組み、これまで学習してきたことがどの程度身に付いているのかを自己評価することができるようにする。<br>・振り返りシートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 | 知<br>態 | ○<br>○ | 知④：行動観察<br>態②：小テスト |
| 15 | ・美しいと感じる長方形の辺の比を調べる活動を通して、「美しさ」と「数学の関わり」について関心をもち、数の平方根のよさを実感して粘り強く考えようすることができるようにする。 | 態 | | 態①：行動観察 |
| 16 | ・身近なデザインや風景の中から白銀比や黄金比を見いだしまとめる活動を通して、数の平方根について学んだことを生活や学習に生かそうとすることができるようにする。 | 態 | | 態②：ノート<br>（レポート） |

6　本時について

(1)　本時の目標

〇平方根の加法や減法の計算方法を，既習の考え方と関連付けて論理的に考え，説明することができる。　＜思考力，判断力，表現力等＞

(2)　展開

| 学習活動 | 教師の発問（◎）<br>予想される生徒の反応（・） | ◆記録に残す評価<br>◇指導に生かす評価<br>支援（⇒）<br>指導上の留意点（〇） |
|---|---|---|
| 1　問題を把握する | ◎根号をふくむ式の乗除の仕方として<br>（乗）$\sqrt{a}\times\sqrt{b}=\sqrt{a\times b}$　（除）$\sqrt{a}\div\sqrt{b}=\sqrt{a\div b}$<br>と今までの数と同じように計算できることが分かりました。加法や減法も今まで通り計算することができるでしょうか。<br>・乗法や除法は今まで通りだったけど…。<br>・$\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$　が成り立つかということ？ | 〇数の概念の拡張に関わる演算の方法を丁寧に考えていけるように，前時とのつながりを意識させる発問をする。 |
| 問題　$a$，$b$ が正の数のとき，$\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$　と計算してもよいでしょうか。 | | |
| 2　予想をする | ◎はじめに予想をしてみましょう。<br>・計算してもよい。<br>・計算してはいけない。<br>◎その理由を説明することはできそうでしょうか。<br>・なんとなくそう思うけれど，説明は難しいな。 | 〇課題意識を明確にして思考を促す。<br>〇生徒の実態を把握しながら，生徒とともに課題を設定する。 |
| 3　課題を設定する | | |
| 課題　$a$，$b$ が正の数のとき　$\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$　と計算してもよいか，説明しましょう。 | | |
| 4　見通しをもつ<br>自力解決において多様な考え方を引き出すために，複数の見通しをもたせるように工夫した。 | ◎どのようにすれば，計算方法を明らかにできるでしょうか。<br>・乗除のときと同じように考えればいいかな。<br>・具体的な数で考えられると思います。<br>・乗除では２乗することがポイントでした。<br>・乗除では面積を使って説明することもできたので，今回も同じようにできるかもしれないです。 | 〇乗法・除法のときの考えを想起させたり，ノートを振り返らせたりしながら，解決の見通しをもたせる。 |
| 5　自力解決をする<br>（1）具体数で確かめる<br>$a=2$、$b=3$ とすると<br>$\sqrt{2}\fallingdotseq1.414$<br>$\sqrt{3}\fallingdotseq1.732$<br>$\sqrt{5}\fallingdotseq2.236$　であり<br>$\sqrt{2}+\sqrt{3}=\sqrt{5}$<br>とはいえない。<br>反例があるので、<br>$\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$<br>と計算してはいけない。<br>（2）具体数で確かめる<br>$a=9$、$b=16$ とすると<br>$\sqrt{9}=3$<br>$\sqrt{16}=4$<br>$\sqrt{9+16}=\sqrt{25}=5$　であり<br>$\sqrt{9}+\sqrt{16}=\sqrt{9+16}$<br>とはいえない。<br>反例があるので、<br>$\sqrt{a}+\sqrt{b}=\sqrt{a+b}$<br>と計算してはいけない。 | | ◆平方根の加法や減法の計算方法を，既習の考えと関連付けて論理的に考え，説明することができる。<br>【思・判・表】（ノート分析・活動観察）<br>既習の考え方と関連付けて論理的に考えたり，説明したりする姿が見られたことから，Ａとする。机間指導で見取り，随時備考欄に記録する。 |

（3）それぞれを２乗する

$\sqrt{a}+\sqrt{b}$ と $\sqrt{a+b}$

それぞれ２乗すると

$(\sqrt{a}+\sqrt{b})^2$

$=a+2\sqrt{ab}+b$…①

$(\sqrt{a+b})^2$

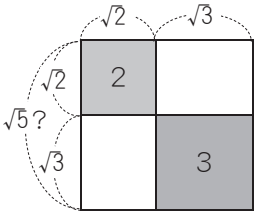
$=a+b$…②

①と②は等しくないから

$\sqrt{a}+\sqrt{b} \neq \sqrt{a+b}$

と計算してはいけない。

（4）面積図で表現する




１辺が$\sqrt{2}+\sqrt{3}$の正方形の面積を考える。（それぞれの面積は根号の付いた数の積を表していることになる。）

$\sqrt{2}+\sqrt{3}=\sqrt{5}$ だとすると，

外側の正方形の面積は５になるはずだが，

実際は色のついた部分だけで面積は５あり，

白い部分の分だけ大きい。

よって $\sqrt{a}+\sqrt{b} \neq \sqrt{a+b}$ と計算してはいけない。

⇒乗法の学習で用いた考え方を振り返らせ，もし同じように考えたらどうなるかを問う。

⇒生徒一人ひとりが粘り強く自分なりの考えを説明したり，互いの考えを比較したりできるように，机間指導等で支援する。

6　他者の考えに触れて，比較・検討しながら考えを深める

◎小グループでお互いの考えを説明しましょう。

◎それぞれの考え方のよいところは何ですか。

・(1)や(2)は具体的な数で確かめて，反例を１つ挙げればいいので簡単です。

・(3)は(1)や(2)と比べて難しいけど，どうして違うのか，どのくらい違うのかが分かります

◎それぞれの考え方のつながりは何ですか。

・(1)と(2)は具体的な数で考えて反例を見つけているところが同じです。

・(4)は(3)の考え（それぞれ２乗しているところ）を図で分かりやすく表しています。

それぞれの考え方のよさに気付き，学びを深められるように，小グループで粘り強く検討させるように工夫した。

○生徒の発言をもとにまとめる。

○小グループ内で話し合わせたうえで，全体共有を行うなど，生徒一人ひとりが議論に参加しやすくなる工夫を行う。

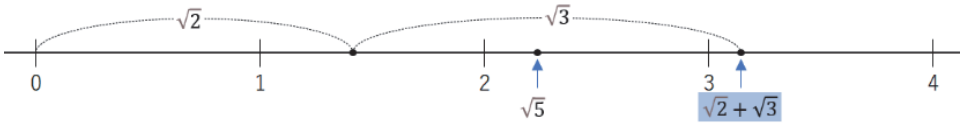
7　話合いの結果をまとめ，加法，減法の計算方法について理解を深める

◎これまで話し合ったことでどんなことが分かりましたか。

・加法は，乗法や除法と同じようには計算できませんでした。

・$a$，$b$ が正の数のとき，$\sqrt{a}+\sqrt{b} \neq \sqrt{a+b}$ と計算してはいけない。

・例えば$\sqrt{2}+\sqrt{3}$はこれ以上簡単に表すことができないが，１つの数を表している。




○これまでの議論と教科書の記述を関連させて，根号の付いた数の加法と減法の仕方について，実感を伴う理解に深めさせる。

8　振り返る

◎平方根の加法・減法の計算の方法を考えるときに，どんな考え方が大切でしたか。

・乗徐のときと同じように２乗することで，今までの計算と同じように考えることができるかを確かめられた。

・具体的な数で見通しをもったり，反例を示したりすることが大切だった。

・様々な視点から考えを深めて，それぞれの考えのよさや根拠を理解することが大切だった。

○学習全体を振り返り，他の学習でも活かせるような考え方について共有させる。

(4)　授業分析の方法

①授業を参観する前に

授業は、教師が生徒の主体的な学習活動を構築することによって、学習指導のねらいを達成しようとする営みです。そして、そのための計画書が学習指導案です。したがって、授業を参観する場合は、参観の前に学習指導案を十分に読み込み、そこから教材に対する授業者の姿勢やその授業の全体的な構想、学習活動の展開に対する授業者の意図等を読み取っておくべきです。そうすることによって、授業中の教師の発問や、それに対する生徒の反応のもつ意味をより深く捉えることができるはずです。

また、授業で使われる教材にも、事前に目を通し、自分なりの教材観をもって授業参観に臨むことが必要です。できれば学習指導案の教材観から、その教材に対する授業者の教材観をつかみ、自分の教材観との違いを明確にさせ、それを一つの問題意識として授業参観に臨むとよいでしょう。もちろんそのためには、教材となる課題等を参観者が十分に分析しておかなければなりません。

②　授業参観において

実際に授業を参観するとき、参観者として何をどのように参観すればよいのか、主な項目ごとにまとめます。

〈教師の働きかけ〉

・どのように生徒の学習意欲を喚起しているか。
　→学習の場の雰囲気作り、教材や学習資料の提示、導入の工夫、発問・指示の配慮等
・どのように生徒の思考を掘り起こし、生徒の反応を取り上げているか。
　→発問・指示、思考する時間の確保、指名等の配慮、発表内容に対する評価、板書等
・机間指導の様子（ねらい、タイミング等）
・視線、声の大きさや抑揚等

〈生徒の反応〉

・発問に対する生徒の答え（内容、答え方等）
・生徒個々の反応の違い（生徒の個性、理解力）
・教師が予想した反応とのずれ（その理由、教師の対応等）

〈板書〉

・どのように生徒の反応を反映させているか。
　→板書の位置、文字の大きさ、色チョークの使用による強調等
・正しい文字が書けているか。
　→文字の正しさ、丁寧さ、書き順の正しさ等
・板書計画とのずれ

〈時間配分〉

・生徒の反応に合わせて、柔軟な時間配分がなされているか。
　→学習指導案の時間配分とのずれ（その理由、教師の対応等）

これらを別々の項目として参観するのではなく、授業者の意図やねらいがどのように表れているか、あるいは生徒がそれをどの程度達成しているかという視点で参観する必要があります。

その他、授業参観に当たっては、次のような点にも注意することが大切であります。

（ⅰ）問題意識をもって授業参観をすること

上記の参観の観点を、１時間の授業の中ですべてチェックするのは困難である。自分なりにその時間の中での参観のポイントを絞り、問題意識を持って授業参観に臨むとよい。

（ⅱ）生徒の学習活動の妨げにならないようにすること

生徒の活動の様子や生徒のノートなどは、十分観察する必要があるが、常識的な範囲にとどめること。あまり前の方まで出ていって参観するのは、生徒の学習活動や、授業者の学習指導の妨げになる。また、活動中の生徒への話しかけや指示、参観者同士の私語はつつしむ。

（ⅲ）授業記録をこまめにとること

授業者の発問や指示、生徒の反応、板書内容、主な時間の経過等、参観した授業の記録は綿密にとる。そして、参観後に感想や疑問点、自分なりの解決案などを書き加えて授業者に提出し、互いにその後の教材研究に生かすように心がける。

（ⅳ）生徒の見かけの活動だけで判断しないこと

生徒の挙手・発言の人数や回数など、表面的・形式的な面からのみ授業を評価することがないように注意する。仮に生徒が活発に活動していていても、その活動から何を学ぶか、どんな数学の力・言葉の力を身につけたかという「学習内容」が明確でない授業はよい授業とはいえない。表面的には活発な学習活動が見られなくても、じっくり考え込む中で、多くの力を身につけられる授業もありうる。

（ⅴ）より多くの授業を参観すること

同一クラスの生徒が、他の教材ではどのように反応するか、同一の教材で他のクラスの生徒はどのような反応の違いがあるか、学年が違うと生徒の反応や指導方法にどのような違いがあるかなど、教材、クラス、学年を越えてより多くの授業を参観し、比較研究するとよい。

## 2.4　理　　科

### 1　授業を構想する（指導案を作成する）手順

#### (1) 学習指導案を書く前の準備

「どんな授業にしたいのか」を考えてみましょう。このとき、「楽しく分かりやすい授業」と同時に、「つまらなく分かりにくい授業」も考えてみましょう。

・一方的に先生が話している授業
・観察や実験等の活動のない授業
・目的やねらいの分からない授業
・あいまいな説明や間違った知識の授業　・・・

実習生に授業がうまくいかなかった原因を聞くと、たいていの人は「準備不足でした。」と答えます。「準備不足」と言えば反省しているように聞こえますが、実際には何も改善されないことのことの方が多いのです。その理由は、「何を準備すればよいのか。」が分かっていないことにあります。すなわち、「予測」ができないのです。授業をつくる上で、予測すべきことを考えてみましょう。

**①生徒の学習内容について**

生徒が学習すべき内容は、基本的に文部科学省が示している「学習指導要領」の目標であるといえます。この目標にしたがって、教科書がつくられているのです。教科書の観察・実験は、「学習指導要領」の目標を達成するための方法の一つです。試しに、いろいろな出版社の教科書を比べてみてください。教科書の観察・実験を参考にしながら、自分で考えて工夫をすることが第一歩です。

**②生徒の反応について**

実習生の授業では、予想外の生徒の反応に戸惑ったり、思惑通りの反応に「これ幸い」と他の生徒の意見を無視して進めたりしてしまう場面が見られます。生徒の反応はとても予測が難しいものです。また、「答えられない質問が出たらどうしよう。」と不安がる実習生もいます。生徒よりも専門的な知識が少なくては、教壇に立つ資格が疑われます。

ティームティーチングを除けば、１人の教師が40人近い多数の生徒を相手にするわけですから、「授業規律（発言は挙手をする、人の発言は静かに聞く等）」を考える必要があります。理科に関する興味・関心が高い生徒の方が発言する意欲がありますが、むしろ大切にすべきは「理科が苦手な生徒、分からない生徒」です。

**③時間配分について**

中学校の授業は50分です。その中で、生徒に観察・実験を行わせるとき、何を重視すればよいのでしょうか。生徒の立場になって考えてみましょう。おそらく、課題を解決するために十分な時間を確保することになるでしょう。一方、観察・実験を行うにあたり、どうしても削れない時間があります。それは、生徒の準備と片付けの時間です。準備も片付けも5分ずつ、計10分は確保したいところです。残った時間は40分です。その中に、導入、展開、まとめ（整理）の時間を盛り込むにはどうすればよいでしょう。生徒に手際よく観察・実験に取り組ませる準備の大切さが分かるはずです。

**④指導計画と評価規準及び評価方法について**

1時間の授業は、ただその時間のねらいを達成するためだけに作成されるわけではありません。単元もしくは小単元ごとの指導計画に基づいて、毎時間の授業が位置づけられます。次に、第1学年1分野の大単元「身近な物理現象」の中の単元「光と音」の指導計画の一例を示します。

身近な物理現象（全20時間）
（ア）　光と音
　㋐　光の反射・屈折・・・・・・6時間
　㋑　凸レンズの働き・・・・・・3時間
　㋒　音の性質・・・・・・・・・5時間
（イ）　力の働き
　㋐　力の働き・・・・・・・・・5時間
小単元のまとめ・・・・・・・・・1時間

指導計画に則って授業を行う際、３つの資質・能力の柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に基づいた評価規準について絶対評価を行うことが求められます。理科学習には、他教科と同様にこれらの「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価観点があります。ここでは、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）で示されている、以下の基本的な方針に従います。

●学習評価の在り方
①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと、③教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できないことがないようにすること

この方針に従うと、40人前後の生徒について、毎時間3観点の評価全てを行うことは、かなりの労力と時間が必要となります。現実的には、総括的評価は毎時間1観点以下に絞って評価し、観点同士のつながりを考慮しつつ単元全体を通して3観点が網羅できればよいといえます。したがって、指導計画と評価規準をよく練り、単元の見通しをもつことが重要となります。3つの評価規準の具体及び評価の視点・方法については、以下の通りです。

ア　知識・技能

評価規準

| | |
|---|---|
| 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | |
| 視点 | ●知識及び技能の習得状況<br>・学習の過程を通じて知識及び技能の習得をしているか。<br>・既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解しているか。 |
| 方法 | ●ペーパーテスト<br>・事実的な知識の習得を問う問題<br>・知識の概念的な理解を問う問題<br>をバランスよく適切に組み込む<br>●知識や技能を用いる場面<br>・文章による説明<br>・内容の特質に応じた観察・実験<br>・式やグラフで表現する 等 |

イ　思考・判断・表現

評価規準

| | |
|---|---|
| 自然の事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。 | |
| 視点 | ●知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。 |
| 方法 | ●多様な活動の様子やその成果物<br>・ペーパーテストに対する解答<br>・論述やレポートの作成、発表<br>・グループでの話合いにおける態度<br>・作品の制作や表現<br>・ポートフォリオや成果物の活用 |

なお、「知識及び技能を活用して課題を解決する」という過程は、大きく次の三つに分類されます。

①物事の中から課題を見いだし、その課題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の課題発見・解決につなげていく過程
②精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
③思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

ウ　主体的に学習に取り組む態度

評価規準

| | |
|---|---|
| 自然の事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。 | |
| 視点 | ●以下の二つの側面の評価<br>①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしているか。<br>② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているか。 |
| 方法 | ●多様な活動の様子やその成果物<br>・ノートやレポート等における記述の分析<br>・授業中の発言内容<br>・教師による行動観察<br>・生徒による自己評価や相互評価 |

⑤理科の見方・考え方について

「見方・考え方」とは、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという物事を捉える視点や考え方のことです。すなわち、理科の見方・考え方とは、身近な自然現象を理科の枠組みで捉え、思考していくきっかけとなるものです。この理科の見方・考え方を授業の中で豊かに働かせていくことで、生徒の学びがより深くなり、よりよい資質・能力の育成につながります。このことについて授業者として理解を深めておき、本時のどの学習過程でそのような見方・考え方が働くかを見通して指導案を作成できるとよいです。

(2) 指導案への記載項目と作成のポイント

次に、実際の指導案を基に作成するポイントを示します。

令和〇年〇月〇日（〇）　第〇時

# 第３学年〇組　理科学習指導案

授業者　〇〇　〇〇㊞

教育実習中には指導者として指導にあたっている教諭名をあわせて書きます。また、氏名の最後の１文字の１／２～１／３にかかるように私印を押すことがあります。

## 1　単元名　運動の規則性

## 2　単元について

（1）単元観

本単元は，物体の運動に関する現象について、日常生活や社会と関連付けながら、見通しをもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、物体に働く力と物体の運動の様子、物体に力が働くときの運動と働かないときの運動についての規則性を見いだして理解させることが主なねらいである。その際、力と運動に関する観察、実験の技能を身に付けさせる。

（2）生徒観

生徒は，小学校第5学年で「振り子の運動」，小学校6学年で「てこの規則性」について学習している。また，中学校第1学年で「身近な物理現象」において，力の性質として「物体の形を変える，物体を支える，運動の様子を変える」というように，力の基本的な働きについて学習をしている。

（3）指導観

本単元では，日常生活と関連付けて物体の運動に関する観察，実験を行い，力学の法則や規則性に気付かせていくために，日常生活の物体の運動の例を挙げて生徒に興味をもたせていく。物体に働いている力は目に見えないが、物体の運動と力の関係について記録タイマーやばねばかりを用いて物体の運動の様子や力の大きさを可視化することで力と物体の運動の関係に迫らせたい。記録タイマーの基本的な操作方法やデータの処理の仕方を学び、データから物体の運動の様子を捉えられる力を身に付けさせたい。

本時の授業は，記録タイマーを用いて，天井から落下してくる物体の落下時間と等速直線運動する物体の速さを求め，落下してくる位置からどのくらい手前で物体を落とせば，捕らえることができるのかを考えさせる。本時の最後では，物体の運動が予測した通りなのかを検証実験を行い確かめる。キャラクター人形という具体物救うことを課題さらに高まることを期待する。特に，本実験で達されたときに生徒は感動し，運動は科学的に推らの活動を通して，思考力・判断力・表現力等を

「単元観」：学習指導要領に示された指導すべき内容や目標、学習の系統性などを書きます。
「生徒観」：生徒の既習事項やアンケート等によって明らかになった生徒の実態を書きます。
「指導観」：「単元観」と「生徒観」を基に、どのように指導していくのか授業者の考えを書きます。

## 3　単元の目標

物体の運動に関する現象について、日常生活や社会と関連付けながら、見通しをもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、物体に働く力と物体の運動の様子、物体に力が働くときの運動と働かないときの運動についての規則性を見いだして理解させる。

学習指導要領に示された単元の指導内容を分析し、生徒が身に付けた形で書きます。

## 4　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 運動の規則性を日常や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 運動の規則性について，見通しをもって観察，実験などを行い、その結果を分析して解釈し，運動の速さと向き、力の働く及び働かない運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに，探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。 | 運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。 |

本時の授業のねらいが、単元の評価規準のどの部分を拠り所としているのかを明確にします。

## 5　単元の指導と評価の計画

（1）運動とエネルギー（全31時間）

（ア）　力のつり合いと合成・分解（7時間）

（イ）　運動の規則性（13時間）

㋐　運動の速さと向き　・・・・・・・3時間

㋑　力と運動　・・・・・・・10時間（本時８・９／１０時）

生徒の学習内容を基に、前述した3観点を考慮して指導と評価の計画を立案します。本時の展開が指導計画にどの部分にあたるか記載し、前時までの学習事項や資質・能力のつながりを示します。

| 時 | ○学習内容　・学習活動 | ねらい（指導目標）と<br>具体の評価規準 | 重点 | 記録 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>・<br>2 | ○運動の速さと向き<br>物体の運動の速さと向きについて、記録タイマーを用いて調べる。 | 記録タイマーの仕組みや使い方を理解し、物体の運動について、適切に記録・整理している。 | 知 | | 行動観察<br>振り返りの記述分析 |
| 3<br>・<br>4 | ○等加速度運動<br>斜面を下る台車の運動を調べる実験を行い、台車に一定の力が加わり続けたときの速さの変化について理解する。 | 実験結果から、台車に一定の斜面方向の分力が加わり続けたとき、台車は等加速度運動をすることについて、自らの考えを導き、表現している。 | 思 | ○ | 考察の記述分析 |
| 5 | ○自由落下<br>自由落下する物体の運動について調べる実験を行い、自由落下は等加速度運動であり、速さの増加量は物体の質量によらないことを理 | 自由落下運動と斜面を下る台車の運動を関連付けて考え、それらの運動はともに等加速度運動であることおよび物体の質量によらないことについて、実験結果から、自らの考えを | 思 | | 考察の記述分析 |
| 6<br>・<br>7 | ○等速直線運動<br>自由落下するおもりに引<br>平面上を移動する台車の運<br>て調べる実験を行い、進行<br>が働いていない物体は、等速直線運動することを理解する。 | 表現している。 | | | |
| 8<br>・<br>9 | ○自由落下と等速直線運動<br>落下してくる物体を等速直線運動する物体でとらえる実験を行う。 | ２つの物体の運動について、記録タイマー等を用いて、結果を適切に記録・整理している。 | 知 | ○ | 行動観察<br>振り返りの記述分析<br>レポートの記述分析 |
| | | 課題解決に必要な検証実験を計画し、結果を分析して解釈し、自由落下してくる物体を等速直線運動している物体でとらえている。 | 思 | ○ | |
| | | 物体の運動の規則性を調べる実験に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 態 | ○ | |
| 10 | ○慣性<br>日常の慣性の例を挙げ、慣性の法則について理解する。 | 慣性に関わる実験を様々な実験を行い、慣性の法則について知識を身に付けている。 | 知 | | 行動観察<br>振り返りの記述分析 |

評価は、国立教育政策研究所が発行している「指導と評価の一体化のための参考資料」を参考にして、単元の指導における総括的評価場面の厳選と形成的評価による学習改善のためのフィードバックの場面とを分け、評価の意図を明確にします。

○・・・全生徒の学習の記録をとり、総括につなげるもの

＿＿＿・・・「理科における資質・能力」との関連するもの

（ウ）　力学的エネルギー

ねらいは、5「指導と評価の計画」に記載した「ねらい（指導目標）と具体の評価規準」の3観点から引用します。基本的には、一単位時間の授業（50分）の中では、総括に生かす評価観点は、0～1個が望ましく、必ずしも毎時間総括評価を行う必要はありません。それは、評価は生徒の学習改善や教師の指導改善が大きな目的であり、形成的評価の在り方が重視されているからともいえます。「資質・能力の3つの柱」で記載します。

## 6　本時の学習

(1)ねらい

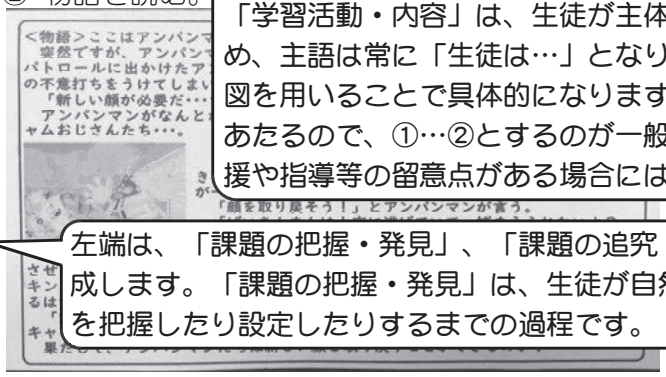
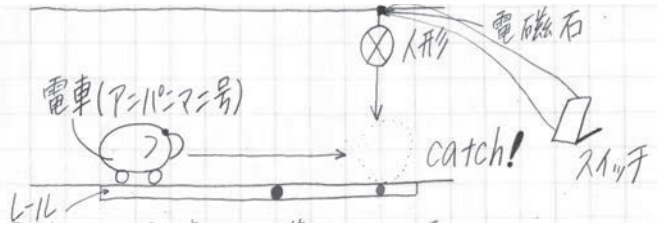
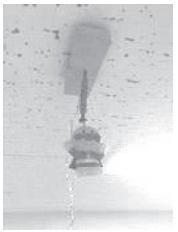
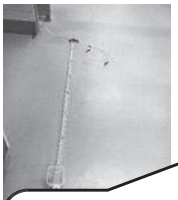
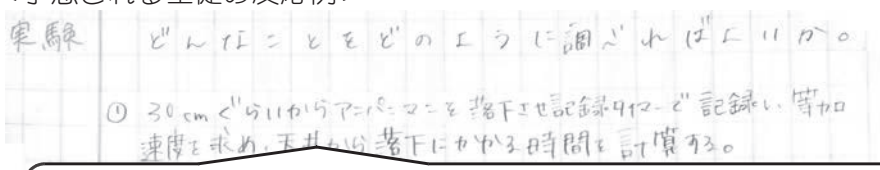
（知識及び技能）　記録・整理できる。

（思考力、判断力、表現力等）　・課題解決に必要な検証実験を計画し、結果を分析して解釈し、自由落下してくる物体を等速直線運動している物体でとらえられる。

（学びに向かう力、人間性等）　・物体の運動の規則性を調べる実験に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

(2)展開

授業者の力量や工夫が最も表れる部分です。指導案をつくりながらも生徒のもつ視点を忘れずに、「自分が受けてみたい授業」をつくろうと心がけることが大切です。

| 過程 | 学習活動・内容 | 教師の支援（・）と評価 |
|---|---|---|
| 課題の把握・発見 | ① 前時までの復習（既習事[illegible]<br>・斜面を下る[illegible]<br>体の運動の[illegible] | [illegible]の働く運動と働かない運動とを分け |
| | ② 物語を読む。<br>  <br> | |
| | ③ 物語の設定条件について整理する。<br>  <br> | ・条件を伝達する。<br>＜条件＞<br>① 人形は本番として、３回まで落としてよい。検証実験中は落とせない。<br>② 人形は自由落下する。<br>③ 天井までは２９３ｃｍとする。<br>④ 救出できたかどうか、iPadを配付し動画を撮影する。 |
| | ＜概要＞<br>天井に電磁石で吊した人形の顔をスイッチで落とし、レール上を運動する電車でとらえる。<br>  <br>  | ・あらかじめ組んでおいた実験装置で演示を行い、物語の設定条件についてイメージをつかみやすくさせる。<br>発問 人形をとらえるためには、電車が落下点の何cm手前に来たとき、スイッチを切って落下させればよいか。 |
| | ④ 本時の課題を知る。<br>アンパンマン号が落下点の何cm手前に来たとき、スイッチを切ればよいか。 | |
| 課題の追究・解決 | ⑤ 課題を解決するための検証実験について考え、班で意見交換を行う。<br>＜予想される生徒の反応例＞<br>  <br>実験 どんなことをどのように調べればよいか。<br>① 30cmぐらいからアンパンマンを落下させ記録タイマーで記録し、等加速度を求め、天井から落下にかかる時間を計測する。 | ・ホワイトボードを配布し、意見交換が円滑に行われるよう支援する。<br>・どんな結果が得られれば、課題が達成できるのかといった目的意識及び見通しを |
| | ⑥検証実験に必要な器具を準備し、班ごとに実験を行う。<br>〈準備〉<br>□記録タイマー・[illegible]<br>□簡易速度計 [illegible] | |

基本的に「学習活動・内容」と「教師の支援と評価」の2段組で構成します。「学習活動」「教師の働きかけと予想される生徒の反応」「指導上の留意点と評価」の3段組で構成されることもあります。
「学習活動・内容」は、生徒が主体となっての活動内容を具体的に書くため、主語は常に「生徒は…」となります。言葉で表現しきれない場合には、図を用いることで具体的になります。また、この中の数字は、(2)の下にあたるので、①…②とするのが一般的です。生徒の活動に対して、教師の支援や指導等の留意点がある場合には、「教師の支援と評価」に明示します。

左端は、「課題の把握・発見」、「課題の追究・解決」、「省察」という学習過程で構成します。「課題の把握・発見」は、生徒が自然の事物・現象から問題を発見し、課題を把握したり設定したりするまでの過程です。

観察・実験方法の演示は、実験装置や薬品、器具を書画カメラ等を用いてスクリーンに投影したり、写真を交えた手順スライドを提示したりしながら行うとよいです。生徒は具体的な操作イメージをもって観察・実験に取り組みやすくなります。

授業のねらいによっては、他の過程に重点的に時間を割くためにワークシートに観察・実験方法をあらかじめ記載しておくことも考えられます。ただし、その際、観察・実験が生徒の目的意識のない、ただの作業になってしまわないように注意が必要です。

器具の配布方法や片付けは、それぞれ5分以内が目安です。危険が伴うマッチや薬品等は安全上、教師の目の届くところに必ず置きます。その他の器具は生徒に用意させると、主体性を育むことにつながります。

課題の追究・解決

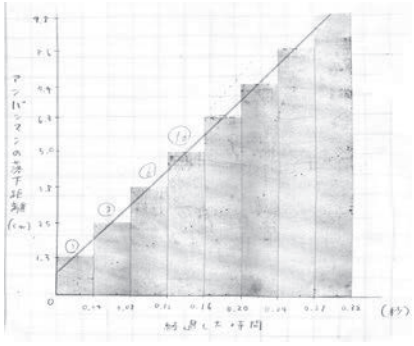
生徒の活動を支援するために教室内を授業者が見て回ることを「机間指導」といいます。ここでは、支援の必要な生徒への関わり方を記載します。授業者自身が予備実験等でコツをつかんでおくことが、机間指導の際に有効に働きます。

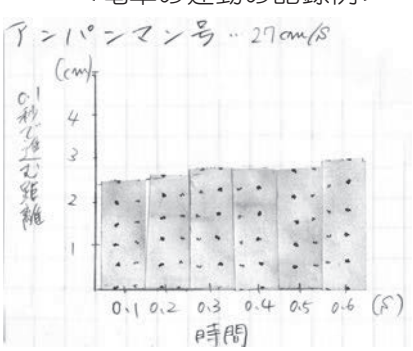




・必要に応じて、電卓やシール、定規などを配布する。
・結果を各自のノートにしっかりと記録・整理させる。

＜電車の運動の記録例＞



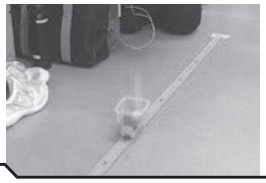



評価
〈知識・技能〉
２つの物体の運動について、記録タイマー等を用いて、結果を適切に記録・整理している。
【レポート（記述）】

⑦ 実験結果を整理し、記録する。
＜自由落下の記録例＞
◇毎秒７．６ｃｍの増加量なので、２７５㎝落下するには、0.7～0.8秒かかる　･･･など

◇平均の速さは27㎝/ｓ　･･･など

⑧ 実験の結果を基に、電磁石のスイッチを切るべきポイントの設置場所について検討する。



⑨ 本実験を行い、結果をiPadの動画として記録する。

評価
〈思考・判断・表現〉
課題解決に必要な検証実験を計画し、結果を分析して解釈し、自由落下してくる物体を等速直線運動している物体でとらえている。
【レポート（記述）・iPad動画】

生徒が活動しやすい理科室経営が、授業の円滑な進行にとても役立ちます。片付ける場所（保管場所）を明確にしておき、生徒が混雑しないような配置にすることや棚に表示をつくって迷わないようにするなどの工夫が考えられます。

省察

⑪ 本実験の結果を記録し、本時の振り返りを記入する。

「省察」は、本時の取り組みを整理し、自己の変容を自覚する過程を指します。

・「検証実験の有効性」などの探究の過程を振り返る視点を明示し、内容を焦点化して記述させる。

評価
〈主体的に学習に取り組む態度〉
…の運動の規則性を調べる実験に…見通しをもったり振…など、科学的に探究…いる。
…記述）】

前述の「指導計画と評価規準」に基づいて、生徒に対して「絶対評価」を行います。総括にいかす評価の場合、同じ条件で同一学年の全生徒を評価します。そのためには、「評価規準」に基づいた「評価基準」（ルーブリック等）が必要となります。本時の授業の学習過程の中で、どの活動で評価するのか、その位置付けを指導案の中に明確に示します。

(3)板書計画

「課題」「観察・実験の方法・手順」「結果の予想」「結果」「考察」等の学習過程の明示は、板書を構造化するためにとても大切です。中でも「予想」「結果」「考察」の板書の仕方には特に工夫が必要です。子供の予想をどのように板書するのか等を、生徒のノートにこの板書がどのように残るのかといった視点と関連付けながら計画します。

課題

観察・実験の方法
※詳細は省略

### (3) 予備実験の大切さ

「展開」を書く前に、欠かせないのが予備実験です。その学校に実験器具はいくつあるのか。足りない場合は代用品でも可能かどうか等を調べなければなりません。できれば、生徒一人ひとりに観察・実験を行わせられるように準備をしましょう。そうすることで、一人ひとりの生徒の「観察・実験の技能」を的確に評価できるはずです。班での活動も、3人以上になると、見ているだけの生徒が出やすくなるので注意してください。

予備実験は十二分に行う必要があります。実習生の授業において、生徒をうまく動かせていない時は、予備実験が不十分であった可能性が考えられます。自分がうまく実験できるようになったところで終えず、生徒が陥りそうなミスまでを想定して予備実験をすることで、生徒が誤った操作で活動をした事態にも落ち着いて対応できます。

さらに、予備実験から生徒の活動時間が予測できます。準備・片付けの時間を除いた40分間では、生徒の大きな活動は20分程度となります。その時間の確保のためには「導入」を10分程度に収め、課題へ導く流れをよく練る必要があります。「省察」でも、10分±5分の時間配分をしておくと、時間が余ったり足りなくなったりしたときも慌てずに対応できます。

### (4) 安全上への配慮の大切さ

授業中、安全面への配慮を十分に行うとともに、生徒の事故やけがを未然に防ぐことは教師の最優先事項となります。理科学習では、火や熱湯、薬品、刃物、ガラス等の扱い方を誤ったとき、生徒が大きな怪我をすることが想定されます。生徒が活動に入る前に、「実験中は、椅子を入れて立ってやること。」のような基本的なきまりを徹底し、「○○があったら、途中でも観察・実験を中止する。」と毅然とした態度で生徒に伝えることはとても重要なことです。教師は、生徒の命を預かっていることを重く受け止め、私語が多くて注意を聞いていないときは、「この状況では安全に観察・実験できない。」と勇気をもって伝えましょう。指導案上の教師の支援にも、しっかりと安全上の配慮を記載します。

## 3　授業改善

指導を構想し、予備実験を十二分に行った上で指導案を作成した後は、いよいよ授業です。

### (1) 初めての授業

初めて教壇に立ち授業をするとき、誰もが緊張し思い通りにできないものです。その中でいろいろなことを求めるのは、無理があるともいえます。しかし、少なくとも以下の3点は初回においても特に心がけ、必ずできてほしいことです。

- 後ろまで聞こえる大きな声で話すこと
- 黒板に正しい書き順で、文字を書くこと
- 生徒の安全に配慮して授業を行うこと

### (2) 授業参観（授業分析）の視点

2回目以降の授業は、単元や教材、教具を活用して、より実践的な活動が求められます。しかし、2回目からうまくできるわけではなく、よい授業を行うために、1つずつ課題をクリアしていかなければなりません。その中で注意すべきことは多岐にわたります。

そこで、授業を行うことと一体となるのが、授業分析（授業参観）による授業改善の方法です。もちろん、授業を回数を経て、授業者としての経験値を上げていくことは大切です。しかし、自身で授業を行わずとも、他者の授業を参観し授業を分析することで幅広く指導力を高めることができます。まさに、よき参観者はよき授業者なのです。

よき参観者とは、「よい授業」について理解しており、その視点をもっていることが必要です。公教育における「よい授業」の一つの側面は、教師が生徒一人ひとりに、学習指導要領に示された目標を着実に定着させていることといえます。授業者が理科の学習指導要領に示された目標

> 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り【（１）～（３）】育成することを目指す。

に基づいて、活動のどこに重点をおいて授業を行っているのかを参観によって捉えることが求められるのです。

授業の参観は、「登山」のイメージに似ています。登山者の力量や装備によって、登れる山の高さやルートが異なることと同様に、どのくらいの力量の教師がどんな準備をして授業を行っているのかを捉えようとして参観すると、その後の議論も深まりやすくなります。

以下に参観の視点を示します。まずは、実習での参観の際に参考にしてみてください。

＜授業参観の視点と参観者の心がけ＞

(1)教師の働きかけ
□導入：課題の把握・発見
①意欲を高める雰囲気づくり　②観察・実験の演示　③資料提示
④発問　⑤指示の配慮　⑥生徒との関わり　⑦予想した反応との差違への臨機応変な対応　等
□展開：課題の追究・解決
①活動・内容の充実の工夫　②器具の準備　③活動時間の確保
④机間指導　⑤結果や生徒の意見に基づいた考察　等
□まとめ：省察
①生徒の言葉でまとめられているか　②課題と正対しているか
③省察の視点がしぼられているか　等

(2)教師自身のこと
□教師の発言（声の大きさ、話す速さや間、言葉遣い、指示の適切さ、名前での指名　等）
□表情・動作（穏やかさ、生徒との関係、机間指導等）
□対応（生徒の質問への応答、指導　等）
□指導案及び授業の流れ（導入、展開、まとめ）
□観察・実験（器具の準備、個別化への対応）

(3)板書
□課題、指示の明確さ
□生徒の反応の反映
□板書の位置、文字の大きさ、色分け、強調　等
□文字の正しさ、丁寧さ、筆順の正しさ　等



(4)教育機器の活用
□(デジタル)教科書
□プロジェクター
□ビデオカメラ・書画カメラ
□タブレット型PC　等

(5)生徒の反応
□発問に対する予想される生徒の反応がどのようか
□生徒の見方・考え方が働いているか
□個の反応の違いはどのようか（個性、理解の差）



◎参観者としての心がけ
□「自分なら・・・」という視点で授業参観する。
授業で反省すべき点をただ羅列するのではなく、なぜその問題点が生じたのか、どうすれば防げるのかを論ずることがお互いの技能向上につながります。
□積極的に生徒の活動を把握する。
生徒の動きを見れば、教師の指示がどの程度伝わっているのか分かります。
□指導案に書かれていないことを記録する。
発問や指示、生徒の反応、板書内容、主な時間の経過、自分の考える解決策などを書き加えて、互いの教材研究に生かすように心がけます。
□課題意識をもって、多くの授業を参観する。
「異なる教材におけるクラスの反応」や「同一教材における他クラスの反応」、「学年ごとの発 達段階」の違いといった、中学校段階での生徒の実態を豊かに把握することが大切です。

◎反省会について
「本時のねらいにせまれたか」という共通理解のもとに、生徒の姿を中心に意見交換をするとよい反省会になります。すぐに改善できることと生徒との信頼関係や教授技能が向上したらできることを分析して、次の授業に生かすことが重要です。

## 2.5 音　楽　科

### (1) 学習指導案を書く前に

音楽室で、一人一人の生徒が生き生きと学び続けるよりよい授業を構築するためには、教師自身が常に学び続けなければなりません。よりよい授業をするために、教師が学ぶこと、これが教材研究です。充分な教材研究なしには、充実した授業はあり得ません。この教材研究を生かし、授業の立案をしたものが学習指導案です。まずは、学習指導案の書き方について述べる前に、教材研究の進め方について簡単に触れておきます。

#### Ⅰ　作品論的教材研究

研究家としての姿勢で楽曲等に接するのが作品論的教材研究です。この段階では、生徒の存在、あるいは授業の中で何をどのように扱うかなどと言ったことについては一切考えずに、なるべく多くの情報を収集するように心がけることが必要です。

①楽曲名
②アナリーゼ
③作品の周辺事項（作曲者、制作時代および時代背景、他芸術との関わり、関連作品等）

#### Ⅱ　学習指導論的教材研究

Ⅰの作品論的教材研究によって集めた多くの情報の中から、何を（内容）、どのように（方法）指導し、どのような力を身に付けさせるかを考えるのが、学習指導論的教材研究です。この段階で初めて、楽曲は「教材」となり、生徒の存在やその反応を考える必要が出てくるのです。

以下に、学習指導論的教材研究の項目とその概要をまとめます。

**①　教材について**
- ・教材としてどんな価値をもった作品か
  （教材としての価値）
- ・生徒はどう表現するか、どう感じ取るのか
  （生徒の実態と反応の予想）
- ・この教材によってどんな力を付けられるか
  （指導内容）
- ・この教材を授業の中でどう取り扱うか
  （授業のビジョン）

**②　学習指導の目標**
- ・何を学ばせるのか
- ・どんな力を付けるか
- ・どんな人間性を育成できるか

**③　学習指導計画**
- ・何時間で扱うか
- ・どんな手順で、何を、どのように扱うか

**④　本時の学習**
- ・この時間で学習することの中心は何か
- ・どのように学習を展開するか
  （学習内容、学習活動、学習形態、時間配分、留意点、評価の観点・方法、板書計画　等）

なお、この学習指導論的教材研究を進めるに当たっては、
(ｱ) 当該学年の音楽科の指導目標・指導事項
(ｲ) 当該学年の生徒の実態
　（生徒の音楽的能力・音楽経験、生活経験等）
(ｳ) 使用教科書の構成、教材の体系
等について、その内容を十分に把握しておく必要があります。また、ここに略述した教材研究の進め方はあくまでも教材研究の一つの方法に過ぎません。教材や生徒の実態、指導内容に合わせてさまざまに工夫してみるとよいでしょう。

### (2) 学習指導案の形式とその内容

埼玉県中学校教育課程編成要領の「音楽」に示された学習指導案を基本として、学習指導案の形式と、それぞれの項目に何をどのように書くのか、その概要を述べていきます。

**①　題材名　「○○○○○○」**

「混声三部合唱の響きを味わおう」「アンサンブルを楽しもう」等のように、音楽的なまとまりを表す「主題による題材名」のことが多いですが、鑑賞では「楽曲による主題名」もあります。

**②　題材設定の理由**

生徒の能力、発達段階、生活体験、興味などの実態や教材のもつ音楽的な内容を踏まえて、「このような生徒に、教材のこの部分を使って、このような内容を教え、このような力を身に付けさせたいので、この題材を設定した」というような、指導者の教材観、指導観、題材観を明確にします。それぞれを項目立てて記述する場合もあります。

**③　題材の目標**

題材の指導全体を通した目標であり、中学校指導要領の目標（全体および当該学年）を踏まえて設定します。その配列は、学習の深化、発展に適応させ、語尾は生徒主体とします。

**④　教材について**

指導計画の中で使われる楽曲名、作詞者名、作曲者名、演奏形態等を記入します。また、なぜその教材を選んだかについても記入します。

**⑤　指導事項と〔共通事項〕の関連・具体的な活動**

本題材での指導事項と〔共通事項〕の関連及び具体的な学習活動を記述します。〔共通事項〕に関し

ては、関連のあるものは一つにまとめて明記することもできます。

**⑥　評価規準**

題材の目標を踏まえて、生徒の学習の到達度を適切に評価するために、次の三つの観点で評価規準を考えます。

（ｱ）知識・技能
（ｲ）思考・判断・表現
（ｳ）主体的に学習に取り組む態度

題材全体を通して、三つの観点でバランスよく評価できるように配慮します。

**⑦　指導と評価の計画**

この題材での各授業の大まかな内容を書き、全体として、どのような計画で指導をしようとしているか表にしてわかりやすくまとめます。授業ごとに、学習内容、学習活動、指導上の留意点、評価規準・方法についての記述をします。

＜学習内容・学習活動＞

生徒が学習して身に付ける学習内容（〇）と実際の学習活動（・）を分けて、生徒主体の言葉で書きます。

（例）〇長唄の役割と効果を理解して、歌舞伎を味わう。
・歌舞伎「勧進帳」を視聴する。
・気付いたことを発表し合う。
・歌舞伎について根拠をもって批評する。

学習内容の下に、 具体的な学習活動を順次書き並べるとわかりやすくなります。

＜指導上の留意点＞

学習指導上、授業者としてあらかじめ留意しておく事柄や指導することを教師主体の言葉で簡潔に書きます。

（例）〇・・・・・・・・できるようにする。
〇・・・・・・・・させる。
〇・・・・・・・・説明する。
〇・・・・・・・・例示する。

＜評価規準・方法＞

⑥の評価規準を受けて、具体的な内容を設定します。

（例）☆・・・・・思いや意図をもっている。
（思考・判断・表現、活動観察・ワークシート）

☆の後に評価規準を書き、（　）の中には、観点と評価方法を記入します。

評価は学習指導後にのみ行うものではありません。指導の改善を加えるために形成的評価を常に心がける必要があります。

また、教師による評価だけではなく、生徒相互の評価や生徒の自己評価も大切な評価活動です。こうした多彩な評価が取り入れられ、その後の指導に生かされ、評価と指導が一体となって機能したとき、よりよい授業が展開されることになるのです。

一つの題材において、表現と鑑賞、歌唱と器楽など、さまざまな活動の関連が図られると、更に深まりのある学習計画となります。

**⑧　本時の学習指導**

（1）目　標

題材の目標に到達する過程における本時の目標および一単位時間における具体的な学習の目標を記述します。

（2）展　開

記入の仕方は、指導計画の各項目に準じます。

指導計画の本時の内容をより具体的に記述することになります。

指導上の留意点では、生徒の予想される反応等を記述してもよいでしょう。評価項目においては、本時の目標にあったものを心がけることが大切です。

※必要に応じて、在籍生徒数や、備考等の項目を設けることもあります。

**◎指導案作成上の留意点**

①導入の段階では、興味の喚起、目標の確認など自主的な学習、積極的な活動の心構えをつくるようにします。

②展開の段階は、本時の目標を踏まえて、何をどう教えたいのかを明確にしていきます。
・題材や１次の計画が数時間に及ぶ場合でも、１単位時間の展開はまとまりをもち、完結することが大切です。
・学習指導上の留意点と評価を示すことによって、さらに指導の細部がわかりやすくなるようにします。
・学習活動と評価の観点を明確にしていきます。

③整理の段階では、学習内容に対する学習者の理解度や知識技能の定着の度合いの確認や、さらに次への発展をねらって効果的な手だてを工夫します。

(3)学習指導案の実際

# 第３学年○組　音楽科学習指導案

授業者　　○　○　○　○

1　**題材名**　　歌舞伎の魅力を味わおう（歌唱・鑑賞）

2　**題材について**

生徒は，合唱や器楽で表現することや音楽を鑑賞することなどの様々な活動に興味をもっている。そして，それらに必要な知識や技能を得たいと考えており，授業に対して真面目に取り組んでいる。４月からは「花」の二重唱に取り組み，少人数での重唱に困惑しながらも，一人一人が言葉の特性を生かして表現の工夫をしながら，歌唱をすることができた。

本題材では，我が国の伝統的な芸能である「歌舞伎」を取り上げ，歌唱と鑑賞を関連付けて扱う。我が国の伝統音楽に親しみ，音楽に対する理解を深めるために，長唄をうたう活動を行い，長唄にふさわしい発声や言葉の発音，身体の使い方はどのようなものかを考え，工夫して音楽表現をすることにつなげていく。また，歌舞伎の登場人物の心情を理解し，場面にあった発声やうたい方などを工夫して音楽表現をすることによって，歌舞伎における長唄の役割や特徴をより深く理解させていく。加えて，歌唱活動と鑑賞活動を効果的に行い，音楽表現と鑑賞の両者が相乗的に高まり深まっていくように工夫して指導していく。歌舞伎の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解させ，歌舞伎のよさや魅力を味わわせたい。

なお，本題材では，平成29年度告示の学習指導要領の「Ａ表現」(1)歌唱の事項ア・イの（イ）・ウの（ア），「Ｂ鑑賞」の事項アの（ア）（イ）・イの（イ）（ウ）を指導するものとする。加えて，〔共通事項〕の事項アの音楽を形づくっている要素において，思考・判断のよりどころとなる主な要素として，音色，リズム，速度，旋律を扱う。事項イとして，これらの要素と関わらせながら拍，拍子，間を扱う。

3　**題材の目標**

(1) 音楽が生み出す雰囲気や表情などと音楽の構造との関わりについて理解するとともに，長唄にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付ける。

(2) 長唄の音色，リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。

(3) 歌舞伎，長唄の特徴に関心をもち，音色，リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，長唄をうたったり歌舞伎を鑑賞したりする学習に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むとともに，音楽に対する感性を豊かにする。

4　**教材について**

歌舞伎「勧進帳」は源義経や武蔵坊弁慶などが登場する物語であり，生徒にとって馴染みやすいものである。「勧進帳」を教材として扱い，用いられている長唄を実際にうたう体験を通して長唄の音楽的な特徴を感じ取らせるとともに，伝統芸能としての歌舞伎を味わわせたいと考え選択した。

長唄「勧進帳」　歌舞伎「勧進帳」　三世　並木五瓶　作詞　／　四世　杵屋六三郎　作曲

(1) 長唄①　「旅の衣は篠かけの露けき袖やしおるらん」の部分

謡ガカリの部分で，発声と言葉の特徴を主に聴き取り，最初に扱う教材として適していると考え選曲した。

(2) 長唄②　「これやこの　～　逢坂の山かくす」の部分

安宅の関所に荷物持ちに変装した義経が，山伏姿の弁慶と４人の家来を従えて到着する場面の音楽。生徒が堂々と豪快に声を出してうたいやすいと考え選曲した。

(3) 長唄③　「ついに泣かぬ弁慶も一期の涙ぞ殊勝なる　判官御手を取り給い」の部分

勧進帳の「クドキ」の部分。歌舞伎での場面の様子や弁慶の気持ちを理解して、その気持ちを表現するにはどのようにうたえばよいかを考えさせる曲として適している。

5　学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イとの関連及び具体的な学習活動

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 指導事項<br>内容 | 歌唱ア　歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること<br>歌唱イ（イ）声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり<br>歌唱ウ（ア）創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能<br>鑑賞ア（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠<br>（イ）生活や社会における音楽の意味や役割<br>鑑賞イ（イ）音楽の特徴とその背景となる文化や歴史，他の芸術との関わり<br>（ウ）我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性 | | | |
| 〔共通事項〕 | アに関わる要素 | 音色 | リズム・速度 | 旋律 |
| | イに関わる用語・記号 | | 拍・拍子・間 | |
| 具体的な<br>学習活動 | | ・長唄に合った発声と基本的な姿勢に気を付けて歌う。<br>・三味線の音色を感じ取り長唄を歌う。 | ・長唄や歌舞伎音楽の特徴的な拍や拍子を感じ取り，歌ったり鑑賞したりする。<br>・長唄を歌ったり，鑑賞する活動を通して，長唄の間を味わう。 | ・長唄の言葉の抑揚や産字，節尻を感じ取り，歌ったり鑑賞したりする。 |

6　題材の評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 題材の評価規準 | 知①音楽が生み出す雰囲気や音楽の構造との関わりについて理解している。（歌唱）<br>技 長唄にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，歌唱で表している。（歌唱）<br>知②曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑賞） | 思①長唄の音色，リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。（歌唱）<br>思②長唄の音色，リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。（鑑賞） | 態歌舞伎，長唄の特徴に関心をもち，音色，リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，長唄をうたったり歌舞伎を鑑賞したりする学習に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |
| 1時 | 知① | | |
| 2時 | | 思① | |
| 3時 | 技 | | |
| 4時 | | 思① | |
| 5時 | 知② | | 態 |

7　指導と評価の計画（全5時間）

| 時 | ◆ねらい　○学習内容　・学習活動 | ○指導上の留意点　☆評価規準と評価方法 |
|---|---|---|
| 1 | ◆長唄や歌舞伎の特徴に関心をもつとともに，歌舞伎における長唄の役割について知り，主体的に表現したり鑑賞したりする。 | |
| | ○歌舞伎を視聴し，長唄や下座音楽の役割を理解して，歌舞伎の雰囲気と音楽的な関わりに関心をもつ。 | |
| | ・歌舞伎「勧進帳」の概要を知り，ダイジェストを鑑賞する。 | ○歌舞伎に関しての基本内容について，映像を視聴しながら理解させる。 |
| | ・映像資料の視聴などを通して，長唄や下座音楽の特徴，役割・役者・演出や舞台の特徴をワークシートにまとめる。 | ○歌舞伎が総合芸術であることを捉えさせ，その中で長唄や下座音楽がどのような役割を担っているかを考えさせる。 |
| | ○長唄の発声やうたい方，音色，リズム，速度，旋律を知覚・感受する。 | |
| | ・長唄①を鑑賞し，音楽的な特徴について気 | ○歌舞伎における長唄の役割についても考えさ |

| | | |
|---|---|---|
| | 付いたことや感じたことをワークシートにまとめる。<br>・長唄①を範唱に合わせてうたう。<br>・歌舞伎や長唄のよさや魅力について，現時点で感じたことをワークシートにまとめる。 | せる。<br><br><br>○現時点での考えを書かせることで，第５時の授業において，歌舞伎や長唄のよさについて考えを深められるようにしておく。<br>☆（知①　活動観察・ワークシート） |
| 2 | ◆長唄にふさわしい発声や言葉の特性に関心をもち，長唄にふさわしい発声や言葉の特性を理解して，どのようにうたうかについて思いや意図をもつ。 | |
| | ○長唄にふさわしい発声や言葉の特性に関心をもち，知覚・感受しながらどのようにうたうかについて思いや意図をもつ。<br>・長唄②を鑑賞し，範唱に合わせてうたう。<br>・声の音色やうたい方，言葉の特性について気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめる。<br>・長唄の声の音色や発声，言葉の特性を生かしてうたうために，どのようなことを意識すると良いかグループで話し合う。<br>・試行錯誤しながら，長唄にふさわしい発声や言葉の特性を生かして，長唄②を範唱に合わせてうたう。 | <br><br><br>○範唱を聴いたり実際にうたったりする活動を通して，気付いたことや感じ取ったことを個人でまとめさせる。<br>○必要に応じて，長唄の発声を試させたりと，言語以外の要素も使って話し合わせる。<br><br>○話し合ったことを基に，どのように歌ったらよいか思いや意図をもたせる。<br>☆（思①　活動観察・ワークシート） |
| 3 | ◆長唄にふさわしい発声や言葉の特性に関心をもち，それらを生かして表現する学習に主体的に取り組み，長唄にふさわしいうたい方を身に付ける。 | |
| | ○長唄にふさわしい発声や言葉の特性に関心をもち，それらを生かして表現する学習に主体的に取り組み，長唄にふさわしいうたい方を身に付ける。<br>・長唄③について，範唱を繰り返し聴いたりして，長唄にふさわしい声の出し方，言葉の発音や抑揚，身体の使い方などを追求してうたう。 | <br><br><br>○前時で話し合った内容を基に，長唄のうたい方を確認させる。<br>○範唱を聴いてどのようなうたい方でうたえばよいかを考えさせ，発声や言葉の特性に気を付けてうたわせる。<br>☆（技　活動観察） |
| 4 | ◆歌舞伎の場面や登場人物の心情を理解し，長唄にふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。 | |
| | ○歌舞伎の場面や登場人物の心情を理解し，長唄にふさわしい声や言葉の特性を理解して，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。<br>・音色に注目しながら，長唄②・③の範唱を聴き比べ，長唄③はどのような感じがするかを考えワークシートに書き込む。<br>・長唄③をうたったり聴いたりしながら，歌舞伎のどのような場面なのかを考え，グループで話し合う。<br>・映像で実際の演奏を試聴する。なぜ，そのような音楽表現をしているのか，演奏者の意図や登場人物の心情を考える。<br>・実際に声を出したり，様々な歌唱表現を試したりして，どのような声や言葉の表現，音色，リズム，速度，旋律で表したいかについて考え，思いや意図をもつ。<br>・考えたことや感じたことについて発表し合い，学級全体で意見を共有する。 | <br><br><br>○音色に注目させ，歌詞だけではなく音楽を根拠にしながら，どのような感じがするか考えさせる。<br>○声に出して歌詞を読み，実際にうたったり聴いたりしながら，歌舞伎の場面や登場人物の心情をどのように表現しているかを考えさせる。<br>○実際の演奏を試聴し，長唄の特徴を感じ取り，歌舞伎の場面においての音楽的な効果や役割を考えさせる。<br>○登場人物の心情を踏まえた上で，どのような歌唱表現ができるか，音楽を根拠にさせながらワークシートに書かせ，自分自身の表現に生かせるようにする。<br>○考えた内容を基に全体で話し合い，学級全体で共有させる。その上で，更に自分の考えを深めさせる。<br>☆（思②　活動観察・ワークシート） |
| 5 | ◆長唄や歌舞伎の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解し，根拠をもって批評して，歌舞伎のよさや美しさを味わう。 | |

| | |
|---|---|
| ○歌舞伎「勧進帳」のその背景となる文化・歴史と関連付けて理解し，根拠をもって批評して，歌舞伎のよさや美しさを味わう。 | |
| ・歌舞伎「勧進帳」のダイジェストを視聴しながら，物語のあらすじを確認し，長唄の役割について考える。 | ○歌舞伎における音楽の役割を再度考えさせ，理解を深められるようにする。 |
| ・江戸時代から今日まで歌舞伎が続いてきた理由について考え，現代を生きる私たちにとって歌舞伎はどのような意味をもって存在しているかについて考える。 | ○今日の歌舞伎座の資料を用いながら，100年以上にわたって歌舞伎が今もなお続いていることについて触れ，総合芸術としてだけではなく，当時の人々の想いなども含めてうたい継がれていることについて考えをもたせる。<br>☆（鑑①　活動観察・ワークシート） |
| ・歌舞伎や長唄のよさや魅力について，これまでの学習を振り返りながらワークシートにまとめる。 | ○第１時の時と全く同じ問いについて考えさせ，本題材の学習を通してどのように変容したか根拠をもって批評させる。<br>☆（関①　活動観察・ワークシート） |

8　本時の学習指導（４／５校時）

(1) 本時の目標

①　長唄の音色，リズム，速度，旋律　を知覚し，それらの働きが生み出す　特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。

(2) 展開

| ○学習内容　・主な学習活動 | ○指導上の留意点　☆評価規準と評価方法 |
|---|---|
| ○長唄③について，歌舞伎の場面や登場人物の心情を理解し，長唄にふさわしい声や言葉の特性を理解して，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。 | |
| ・長唄②・③の範唱を聴き，範唱に合わせてうたう。 | ○学級で話し合ったことを踏まえつつ，発声や言葉の特性に気を付けてうたわせる。 |
| ・音色に注目しながら，長唄②・③の範唱を聴き比べ，長唄③はどのような感じがするかを考えワークシートに書き込む。 | ○音色に注目させ，歌詞だけではなく音楽を根拠にしながら，どのような感じがするか考えさせる。 |
| ・長唄③をうたったり聴いたりしながら，歌舞伎のどのような場面なのかを考え，グループで話し合う。 | ○声に出して歌詞を読み，実際にうたったり聴いたりしながら，歌舞伎の場面や登場人物の心情をどのように表現しているかを考えさせる。 |
| ・グループで話し合った内容を発表し合い，学級全体で共有する。 | |
| ・映像で実際の演奏を試聴する。なぜ，そのような音楽表現をしているのか，演奏者の意図や登場人物の心情を考える。 | ○実際の演奏を試聴し，長唄の特徴を感じ取り，歌舞伎の場面においての音楽的な効果や役割を考えさせる。 |
| ・実際に声を出したり，様々な歌唱表現を試したりして，どのような声や言葉の表現，音色，リズム，速度，旋律で表したいかについて考え，思いや意図をもつ。 | ○登場人物の心情を踏まえた上で，どのような歌唱表現ができるか，音楽を根拠にさせながらワークシートに書かせ，自分自身の表現に生かせるようにする。 |
| ・考えたことや感じたことについて発表し合い，学級全体で意見を共有する。 | ○考えた内容を基に全体で話し合い，学級全体で共有させる。その上で，更に自分の考えを深めさせる。<br>☆長唄の音色，リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す　特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもつ。　（思②　活動観察・ワークシート） |

9　**備　考**　　在籍生徒数　男子22名　　女子21名　　計43名

## 2.6 美　術　科

### (1) 学習指導案を書く前に

学習指導要領の趣旨を踏まえた美術の学習は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。」ことを目標としています。生徒が本来もっている創造的な表現欲求と豊かな感性に基づき、自分の願いや考えなどの思いを形や色で表したり、生活を明るく豊かにするものをつくり出したり、美しさや創造の喜びを味わったりする主体的な活動の場が美術の時間なのです。生徒がゆとりをもって楽しく美術の活動に関わり、その喜びを味わい、個性を生かした多様で創造的な活動をしていくために、その基礎となる感覚・感性や想像力、技能などの資質・能力を一層育てることを重視した魅力的な授業の創造が求められています。

そこで、学習指導案の書き方を述べる前に、これからの中学校美術教育が目指す方向性等についてまとめておくことにします。

### Ⅰ　これからの授業の方向

美術は、目に見えるものや目に見えない想像や心、精神、感情、イメージといったものを可視的・可触的なものに表現し実体化できる唯一の教科であるといってよいでしょう。したがって、心の教育にかかわる「美しいものや自然に感動する心の育成」が重視されていることからも、一層大切にされなければならないと考えます。美術科の目標に、「……、感性を豊かにし、……」と明確に謳われていて、“解説－美術編－”にも、「感性とは、『様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力』であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなす重要な資質である」と記されています。

感性を豊かにするためには、生徒が関心を示し、意欲を燃やし、態度として定着できる題材の設定や手だての講じ方が重要になります。いろいろな材料と深く関わりをもち、五感を十分に働かせた表現を経験させることにより、感性は高められ豊かになっていくからです。そこで、授業の創造にあたっては、生徒一人一人の思いや願いを十分に尊重しながら、彼らの感性を豊かに育んでいけるような指導計画を立案していくことが大切になっていきます。すなわち、生徒の実態等に応じて柔軟に対応できる指導計画が望ましいでしょう。「はじめに題材ありき」ではなく、指導のねらいを踏まえて、生徒一人一人ができるだけいろいろな材料や表現方法を選択できる柔軟な題材を設定することを心がけたいものです。全員に同じ材料や表現方法だけが与えられるのみの授業（教師にとっては指導しやすい画一的な授業）の弊害は計り知れません。生徒にとってはやらされているだけの授業になってしまうのを防ぎたいものです。

表現活動は、自分が成長するための試行錯誤の場であるともいえます。したがって、生徒にとって目標とするものは、教師が提示する参考作品や資料の完成度のレベルに求めるものであってはなりません。参考作品や資料はあくまでも生徒の発想を広げるためのものであり、自分の思いや願いをどう具現するかが目標なのです。教師が一方的に教え込むのではなく、一人一人が自分の頭で考え、心に感じたものを独創的に表そうとする生徒たちの目標達成を共感的に支援するのが務めであり、こうした支援的な指導観に立ってこれからの授業を考えていくことが極めて重要であると考えます。

### Ⅱ　題材設定から事後指導まで

ここでは実際の授業づくりを、具体的に「①題材設定」、「②授業の準備」、「③授業時の指導と評価」、「④事後指導」に分けて考えていきたいと思います。

#### ① 題材設定

系統的に組み立てられた指導計画に則り、育てたい能力や態度を明確にした上で、生徒の実態に即した題材を設定します。小学校図画工作科で大事にしている「提案」という形で教師から投げかけられるものが望ましいと考えます。

具体的に題材名として提案する際には、魅力的でいろいろと思いが広がっていくようなネーミングを考えたいものです。発想の広がりを制限してしまうような、制約を感じさせてしまうような題材名は避けたいものです。

たとえば、「一枚の板材で動物の形をした机上で使える整理箱をつくろう」といった題材名を示されたらどうでしょうか。この中に制約としての条件がどれほど含まれているか数えてみると…

ア：一枚（数量・大きさの限定）
イ：板材（材料の限定）
ウ：動物（モチーフの限定）
エ：机上整理（目的の限定）
オ：箱（機能の限定）

となります。これらすべての条件をクリアすることになると、そこに個性の輝きは感じ取れないのではないでしょうか。条件が多ければ多いほど、誰もが同じ目標に向かうことができるため、指導も明確に

なるし、ある程度は完成作品のレベルも期待できるでしょう。しかし、評価の規準は完成作品の質に求められ、技術的な面からのみの評価に陥る危険性がでてくるかもしれません。これでは生徒一人一人の思いを無視した画一的な指導からの脱却は望めそうもありません。

教育である以上、生徒の自分勝手な独りよがりの思いで自由にさせることをいっているのではありません。学習のねらいがどこにあるかをはっきりさせることであり、それを育てたい能力や態度として押さえ、どのような手立てを講じればよいか、が大切になります。この手立てこそ、ある意味で題材であり、提案として投げかける「題材名」なのです。単に「○○を描こう・つくろう」ではなく、“自分だったらこうしたい、こうしよう”という思いがふくらみ広がるような魅力的なネーミングを心がけるようにしましょう。

② 授業の準備

生徒一人一人の思いや願いを最大限に尊重すればするほど、用具類を含めた授業の準備は多岐にわたります。ときには思いもよらない材料や用具を要求されることもあります。設備や備品の関係ですべての要求に応えることはできないかもしれませんが、少なくとも相談活動等を通して生徒の目標達成のためにできることを生徒と一緒に探っていきたいものです。創意工夫によって新しい道が拓かれることもあるでしょう。

また、小中学校の連携を深めることも重要になります。特に学習環境の整備は授業の準備の一つとして大切に考えたいものです。小学校の図画工作室のよさを中学校の美術室にも取り入れていくこともできるでしょう。発達課題でとらえると、小学校高学年と中学校１年生はほぼ同じであると考えられています。小学校図画工作の時間で学んできたものを、中学校の美術の時間でも生かせることができるようにしましょう。

③ 授業時の指導と評価

一人一人が自分の頭で考え、心に感じたものを独創的に表そうとする生徒たちの制作活動を共感的に指導していくのが教師の務めであるとするならば、授業中の個別指導が極めて大切であることはいうまでもありません。

個別指導で指導あるいは評価する言葉掛けは、「教える」ということよりも、いかに生徒一人一人のよさを認め可能性を引き出せるかということになります。創造活動の取り組みを通して、認め励まし賞讃する共感的な言葉掛けを心がけましょう。その際、その生徒の思いや願いをいかに汲み取れるかが重要なポイントになります。中には言葉でうまく表現できない生徒もいるでしょう。対話の術が不得手な生徒に対してこそ、教師の力量が問われるところです。教師の温かで共感的な微笑みから発せられる言葉掛けは、一対一の思いと願いのふれあう瞬間です。意欲を喚起できる言葉掛けの研究も、重要な教材研究であるといえるでしょう。

なお、言葉掛けは、事前に生徒に示した評価の観点に照らしての励ましであることが望ましいといえます。評価は単にチェックすることではありません。生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし引き出すためのものだからです。

なお、学習指導要領の改訂にあたって、学習内容の指示文が「次の事項を指導する」から「次のことができるよう指導する」へと変わりました。教師の責任が明確に示されたといえます。やらせっぱなし、教えっぱなしでは済ませられないということです。

④ 事後指導

一人一人の思いや願いが形となって表現された作品は、作者本人の心を潤すのみならず、鑑賞することによって多くの人々の心をも潤すことができます。作品の存在そのものが価値あるものです。

「一人一額」運動など、造形教育に携わる教師の地道な取り組みも各地の学校で広まってきています。できるだけ多くの生徒の学習成果としての作品を校内に掲示・展示するようにしましょう。展示する場合には、作者名はもちろん、できればよさを認め励ます教師による評価のコメントも添えてあげましょう。また、作品を通して互いに交流し合う観点から、鑑賞者の感想などを記入できる用紙を添えるなどの工夫もいいでしょう。

なお、校舎内に作品を掲示あるいは展示できる場を得るためには、全校をあげての協力体制を築いておく必要があります。全教職員の理解を得るためにも美術教育の価値を啓発する努力を忘れてはなりません。これも大事な教師の務めであると思います。

(2) 学習指導案の形式と内容

十分な教材研究のもとに、それを具体的に授業へ展開するためには、学習指導案の作成が極めて重要になります。学習指導案の形式は埼玉県では埼玉県小学校・中学校教育課程指導資料等の「美術」編に示されている学習指導案の形式を基本とします。学習指導案の形式やそれぞれの項目に何をどのように書いていけばよいのか、概略を以下に示します。

Ａ　題材名

魅力的でいろいろと思いが広がっていくようなネーミングを考えましょう。小学校図画工作科から学ぶことが必要だと思います。提案という形の小学校の題材名はとても楽しく魅力的なものばかりです。

Ｂ　題材について

ここでは、「生徒の実態」と「本題材を指導するに当たって」という２つの項目について記述します。

「生徒の実態」では、学級や学年の様子から見とることのできるよい面を取り上げます。また、美術の学習に対する実態も、その学級や学年で身に付いている力を中心に記述します。実態調査等は推測では書かず具体的なデータを基に記述するようにします。また図画工作と美術との関連についても述べることができることが望ましいです。

「本題材を指導するに当たって」では以下のような構成でまとめます。①題材の概要②育てたい能力③学習の流れ④題材の特性（材料や用具等）⑤その他（共通事項との関連・生きる力との関連・教師の願い等）特に、②育てたい能力が明確にされている題材であることが大切です。育てたい能力とは、観点別学習状況に示されている３つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に基づいている題材のねらいです。ここで作品主義的な題材ではなく、能力観に基づく題材であることが示すことができます。

Ｃ　学習指導要領上の位置付け

学習指導要領に準じて、Ａ表現(1) ア、イ、(2) ア、Ｂ鑑賞(1) ア、イのどの内容にあたるのかを明記します。内容は第1学年と第2・第3学年によって異なりますので注意してください。

〔共通事項〕については、必ずア、イのどの〔共通事項〕が関連しているのかを明記してください。

Ｄ　目標及び評価規準

ここでは題材の目標と評価規準を明記します。「目標」では、「Ｂ題材について」で明記した「育てたい資質・能力」に基づいて、題材の目標を簡潔に１文または２文で記述します。「～する。」というように生徒主体の文末表記となります。

「評価規準」では、３つの観点についてそれぞれ記述します。この評価規準は「育てたい資質・能力」「目標」に基づいたものとなります。

Ｅ　指導計画

一人一人の生徒の表現意図に応じて弾力的に運用できる柔軟なものが望ましいといえます。個々の生徒のペースにできるだけ対応できるものがよいと考えます。登山にたとえれば、頂上までの登山ルートを、一本だけではなく、いろいろな登り方ができる複数のルートがあるということを示してあげるということです。授業でいえば、生徒がそれぞれの思いや願いに基づく考えで試行錯誤できる時間を設定し確保してあげるということになります。

記述方法には様々なものがありますが、簡易的なものでは、「時間」「過程」「学習活動」を表にして簡潔に記述するものがあります。また、ここで具体の評価規準を併記する、より詳しい「指導計画及び具体の評価規準」を作成しておくと、題材がより充実したものとなります。

Ｆ　本時の学習

①目　標

題材の目標に準じて、生徒の立場で設定します。ただし、単に進度のみを目標とすることだけは避け内面的な語りかけが目標となることが望ましいといえます。その際、３つの観点のどこにあたるのかがわかるように記述できることが望ましいです。

②準　備

教師と生徒に分けて示しましょう。本時だから特別に準備しなければならないものがあるかもしれません。再確認する上でも、詳細に列記しておきましょう。

③展　開

一般的に表で表します。項目は、「過程」、「学習活動」、「指導上の留意点」、「評価と手立て」になります。ここでは、それぞれの項目ごとに留意すべき事項をまとめてみます。

（ｉ）過程

一般的に「導入」、「展開」、「まとめ」の３段階に分けます。具体的な時間「○分」なども記述できることが望ましいです。

（ii）学習活動

生徒がどのような活動をし、何を学ぶのかを示す重要な欄になります。この欄では、文章で表すときは、**＜（生徒が）○○する＞**というように、生徒が主語の文になります。生徒の活動が具体的にわかるように、できるだけ詳しく記します。また、学習内容を箇条書きで示すこともあります。その場合は、たとえば「グラデーションの効果について」のように、**＜○○について＞**という表記になります。

（iii）指導上の留意点

この「指導上の留意点」が実際の授業の際に教師が本時の目標を基にどのように生徒を指導していくかという最も重要な項目になります。学習活動と関連付けながら記述していきます。この欄は教師主語の文になります。

基本的には**＜（生徒が）○○できるように、又は（生徒が）○○するために、（教師が）○○する＞**という文になります。配慮すべき事項はできるだけ詳細に記述しておきましょう。

また、教師の動きについても箇条書きで記述しておくと実際の授業の流れが把握しやすくなります。

**（ⅳ）評価と手立て**

これも、学習内容・学習活動と関連付けながら示します。題材の評価の観点をベースに、それぞれの学習活動における具体的な評価規準を考えて記述していきます。３つの観点は「知識・技能」は知・技、「思考・判断・表現」は発・鑑、「主体的に学習に取り組む態度」は態表・態鑑と略記号で示し、記号に続いて評価規準を記述します。その際、前述のように、単にできたかどうかで評価するのではなく、**「○○しようとする・○○しようとしている」**等のように状態を見取るような記述となります。また、評価方法も文末に併記します。評価方法には①発言②表情・観察③対話④表現・作品⑤記述があり、それぞれに主に見取ることができる観点がありますので注意して記述しましょう。

多くの題材は複数時に渡って指導計画が立てられているので、１時間の中で主にどの観点で評価を行うのかを熟慮し、観点を焦点化することも必要になります。１時間の授業で実際に評価できる項目は多くありません。形だけの評価とならないためにも、実際に評価可能な観点を１つから２つに絞ることも大切です。その際には題材を通してバランスよく評価が行われることに注意しましょう。

**Ｈ　備　考**

「板書計画」本時の展開に必要な板書計画を、具体的に黒板等を意識した形で記述することが望ましいです。本時の目標をよりわかりやすく板書しておくことで、生徒がその授業でどのように取組めばよいのか把握しやすくなります。その際に本時では3つの観点のうちどの観点を中心に見取るのかを示すことも有効です。

「教室配置」特別な授業形態、たとえば机の並び方を変えるとか、あるいは大きな教育機器を使うために大がかりな準備が特別に必要な場合等、図などを活用して記述しておくことも必要になります。研究授業など参会者への配慮として座席表や配付資料（プリントやワークシート）を添付することもあります。

**(3) 学術指導案の実際**

# 第○学年○組　美術科学習指導案

令和○○年度○○月○○日（○）
第○校時　　美　術　室
授　業　者　　○○○　○○○

1　**題材名**「和の心を込めて～伝えたい日本の美～」
　　Ａ表現(1)ア(ｱ)，(2)ア(ｱ)（ｲ)　Ｂ鑑賞(1)ア(ｱ)，イ(ｲ)　〔共通事項〕ア，イ

2　**題材について**

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は学習意欲の高い生徒が多く，授業規律も身に付いている。１年次には色彩の学習と自然物を観察してとらえた形のおもしろさを使って，自分の表したい思いを基に配色を考え，平面構成に表した。２年次では，「墨に思いをのせて」では，水墨画の技法について学ぶとともに，墨の濃淡による表現方法について表現したり鑑賞したりした。また，総合的な学習の時間に行った京都の体験学習を通して，日本の伝統的な文化についてその魅力を学んだり直接触れたり味わったりしている。

今回の題材は，自分が生活している日本の伝統的な文化や美術について，自分なりの価値観をもってそのよさや魅力を水彩ボードの上に表現していく。一人ひとりが日本の伝統的な文化のよさや美しさについて自分なりの価値観をもって味わうとともに，思いをもって他者に伝えられるようにしたい。自国の文化に対して誇りと愛着をもち，積極的に自分の生活に取り入れたり，発信したりしていく姿勢を育てたい。

(2) 本題材を指導するにあたって

本題材は，自然の造形や日本の伝統的な文化のもつよさや美しさをとらえる造形的な視点について理

解するとともに，自然や日本の伝統的な文化や生活，人々の生き方を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練り，和紙や墨，岩絵の具などの用具の特性を生かし，表したい和のイメージなどの意図に応じて自分の表現方法を追求して，水彩ボードの土台の上に和紙や自分で選んだ様々な材料で創造的に表現する題材である。また，制作と鑑賞を通して，和の特徴をもつ造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え，美意識を高め，見方や感じ方を深め，日本の文化に誇りをもち，積極的にかかわったり，他者に発信したりしていくことができるようにしたい。

指導に当たっては，日本の美術の主題として見られる「花鳥風月」や「雪月花」など，自然を愛でる日本人の感性や情緒豊かな季節感や，生け花や日本庭園，和服の絵柄，襖絵や屏風，扇子などにみられる自然の素材や題材を生かす表現など，自然と生活が一体となった日本人の美意識や生き方や願いを理解させる。また，一言に「和」と言っても，「侘び寂び」といった質素な表現や，祭りのような「煌びやか」など華やかな表現など，生徒にとっては対極とも捉えられるものであるが，その多様性を認め，互いのよさや美しさを捉えた上で，自分にとっての価値を語り，表現できるようにする。一人一人が自分にとっての「表したい和の魅力」のイメージを広げ深められるように，書籍等の資料を常に手に取れる位置に配置したり，他者の作品や意見から考えられるように班隊形での環境を設定したりする。

題材設定の工夫として，個々の和に対する価値観の移り変わりを読み取れるように，１時間ごとの授業の振り返りとして，授業の最後に「自分にとって和の魅力」「そう考えたきっかけ」をワークシートに記述させるようにする。また，対話によって「和」に対するイメージや価値意識がより深まりやすくなるように，制作の場面と鑑賞の場面で異なる班での活動になるように設定する。特に第１０時の鑑賞について，これまでの異なる活動班を組むことにより，新たな視点でとらえてもらい，意見を交換し合うことで，和に対する自分のイメージを考え直したり，深め合ったりすることができようにする。

第１時「日本らしさについて考えよう！」では，日本の美術や着物，建築等の写真を鑑賞する。「自分が日本らしいと感じるもの」について色や形に注目しながら鑑賞し，現在の自分がもっている「日本らしいもの」のイメージや考えを確認させ，言葉やスケッチで表現できるようにする。

第２時「自分が表現したい“和”を集め，主題を生み出そう」では，日本の美術や建築や食についての書籍等の資料を見ながら，自分が「和」だと感じたものをスケッチしていく。より多くの「和」を集め，「和」に対して自分がもっているイメージを深めていく。また，そこから感じ取れる自然を愛でる日本人の感性や情緒豊かな季節感，自然と生活が一体となった日本人の美意識にも気付かせるようにする。スケッチしたものの中からより自分が魅力的だと感じたものや人に伝えたいと考えたものを取り出し，一人一人が具体的なイメージをもつとともに，主題を生み出していく。

第３時「表したい和を深め，スケッチしよう」では，主題をもとに全体の構成を考え，アイデアスケッチに表す。材料に触れることができるように環境を設定し，スケッチによって自分の表したいことを深め作品の構想を練るとともに，どのように制作していくか見通しをもって進めていけるようにする。

第４・５・６・７・８・９時「材料や用具の特性を生かして工夫して制作しよう！」では，第２～３時で行ったスケッチやアイデアスケッチを基に，描画材料や和紙を主とする材料の特性を生かしながら，水彩ボードの上に表現する。材料の特性や自分の表現意図から制作の手順を考えさせ，見通しをもって制作を行えるようにする。

第１０時「鑑賞」では，制作した作品を鑑賞する。他者の作品を鑑賞することで，その主題や色の組合せ，全体や部分の構成などから和をテーマとした新しい表現に気付いたり，共通の表現に出会ったりすることで，自分の中の「和」に対する価値を深めていく。

### 3　学習指導要領上での位置付け

Ａ表現－(1)ア感じ取ったことや考えたことなどを基に，絵画や彫刻などに表現する活動

(ｱ)対照や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと，夢，想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合せなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練ること。

(2)ア発想や構想したことなどを基に，表現する活動

(ｱ)材料や用具の特性を生かし，意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

(イ)材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序を総合的に考えながら，見通しをもって表すこと。

B鑑賞－(1)ア美術作品などの見方や感じ方を深める活動

(ア)造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めること。

イ生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動

(イ)日本の美術作品や受け継がれてきた表現の性質などから，伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに，諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き，美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして，見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

ア　形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

## 4　題材の目標

(1)「知識及び技能」に関する題材の目標

・形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解している。(〔共通事項〕)

・和紙・水引・木材や用具の特性を生かし，意図に応じて表現方法を工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しを創造的にもって表す。(「A表現」(2))

(2)「思考力，判断力，表現力等」に関する題材の目標

・日本の自然や四季の移ろい，日本の伝統的な文化や芸術を深く見つめ感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合わせなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構成を練る。(「A表現」(1))

・日本の伝統的なよさや美しさから表現された作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，つくり手の意図と創造的な工夫について考えるなどして，日本の伝統的な文化についての美意識を高め，見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1))

・形や色彩などの特徴から和のイメージを捉え，伝統や文化のよさや美しさを感じ取り，愛情を深めるととともに，美術文化の継承と創造について考え，見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1))

(3)「学びに向かう力，人間性等」に関する題材の目標

・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本の自然や四季の移ろい，日本の伝統的な文化や芸術を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

## 5　題材の評価規準

学習活動に即した評価規準

| 「知識・技能」 | 「思考・判断・表現」 | 「主体的に学習に取り組む態度」 |
|---|---|---|
| 知　形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解している。<br>技　和紙・水引・木材や用具の特性を生かし，意図に応じて表現方法を工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表している。 | 発　日本の自然や四季の移ろい，日本の伝統的な文化や芸術を深く見つめ感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合わせなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構成を練っている。<br>鑑①　日本の伝統的なよさや美しさから表現された作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，つくり手の意図と創造的な工夫について考えるなどして，日本の伝統的な文化についての美意識を高め，見方や感じ方を深めている。<br>鑑②　形や色彩などの特徴から和のイメージを捉え，伝統や文化のよさや美しさを感じ取り，愛情を深めるととともに，美術文化の継承と創造について考え，見方や感じ方を深めている。 | 態表　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本の自然や四季の移ろい，日本の伝統的な文化や芸術を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に創造的な構成を練ったり，意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。<br>態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り，日本の伝統的な文化や芸術，作者の表現の意図などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

6　指導と評価の計画　（１０時間計画）

| ☆学習のねらい　〇学習活動 | 知・技 | 思 | 態 | 評価方法・留意点等 |
|---|---|---|---|---|
| 1．鑑賞（1時間）<br><br>☆日本らしさについて考えよう！<br>〇日本の美術作品や衣類・道具などの写真を見て，日本らしさを感じるものについて考える。<br>・造形的な視点で見つめ，自分がもっている和に対するイメージを深めさせるとともに，和の特徴について考えさせる。 | 知<br>↓ | 鑑<br>↓<br><br>鑑 | 態鑑<br>↓<br><br>態鑑 | 知　形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容・ワークシート】<br><br>鑑 態鑑　形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容・ワークシート】<br><br>**鑑　ここでは生徒が，和に対する見方や感じ方が深められたかどうかを評価する。【ワークシート】**<br>**態鑑　主体的に和の形や色彩などがもたらす感情や特徴や余白や空間の効果や全体のイメージで捉えながら，見方や感じ方を深めようとしているかを評価する。【ワークシート，活動の様子】** |
| 2．発想や構想（2時間）<br><br>☆自分が表現したい“和”を集め，主題を生み出そう！<br>〇書籍等を見ながら自分がもっている「和」に対するイメージを広げたり，魅力的に感じるものを見つけたりする。<br>・前時にスケッチに残したものや資料から，「自分が魅力的に感じる和」を考えさせ，表したい和のイメージについて主題を考えさせる。<br>・美術作品だけではなく，庭・食文化・日用品などを扱った書籍や小物などの中から形や色彩などに注目して，「和」の特徴を捉えるように指導する。<br><br>☆自分が表したい和についてスケッチしよう！<br>〇自分が表したい和について，テーマをもってスケッチをし，主題を生み出すことにつなげていく。<br>〇形や色彩などの組合せによる構成の美しさを考えた上でアイデアを練る。<br>・スケッチするだけではなく，材料に触れることができる環境を設定することで，より豊かに構想を練ることができるようにする。 | | 発<br>↓<br><br>発 | 態表<br>↓<br><br>態表 | 発　日本の自然や四季の移ろい，日本の伝統的な文化や芸術を深く見つめ感じ取った和の造形的な特徴や日本人の精神などの和のイメージから主題を生み出せているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容・ワークシート】<br><br>態表　主題を生み出そうとする態度を見取り，主体的に活動できない生徒に対して，鑑賞の学習での内容について振り返らせるとともに，書籍等の資料を基に和の魅力について考えをもてるようにするなどの指導を行う。【アイデアスケッチ，活動の様子】<br><br>発　主題を基に単純化や省略，強調，材料の組み合わせなどを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構成を練っているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【アイデアスケッチ・ワークシート】<br><br>態表　主体的に構想を練ろうとしているかを見取り，できていない生徒に対して，教師との対話によって主題を再度確認させたり，鑑賞の活動で示した写真資料や書籍などから和の形や色彩の組合わせなどの構成を再度考えさせたりするなどの指導を行う。【アイデアスケッチ・ワークシート】<br><br>**発　ここでは生徒が，自分が表したい和のイメージから主題を生み出し，単純化や省略，強調，材料の組合わせなどを考え，豊かな構想を練っているかを暫定的に評価し，授業外で，主題や構想の工夫などを記述したワークシートなどを見取り必要に応じて修正する。【アイデアスケッチ】**<br>**態表　生徒が主体的に知識を活用しながら，発想や構想の学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【アイデアスケッチ，活動の様子】** |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3．制作（6時間）<br><br>☆和の魅力を表現するために，材料を工夫して制作しよう！<br>○和紙・水引・木材や用具の特性を生かし，自分の表現意図に合わせて材料の表現法を工夫しながら制作を行う。<br><br>・材料や用具の特性や自分の表現意図に応じて，手順を考えながら制作するように指導する。<br>・自分が表したい和の魅力を表現していくために，自分の主題を毎時間確認させる。 | 技<br>↓<br><br>技 | 発<br>↓ | 態表<br>↓<br><br>態表 | 技　和紙・水引・木材や用具の特性を生かし，意図に応じて表現方法を工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表しているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容・ワークシート】<br><br>態表　意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に主体的に取り組もうとする態度を見取り，主体的に活動できない生徒に対して，材料や用具の特性を確認したり，材料から生まれるイメージや自分の意図に合わせた効果的な組合わせなどに気付かせながらの指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】<br>**知・技　作品から意図に応じて表現方法を創意工夫しているかなどを見取るとともに，主体的に作品を鑑賞し，形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り，知と技と知・技として一体に評価する。【作品，アイデアスケッチ，ワークシート等】**<br>**態表　主体的に制作に取り組み，形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，見通しをもち意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品，活動の様子】** |
| 4．鑑賞（1時間）<br><br>☆造形的な視点で「和」の魅力を感じよう！<br>○和の特徴や表現の工夫，美しさを感じ取りながら，鑑賞をする。<br>・主題を基につくり手の表現意図や形や色彩の組合わせや材料などの創造的な工夫について考え，作品のよさを味わう。 | 知<br>↓ | 鑑<br>↓ | 態鑑<br>↓<br><br>態鑑 | 知　形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容・ワークシート】<br><br>鑑　態鑑　形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り，できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容・ワークシート】<br>**態鑑　主体的に作品を鑑賞し，形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり，作者の表現の意図や創造的な工夫などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。**<br>**【ワークシート，活動の様子】** |
| ＜授業外：題材が終了後＞ | 知・技 | 鑑<br><br>発 | | **知・技　完成作品や表現及び鑑賞のワークシート，制作レポートなどから知・技の評価を再確認し，必要に応じて修正する。**<br>**【完成作品，アイデアスケッチ，ワークシート，制作レポート】**<br>**鑑　作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の表現の意図や創造的な工夫などについて考え，見方や感じ方が深められているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】**<br>**発　発想や構想について，主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と合わせて再度見取り必要に応じて修正する。**<br>**【完成作品，アイデアスケッチ，ワークシート】** |

7　本時の計画（6／10時間）

(1) 目標

形や色彩，材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，余白や空間の効果などを基に，和の造形的な特徴や人々の精神などを全体のイメージで捉えることを理解し，和紙・水引・木材や用具の

特性を生かし，意図に応じて表現方法を工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しを創造的にもって表している。

(2)準備

〇教 師：ワークシート・タブレット端末・電子黒板・プロジェクタ・和紙・金紙・水引・千代紙・色画用紙・木材・岩絵具・墨汁・白抜き剤・両面テープ・のり・定規・カッター・カッターマット・電動のこぎり

〇生 徒：筆記用具・教科書・ファイル・はさみ・のり

(3) 展開

| 過程<br>時間 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点<br>（〔共〕：〔共通事項〕に係る内容） | 評 価 と 手 立 て<br>観点:評価規準【評価方法等】 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ☆材料や用具の特徴を生かして制作しよう！ | | 技　和紙・水引・木材や用具の特性を生かし，意図に応じて表現方法を工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表している。<br>【制作途中の作品，活動の様子】<br>◎材料や用具の特性を考えながら，自分の表現意図に応じて用具や材料の組合せを工夫したり手順を考えたりして制作している。<br>◆教師からの問いによって生徒自身の表現意図を明確にしたり，つまずきを自覚させたりする。<br><br>態表　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本の自然や四季の移ろい，日本の伝統的な文化や芸術を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に創造的な構成を練ったり，意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。<br>【制作途中の作品，活動の様子】<br>◎材料や用具に触れながらその特徴や質感からイメージを広げるなどして試行錯誤を重ねて創意工夫し，見通しを持ちながら粘り強く表そうとしている。<br>◆材料や用具の特性を一緒に確認したり，材料に触れたりすることで自分の意図に合わせた表現の工夫などについての意欲を高めるよう指導を行う。 |
| | 〇本時のねらいと内容を知る。 | ・授業の開始前に手指洗浄を呼びかける。<br>・ワークシートを配布し，本時の活動について説明する。<br>・前回の振り返りの中から本時につながるコメントを紹介する。<br>・自分が納得いく仕上りになるように，材料や用具の特徴と制作の手順についてよく考えるように伝える。 | |
| 展開<br>35分 | ○主題を基に用具や材料の特性を考えながら，自分の表現意図に応じて制作を進める。<br>・用具や材料をじっくりと観察したり触れたりしながら，自分の表現意図に応じて選択する。<br>・アイデアスケッチを基に，制作の手順を考える。 | ・机間指導をしながら，主題を確認させ、自分が表したい和のイメージを大切するように伝える。<br>・材料に触れられるように展開させて材料置き場を設定し，〔共〕材料の特性を捉えたり，イメージを深めたりしやすいようにする。<br>・共有の材料については，色みを揃えるなど整理して配置したり，表示で色の名前や種類がわかるように示したりするようにする。<br>・材料や用具の特徴や表現の効果を理解し，制作の手順を考えるように伝える。<br>・机間指導を行いながら，正しく用具が扱えているか確認する。刃物等の使い方の安全面には特に注意する。<br>・制作にかかわる意見交換を行ってもよいが，声の大きさや距離に注意するように呼びかける。<br>・参考資料として用意された図書館書籍に触れる場合は手指洗浄を必ず行うように呼びかける。 | |
| まとめ<br>10分 | 〇片付けを行う。<br>・作品を乾燥棚にしまう。<br><br>○本時の活動を振り返り，自分にとって「和」の魅力とは何か，現在の自分の和に対する考えを記入する。 | ・密集を避けられるよう，片付けを行う生徒と振り返りを行う生徒を分ける。<br><br>・本時の活動についてじっくり振り返り，ワークシートに考えをまとめることができるようにする。<br>・手指洗浄を呼びかける。 | |

◎：十分満足できる状況　◆：C判断生徒への手立て

（備　考　在籍生徒数　　男子 22 名　　女子 22 名　　計 44 名）

### (4) 授業分析の方法、授業参観の観点

#### ① 授業を参観する前に

授業は、教師が生徒の主体的な学習活動を構築することによって、学習のねらいを達成しようとする営みです。そのための計画書が学習指導案なのです。したがって、授業を参観する前には、その授業の学習指導案を十分に読み込み、そこから授業者の意図するねらいやその授業全体の流れなどを理解しておかなければなりません。特に、美術の場合、一題材がある程度長期にわたることが多いため、一単位時間のその授業が全体の中でどう位置付けられているかを理解した上で参観の視点をもつことが大切になります。そうすることによって、授業中の教師の発問や、それに対する生徒の反応のもつ意味がより深くとらえることができるからです。

#### ② 授業参観の視点

実際に授業を参観する上で、参観者として何をどのように参観すればよいのか、主な項目をあげて述べてみます。

**【学習指導の流し方・時間配当】**

〇学習指導案に記載されている本時に関する指導の流し方や時間配分が、生徒の実態と照らし合わせてどうであるかを評価します。

**【発問・助言・声量・板書・資料提示等】**

〇学習指導案に記載されている本時に関する教師の働きかけを、発問や助言、声量などの項目に分けて評価します。

**【全体指導と個別指導】**

〇全体指導における指導内容と、机間指導のタイミングや様子について評価します。

**【生徒の反応と取り組み】**

〇教師の働きかけに対して、生徒はどのように反応し、また取り組んでいるのかを評価します。

**【技能の向上と安全への配慮】**

〇技能の向上と安全への配慮という観点で、教師の支援的な指導のあり方について評価します。

## 2.7　技術・家庭科

### (1) 学習指導案を書く前に

一人一人の生徒が個に応じて生き生きと学ぶことができる授業をするためには、教師自身が常に学び続けることが重要です。よりよい授業を構築するために必要な教師自身の学び、これが教材研究です。十分な教材研究なしに、充実した授業はあり得ません。この教材研究のエッセンスが学習指導案です。

そこで、学習指導案の書き方について述べる前に、教材研究の進め方についてまとめておくことにします。

#### ア　３学年間を見通した指導計画の把握

各学校の教育目標や生徒の実態を踏まえ、３学年間を見通した指導計画が立てられている。計画の主旨や指導する各内容等のねらいを理解する。

- 中学校学習指導要領「総則」を把握する。
- 中学校学習指導要領解説「技術・家庭」編で技術・家庭科及び各分野、内容の目標、ねらいを理解する。
- 他教科と各分野及び各内容の関連性を分析する。
- 小学校、高等学校の関係教科・科目や中学校の各教科等との関連を知る。
- 各題材ごとの指導項目とそのねらいを確認する。
- 各指導項目に配当する授業時数を確認する。

#### イ　内容全体の研究

内容全体に関する教材研究を十分に行う。

- 内容の目標を知る。
- 内容全体を通して指導する項目、指導事項を理解する。
- 他教科との関連を明らかにする。
- 指導する内容をどのように精選し、何を重点的に指導するかはっきりさせる。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開していくために、各分野で示されている学習過程を参考に題材を構成していく。

#### ウ　生徒の実態把握

学習の主体者である生徒の実態を把握した上で教材研究を行う。

- 生徒の既有知識や学習経験を知る。
- 教材に関する興味・関心等を知る。

#### エ　１時間の授業のための研究

その授業のねらい（目的）を明確にする。教師の知識伝達の時間が多く、生徒の活動時間が少ない授業展開は、生徒主体の授業ではなくなる。このような授業が展開される場合は、教材研究が十分にされているとは言えない。そうならないように、

- 本時の学習課題、つけさせたい力を明確にする。
- そのためにどの様な授業展開が効果的か考える。
  （生活経験とつながることは何か）
  （何について考えさせなければならないか）
  （体験させた方がよいことは何か）　など
- 前時までにどのようなことをどの程度身に付けているか把握する。
- 本時の目標を達成するために、どのような教材・教具を使ったら効果的か考える。
- 学習効果が高まる教材や教具を開発をする。
- 生徒が主体的に学習できる指導の仕方を考える。
- 教師が教える内容は何か、生徒が気づき、考え、深める内容は何かを明らかにする。
- 学習課題をどのように設定するか考える。
- 指導形態、時間配分を考える。
- どこでどのように評価するかを考える。
- 板書計画を考える。（黒板で何をどうすることが効果的なのか考える）
- ＩＣＴの特徴に応じた効果的な活用を考える。
- 配付資料のねらいを明確化したうえで利用。
  （知識の補助、ワークシートを用いた習得・評価など）

### (2) 授業づくりにおいて留意する点

#### ア　使用する道具等の管理及び保守整備

使用する道具等の種類、数、状態の把握を授業前後に必ずしっかりと行う。しっかりと保守整備した道具等を使わせることが事故や失敗を防いだり、意欲の向上にもつながる。

#### イ　安全指導の徹底・掲示物等の工夫

安全指導の掲示物又は配布物の準備をする。安全に使用する上での注意すべき点を徹底させる。授業規律も安全な作業につながる。固定工具の使用の場合は生徒の作業の動線を読み、五感をいかしながら全体の状態が把握できるようにする。また、掲示物はねらい、大きさ、位置を考えて制作・配置する。

#### ウ　事前の扱う題材の製作、道具等の使用

扱う題材や道具等は必ず事前に自分で製作したり使ってから授業で用いること。ねらいを明確化したり、安全指導の把握や生徒の躓きそうな場面や所用時間を読むことにつながるだけでなく、自分自身の研修にもつながる。

### (3) 学習指導案の形式とその内容

生徒の実態に応じて、様々な指導案の形式があるが、一例を紹介しそれぞれの項目に何をどのように書くのか、その概要を述べる。

〇月〇日(金)　第〇校時

# 第〇学年〇組　技術・家庭科学習指導案

学習のまとまりを示す。「～作ろう」等ではなく、「～開発しよう」など思考することが分かるような言葉を用いる。

授業者　〇〇　〇〇　印
指導者　〇〇　〇〇　印

1　**題材名**　「学校生活を制御システムでより豊かにしよう！」

新学習指導要領　技術分野　D　情報の技術　（1）（3）（4）ア

2　**題材設定の理由**

(1) 生徒の実態

世界において，情報化や自動化の技術は目まぐるしいスピードで進歩を続けている。総務省は「Society5.0 社会」の実現を目指し，環境の整備と国民への周知を行ってきた。そのような中で，今年初めからの Covid-19 の世界的流行により，これまでの生活様式を変化させざるを得なくなった。具体的には「密閉・密集・密接」を回避するために，業務のオンライン化や，学習環境のオンライン化など，販売の自動化などが，これまで以上に行われるようになってきた。その結果，国が目指している「Society5.0 社会」は加速度的に実現に向かい動いている。

このような環境の中に生徒たちは，身をおいている。生徒自身も休校期間にはオンライン授業やオンライン学習を体験し，情報化社会について体験的に学習することができた。そのため，本題材の前に行った，情報の技術の(2)の学習では，ネットワークを扱うことのメリットやデメリットについてや，その仕組みについてなど，多くの生徒が主体的に学ぶ姿が見られた。

今回の学習を前に「制御システムとは」というテーマでイメージマップを作成させた。その結果，前回の題材で情報の技術の(2)を扱ったためか，セキュリティやパスワードというネットワークに関わるキーワードが多く見られた。反対に，身近な制御システムについて取り上げた生徒は全体の２割程度であった。

(2) 題材観

本題材では，身近に存在する制御技術に体験的に触れて向き合っていくことを軸に，世の中に存在する制御システムの読み取り，再現や，実際に学校を豊かにするための制御システム開発を通して，情報の技術の見方・考え方に気付き，気付いた見方・考え方を働かせる問題解決の学習を行うことができる。また，技術で社会に貢献していることの時間を味わえる場として，制御システムの設置場所を学校にした。生徒の日常生活が行われる学校という空間ならば，より主体的に問題を発見しやすくなると考えた。その結果，より主体的に活動に取り組む態度につなげられることが考えられる。

(3) 指導観

制御システムについてその存在を知っていても，仕組みについては理解していない生徒たちが，制御システムの再現や開発の体験を行うことで，自動化された製品に込められた見方・考え方に気付き，気付いた見方・考え方を働かせ，問題を解決することで，情報の技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深めるとともに，生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力，よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成したい。また開発の場を学校にすることで，学校における問題点を解決させて，自らの取り組みが世の中の役に立つ喜びを体験させられるよう配慮したい。

（1）生徒の実態：どのような社会状況において、生徒はどのようなことを知っていたり、感じていたりするのか。その実態を示す。実際に学習する生徒の姿勢や、考え方など必要であればアンケートなどをとり、分析的に書く。
（2）題材観：どのような題材で、どのような学習を行うことで、どのような資質・能力の育成ができるのかを示す。
（3）指導観：（1）のような生徒の実態に対して、（2）のような題材を用いることで、どのように指導することができ、最終的にどのような資質・能力を育成できるのかを示す

学習指導要領解説の各内容（A、B、C、D）のねらいから必要な個所を引用し、題材で育成する資質・能力を示す。

### 3　題材の目標

情報の技術の見方・考え方を働かせ、学校を自動化するシステムを開発する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、学校生活の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

### 4　題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。 | 生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築を目指して、情報の技術を評価し、適切な選択と管理・運用する力や、新たな発想に基づく改良、応用する力について身に付けている。 | 生活や社会で利用されている情報の記録、計算の特性等の原理・法則と、計測・制御システム等に関わる基礎的な技術の仕組み及び、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 |

題材全体の学習を経て、目指したい生徒の姿を示す。評価規準の作成に当たっては、「学習指導要領解説」「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」を基にして、自ら作成する。

### 6　指導と評価の計画（8時間扱い）

| 時間<br>指導<br>事項 | ・学習活動<br>※□は取り上げる学習内容例を示す | ○：評価規準　◇評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1<br>D(1)<br>ア<br>D(3)<br>ア | ・制御システムを支える上で必要な要素についてまとめる。 | ①センサなどの入力装置から、アクチュエータ等の出力装置までの信号の伝達経路や変換の方法、プログラムによる処理の自動化の方法、コンピュータが目的を達成するために、構成する要素や装置を結合して機能させるシステム化の方法等の、基礎的な情報の技術の仕組みについて説明できる。<br>②センサ、コンピュータ、アクチュエータ等の計測・制御システムの要素について説明できる。<br>◇ペーパーテスト | | ⑦進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。<br>◇振り返りシート |
| 2<br>D(1)<br>イ | ・学校を支える様々な制御システムについて、どのように生活の問題を解決しているかを、プログラムを考えまとめる。 | ③計測・制御システムの中では一連の情報がプログラムによって処理されていることなどの計測・制御システムの仕組みについて説明できる。<br>◇ペーパーテスト<br>◇振り返りシート | ④学校を支える制御システムが、どのような条件の下で、どのように生活における問題を解決しているのかを読み取ることで、情報のシステム化等に関わる技術が、社会からの要求、使用時の安全性、システム、経済性等に着目し、情報の記録、計算の特性等にも配慮して、最適化されてきたことに気付くことができる。<br>◇ワークシート | |

その時間の「学習活動」と「評価規準」が分かるように示す。学習活動では、前後のつながりや、育成したい資質・能力が徐々に上がっていくことなどを工夫できると良い。評価規準に関しては、必ず1時間に1つの評価ではなく、複数時間にまたがって評価することもある。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3<br>4<br>D(3)<br>ア | ・世の中の制御システムのモデルを試作する。 | ⑤計測・制御システムの各要素において異なる電気信号（アナログ信号とデジタル信号）を変換し、各要素間で情報の伝達が行えるようにするためにインタフェースが必要であることを説明できる。<br>◇ペーパーテスト<br>⑥MakeCode を用いて、安全・適切に、順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造を入力し、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等ができる技能を身に付けている。<br>◇作成したプログラム<br>◇ワークシート<br>◇ペーパーテスト | | |
| 5<br>D(3)<br>イ | ・学校生活をより豊かにする制御システムの設計を行う。 | | ⑧生活の中から処理の自動化、システム化等に関わる問題を見いだして課題を設定する力を身に付けている。<br>◇設計ワークシート<br>⑨課題の解決策を、条件を踏まえて構想し、全体構成やアルゴリズム、データの流れを図に表す力を身に付けている。<br>◇設計ワークシート | ⑬自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。<br>◇振り返りシート<br>⑭自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。<br>◇振り返りシート |
| 6<br>7<br>8<br>D(3)<br>イ | ・学校生活をより豊かにする制御システムの試作を行う。 | ⑩MakeCode を用いて、安全・適切に、順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造を入力し、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等ができる技能を身に付けている。<br>◇観察<br>◇作成したプログラム | ⑪試行・試作等を通じて解決策を具体化する力を身に付けている。<br>◇観察<br>⑫設計に基づく合理的な解決作業について考える力を身に付けている。<br>◇観察 | |
| 9<br>D(3)<br>イ<br>D(4)<br>ア | ・開発した学校生活をより豊かにする制御システムを互いに評価しあい、持続可能な情報社会の未来について考える。 | ⑰情報の技術とは、人間の願いを実現するために、情報についての科学的な原理・法則等の自然的な制約や、人々の価値観や嗜好の傾向などの社会的な制約の下で、開発時、利用時、廃棄時及び障害発生時等を想定し、安全性や社会・産業に対する影響、環境に対する負荷、必要となる経済的負担などの折り合いを付け、その効果が最も目的に合致したものとなるよう情報のシステム化による処理の方法等を考案、改善する過程とその成果であることを説明できる。<br>◇振り返りシート | ⑮課題の解決結果や解決過程を評価、改善及び修正する力を身に付けている。<br>◇改善ワークシート | ⑯自らの問題解決とその過程を振り返り，よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正しようとしている。<br>◇振り返りシート |

本時における目標と評価規準を示す。目標では、本時の学習活動を通してどのような資質・能力を育成するのかがわかるようにする。また、評価規準は題材計画で示したものを引用する。

7　**本時の学習**（4／9時間）

（1）本時の目標

〇校内にある夜間自動点灯照明を再現する活動を通して、安全・適切に、順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造を入力し、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等ができる。

(2) 本時の評価規準

〇MakeCode を用いて、安全・適切に、順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造を入力し、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等ができる技能を身に付けている。【知識・技能】

| 学習内容 | 教師の働きかけ | 時間 | 生徒の活動 | 評価と指導の工夫<br>（評価の観点）【評価方法】<br>◆評価規準 ※指導上の留意点<br>◎十分満足の状況〇おおむね満足の状況<br>△努力を要すると判断される生徒への指導 | 教具<br>教材 |
|---|---|---|---|---|---|
| 履修済み学習内容及び本時の学習内容の確認 | ・前時までの取り組みを振り返り，本時の流れを示すことで，生徒に見通しを持たせる。 | 3 | ・前時までの学習を振り返るとともに，本時の学習内容について確認し，取り組みの見通しを持つ。 | ※PC 上で Makecode を開き、すぐにプログラムできるように準備させておく。 | PC<br>授業用スライド |
| | 学習課題：世の中で利用されている制御システムのプログラムを再現しよう。 | | | | |
| 課題発見と解決 | ・前時に体験した<br>①ライトをつける<br>②明るさを測る<br>の２つのプログラムを組み合わせることで、夜間自動点灯照明を制作することを確認する。 | 3 | ・前時に再現したプログラムを確認し、本時に作成する夜間自動点灯照明を制作するための見通しを持つ。 | ※あらかじめスライドで、前時に制作した「①ライトをつけるプログラム」と「②明るさを測るプログラム」の２つを確認できるようにしておく。 | |
| | ・机間指導を行い、各自の取り組みを適切に支援する。 | | ・夜間自動点灯照明の制作を行う。 | ※教師は生徒が前時の学習からプログラムを想像できるように声掛けを行う。<br>※プログラムの制作ができない生徒には声掛けや、周囲の友達からの助言をもらうよう声をかける。<br>※プログラムが早くできた生徒は、現実の夜間自動点灯照明により近づけるようにするためにどのようにしたら良いか考えさせる声かけをする。 | マイコン<br>PC |
| 本時のまとめ | ・全体で完成した夜間自動点灯照明の実験を行わせ、社会における制御システムがどのようにつくられているのかまとめる。 | 5 | ・夜間自動点灯照明を実際に動作させ、社会におけるプログラムが学習したプログラムを組み合わせることでできていることを確認する。 | ◆MakeCode を用いて、安全・適切に、順次、分岐、反復という情報処理の手順や構造を入力し、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ等ができる技能を身に付けている。（知識・技能）【観察・制作物】<br>◎夜間自動点灯照明装置について適切なセンサ・アクチュエータやプログラムを選択し、バグなく動作させることができ、より現実の夜間自動点灯照明に近い制作物にすることができる。<br>〇夜間自動点灯照明装置について適切なセンサ・アクチュエータやプログラムを選択し、バグなく動作させることができる。<br>△前時の学習内容を振り返らせたり、周囲の仲間に確認させたり、必要に応じて本人がそのシステムの制作方法に気付くための手立てを示す。 | 授業用スライド<br>振り返りシート |
| | ・本時の学習について振り返りを行わせ，次時の授業に向けた見通しを持たせる。 | 3 | ・振り返りシートを記入する。<br>・次回の授業の見通しを持つ。 | | |

授業の目標を実現するために生徒が実施する活動と、その場面ごとの教師の働きかけを示す。生徒の活動をより充実させるための手立てや、指導の工夫などは「※指導上の留意点」に示す。評価では、評価規準を受けて具体的にどのように評価するのかを評価方法と併せて示す。◎十分満足、〇おおむね満足、△努力を要する状態で、〇を基準にして◎と△を設定する。

令和〇年〇月〇日（〇）　第〇校時

# 第〇学年〇組　技術・家庭科学習指導案

授業者　〇〇　〇〇

1　**題材名**　「『快適な衣生活』と『持続可能な社会』を目指して
～できるだけ長く布製品を活用するために，自分ができる工夫は何だろう？～」
家庭分野　B 衣食住の生活　衣生活（4），（5）　C 消費生活・環境（2）ア　【14 時間扱い】

2　**題材設定の理由**

（1）　生徒の実態

休校期間中のオンライン授業で行った「家にある材料を活用したマスクの製作」の学習後の感想には，「マスク以外の生活に役立つ物も作ってみたい」「リメイクでいろいろな物を製作したい」という記述が多かった。新型コロナウィルス流行の影響で，マスクの材料がお店から無くなったという事実をきっかけに，限られた資源を活用することの必要性に気づくことができた生徒も多い。しかし，「できあがったマスクを使ってみてどうだったか」という質問に対して，「自分の顔の大きさに合っていなかった」や「洗濯をしたら縮んでしまって使えなくなってしまった」「素材が息苦しかった」「上手く縫えなかったから壊れてしまった」などという回答も目立った。

以上の実態から，限られた資源（衣服などの布製品）を長く快適に使っていく工夫をするためにも，衣生活に関する基礎的・基本的な知識及び技能を適切に身に付けていくことが必要である。

（2）題材観

本題材は，学習指導要領B「衣食住の生活」の「衣生活」（4）（5），C「消費生活・環境」（2）アの指導事項の関連を図って設定したものである。ねらいは快適な衣生活と持続可能な社会を目指し，衣服を長く快適に着るために，衣服と社会生活との関わりについて理解し，衣服の選択，着用及び手入れに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，衣服の選択，日常着の手入れの仕方を工夫することができるようにすることである。また，衣服等の再利用など，布を無駄なく使うことが資源や環境への配慮につながることを理解し，製作を工夫することができるようにすることである。

限られた資源を長く快適に使っていく工夫をするためには，まず，衣生活に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得することが必要である。その上で，身に付けたことを生かして，使わ（え）なくなってしまった布製品を再利用する活動をすることで，快適で持続可能な衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することができると考える。

（3）指導観

小学校では主に衣服の着用と手入れ，生活を豊かにするための布を用いた製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を学んできた。それを踏まえ，第1学年では小学校で身につけた力を基盤とし，生活の中から問題を見いだし，課題を設定し，見通しをもって解決していくプロセスを重視して課題に取り組ませたい。

指導にあたっては，まず「持続可能な社会の構築」の視点に気付かせるために，今地球が置かれている状況を知らせる。具体的には，国際シンクタンク「グローバル・フットプリント・ネットワーク」が毎年発表している「アース・オーバーシュート・デー」（人類による自然資源の消費が，地球が持つ1年分の資源の再生産量と二酸化炭素吸収量を超えた日）を例に取り上げ，「地球の使いすぎ」の状態が何年も続いていることや，このまま生活を変えなければ地球はどんどん壊れていってしまうことに気付かせる。それでも，私たちが人間らしく生活をしていくためには物や資源が必要であるため，限られた資源を活用しながら快適に生活をしていくための工夫を学んでいく必要があることに気付かせていく。

「快適な衣生活」と「持続可能な社会」の両立を目指し，問題を解決していくための「題材を貫く学習課題」の設定を行う。見通しをもたせ，主体的な学習を促すために，貫く学習課題を解決するために知りたいことやってみたいことを書き出させ，それを基に題材の学習計画を作成した。

また，衣生活の学習への興味・関心があまり高くない実態を考慮し，調べ学習や実験等を取り入れ生徒の興味・関心を高める。そして，自分や家族の使わ（え）なくなった布製品を再利用する活動を通して地球の問題を「自分事」として捉え，問題の解決に向けて衣生活を工夫し創造する資質・能力を育成したい。

3　題材の目標

（1）　衣服と社会生活との関わり，目的に応じた着用，個性を生かす着用，衣服の適切な選択，衣服の計画的な活用の必要性，日常着の手入れ及び製作する物に適した材料や縫い方，用具の安全な取扱いについて理解するとともに，それに係る技能を身に付ける。

（2）　衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方，生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

（3）　よりよい生活の実現に向けて，衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方，生活を豊かにするための布を用いた製作について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとする。

4　題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・衣服と社会生活との関わりが分かり，目的に応じた着用，個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。<br>・衣服の計画的な活用の必要性，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに，適切にできる。<br>・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに，用具を安全に取り扱い，製作が安全にできる。<br>・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 | 衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方，資源や環境に配慮し，生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | よりよい生活の実現に向けて，衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方，生活を豊かにするための布を用いた製作について「，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 |

5　指導計画及び評価計画（14 時間扱い）　　本時　9／14 時間

| 学習過程 | 時間 | ○ねらい・学習活動 | ○評価規準　◇評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 生活の課題発見 | 1 | ○限られた地球の資源を大切にすることと，健康で快適な衣生活を送ることの両立について問題を見いだし，課題を設定することができる。<br>・「アース・オーバーシュート・デー」の話から，地球の現状を知る。<br>・自分の衣生活を振り返る。<br>・課題解決のために，知りたいことややってみたいことを考える。 | | ① 健康・快適な衣生活と持続可能な社会の両立を目指すことについて，問題を見いだして課題を設定している。<br>◇ワークシート | |
| | | **題材を貫く学習課題**：できるだけ長く布製品を活用するために、自分ができる工夫は何だろう？ | | | |
| 解決方法の検討と計画 | 2 | 制服はどのように作られて，どのように一生を終えるのだろう？<br>○衣服の一生（「つくる」「着る」「捨てた後」）を知り，自分の消費行動が環境に及ぼす影響について理解する。<br>・「制服の一生すごろく」を行う。<br>・自分の消費行動が環境に与える影響について考える。 | ① 自分や家族の消費行動が環境に及ぼす影響について理解している。<br>◇ワークシート | | ① よりよい生活の実現に向けて，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。<br>◇振り返りシート |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 3 | T.P.O.に応じた着方，個性を生かす着方とは？<br>〇衣服と社会生活との関わり，目的に応じた個性を生かす着用，衣服の適切な選択について理解し，工夫することができる。<br>・衣服と社会生活の関わりについて気付き，衣服の役割について考える。<br>・T.P.Oに合った衣服の着用を工夫する。<br>・自己評価，友達と相互評価を行う。 | ②　衣服と社会生活との関わりが分かり，目的に応じた個性を生かす着用について理解している。<br>◇ペーパーテスト | ②衣服の選択について考え，工夫している。<br>◇ワークシート | ◇行動観察 |
| | 4 | スカートやズボンの裾を直すために１番適した縫い方はどれ？<br>〇衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解し，適切にできる。<br>・制服のズボンやスカートの裾を観察し，まつり縫いの特徴を知る。<br>・まつり縫いによる補修の実習を行う。 | ③衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解しているとともに，適切にできる。<br>◇練習布<br>◇ペーパーテスト | | ②衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について，課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。<br>◇ワークシート<br>◇振り返りシート<br>◇行動観察 |
| | 5 | 洗剤は，どうして汚れを落とすの？<br>〇衣服の材料に応じた日常着の洗濯について，洗剤の働きと衣服の材料に応じた洗剤の種類を理解する。<br>・実験を通して，界面活性剤が汚れを落とす様子を観察する。<br>・洗剤の働きを考える。 | ④　衣服の材料や汚れに応じた日常着の洗濯の仕方について理解している。<br>◇ワークシート<br>◇ペーパーテスト | | |
| | 6 | 附属中のワイシャツはなぜ，綿とポリエステルの混紡なのか？<br>〇ポリエステル，綿，毛などの手入れに関わる基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解するとともに，工夫ができる。<br>・ペットボトルから，ポリエステルを作る実験を行う。<br>・代表的な繊維の特徴について考える。<br>・制服のワイシャツの素材とその理由について考える。 | ⑤繊維の基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方について理解している。<br>◇ペーパーテスト | ③繊維の基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方について考え，工夫している。<br>◇ワークシート | |
| | 7 | 〇これまでの学習を生かして，材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方について考え，工夫することができる。<br>・取り扱い表示や組成表示等に着目し，「汚れ落としクエスト」に取り組む。 | | ④材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方について考え，工夫している。<br>◇ワークシート | |
| | 8 | 着られなくなった衣服や布製品を，この先もずっと長く活用するよい方法はないかな？<br>〇衣服や布製品の計画的な活用の必要性について理解することができる。<br>〇自分や家族の生活を豊かにするための衣服等の再利用について問題を見いだし，課題を設定することができる。<br>・自分や家族の使え（わ）なくなってしまった衣服や布製品を分析し，購入から廃棄までを見通した計画的な活用について考える。<br>・長く活用するためのアイデアを収集する。（調べる，話し合う） | ⑥衣服の計画的な活用の必要性について理解している。<br>◇ワークシート | ⑤自分や家族の衣服等の再利用について問題を見いだして課題を設定している。<br>◇ワークシート<br><br>⑥衣服等の再利用の製作計画について考え，工夫している。<br>◇ワークシート | ④衣服等の再利用の製作計画や製作について，課題の解決に主体的に取り組もうとしている。<br>◇ワークシート<br>◇振り返りシート<br>◇行動観察<br><br>⑤衣服等の再利用の製作計画や製作について，課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。<br>◇ワークシート<br>◇行動観察<br>⑥よりよい衣生活の実現に向けて，衣服等の再利用の製作計画や製作について工夫し創造し，実践しようとしている。<br>◇ワークシート<br>◇振り返りシート<br>◇行動観察 |
| 課題解決に向けた実践活動 | ⑨ | 使え（わ）なくなった衣服や布製品を，どのようによみがえらせたい？<br>〇自分や家族の生活を豊かにする衣服等の再利用の製作計画について考え，工夫することができる。<br>・衣服等の再利用の製作計画の条件を確認し，課題を設定する。<br>・再利用する衣服等の素材や特徴を生かして，自分や家族の生活を豊かにする物の製作計画を立てる。<br>【条件】<br>①これまでに学習した知識や技能を生かすこと。<br>②自分や家族の生活を豊かにする物によ | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | みがえらせること。<br>③製作時間４時間を有効に使い，完成させること。 | | | |
| | 10<br>～<br>13 | ○衣服等を再利用し，自分や家族の生活を豊かにする物の製作について考え，工夫するとともに，製作することができる。<br>・製作計画に沿って製作する。<br>・場合によっては計画を修正する。 | ⑦製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに，製作が適切にできる。<br>◇ワークシート<br>◇再利用品<br>⑧用具の安全な取扱いについて理解しているとともに，適切にできる。<br>◇行動観察<br>◇ペーパーテスト | | |
| 実践活動の評価・改善 | 各自 | ○衣服等を再利用した製作物を使用し，評価したり，改善したりすることができる。<br>・自分や家族の生活の中で，製作した物を活用する。<br>・製作物について自己評価する。 | | ⑦衣服等を再利用した製作について，実践を評価したり，改善したりしている。<br>◇評価・改善レポート<br>◇再利用品 | |
| | 14 | できるだけ長く布製品を活用するために，自分にできる工夫は何だろう?<br>○健康・快適な衣生活と持続可能な社会の実現のために大切なことをまとめることができる。<br>・再利用品の発表会<br>・友達の製作物を見て，相互評価を行う。自分に取り入れてみたいことを見つける。 | | ⑧健康・快適な衣生活と持続可能な社会を目指すための課題解決に向けた一連の活動について，考察したことを論理的に表現している。<br>◇ワークシート | |

6　本時の学習（9／14時間）

（1）　本時の目標

・自分や家族の生活を豊かにするための衣服等の再利用の製作計画について考え，工夫することができる。

（2）　本時の評価規準

・衣服等の再利用の製作計画について考え，工夫している。（思考・判断・表現）

（3）　展開

| 学習内容 | 教師の働きかけ | 時間 | 生徒の活動 | 評価と指導の工夫<br>（評価の観点）【評価方法】<br>◆評価規準<br>◎十分満足の状況<br>○おおむね満足の状況<br>△努力を要すると判断される生徒への指導 | 教具<br>教材 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学習課題の把握 | ・前時までの学習を振り返らせ，本時の学習課題を知らせる。 | 2 | ・前時までの学習を振り返り，本時の学習課題を知る。 | | スライド |
| | 学習課題：使わ（え）なくなった布製品を、どのようによみがえらせたい？製作計画を立てよう。 | | | | |
| | ・製作の条件を確認させる。<br>【条件】<br>①これまでに学習した知識と技能を生かすこと。<br>②自分や家族の生活を豊かにする物によみがえらせること。<br>③製作時間４時間を有効に使い，完成させること。 | 3 | ・条件を確認する。 | | プロジェクター<br>製作デザインシート |
| 製作計画を立てる。 | ・10 分間は，自分でじっくり考えるように伝える。<br>・授業の後半で，友達からアドバイスがもらえることを伝える。 | 10 | ・条件を踏まえて，製作計画を立てる。 | （思考・判断・表現）<br>◆衣服等の再利用の製作計画について考え，工夫している。【ワークシート】<br>◎３つの条件を踏まえて， | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 伝え合い<br><br>計画の加筆修正<br><br>振り返り | ・ここまでに考えた計画を友達に伝え，アドバイスをもらうよう促す。<br>・友達にもらったアドバイスを，取捨選択し，自分の計画を改善するよう促す。<br>・条件を踏まえて製作計画が書けた生徒1，2名に，計画を発表させる<br>・本時の学習について振り返りを行わせ，次時の授業に向けた見通しをもたせる。 | 10<br><br>20<br><br>5 | ・立てた製作計画を友達に伝え，アドバイスをもらう。<br>・もらったアドバイスをもとに，計画を加筆・修正する。<br>・発表を聞く。<br>・振り返りシートを記入する。<br>・次回の授業の見通しをもつ。 | 製作計画を考え，ワークシートに書けるとともに，製作がスムーズにできるよう，より詳細に手順を書くことができている。<br>〇3つの条件を踏まえて，製作計画を考え，ワークシートに書くことができている。<br>△アイデアカードを見に行かせる。 | タブレット端末 |

## 2.8 英　語　科

### (1) 学習指導案を書く前に

#### ①　指導案を作成する意義・留意点

各教科等における「見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行うにあたって、入念に検討した学習指導案の作成が必要であることは各教科・領域などを越えて言えることです。指導目標を明らかにし、生徒の実態を十分に考慮した上で十二分の準備をして授業に臨まなければなりません。

特に、英語の授業においては、多くの生徒にとっては未知の内容であることに留意し、生徒に無理なく学習させられるよう、また、授業者自身が自然な英語を用いられるよう教材研究を進め、立案しなければなりません。

そこで、以下を常に念頭において、指導案を作成してください。

**a)指導した内容を適切に評価する（指導→評価）**

指導すること全般において留意します。何ごともやっただけでは不十分で、適切な評価（フィードバック）を与えることが肝心です。

**b)理解の伴った活動をさせる（理解→練習→運用）**

授業全般において留意します。理解できなければ使えるようにならないのは当然です。

**c)英語で授業を行う**

教師のclassroom-Englishはもちろん、生徒の英語使用の量と質を高められるように工夫します。

**d)音声指導を第一に行う（音声→文字）**

特に学習内容の導入時に留意します。言語は、音声から学習することが望ましいとされています。

**e)細部にこだわらずに、概要の把握を優先する（概要→細部）**

特に内容理解の場面で留意します。初めて聞いたり読んだりしたときに理解できることが期待されるのは、話題の全体像です。

また、英語科では、教科の特性を踏まえてＡＬＴ（英語指導助手）とのteam-teaching （協同授業）を行っています。このような場合には、さらに以下のことにも留意することが必要です。

（ⅰ）授業中は、生徒の実態をよりよく知っている日本人授業者が主導権を握って進行させるようにする。

（ⅱ）ＡＬＴのnative speakerとしての特性を生かし、効果的な指導を心がける。

#### ②　授業の構成

一般的な１単位時間の授業の手順の概要は、以下の通りです。ただし、この手順は、教科書の１section を１単位時間で指導することを目的としています。授業の目的によっては、修正を加える必要がありますが、前述の点を充分に留意して修正しなければなりません。

**a)復習　【5～10分程度】**

・英語学習の雰囲気づくり
・本時への土台づくりや前時の活動の発展
　＊長くなり過ぎないように留意。

**b)導入　【10分程度】**

・新出事項（基本文・内容・語彙など）の口頭導入や、課題解決的活動のモデリング
・導入事項の定着のための練習や言語活動
　＊新出事項を端的に導入する。
　＊自然な場面を設定して導入する。

**c)展開　【25分程度】**

・本文の聴解、読解（導入された事項を確認）および音読
・発展的言語活動（コミュニケーションを用いた課題解決的活動での言語運用の練習）

**d)整理　【５分程度】**

・新出事項や重要事項の整理（自己関連性の確認、まとめの話を聞く）
・本時の活動の評価

#### ③　指導案の作成

前述の一般的な手順で授業を行う場合、以下の点を踏まえて学習指導案を作成するように心がけてください。実際の作成にあたっては、生徒の実態やその授業の目標を充分に考慮に入れ、細部に至るまで検討し、万全の態勢で授業に取り組めるよう準備を整えることが大切です。

**a)復習**

（ⅰ）対話活動、歌など、活動を通して授業に集中させるものを取り入れる。

（ⅱ）復習する必要のある活動に絞る。
・前時の定着の不十分だった点を補っているか。
・本時の学習をするにあたって、効果的であると言えるか。

（ⅲ）slow learnerが理解を確かめられるよう留意する。
（ⅳ）家庭での復習の様子や、その時点での個人差がつかめるように工夫する。

b)導入

（ⅰ）基本文や語彙についてoral introductionを効果的に行う。
・introductionの手順は必要十分か。
（ⅱ）導入した事項を無理のない手順で練習する場面を設ける。
・充分な量の言語運用のための練習が設けてあるか。
（ⅲ）誤りやすい点とその対処をあらかじめ考慮に入れる。
・予想されるerror に対しての指導の準備はできているか。
（ⅳ）端的に導入し、自然な場面で英語を用いられるよう教材を工夫する。
・新出事項を場面から理解できる内容になっているか。

c)展開

（ⅰ）本文の内容を捉えられるような手順を、多角的に考え配列する。
・聞かせたり、読ませたりする活動は充分確保できているか。
・本文の内容理解を確認するための発問（ＴＦクイズ、ＱＡなど）をわかりやすく配列してあるか。
（ⅱ）文化的背景や登場人物の心情などについて触れ、興味を深められるようにする。
・内容をどの程度深めるかを吟味したか。
（ⅲ）導入した内容の実際の使用場面を見せて、理解を深めさせるようにする。
（ⅳ）新出事項を用いて、発展的な言語活動（コミュニケーションを用いた課題解決的活動）を用意する。
・情報伝達として意味ある活動になっているか（場面・題材）。

d)整理

（ⅰ）学習内容を振り返るとともに、speakingやwriting のoutput活動等を取り入れる。
・何をどのようにまとめるかが計画されているか。
（ⅱ）さまざまな評価活動を通じて、各自の到達の度合いを見つめさせ、次時への意欲を喚起できるような準備をする。

---

(2) 指導案例

1．一般の指導案

**令和〇年〇月〇日（〇） 第〇時**

# 第３学年〇組　英語科学習指導案

**授業者** 〇　〇　〇　〇

1　単元名　PROGRAM 7　*What Is the Most Important Thing to You*

(Sunshine English Course 3)

2　単元について

(1) 題材について

本課は，本当に意味のある国際協力を目指して，世界中でボランティア活動を行って途上国を支援し，また途上国のために働く意欲のある人材育成への取り組みを続ける山本敏晴さんの活動について学ぶ。彼が取り組んでいる活動の一つ，「お絵描きイベント」を通して，アフリカや南太平洋の途上国の現実を見ると同時に，自分の国に夢や希望を持って生きる子供たちの描いた絵に込められた力強いメッセージを通して，本当の国際協力とは何か，また私たち一人ひとりに何ができるのかを真剣に考えさせたい。そして，それを英語で発信する場を設ける際には，自身の考えを一方的に述べるだけでなく，他者の意見を聞いた上で，改めて自身の意見を再構成する場面があるような，リアルタイム

の双方向コミュニケーションになるよう指導の工夫を図りたい。

(2) 言語材料について

関係代名詞の主格について学習する。前課において，分詞による後置修飾の用法を学習しており，修飾のための語句を後から追加する感覚についてはすでに触れている。日本語との語順の違いを意識させ，十分な文型練習と身近な場面設定の言語活動を通して定着を図り，思考力・判断力・表現力の育成につながるような活用場面も設け，正しい運用へとつなげたい。

## 3　生徒の実態

男子〇名，女子〇名で，積極的にコミュニケーション活動を行うことのできる生徒が多いクラスである。英語での発表や音読にも失敗を恐れず挑戦できる雰囲気があり，英語を使って表現しようとする意識も高い。一方，多くはないが，人前で発表することを苦手としていたり，英語に不安を感じていたりしている生徒もいる。ペアやグループなど活動形態を工夫して，生徒同士がお互いに助け合いながら，学習したことを実際の言語の使用場面で活用する楽しさを実感させたい。

また，教師による事実発問への反応は速いが，推論発問や評価発問には躊躇する生徒もいる。生徒が自ら積極的に自分の考えを述べたりすることができるように働きかけていきたい。

## 4　単元の目標

適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

・関係代名詞の主格の用法の特徴やきまりに関する事項を理解し，使用する技能を身に付けている。
〈知識及び技能〉

・適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。
〈思考力，判断力，表現力等〉

・他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
〈学びに向かう力，人間性等〉

## 5　単元の評価規準

（本単元における「読むこと」，「話すこと［やり取り］」については，目標に向けての指導は行うが，本単元内で記録に残す評価は行わない）

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 聞くこと（聞） | ［知識］<br>① 関係代名詞の主格の特徴やきまりに関する事項を理解している。<br>［技能］<br>② 関係代名詞の主格などを活用して，大切なものについて話された内容を聞き取る技能を身に付けている。 | | ※ない領域は空欄もしくは＼ |
| 読むこと（読） | ※この単元はこの行は不要 | | |
| 話すこと［やり取り］（や） | ※この単元はこの行は不要 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 話すこと［発表］（発） | | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。 |
| 書くこと（書） | | 適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書いている。 | |

6　単元の指導と評価の計画（７時間扱い）

| 時 | ◆ねらい　○活動 | 評価 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 知・技 | 思・判・表 | 態 | ◎評価規準＜評価方法＞ |
| 1 | ◆本単元で理解する内容や身に付ける技能を知る。<br>◆関係代名詞の主格のwhoの特徴やきまりに関する事項を理解し，クラスメイトに紹介したい実在の人物について，事実を整理し，関係代名詞の主格のwhoなどを用いて話す。 | | | | |
| | ○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。<br>○関係代名詞の主格の who の特徴やきまりを言語活動を通して理解する。<br>○紹介したい実在の人物について，関係代名詞の主格の who などを用いて事実を話す。 | | | | ※目標についての「形成的評価」は行うが，記録に残す「総括的評価」は行わないため，空欄とする。 |
| 2 | ◆関係代名詞の主格のwhichの特徴やきまりに関する事項を理解し，クラスメイトに紹介したい理想の発明品について，自分の考えを整理し，関係代名詞の主格のwhichなどを用いて話す。 | | | | |
| | ○関係代名詞の主格の which の特徴やきまりを言語活動を通して理解する。<br>○関係代名詞の主格の which などを用いて，紹介したい発明品について自分の考えを話す。 | | | | |
| 3 | ◆関係代名詞の主格のthatの特徴やきまりに関する事項を理解し，前時までに学級内で紹介された人物や理想の発明品について，関係代名詞の主格のthatなどを用いて，事実や自分の考えを即興で話す。 | | | | |
| | ○関係代名詞の主格の that の特徴やきまりを言語活動を通して理解する。<br>○関係代名詞の主格の that などを用いて，人物や発明品について事実や自分の考えを即興で話す。 | | | | |
| 4 | ◆教科書本文（§１～３）を聞いたり読んだりして内容を理解し，関連する内容について自分の考えを表現する。 | | | | |
| | ○関係代名詞の主格が用いられた教科書本文の内容を理解する。<br>○教科書本文に関連した内容について，自分の考えをもち，他者と意見交換する。 | | | | |
| 5 | ◆適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書く。 | | | | |
| | ○関係代名詞の主格の that などを用いて，自分にとって大切なものについて，自分の考えを書く。 | | 書 | | ◎適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切な |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | ものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書いている。<ワークシート分析> |
| 6 | ◆適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す。 | | | | |
| | ○前時に書いた原稿を参考に，関係代名詞の主格の that などを用いて，自分にとって大切なものについて，自分の考えを話す（タブレット端末に記録する）。<br><br>○聞き手に配慮しながら，プレゼンテーションソフトやイラストを用いるなど，効果的な発表になるように工夫する。 | | 発 | 発 | ◎適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。<タブレット端末分析><br>◎適切な表現を選択し，論理性を意識して情報を有効に伝えることができるよう，自分にとって大切なものについて，自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。<タブレット端末分析> |
| 7<br>本時 | ◆関係代名詞の主格などを活用して，クラスメイトにとって大切なものについて，話された文の内容を聞き取る。 | | | | |
| | ○タブレット端末に記録されたクラスメイトの発表を聞き，話の内容を理解する。<br><br>○聞き取ったクラスメイトの意見の概要を，他者に伝達する。 | 聞<br>② | | | ◎関係代名詞の主格などを活用して，大切なものについて話された内容を聞き取る技能を身に付けている。<ワークシート分析> |
| 後日 | パフォーマンステスト<br>ペーパーテスト | ○ | ○ | | |

7　本時の学習

(1) 目　標

関係代名詞の主格などを活用して，大切なものについて話された英文の概要を聞き取ることができる。

(2) 教　具

・タブレット端末　　・ワークシート

(3) 展　開（7／7）

| 過程 | 学習活動・学習内容《形態》 | ・指導上の留意点　　◎評価規準＜評価方法＞ |
|---|---|---|
| 復習<br>10分 | 1　ウォームアップ　　《一斉》<br>(1) あいさつ<br>(2) 歌　“Thumbs”<br><br>2　復習　“Geography”　　《一斉》 | ・学習の雰囲気をつくる。<br>・音声変化（同化・連結・脱落）に留意させる。<br><br>・教科横断的に課題に取り組ませる。 |
| 導入<br>10分 | 3　課題の確認<br>“The Most Important Things to Us”<br>(1) 本時の課題と目標を確認する　《一斉》<br><br>(2) 教師が作成したモデルをそれぞれタブレット端末で聞く　　《個人》 | ・課題と目標をわかりやすく提示する。<br>・聞き取った内容を，その後の活動で他者に説明し直すことを確認する。<br>・大切なものとその理由等，生徒にリスニングポイントを与える。 |

| | | |
|---|---|---|
| | (3) モデル文の概要を自分の言葉で表現し直す《ペア》《一斉》 | ・関係代名詞の主格を使うことの有用性について考えさせる。 |
| 展開24分 | 4　クラスメイトの意見の聞き取りと情報共有<br>(1) クラスメイトの意見を聞き取る《個人》<br>タブレット端末に記録されている英文について，一人当たり３分間で話の概要を聞き取り，ワークシートに記録する。<br><br>(2) 情報をペアで共有する　《ペア》<br><br>(3) 伝達されたクラスメイトの意見を確認する《個人》<br>(2)で得た情報について，それが記録されているタブレット端末へ移動し，その内容を自身で確認する。　《個人》 | ◎関係代名詞の主格などを活用して，大切なものについて話された内容を聞き取る技能を身に付けている。<ワークシート分析><br>・使用されている関係代名詞に注意させる。<br>・生徒を移動させるのではなく，タブレット端末を手渡しさせる。<br>・自身が聞いたクラスメイトの意見の中から１名を選び，パートナーに自身の英語で伝達させる。<br>・インフォメーションギャップのあるペアを作り，活動を繰り返すことでより多くのクラスメイトについての情報を得させる。<br>・すでに他のパートナーから情報を聞いていた場合には，他のクラスメイトの情報について取り組ませる。<br>・伝達された内容と自身が聞き取った内容について確認させる。<br>・使用されている関係代名詞に注意させる。 |
| 整理6分 | 5　まとめ<br>(1) モデル生徒の英文の再生　《一斉》<br><br>(2) Personalization（自己関連性）《個人》<br>(3) 今後の取組についての連絡　《一斉》 | ・説明の内容と特定の言語材料等について全体で共有する。<br>・自身の言葉で説明し直す視点を与える。<br>・次回以降の活動に向けて，意欲を喚起する。 |

2．Team-teaching **用詳細案**＜ＡＬＴとの打ち合わせ時は英語で行う。＞

| | 学習活動・学習内容 | ＪＴＥの指導 |
|---|---|---|
| 復習10分 | 1　英語の歌　“Pretty Woman” | ・正しい音声で歌うよう指導する。<br>・歌詞に注目させ、後置修飾の実際使用例に気づかせる。 |
| | 2　前時の復習<br>・現在分詞等の後置修飾が歌に用いられていることに気づく。<br>・歌詞の意味をとらえる。 | ・英語の語順で意味を考えさせる。 |
| | ・森林伐採がもたらす悪影響について考える。 | ・森林伐採についての資料を提示し、自然破壊現状に気づき、その害を考える。<br>・生態系についてふれる。 |
| 導入10分 | 3　新文型の口頭導入および口頭練習<br>・授業者の対話を聞き、その概要を理解する。 | ・適切な場面を想定し、新文型に気づかせ、その使用場面を考える。<br>JTE：Why are you putting like that？<br>JTE：Well, they are the animals flying in the sky.<br>JTE：They are the animals seeing in Asutralia.<br>JTE：Oh, they are the animals seen in Australia. |
| | ・内容についてのＡＬＴの質問に答える。 | ・必要に応じて生徒を支援する。 |
| | ・新文型に気づく。 | |
| | ・模倣練習を行う。 | ・新文型の模倣練習をさせる。 |
| | ・説明を聞き、その用法を理解する。 | ・新文型の用法について説明を加える。 |
| | ・新文型を用いて、簡単な表現活動を行う。“They are the animals…” | ・生徒に文のパターンを考えさせながら言わせる。 |
| | ・日本語と英語の修飾方法の違いに気づく。 | ・日本語の連体修飾語句と英語の修飾語句の位置の違いについて説明し、気づかせる。 |
| 展開25分 | 4　本文の理解<br>・新出語句の意味を理解し、発声練習をする。 | ・新出語句を紹介し、意味の確認を行う。<br>・生徒の音声を評価し、指導する。 |
| | ・概要を聞き取る。 | ・必要に応じて生徒を支援する。 |
| | ・ＡＬＴの説明を聞いて概要をとらえて絵を順番に並べ替える。<br>〇説明される内容を表す絵を順に並べる。 | ・ＡＬＴの説明後に理解の様子を確認する。<br>・絵の並べ替えをさせる。 |
| | ・内容を読みとり、音読する。<br>①黙読<br>〇本文は何を提言しているか。<br>〇宇宙飛行士の見ていたものは何か。 | ・生徒の理解の様子を確認する。（Ｔ・Ｆ）<br>・必要に応じて生徒を支援する。 |
| | ②音読<br>一斉読み→個人読み→一斉読み | ・生徒の音声を、指導する。 |
| まとめ5分 | 5　発展的言語活動<br>・ペアで単語の説明を行う。<br>（astronaut, the earth, etc.） | ・練習の方法を指示する。<br>・必要に応じて生徒を支援する。 |
| | ・ＡＬＴに日本固有の物を説明する。<br>（mochi, otoshidama, etc. ） | |
| | 6　まとめ<br>・本時の学習内容を振り返る。 | ・本時の要点をまとめる。 |

| Ａ　Ｌ　Ｔ　の　指　導 | ・指導上の留意点　◎評価規準＜評価方法＞ |
|---|---|
| ・生徒と共に歌い、評価する。<br><br>・歌詞の中に現在分詞が用いられていることを指摘する。<br><br>・自分が生活してきた環境について簡単にふれる。 | ・学習の雰囲気をつくる。<br><br>・歌詞の意味をとらえられるよう助言する。<br>・現在分詞の用法を想起させる。<br><br>・前時の本文の内容を想起させ、提示された問題について考えさせる。 |
| ・ＪＴＥと協力して自然な場面をつくる。<br><br>ALT : Look at these pictures. They are the pictures of animals.（２組に分けながら）<br>ALT : Can you tell me why ?<br>ALT : Right. How about this group ?<br><br>ALT : Seeing ? Please say “They are the animals sesn in Australia.”<br>ALT : That's right.<br><br>・内容確認のための質問をする。<br>“What are they ? ”<br>・モデルを示す。<br>・生徒の理解の様子を評価する。<br>・生徒の表現を評価する。<br><br>・英語の修飾語句の例示をする。 | ・場面から判断できるように留意する。<br><br>・正しいリズムや発音で模倣させる。<br>・積極的に聞いているか。<br>・正しい語順で言わせる。<br><br>・修飾関係の表現の違いに気づかせる。 |
| ・モデルを示し、意味の説明後、評価する。<br>・本文の概要を英語で説明する。<br><br>This is a report. An astronaut wrote it.<br>The first day we talked about our countries.<br>The third day we talked about our continents.<br>The fifth day we talked about our earth.<br><br>・生徒の返答を評価する。<br>・本文の内容に関わる文を言う。<br>① We have to help each other to save the earth.（Ｔ）<br>② The things they pointed to didn't change.（Ｆ）<br>・生徒へのフィードバックをする。<br>・生徒の読み方を評価する。 | ・正しく理解させ発音させる。<br>・積極的に聞き取らせる。<br><br>・正しく理解を促す補助発問をする。 |
| ・個別の活動を評価する。<br>・必要に応じて生徒を支援する。<br><br>・生徒と対話活動を行う。 | ◎分詞による後置修飾などを活用して、日本固有の物について説明する技能を身に付けている。<br>＜活動観察＞ |

### (3) 授業分析の方法

#### ① 授業参観の視点

授業を参観するときは、授業者の良い点を自分が取り入れるつもりで、また、良くないと思われる点については、自分なりの解決法を見つけるつもりで積極的に観察するように心がけてください。何を意図して授業が進められているか、自分ならどのように扱うかなど、常に問題意識をもって臨む必要があります。

特に、以下の点を十分に観察してください。

**a)教材・指導について**

（ⅰ）指示のしかた
（ⅱ）教具や ICT 機器の活用のしかた（指示のしかた、取り扱い方）
（ⅲ）評価のしかた（活動中の支援、フィードバック）

**b)生徒について**

（ⅰ）コミュニケーションに主体的に活動しているか（表情、言動）。
（ⅱ）その授業のねらいに迫れたか（活動の様子、成果物）。

#### ② 授業の実際と評価

生徒の活動を評価することと同様、自分の授業を客観的に振り返ることは大切なことです。上記参観の視点と以下のような点に留意して、授業の実践、及び評価をし、改善に努めます。

**a)授業実施上の留意点**

（ⅰ）指導案の理解は充分か（指導案ではなく生徒を見ながら授業を行う）。
（ⅱ）教具の準備は万全か（必ず、事前に実際に使ってみる）。
（ⅲ）生徒中心の授業であるか（生徒の活動時間を充分に確保しているか）。
（ⅳ）生徒の英語使用の量と質は適切であるか。

**b)授業の事後評価上の留意点**

（ⅰ）授業のねらいが明確で、かつ達成できたか。
（ⅱ）言語活動は適切に組み入れられたか。
（ⅲ）指導と評価の関連は図れたか。
（ⅳ）生徒がコミュニケーションに主体的に取り組んでいたか。
（ⅴ）生徒の学習意欲と集中力を高められたか。

## 2.9　保健体育科

(1)学習指導計画作成上の留意点

| |
|---|
| 1単位時間の学習指導計画は、単元計画の一部であり、最も具体化された指導計画である。立案にあたっては、指導目標を達成する過程として、単元計画における位置や学習活動の流れを踏まえ、一人ひとりが楽しく生き生きと活動ができるように構成する必要がある。以下、学習指導計画作成上の考え方・例を示した。 |

# 保健体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時　活動場所
第〇学年〇組　男子〇名　女子〇名　計〇名
指導者　氏名　　印

**1　単　元　名**……主として指導する種目や運動の内容をまとめたものを記入する。
※　小学校の場合　・教材名（領域の内容名）
※　中・高等学校の場合　・領域選択の場合「選択させる領域名」（自分が担当する運動種目等）
・運動種目等選択の場合「領域名」　（自分が担当する運動種目等）

**2　運動の特性**……具体的な単元の目標と内容を導き出す手がかりとする。

**（1）一般的特性**

欲求の充足あるいは必要を充足する機能を中心にとらえ，児童生徒にとっての種目の一般的な魅力（機能的特性）を明らかにする。

**（2）児童生徒から見た特性**

児童生徒の実態を踏まえ，学習する児童生徒にとって，どこが楽しいか，遠ざける要因は何か，どんな楽しみ方ができる運動かを明らかにする。

**3　児童生徒の実態**
**（1）知識及び技能**
**（2）思考力，判断力，表現力等**
**（3）学びに向かう力，人間性等**

この種目（運動）にかかわる，学級の児童生徒の実態（知識及び技能，思考力，判断力，表現力等，学びに向かう力，人間性等）を主に明らかにする。また，授業を計画する上で必要な意識調査や生活習慣のアンケート結果，運動能力や技能に関する調査結果，体力課題解決研究指定校は体力の実態を示す。

**4　教師の指導観**
**（1）知識及び技能**
**（2）思考力，判断力，表現力等**
**（3）学びに向かう力，人間性等**

「運動の特性」と「児童生徒の実態」から考え，一人一人の児童生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせるために，どこに重点を置き，どのように指導していこうとするのかを具体的に明らかにする。

**5　単元の目標**

単元の学習を通して学習指導要領に示されている目標及び内容〔知識及び技能〕〔思考力，判断力，表現力等〕〔学びに向かう力，人間性等〕から児童生徒をどのように変容させるか，目指していることを箇条書きで示す。
※　文末は，「～できるようにする。」と表記する

**6　単元の評価規準**

国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」，「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」，「埼玉県小学校・中学校教育課程指導・評価資料」等を参考に各学校で作成した単元の評価規準を示す。（3つの観点**【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】**の「おおむね満足できる」状況を評価規準として示す）

（例）

| 知識 | 技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| ①② | ①②③ | ①② | ①②③ |

7　単元の計画

（1）領域の取り上げ方　（例）

| 学年 | バスケットボール | サッカー | ハンドボール | バレーボール | バドミントン（ソフトテニス） | ソフトボール |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1学年 | 4時間 | 4時間 | 8時間 | — | 8時間 | 8時間 |
| 第2学年 | 8時間 | 8時間 | — | 8時間 | — | 8時間 |
| 第3学年 | ※12時間 | ※12時間 | ※10時間 | ※12時間 | ※12時間 | ※10時間 |

（2）領域の内容（運動種目）と目指す動き　（例）

| 学年 | 教材 | 目指す動き |
|---|---|---|
| 第1学年 | ハンドボール | 基本のボール操作を用いてゴール前の空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてシュートを打つなどゴール前の攻防をすることができる。 |
| 第2学年 | | |
| 第3学年 | ハンドボール | 安定したボール操作や仲間と連携した動きによってゴール前に空間を作りだしてゴール前へと侵入しシュートを打つなどの攻防をすることができる。 |

（3）指導と評価の計画　（○時間扱い）　本時は○印　○／○時間

| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ⑥ | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ねらい | ※　単元の明確なゴール像（目標や内容「何を学ぶか」、資質・能力「何ができるようになるか」など）を明確にした上で、各時間のねらいを設定し、記入する。 | | | | | | | |
| 指導内容 | ※　各時間のねらいに沿った指導内容や、単元のゴール像に向けて各時間で必要となる指導内容について記入する。 | | | | | | | |
| 0分<br>学習過程<br>50分 | オリエンテーション<br>例<br>1・・・<br>2・・・<br>3学習の進め方の確認<br>4基本的な既習技の確認<br>5・・・ | 例<br>※　この通し番号と、「本時の学習と指導」の（3）展開における「学習活動・内容」で示す通し番号を一致させる。<br>1　集合、整列、挨拶、健康観察<br>2　前時の振り返り<br>3　準備運動<br>4　学習の場づくり、用具の準備<br>5　感覚つくりの運動<br>6　本時のねらいや学習内容等の確認<br>7　練習<br>8　練習の成果の確認（記録会、発表会、ゲーム等）<br>9　自己評価、相互評価<br>10　整理運動、片付け<br>11　学習の振り返り<br>12　整列、健康観察、挨拶 | | | | | | |
| ※　授業で教えるべきことを明記する。<br>・技能だけでなく、他の指導内容についても明記する。<br>・「共通に学ばせること」（生徒に教えること）と「自主的・主体的に学ぶこと」（生徒に委ね、考えさせること）を明確にする。 | | | | | | | | |
| 評価計画 知 | ① | | | ② | | | | |
| 評価計画 技 | 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を、単元を通してバランスよく評価する。 | | | | | | | ③ |
| 評価計画 思・判・表 | | | | | | | | |
| 評価計画 態 | ① | ③ | | | | | ② | |
| 評価計画 方法 | 観察・カード | 観察・カード | よりよいタイミングに、よりよい方法で確実に見取る。 | | | | | カー |
| 評価計画 場面 | 3，4，9 | 7，8，9 | 7，8，9 | 7，8，9 | 4,7,8,10 | 7，8，9 | 7，8，9 | 7，8，9 |

※　「評価計画」には、その時間の「ねらい」に対応した「単元の評価規準」の番号を記す。

※　その下段には「評価方法」を具体的に記し、その下の「評価場面」には主にどの場面で評価するのかを、上段の学習過程の番号を対応させて記す。

※　ここでの評価は1時間ごとの「ねらい」に正対した振り返りを行い、それを受けて次時につなげていく評価である。1時間の「学習評価の観点」は、原則一つ（本時のねらい、指導内容、学習過程において、関連が深い場合は二つまで可）とし、適切に評価できるようにする。

8　本時の学習と指導（〇／〇時）

（1）ねらい

学習指導要領の内容や単元の目標に即して、本時で生徒に身に付けさせたいことを明確にし、どんな活動ができればよいか、生徒の実態と学習の進展状況を踏まえて具体的に示す。

※文末は「～できるようにする。」と表記する。

※文の後に付ける〈　〉は育成を目指す資質・能力の三つの柱から該当するものを表記する。

（2）準備

本時に使用する教具、用具、資料等を示す。

（3）展開

導入から展開・整理へと生徒の楽しさを追求する活動を中心に考える。その楽しさを「本時のねらいの達成」という確かなものにするために、教師が個人・グループやチーム・全体等に何を指導し、どのような点に留意していくかをより具体的に明確に示す。

| 段階 | 学習内容・活動 | 指導上の留意点（〇指導　◆評価規準） |
|---|---|---|
| 導入〇分 | （例）<br>1　集合、挨拶、健康観察をする<br>2　前時の振り返りをする<br>3　準備運動をする<br>4　学習の場づくり、用具の準備をする | ※　本時の学習を円滑に進めるための留意事項を具体的に示す。<br>・健康上注意を要する生徒の健康状況と指導上の留意事項<br>・準備運動で特に注意を要する運動とその行い方、配慮する生徒、学習手段等の特徴等 |
| 展開〇分 | （例）<br>5　感覚つくりの運動をする<br>6　本時のねらいや学習内容等の確認をする<br>7　練習をする<br>・課題やめあての解決に取り組む<br>8　練習の成果の確認をする<br>・記録会、発表会、ゲーム等<br>9　自己評価、相互評価をする | ※　全ての児童生徒に指導する内容を明確にし、指導上の留意点を示す。<br>※　一人一人の生徒が、本時のねらいを達成することができるように、教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。<br><br>◆単元の評価規準【観点】<br>「単元の評価規準」で示したものをそのまま記す。<br><br>指導と評価が一体となるように、<br>「△努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て」<br>「◎十分満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿」<br>を示し、評価を次の指導に生かす。 |
| 整理〇分 | （例）<br>10　整理運動、片付けをする<br>11　学習の振り返りをする | ※　本時の学習を振り返るに当たっての留意事項を具体的に示す。<br>・本時のねらいに正対した振り返りを行い、それを受けた評価の仕方、まとめ方についての要点 |

(2)指導案の実際

# 保健体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）　第１校時　体育館
第１学年Ｃ組　男子 18 名　女子 18 名　計 36 名
授　業　者　〇　〇　〇　〇

1　単元名　「武道」（柔道）

2　運動の特性

(1)　一般的特性

武道は，武技や武術などから発生した我が国固有の文化であり，相手の動きに応じて，基本動作や基本となる技を身に付け，相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって，勝敗を競い合うところに特性がある。礼儀を重んじ，伝統的な行動の仕方が重視され，相手を尊重したり勝敗に対する公正な態度を養うのに効果的な教材である。

柔道は，相手と直接組み合って，相手の動きに応じて，基本動作や基本となる技，連絡技を用いて相手と攻防しながら，互いに「一本」を目指して勝敗を競い合う運動である。また，柔道を通して我が国固有の文化に触れ，伝統的な行動の仕方や，柔道らしい礼法や行動の仕方を身につけることが楽しみな運動である。

(2) 生徒からみた特性

| 運動の楽しさの要因 | 運動を遠ざける要因 |
|---|---|
| ・基本動作や基本となる技ができるようになったとき。<br>・相手との攻防の中で，タイミングよく技を掛けたり，固め技で相手を制したとき。<br>・武道の伝統的な考え方が理解できたとき。 | ・投げられることへの恐怖心や痛みを感じたとき。<br>・練習した技がうまくできなかったとき。<br>・攻防の展開で相手をうまく制することができなかったとき。 |

3　生徒の実態

(1) 技　能

武道経験者は数名いるが，柔道経験者はおらず，全員が初めて学習するため，基本動作や受け身，基本となる技も身に付けていない。

(2) 態　度

真面目な生徒が多く，積極的に学習へ取り組むことができる。また，仲間と協力しながら健康・安全に気をつけながら授業を行おうとする生徒が多い。

(3) 知識，思考・判断

柔道についてテレビを通してのイメージを多少もっているが，基本的な技能や柔道を通して高まる体力，ルールを理解している生徒はほとんどいない。

(4) 体力の実態（令和元年度　新体力テスト結果より）

| 項　目 | | 握力(kg) | 上体起こし(cm) | 長座体前屈(cm) | 反復横跳び（点） | 持久走(秒) | ５０ｍ走(秒) | 立ち幅跳び(m) | ボール投げ(m) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男子 | 本校 | 22.39 | 27.61 | 40.71 | 50.04 | 421.24 | 8.48 | 178.78 | 18.56 |
| | 全国平均 | 24.07 | 24.64 | 39.70 | 49.96 | 412.66 | 8.42 | 181.24 | 18.29 |
| | 比較 | × | 〇 | 〇 | 〇 | × | × | × | 〇 |
| 女子 | 本校 | 22.10 | 26.19 | 46.26 | 49.11 | 290.17 | 8.74 | 171.49 | 15.28 |
| | 全国平均 | 22.71 | 21.29 | 42.87 | 45.95 | 292.07 | 8.93 | 166.19 | 12.16 |
| | 比較 | × | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

女子はほとんどの項目で全国平均を上回っているが，男子は柔道で関連して高まる体力要素である筋持久力と瞬発力に課題が見られる。

(5) 体育に関する実態調査から ※36 名解答

①柔道の授業は楽しみですか

〇とても楽しみ…９名　〇楽しみ…20 名　〇あまり楽しみではない…７名　〇楽しみではない…０名

②柔道の授業で学びたいことはどんなことですか　※複数回答可

〇『投げ技』…21 名　〇『抑え技（寝技）』…15 名　〇『受け身』…18 名　〇『礼儀・礼儀作法』…19 名
〇『体力』を高めたい…25 名　〇『精神』を強くしたい…24 名　〇『柔道の歴史』について学びたい…９名

③柔道の授業で不安なことはどんなことですか　※複数回答可

〇痛そう…16 名　〇怪我をしそう…22 名　〇難しそう…15 名　〇組み合うのが怖い…８名
〇体力的にキツそう…７名　〇争いが苦手…５名　〇やったことがないから…17 名

## 4　教師の指導観

生徒アンケートから，ほとんどの生徒が「楽しみ」としている一方，「難しそう」「やったことがないから」と初めて学習する内容に不安を感じている。「怪我をしそう」「痛そう」と感じている生徒が多くいるため，安全に配慮した段階的な指導が必要であるといえる。そこで，本単元では，全員が初めて学習する内容であるため，３年間の指導を見通した，無理のない学習計画をたて進めていく。

本校生徒の実態から１・２学年でのねらいを「安全に配慮した段階的な指導を通し，全員が武道（柔道）の特性や攻防する楽しさを味わい，自己の体力や心の成長を実感し，学習したことを他の場面に生かすことができる」とする。第１学年では，安全面へ配慮し『投げ技』は行わず，『固め技』を中心に行い，固め技の基本となる技を用いて抑えたり返したりする攻防を展開する学習を通して，ねらいに迫る。

## 5　単元の目標

(1)　技ができる楽しさや喜びを味わい，武道の特性や成り立ち，伝統的な考え方，技の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本動作や基本となる技を用いて簡単な攻防を展開する。
・柔道では，相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をする。　【知識及び技能】

(2)　攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝える。　【思考力，判断力，表現力等】

(3)　柔道に積極的に取り組むとともに，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや，禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配る。　【学びに向かう力，人間性等】

## 6　単元の評価規準

| | 知識 | 技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
|---|---|---|---|---|
| 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準） | ①武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることについて言ったり書き出したりしている。<br>②武道の技には名称があり，それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げている。 | ①取は，「抑え込みの条件」を満たして相手を抑えることができる。<br>②取はけさ固めや横四方固めで相手を抑えることができる。 | ①技や簡易な攻防などの改善についてのポイントを発見し，仲間に伝えている。<br>②学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。<br>③練習の場面で，仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。 | ①柔道の学習に積極的に取り組もうとしている。<br>②相手を尊重し，柔道の伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。<br>③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 |

## 7　単元の計画

(1)　領域の取り上げ方

| 学年 | 柔道 | 剣道 | 相撲 |
|---|---|---|---|
| 第１学年 | 10 時間 | | |
| 第２学年 | 10 時間 | | |
| 第３学年 | 10 時間 | | |

※第１・２学年においては全員柔道を履修する。　※第３学年では「球技」および「武道」のまとまりの中から選択する。

(2)　運動種目

| 学年 | 教材 | 目指す動き |
|---|---|---|
| 1 | 受身の習得（後ろ受け身・横受け身）<br>基本動作の習得（姿勢・組み方・進退動作・崩し体さばき）<br>固め技の習得（けさ固め・横四方固め）<br>固め技の簡易試合　審判法 | 個人や二人組で，基本の受け身をとること。<br>相手の動きに応じやすい状態をつくること。<br>抑え込みの条件を理解して抑えること。受けはそれを解こうとすること。 |
| 2 | 受身の習得（前回り受け身）<br>投げ技の習得（膝車・体落とし・大腰）<br>固め技の簡易試合（背中合わせ，亀） | 投げられた際に安全に身を処すること。<br>取は崩し，体さばき，かけを用いて安全に投げること。<br>取はタイミングよく受け身を取ること。 |
| 3 | 投げ技の習得（小内刈り・大内刈り・大外刈り）<br>連絡変化技の習得<br>固め技・投げ技の簡易試合 | 取は連絡技を用いて投げること。取はタイミングよく受け身を取ること。<br>学習した技を用いて，攻防を楽しむこと。 |

(3)　指導と評価の計画（10 時間扱い）　本時は〇印　6 ／10 時

| | 時 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習の流れ | 0 | オリエンテーション | 健康観察・本時のねらいの確認 | | | | | | | | |
| | | | 準備運動・補強運動・感覚つくりの運動 | | | | | | | | |
| | 10 | | ・柔道衣の着方<br>・準備運動の仕方、感覚つくり運動の仕方 | 受け身の基本練習（個人・対人）<br>・抑え込みの条件<br>・オリジナルの固め技を考えよう | ・組み方<br>・けさ固め | ・横四方固め<br>・相手を尊重する態度について<br>・審判の行い方 | ・どの方向に崩すと固め技に持ち込めるのか考えよう<br>・崩しの方向 | ・体さばきについて<br>・仲間の伝統的な所作等の良い取組を見付けよう。 | ・固め技の逃れ方を考えよう<br>・固め技の簡易試合（団体戦） | 固め技の簡易試合（団体戦） | 固め技の簡易試合 |
| | 20 | | | | | | | | | | |
| | 30 | 基本動作・礼法 | ・後ろ受け身 | ・検証する為に固め技の簡易試合 | ・オリジナル技との比較 | ・固め技の簡易試合 | ・固め技の簡易試合 | ・固め技の簡易試合（団体戦） | | | |
| | 40 | | | | | | | | | | 単元のまとめ |
| | 50 | 整理運動・学習の振り返り・次時の確認 | | | | | | | | | |
| 評価 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 知識 | ① | | | ② | | | | | | 総括的な評価 |
| | 技能 | | | | | | | | ② | ① | |
| | 思・判・表 | | | ② | | | ① | ③ | | | |
| | 態度 | | ① | | | ② | | | | ③ | |

8　本時の学習と指導（6／10）

（1）本時のねらい

・固め技に持ち込むためのポイントを見付け仲間に伝えよう。　【思考・判断】

（2）準備　柔道衣，ワークシート，掲示資料，筆記用具

（3）本時の展開

| 段階 | 学習内容・活動 | 指導上の留意点<br>（○・・・指導内容　◆・・・評価の観点） |
|---|---|---|
| はじめ<br>12分 | 1　着替え，集合。<br>2　あいさつをする。<br>出席確認，健康観察<br>3　準備運動を行う。（グループ）<br>○体操・柔軟運動<br>○補強運動<br>・お花畑腹筋 10 回　・肩ブリッジ 10 回<br>4　○受け身<br>・後ろ受け身（長座，立位）5 回ずつ<br>・横受け身（寝姿勢）10 回程度<br>※終わった班は，二人組の横受け身の復習をする<br>○アニマル（クマ，カエル，クモ） | ○全員で協力して素早く集合させる。<br>○気持ちを集中させるために黙想を行い，元気よく挨拶させる。<br>○健康観察をする。<br>○班長，声掛け係を中心に元気よく行わせる。<br><br>○自分の体力向上を意識させながら補強運動を行わせる。<br><br>○お互い正しい受け身の形を注意しながら実施させる。<br>○３つのポイントを徹底する。<br>①頭をつかない　②背中をついてから　③腕全体で<br>○横受け身では，腕，足横，足裏の三点同時に受け身をしているかを確認する。<br>○周りの安全に留意しながら行わせる。 |
| 展開<br>33分 | 5　本時のねらいの確認をする。<br>**固め技に持ち込むためのポイントを見付け仲間に伝えよう**<br>○「崩し」の方向について確認する。<br>・お互い組み合った膝立ちの姿勢から，どの方向に崩すと固め技に持ち込めるのか考える。<br>＜約束事＞<br>・無理に体重を浴びせない。<br>・立ってはいけない（片膝立ちまで）<br>・10 秒抑え込んだら一本<br>○自分の考えを立てたら，周りの仲間と実際に動いて考えてみる。<br><br>6　固め技の簡易試合を行う。（膝立ちで組み合った状態）<br>試合者：２名<br>審判：１名<br>安全係：１名（２名）<br>※安全係は抑え時間をコールする<br>≪主なルール≫<br>試合時間：30 秒（教師が計時）<br>勝敗：10 秒抑え込んだら『一本』<br>約束：・無理やり体重を浴びせない<br>・立ってはいけない（片膝立ちまで）<br>・痛い場合は相手の体を２回以上たたく<br><br>7　学習の振り返り<br>○固め技に持ち込むためのポイントについて自分の考えをまとめる。<br>・活動を通して　・対戦相手の聞き取りを参考に<br>○自分の考えたポイントについて班で発表し合う。<br>・班長を中心に意見交換する。<br>○友達の発表を聞いて，あらためて固め技に持ち込むためのポイントについてまとめる。 | ○本時のねらいを確認させる。<br>○ワークシートの八方向の崩しの表を参考にさせる。<br>○ワークシートに自分の考えを記入させる。<br>○お互い広い場所を見付け，広がらせる。<br><br>○できるだけ実際に動きながら考えさせる。<br>○約束事をしっかり確認する。<br>○周りの安全に留意しながら行わせる。<br>○相手の表情や無理な体制に気をつけさせる。<br><br>○試合の約束事をしっかり確認させる。<br>○周囲の安全に気をつけながら試合をさせる。<br>・お互い協力しながら<br>○役割分担を明確にする。<br>○痛かったり，苦しかったら「参った」をさせる。<br>○安全な場所を選んでいるか確認する。<br><br>◆固め技に持ち込むためのポイントを見付け仲間に伝えている。<br>【思考・判断】（観察）<br><br>**努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て**<br>△ねらいを捉えていない生徒には，教師が指導に当たり説明をする。<br>**「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿**<br>○観察や自己の体験から具体的なポイントを例に挙げ，自分の考えを添えて，わかりやすく伝えている。<br><br>○活動から感じたこと，対戦相手からの聞き取りを参考に，自分の考えをまとめさせる。<br>○仲間の発表を聞くときは，話す人の方を向かせる。<br>○否定的な言葉は使わないようにさせる。<br>○自分なりの言葉でワークシートにまとめさせる。 |
| 整理<br>5分 | 8　整理運動をする。<br><br>9　整列をする。<br><br>10　次時の確認をする。<br><br>11　挨拶をする。（黙想，礼） | ○使った部位を中心に正確に行わせる。<br><br>○素早く集合させる。<br><br>○次時の学習内容を説明する。<br>○聞く姿勢を作らせる。<br>○正しい礼法で行わせる。 |

(3) 授業分析の方法

①はじめに

実習生の多くは中学生を指導した経験が無く、自分が現在携わっている特定のスポーツ種目に堪能であることだけを財産としている。しかも、自分でできることと指導することの違いを認識できず、堪能なはずの種目でさえ学習内容を与えることに苦慮する状態となる。

しかし、このような実習生の状況を憤慨しているのでは無く、むしろ、教壇に立った大きな感動や喜びを味わえる可能性に、期待をしたいわけである。

実習期間は「今日は生徒がよく動いてくれた」「楽しかったといってくれた」など授業中の生徒の表情や言動に一喜一憂するときであり、その反応の原因がどこにあったかを探っていく活動を大切にすべきであると考える。いわゆる、指導者側の自己評価を誠実に行うことは、よい授業を模索する上で欠かせない行為である。

②保健体育科のよい授業

よい授業を求め、ご自身の実践を深めた高田典衛氏の著書から、その姿を探ってみる。

氏はよい授業にせまるために、主に「子どもから聞く」という方法をとった。そして、そこには、次の４つの条件が含まれると述べている。

ア　快適な運動
　　〇　精一杯運動させてくれる授業
イ　技能の伸長
　　〇　技や力を伸ばしてくれる授業
ウ　明るい交友
　　〇　友人と仲良くさせてくれる授業
エ　新しい発見
　　〇　新しい発見をさせてくれた授業

※『体育授業入門』高田　典衛　大修館書店

１単位時間の中に、上記４つの観点を充たす努力が必要であるという。

③授業の実際と評価

次に、もう少し具体的に、実際の１時間の授業を行うとき、教師の取り組みの留意事項を示してみる。

ここでは、単元の「なか」の場面を取り上げ、課題解決的な学習指導を行っているものと想定する。教師の学習指導上配慮すべき事項を示してみた。

□　自己の能力・適性の正しい把握をさせる
□　生徒自身の学習のねらい（目標）をたてさせる
□　そのねらい（目標）へ向けて課題を設定（発見）させる
□　課題を解決するのにふさわしい練習方法に取り組ませる
□　積極的に活動し運動量を豊富にさせる手だてを工夫する
□　お互いに補助をしたり、アドバイスし合って活動させる
□　自分（たち）の活動を振り返り、次回への計画を立てさせる

それぞれの項目について、どのような手だてを用いてこれらを具現化させるかが大切となる。

④授業参観について

（ｉ）授業を参観する前に。

授業は、教師が生徒の主体的な学習活動を構築することによって、学習指導のねらいを達成しようとする営みである。そして、そのための計画書が学習指導案である。したがって、授業を参観する場合は、参観の前に学習指導案を十分に読み込み、そこから教材に対する授業者の姿勢やその授業の全体的な構想、学習活動の展開に対する授業者の意図等を読み取っておくべきだ。そうすることによって授業中の教師の発問や、それに対する生徒の反応の持つ意味をより深くとらえることができる。

また、授業で使われる教材にも、事前に目を通し、自分なりの教材観を持って授業参観に臨むことが必要である。できれば学習指導案の教材観から、その教材に対する授業者の教材観をつかみ、自分の教材観との違いを明確にさせ、それを１つの問題意識として授業参観に臨むとよい。もちろんそのためには、教材となる課題等を教師が分析・発展しておかなければならない。

（ⅱ）問題意識を持って授業参観をすること。

上記の参観の観点を、１時間の授業の中ですべてチェックするのは困難なことである。自分なりにその時間の中での参観のポイントを絞り、問題意識を持って授業参観に臨むとよい。

（ⅲ）生徒の学習活動の妨げにならないようにすること。

生徒の活動の様子や生徒のノートなどは、十分に観察する必要があるが、常識的に考えて、教室の後ろ三分の一くらいの範囲にとどめるべきである。あまり教室の前の方まで出ていって参観するのは、生徒の学習活動や、授業者の学習指導の妨げになる。また、活動中の生徒への話しかけや指示、参観者同士の私語はつつしむこと。

（ⅳ）授業記録をこまめに取ること。

授業者の発問や指示、生徒の反応、板書内容、主な時間の経過等、参観した授業の記録はなるべく綿密に取る。そして、参観後に感想や疑問点、自分なりの解決案などを書き加えて授業者に提出し、互いにその後の教材研究に生かすように心がけたい。

（ｖ）生徒の見かけの活動だけで、判断しないこと。

生徒の挙手・発言の人数や回数など、表面的・形式的な面からのみ授業を評価することがないように注意したい。仮に生徒が活発に活動していても、その活動から何を学ぶか、どんな体育の力を身につけたかという「学習内容」が明確でない授業はよい授業とはいえない。

（ⅵ）より多くの授業を参観すること。

同一クラスの生徒が、他の教材ではどのように反応するか、同一の教材で他のクラスではどのような反応の違いがあるか、学年が違うと生徒の反応や指導方法にどのような違いがあるかなど、教材、クラス、学年を越えてより多くの授業を参観し、比較研究するとよい。

## 2.10　特別の教科　道　徳

### (1) 道徳教育及び特別の教科道徳の目標

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校教育全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切に行うこととしています。

道徳科の目標は、道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることです。

### (2) 学習内容

道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目は四つの視点に分けて示されています。

| |
|---|
| A 主として自分自身に関すること |
| B 主として人との関わりに関すること |
| C 主として集団や社会との関わりに関すること |
| D 主として生命や自然、崇高な物との関わりに関すること |

Aの視点は、自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに関するものです。

Bの視点は、自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに関するものです。

Cの視点は、自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに関するものです。

Dの視点は、自己の生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに関するものです。

この四つの視点は相互に深い関連をもっているため、関連を考慮しながら全ての内容項目について適切に指導する必要があります。

### (3) 学習指導過程

ねらいに含まれている道徳的価値について、生徒が道徳的価値についての理解を基に道徳的価値や人間としての生き方について自覚を深めることを目指し、教材や生徒の実態に応じて、教師がどのような指導を展開していくか、その手順を示すものです。一般的には、学習指導過程を、導入、展開、終末の各段階に区分し、生徒の学習活動、主な発問と予想される生徒の反応、指導上の留意点などで構成されることが多くあります。

◆導入…主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る段階です。

◆展開…ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方について自覚を深める段階です。

◆終末…ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、今後の発展につなげたりする段階です。

### (4) 学習指導にあたって

①多様な教材を生かした指導

伝記、実話、論説文、物語、詩、劇などがあります。

②体験の生かし方を工夫した指導

日常体験そのものを教材としたり、職場体験活動やボランティア活動自然体験活動などの道徳的行為に関する体験活動を生かしたりすることも考えられます。

③各教科との関連をもたせた学習指導

道徳教育全体計画の別葉を用いて、学習の時期や教材を考慮し、相互に連携を図ると指導の効果を高めることができます。

④問題解決的な学習の工夫

道徳的な問題や課題を主体的に考え解決していくことで物事を多面的・多角的に考えることができます。

⑤道徳科に生かす指導方法の工夫

・教材を提示する工夫
範読、劇、音声や音楽、ビデオ映像など
・発問の工夫
生徒の思考を予想し、それに沿った発問
考える必然性、切実感のある発問
物事を多面的・多角的に考える発問
自由な発想を促す発問
・話し合いの工夫
座席の配置、討論形式、ペアでの対話、グループによる話合い
・書く活動の工夫
・動作化、役割演技など表現活動の工夫
・板書を生かす工夫
・説話の工夫
教師の体験談や願い、生徒の日常生活における身近な話題、生徒の関心や視野を広げる時事問題、ことわざや格言、心に残る標語、地域の自然や伝統文化に関することなど

学習指導案の実際（例）

# 第○学年○組　「特別の教科　道徳」学習指導案

令和○○年○月○日（○）第○校時
授業者　　○○　○○　印
指導教員　　○○　○○　先生

1　**主題名**　きまりやルールを守る　内容項目［C　遵法精神］

年間指導計画を踏まえて、ねらいと教材名を記述する。

2　**ねらい**　主人公に自分を重ねて考え話し合うことを通して、きまりやルールを守ることの意義を理解し、積極的に社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。
**教材名**　「上級学校を訪ねて」　出典　彩の国の道徳「自分を見つめて」（埼玉県教育委員会）
出典　「新しい道徳３」（東京書籍）　など

3　主題設定の理由

ねらいや指導内容についての教師の捉え方を記述する。
解説の内容項目の概要及び指導の要点を参考にするとよい。

(1)ねらいや指導内容について

「法やきまり」は集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであり、社会の秩序と規則を守ることによって、個人の自由が保障される。法やきまりを遵守するとともに、一人一人が当事者として関心をもち、適正な手続きを経てこれらを変えることも含め、その在り方について考えることが必要である。中学生ともなれば、社会に生きる人間の在り方についての自覚が深まり、社会にいろいろな仕組みが必要であること、きまりやルール、あるいは法によって秩序が保たれていることが理解できるようになってくる。

指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促していく。また、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結びつけていく。さらに遵法精神、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情を想像できる思うやりの心が関わっていることに気付かせたい。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「私」を大切にする心と「公」を大切にする心の関係について考えを深めさせていきたい。

ねらいや指導内容に関する生徒のこれまでの学習状況や実態、教師の願いを記述する。

(2)生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校低学年で「約束やきまりを守り、みんなが使う物をたいせつにすること。」、中学年で「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」を学んできている。また、中学１年生では「○○」を守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」を学んできている。また、中学１年生では「○○」を教材として、「～しようとする意欲」、中学２年生では「△△」を教材とし、「～しようとする態度」を学習してきた。

中学３年生としては、まだまだ落ち着きや真剣さの面で不安が多いのが現状である。進路に対して、真剣に考え、今自分は何をすべきか、どうあるべきかを日々の生活の中で実践しつつある生徒もいる反面、学校生活の中でも当然なすべきことを行えない生徒の姿も見られる。
きまりやルール及び法について、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができる生徒もいるが、「ルールだから守る」と他律的に捉え、単に守っていればよいとしている生徒も多い。そのことが学校の規則に反発する傾向を生むことにもなる。また、きまりやルールのもつ意味が十分理解されないために、自己主張が優先してしまうこともある。したがって、この時期にきまりやルール、そして法の意義を明確にし、社会の規律を高めようとする態度を育てることを大切にする。

使用する教材の特質や取り上げた意図及び生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法などを記述する。

(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、自由で束縛されない生活にあこがれる主人公が、上級学校を訪問する際、電車内での大人や高校生の行動や、訪問先でのＡ高校の生徒会校の言葉、遅れて学校に戻ってきたグループの言動を通して、きまりやマナーの大切さについて徐々に自覚していく様子が描かれている。

この教材を通して主人公「由希子」の心の内を考えさせながら、きまりやマナーは窮屈で邪魔なものということではなく、自分たちの生活や権利を守るだけではなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせたい。

そのために、本時の話合いでは、以下の３つの場面を中心に、ねらいに迫っていく。

① 満員電車の車内の場面で、高校生の姿を自由でいいなと思う反面、乗客の行為が気になってしまったことに着目させる。
②生徒会長の言葉を聞く場面で、きまりを守ることについて主人公の考えが揺れていることをおさえる。
③生徒会長の姿が心に浮かんだ場面で、きまりやルールの意義や必要性を、先生の言葉や生徒会長の姿を通して、心から理解したことに気付かせる。

以上のことから、本主題を設定した。

4　学習指導過程

| 段階 | 学習活動　（主な発問） | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点　☆評価の視点 |
|---|---|---|---|
| 導入 | 1　〇〇中学校の生活のきまりについて考える。<br>きまりやルールって、何だろう？ | ・細かすぎる。<br>・もっと自由でもいいと思う。 | ・教材の内容に興味や関心をもたせる。 |
| 展開 | 2　教材を読んで話し合う。<br>(1) 満員電車で、由希子はどんなことを感じたのだろうか。<br>生徒の考えを予想し、それに沿った発問や考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問を心掛ける。 | ・大人だってマナーやきまりを守っていない人がいる。<br>・守れない人が不愉快に思っている。 | ・主人公の考え方や心の動きに着目させる。<br>・自由でいいなと思う反面、乗客の行為が気になってしまったことに着目させる。 |
| | (補助発問)<br>自由を望んでいた由希子はなぜ嫌な気持ちになったのだろうか。<br>(2) 生徒会長の言葉がすんなりとは理解できなかったのはなぜだろう。 | ・周囲に迷惑をかけている。<br>・憧れていた自由な高校生とは違い、また細かいルールがあるのか…と思っていたから。<br>・自分はこの高校に入学して楽しい学校生活を送れるのだろうか、と思ったから。<br>・本当に細かいルールを守ることがお互いに気持ちよく生活したり、有意義に実りあるものにしたりするのだろうか、と思ったから。 | ・迷惑さえかけなければ細かいルールはない方がいいと思っていることをおさえる。<br>・生徒会長の言葉がすんなりと理解できなかったことと、生徒会長がはるかに大人に感じられた理由を考え、きまりを守ることについて由希子の考えが揺れていることをおさえる。 |
| | (3) 生徒会長の姿が心に浮かんだのはなぜか。そして、由希子はどんなことに気付いたのだろうか。<br>生徒の考えを広げたり、深めたりするため、生徒の考えを支援するための発問 | ・ルールやマナーの意義と必要性を遅れてきたグループの行動を通して理解できたから。<br>・この出来事を通して A は高校の生徒会長の言葉の本当の意味が分かった。 | ☆きまりに関して揺れる由希子の心の内について、友達の多様な意見を踏まえながら考えている。<br>・きまりやルールの意義と必要性を、先生の言葉や生徒会長の姿を通して、心から理解したことに気付かせる。 |
| | (補助発問)<br>由希子と生徒会長との違いは何だろう。 | ・ルールを守らないで自分勝手な行動を取ると、結果的に周りに迷惑をかけてしまうということに気付いた。<br>・自分達もルールを守ってはいるが、自分たちは嫌々守っている。<br>・きまりの意義や必要性を理解しているかいないか。 | 教師が主語になる。<br>生徒が考えやすいように、ねらいに迫るための支援。<br>例：～をおさえる。～を補足説明する。～に気付かせる。～に共感させる。 |
| | 3　本時の学習課題について、気付いたことや考えたことをまとめる。<br>生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として書く活動を工夫する。 | | ・授業を振り返りながら、書く活動を通して、学習課題について考える。<br>☆これまでの体験を想起しながらきまりやルールを守ることの意義について考えを深めている。 |
| 終末 | 4　教師の説話を聞く。<br>教師の人間性がにじみ出る説話は、生徒の心情に訴え、深い感銘を与える。 | | ・生徒の心にやわらかく届くように余韻を残す。 |

特に関連のある教育活動や体験活動、日常との関連、事前や事後の指導の工夫、家庭や地域社会との連携等について記述する。

## 5　他の教育活動等との関連

| | |
|---|---|
| 事前指導 | 帰りの会で「きまりやルール」について、生徒の実態を把握するためにアンケートを実施する。 |
| 道徳科 | ・教材名「上級学校を訪ねて」<br>　きまりやルールを守ることの意義を理解し、積極的に社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。 |
| 事後指導 | 帰りの会で「私たちの道徳」の P136『社会の秩序と規律』を読み、その部分を教室に掲示する。 |
| 過程との連携 | 本時の授業内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でもきまりやマナーの大切さなどについて話題にしてもらう。 |

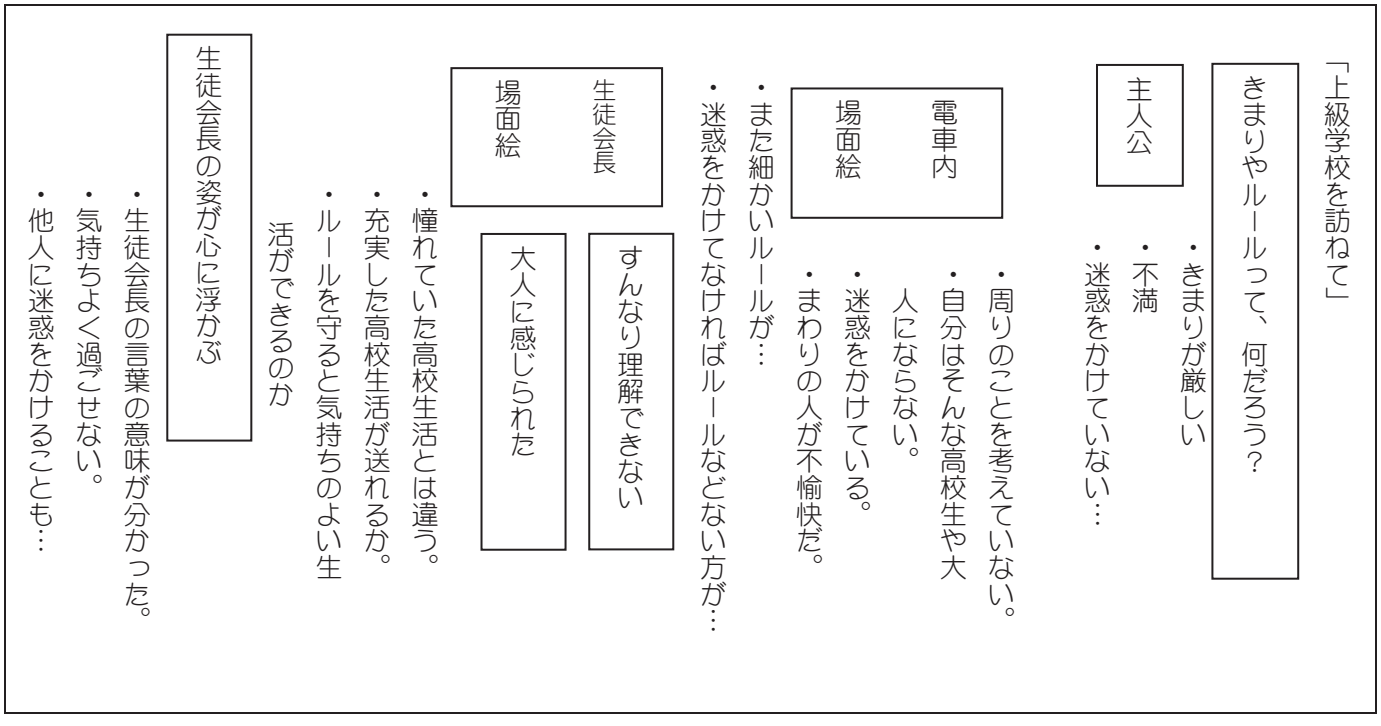
教師が、どのような学習状況を見取ろうとしているかを書く。また、生徒が、一方的な見方から多面的な見方へとどのように発展しているのか等を見取ろうとしているかを書く。

## 6　評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】
・きまりやルールに関する主人公の心の内を様々な視点から捉え考えている。
【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】
・きまりやルールを守ることの意義について自分との関わりで考えている。

授業の流れと、それに応じた生徒の意見や考えが「見える化」され、生徒の思考が深められるように、意見や考えを比較したり関連させたりすることができるような構造的な板書を計画し、掲示するとよい。

## 7　板書計画




※本資料は、埼玉県中学校教育課程編成要領（平成 30 年 3 月発行）を基に、一部を改変して作成したものである。

## 2.11　特別活動

### (1) 特別活動の目標と特質

① 中学校学習指導要領での特別活動の目標

中学校学習指導要領には、特別活動の目標として、次のように示されています。

> 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
>
> (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。
>
> (2) 集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。
>
> (3) 自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，人間としての生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

② 特別活動の特質と資質・能力を育成するための三つの視点

特別活動の特質としては、目標の中にもあるように「集団活動」と「自主的・実践的活動」が挙げられます。これらの特質を受け、「社会参画」「自己実現」「人間関係形成」の三つの視点が重要な要素となっています。

### (2) 活動内容

特別活動は、次に挙げる二つの各活動と学校行事から構成されています。これらの活動は、それぞれ独自のねらいと特質をもつ教育活動ですが、最終的には特別活動の総括的な目標をめざして行われるものです。

① 学級活動

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成し，役割を分担して協力して実践したり，学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに，自主的，実践的に取り組む。

② 生徒会活動

異年齢の生徒同士で協力し，学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて，計画を立て役割を分担し，協力して運営することに自主的，実践的に取り組む

③ 学校行事

全校又は学年の生徒で協力し，よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養う。

### (3) 学級活動の指導過程

問題発見から実践までの指導の流れはいくつか考えられますが、その一例を次に示します。

① 問題の発見・確認

学級や学校における生活をよりよくするための諸問題を見付け、その中から「議題」を学級全員で決定する。話合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。

② 解決方法等の話合い

よりよい生活をつくるための問題の原因や具体的な解決方法、役割分担などについて話し合う。

③ 解決方法の決定

話合い活動で具体化された解決方法等について「合意形成」を図る。

④ 決めたことの実践

決定した解決方法や活動内容を、責任をもって実践する。

⑤ 振り返り

実践を定期的に振り返り、意識かを図るとともに、結果を分析し、次の課題解決に生かす。実践の継続や新たな発見につなげる。

(4) 学習指導案の実際

令和〇年〇月〇日（〇） 第〇校時

# 第１学年〇組　学級活動指導案

**授　業　者**　〇　〇　　〇　〇

## １　題材名　「合唱コンクールの学級スローガンを決めよう」

## ２　題材について

(1) 生徒の実態

本学級は、明るく元気な生徒がとても多く、様々なことに意欲的かつ積極的に取り組む生徒も多く、学級の係や委員会、行事の実行委員などに進んで立候補し活動に取り組んでいる。学級全体としては、時間や決まりを守ることや、授業にきちんとした態度で臨むことができている生徒が多い。また、行事にも意欲的で　…(略)…

しかし、相手の立場や気持ちになって考えることに苦手意識をもっていたり、落ち着きのない行動が見られたり、…(略)…

そこで、２学期の大きな行事である合唱コンクールで、さらにクラスの絆を深めるべく、何かみんなで取り組めないかと実行委員に相談を持ちかけたところ、…(略)…

本時の活動を通し、目標に沿ってクラス全体で話し合い、学級のスローガンを決め、合唱コンクールに向けた練習に取り組ませることで、よりよい人間関係づくりにつなげていきたい。

(2) 題材設定の理由

２学期が始まり、１学期から引き続いて、職場体験学習に向けての取組から、働くことの意義や社会人としてのスキル学習等を行ってきた。そんな中、合唱コンクールに向けた取組も本格的に始まってきた。この合唱コンクールは、体育祭と並んで、…(略)…

しかし、１年生にとっては初めての行事であり、どのように練習などの取組を進めていくのかに加え、行事のねらいを十分に理解させる必要がある。…(略)…、クラスの団結力をさらに高めていくために、本題材を設定した。

## ３　指導のねらい

〇話合い活動を通じて他者の意見や考えを聞き、学級全体でスローガンを決めることで、相互理解を図り、クラスの絆を深める。

〇級友の思いや考えを聞くことで、一人ひとりが合唱コンクールに向けた練習等に主体的に取り組む態度を育む。

## ４　評価の観点と評価規準

| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
|---|---|---|
| 合唱コンクールのねらいや、合唱にみんなで取り組むことの意義、諸問題の解決方法や解決することによる学級への影響について理解している。 | 学級の一員として、自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。 | 合唱コンクールに向けた取り組みに関心を持ち、これまでの取組を振り返り、話合い活動に意欲的に参加し、自主的、自律的に取り組もうとしている。 |

## 5　展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

| 期日 | 活動の場 | 活動の内容 | 指導上の留意点 | 目指す生徒の姿と評価方法 |
|---|---|---|---|---|
| ○/○（○） | 放課後（学級活動委員会・提案者） | ・議題と提案理由の確認 | ・議題を提案した思いが伝わるような内容となるよう助言する。 | ・よりよい学級にするために、意欲的に話合いに参加しようとしている。【主体的態度】＜観察＞ |
| ○/○（○） | 放課後（学級活動委員・提案者） | ・話合いの柱とめあての確認 | ・どのような流れでスローガンを決定するのかを細かく考えさせる。 | |
| ○/○（○） | 帰りの会（学級全員） | ・アンケート調査 | ・調査のねらいを分かりやすく丁寧に伝える。 | ・自分の考えた意見を素直に書こうとしている。【主体的態度】＜観察＞ |
| ○/○（○） | 帰りの会（学級全員） | ・学級活動ノートの配布 | ・当日の話合いに向けて、自分の意見等の記入を促す。 | ・議題に関心を持ち、話合いに向けて自分の考えや意見をまとめている。【主体的態度】＜学級活動ノート＞ |
| ○/○（○） | 放課後（学級活動委員・提案者） | ・当日の話し合いに向け、流れなどの最終的な確認 | ・予想される反応などを考えながら、展開案を具体化し、本時の活動の流れを確定させる。 | ・話合い活動の道筋や結論について理解している。【知識・技能】＜学級活動委員会活動計画＞ |

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア　議題「合唱コンクールの学級スローガンを決めよう」

イ　本時のねらい

○学級の一員としての自覚を持ち、合唱コンクールの取組等への活動意欲を高める。

○話合いや発表で自分の意見や考えを述べることができる。

ウ　展開

| | 活動の内容 | 指導上の留意点 | ◎目指す生徒の姿と評価方法 |
|---|---|---|---|
| 活動の開始 | 1　開会の言葉<br>2　学級活動委員の紹介<br>3　議題の発表・確認<br>・アンケートの振り返り<br>・個人の取組の振り返り<br>4　提案理由の説明 | ・合唱コンクールの成功に向けた意欲的な話合いを促す呼びかけができるようにする。<br>・アンケートの集計結果をもとに、充実した合唱コンクールにしたいという思いを伝えられるように助言する。<br>・提案理由を補足しながら、学級への所属感が深められるような話合いになるように必要に応じて助言する。 | ◎活動テーマやその設定理由に関心をもち、学級活動委員の発言を主体的に聞いている。【主体的態度】＜観察＞ |
| | 【提案理由】<br>体育祭では体育委員を中心に、作戦を立てたりみんなで協力して練習に励んだりしたことで、優勝することができました。そして、クラスの団結力の強さを感じる事ができました。合唱コンクールでもクラスの絆をさらに深めたいと考え、…(略)… | | |
| | 5　教師の話 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 活動の展開 | 6　話合い<br>(1) 合唱コンクールの学級スローガンを決めよう<br><br>(2) スローガンを達成するための具体的な取り組みを考えよう | ・昨日までの練習を踏まえて、様々な角度から考えるように助言する。<br>・意見が出にくい場合は、周囲と考える時間を与えるよう助言する。また、人の話を聞くときはしっかりと聞くよう指導する。<br>・スローガンや目標を達成するために、何が出来るかを考える際、学級目標をよりどころとさせるように助言する。 | ◎提案理由について、互いのよさを生かしながら、合唱コンクールを成功させるためのスローガンや具体的な取り組みを考え、理由を示して意見を述べている。<br>【思考・判断・表現】<br><観察、学級活動カード> |
| 活動のまとめ | 7　決定事項の確認<br>8　自己評価・感想記入<br>9　教師の話<br>10　閉会の言葉 | ・集団決定されたことを受けて、自分は何をどう心がけるかについて、より具体的に記入するよう助言する。<br>・話合いの流れを方向付けた発言や学級活動委員の活動などを賞賛するとともに、実践へ向けて活動意欲を高めることができるように助言する。 | |

(3) 事後の指導と生徒の活動

| 期日 | 活動の場 | 活動の内容 | 指導上の留意点 | 目指す生徒の姿と評価方法 |
|---|---|---|---|---|
| ○/○<br>(○) | 帰りの会<br>(学級全員) | ・学級活動ノートの回収<br>・学級通信等での保護者への伝達 | ・コメントを付けて後日返却し、必要に応じて個別に助言する。<br>・話合いの様子や提案者の理由などを載せる。 | |
| ○/○<br>(○) | 学級活動<br>(学級全員) | ・学級スローガンの作成 | ・一人一文字ずつ書かせて、全員でスローガンを作り上げる雰囲気をつくる。 | |
| ○/○<br>(○)<br>～<br>○/○<br>(○) | 放課後等<br>(学級全員) | ・合唱コンクールの練習<br>・具体的な取り組みの実践 | ・みんなで決めた約束や、スローガンの達成に向けて、練習時に確認をするなど、継続して取り組めるように助言する。 | |
| ○/○<br>(○) | 学級活動<br>(学級全員) | ・合唱コンクールの振り返り<br>・掲示物の作成 | ・合唱コンクール当日に感じたことや、当日に向けて取り組んできたこと等を振り返り、記入させる。 | ・これまでの取組をきちんと振り返り、取組んできた過程の大切さを理解しようとしている。<br>【主体的態度】<br><掲示物> |

## 6　資料等

(省略)

# Ⅳ　教 育 実 習 の 評 価

## 1．基礎実習、教職入門Ⅱの評価

以下に示した基礎実習、教職入門Ⅱのカリキュラムについて、出席状況、課題の提出状況によって総合的に評価します。なお、基礎実習、教職入門Ⅱの単位が認定されることが、応用実習Ⅰの履修の条件の一つとなっています。

（1）教育実習の概要について（教育実習委員会）
（2）教科指導について（講座担当教員）
（3）参観実習（附属小学校・附属中学校）
（4）授業案の作成等について（実践指導講師）

## 2．応用実習Ⅰ、応用実習Ⅱの評価

「教育実習」のうち応用実習Ⅰ、応用実習Ⅱの評価は、実習期間を通しての全活動を対象として行われます。研究授業や実際に行った授業のみを対象としているわけではなく、課外活動や学校行事などの授業以外の教育活動、日々の児童生徒との接し方など、実習校での全ての活動が評価の対象となります。

評価は、次の８つの観点からなされます。

1　授業参観の姿勢
2　指導案の作成
3　授業実践
4　授業の反省・整理
5　特別活動の取り組み
6　生徒指導の取り組み
7　学級事務
8　実習態度

# Ⅴ 参　考　資　料

## 1．関係法規

### 1.1　教育の基本

**(1)　思想及び良心の自由**

**憲法第19条**　思想及び良心の自由は、これを侵してはならない。

**(2)　学問の自由**

**憲法第23条**　学問の自由は、これを保障する。

**(3)　教育を受ける権利**

**子どもの権利条約第28条（教育への権利）**　1．締約国は、子どもの教育への権利を認め、かつ、漸進的におよび平等な機会に基づいてこの権利を達成するために、とくに次のことをする。

ａ．初等教育を義務的なものとし、かつすべての者に対して無償とすること。

ｂ．一般教育および職業教育を含む種々の形態の中等教育の発展を奨励し、すべての子どもが利用可能でありかつアクセスできるようにし、ならびに、無償教育の導入および必要な場合には財政的援助の提供などの適当な措置をとること。

ｃ．高等教育を、すべての適当な方法により、能力に基づいてすべての者がアクセスできるものとすること。

ｄ．教育上および職業上の情報ならびに指導を、すべての子どもが利用可能でありかつアクセスできるものとすること。

ｅ．学校への定期的な出席および中途退学率の減少を奨励するための措置をとること。

2．締約国は、学校懲戒が子どもの人間の尊厳と一致する方法で、かつこの条約に従って行われることを確保するためにあらゆる適当な措置をとる。

3．締約国は、とくに、世界中の無知および非識字の根絶に貢献するために、かつ科学的および技術的知識ならびに最新の教育方法へのアクセスを助長するために、教育に関する問題について国際協力を促進しかつ奨励する。この点については、発展途上国のニーズに特別の考慮を払う。

**同条約第30条（少数者・先住民の子どもの権利）**　民族上、宗教上もしくは言語上の少数者、または先住民が存在する国においては、当該少数者または先住民に属する子どもは、自己の集団の他の構成員とともに、自己の文化を享受し、自己の宗教を信仰しかつ実践し、または自己の言語を使用する権利を否定されない。

**憲法第26条**　すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

**(4)　教育の機会均等**

**教育基本法第４条（教育の機会均等）**　すべて国民は、ひとしく、その能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならず、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない。

2．国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。

3．国及び地方公共団体は、能力があるにもかかわらず、経済的理由によって修学困難な者に対して、奨学の措置を講じなければならない。

**(5)　男女共同参画と男女共学**

**男女共同参画社会基本法第１条（目的）**　この法律は、男女の人権が尊重され、かつ、社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現することの緊要性にかんがみ、男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかに

するとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

**同法第10条（国民の責務）**　国民は、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、基本理念にのっとり、男女共同参画社会の形成に寄与するように努めなければならない。

**(6) 国民に対する責任**

**教育基本法第16条（教育行政）**　教育は、不当な支配に服することなく、この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものであり、教育行政は、国と地方公共団体との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行われなければならない。

２．国は全国的な教育の機会均等と教育水準の維持向上を図るため、教育に関する施策を総合的に策定し、実施しなければならない。

３．地方公共団体は、その地域における教育の振興を図るため、その実情に応じた教育に関する施策を策定し、実施しなければならない。

４．国及び地方公共団体は、教育が円滑かつ維持的に実施されるよう、必要な財政上の措置を講じなければならない。

**同法第17条（教育振興基本計画）**　政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

２．地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策の関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

## 1.2　教育の目的・方針

**子どもの権利条約第29条（教育の目的）**　１．締約国は、子どもの教育が次の目的で行われることに同意する。

ａ．子どもの人格、才能ならびに精神的および身体的能力を最大限可能なまで発達させること。

ｂ．人権および基本的自由の尊重ならびに国際連合憲章に定める諸原則の尊重を発展させること。

ｃ．子どもの親、子ども自身の文化的アイデンティティ、言語および価値の尊重、子どもが居住している国および子どもの出身国の国民的価値の尊重、ならびに自己の文明と異なる文明の尊重を発展させること。

ｄ．すべての諸人民間、民族的、国民的および宗教的集団ならびに先住民間の理解、平和、寛容、性の平等および友好の精神の下で、子どもが自由な社会において責任ある生活を送れるようにすること。

ｅ．自然環境の尊重を発展させること。

２．この条または第28条のいかなる規定も、個人および団体が教育機関を設置しかつ管理する自由を妨げるものと解してはならない。ただし、つねに、この条の１に定める原則が遵守されること、および当該教育機関において行われる教育が国によって定められる最低限度の基準に適合することを条件とする。

**教育基本法前文**　我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。

我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。

ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓（ひら）く教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。

**同法第１条（教育の目的）**　教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

**同法第２条（教育の目標）**　教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

１．幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

２．個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

３．正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

４．生命を尊び、自然と大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

５．伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度で養うこと。

**同法第３条（生涯学習の理念）**　国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

## 1.3　義務教育

**憲法第26条２**　すべての国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。

**教育基本法第５条（義務教育）**　国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

２．義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

３．国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。

４．国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料は、これを徴収しない。

**学校教育法第16条（就学義務）**　保護者（子に対して親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。以下同じ。）は、次条に定めるところにより、子に９年の普通教育を受けさせる義務を負う。

**同法第17条**　保護者は、子女の満６才に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満12才に達した日の属する学年の終わりまで、これを小学校又は特別支援学校の小学部に就学させる義務を負う。（以下略）

**同法第17条２**　保護者は、子女が小学校又は特別支援学校の小学部の課程を修了した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満15才に達した日の属する学年の終わりまで、これを中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の中学部に就学させる義務を負う。

## 1.4　学校教育

**教育基本法第６条（学校教育）**　法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

２．前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行わなければならない。

**同法第７条（大学）**　大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

２．大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。

**同法第８条（私立学校）**　私立学校の有する公の性質及び学校教育において果たす重要な役割にかんがみ、国及び地方公共団体は、その自主性を尊重しつつ、助成その他の適当な方法によって私立学校教育の振興に努めなければならない。

**同法第10条（家庭教育）**　父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

２．国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

**同法第11条（幼児期の教育）**　幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

**同法第12条（社会教育）**　個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

２．国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

**同法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）**　学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

**学校教育法第１条**　この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

**同法第22条**　幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

**同法第26条**　幼稚園に入園することのできる者は、満３才から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。

**同法第29条**　小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とする。

**同法第32条**　小学校の修学年限は、６年とする。

**同法第45条**　中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的とする。

**同法第47条**　中学校の修学年限は、３年とする。

**同法第50条**　高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。

**同法第56条**　高等学校の修業年限は、全日制の課程については、３年とし、定時制の課程及び通信制の課程については、３年以上とする。

**同法第72条**　特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。

**同法第81条２**　幼稚園、小学校、中学校及び高等学校及び中等教育学校には、次の各号のいずれかに該当する児童及び生徒のために、特別支援学級を置くことができる。

１　知的障害者
２　肢体不自由者
３　身体虚弱者
４　弱視者
５　難聴者
６　その他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当なもの

## 1.5　教育内容

### (1)　中立性

**教育基本法第14条（政治教育）**　良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重しなければならない。

２．法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。

**義務教育諸学校における教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法第３条**　何人も、教育を利用し、特定の政党その他の政治的団体（以下「特定の政党等」という。）の政治的勢力の伸長又は減退に資する目的をもって、学校教育法に規定する学校の職員を主たる構成員とする団体（その団体を主たる構成員とする団体を含む。）の組織又は活動を利用し、義務教育諸学校に勤務する教育職員に対し、これらの者が、義務教育諸学校の児童又は生徒に対して、特定の政党等を支持させ、又はこれに反対させる教育を行うことを教唆し、又はせん動してはならない。

**同法第４条**　前条の規定に違反した者は、1年以下の懲役又は３万円以下の罰金に処する。

**教育基本法第15条（宗教教育）**　宗教に関する寛容の態度、宗教に関する一般的教養及び宗教の社会生活における地位は、教育上尊重しなければならない。

２．国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。

### (2)　教育課程

**学校教育法施行規則第50条**　小学校の教育課程は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育の各教科（以下本節中「各教科」という。）、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成するものとする。

**同規則第52条**　小学校の教育課程については、この節に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する小学校学習指導要領によるものとする。

**同規則第54条**　児童が心身の状況によって履修することが困難な各教科は、その児童の心身の状況に適合するように課さなければならない。

**同規則第72条**　中学校の教育課程は、必修教科、選択教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間によつて編成するものとする。

２．必修教科は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語（以下この条において「国語等」という。）の各教科とする。

３．選択教科は、国語等の各教科及び第74条に規定する中学校学習指導要領で定めるその他特に必要な教科とし、これらのうちから、地域及び学校の実態並びに生徒の特性その他の事情を考慮して設けるものとする。

**同規則第74条**　中学校の教育課程については、この章に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する中学校学習指導要領によるものとする。

**同規則第109条**　中等教育学校の教育課程については、この章に定めるもののほか、教育課程の基準の特例として文部科学大臣が別に定めるところによるものとする。

**同規則第115条**　併設型中学校及び併設型高等学校においては、こ中学校における教育と高等学校における教育を一貫して施すため、設置者の定めるところにより、教育課程を編成するものとする。

## 1.6　児童・生徒等懲戒

**学校教育法第11条**　校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

**学校教育法施行規則第26条**　校長及び教員が児童等に懲罰を加えるに当たっては、児童等の心身の発達に応ずる等教育上必要な配慮をしなければならない。

２．懲戒のうち、退学、停学及び訓告の処分は、校長（大学にあたっては、学長の委任を受けた学部長を含む。）が行う。

３．前項の退学は、公立の小学校、中学校（学校教育法第71条の規定により高等学校における教育

と一貫した教育を施すもの（以下「併設型中学校」という。）を除く。）又は特別支援学校に在学する学齢児童又は学齢生徒を除き、次の各号の一に該当する児童等に対して行うことができる。

1　性行不良で改善の見込がないと認められる者
2　学力劣等で成業の見込がないと認められる者
3　正当の理由がなくて出席常でない者
4　学校の秩序を乱し、その他学生又は生徒としての本分に反した者

4．第二項の停学は、学齢児童又は学齢生徒に対しては、行うことができない。

## 1.7　職　員

### (1)　教職員

**教育基本法第9条（教員）**　法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

2．前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正か期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。

**同法第27条**　幼稚園には、園長、教頭及び教諭を置かなければならない。

2．幼稚園には、前項に規定するもののほか、副園長、主幹教諭、指導教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員、養護助教諭その他必要な職員を置くことができる。

3．第１項の規定にかかわらず、副園長を置くときその他特別の事情のあるときは、教頭を置かないことができる。

4．園長は、園務をつかさどり、所属職員を監督する。

5．副園長は、園長を助け、命を受けて園務をつかさどる。

6．教頭は、園長（副園長を置く幼稚園にあっては、園長及び副園長）を助け、園務を整理し、及び必要に応じ幼児の保育をつかさどる。

7．主幹教諭は、園長（副園長を置く幼稚園にあっては、園長及び副園長）及び教頭を助け、命を受けて園務の一部を整理し、並びに幼児の保育をつかさどる。

8．指導教諭は、幼児の保育をつかさどり、並びに教諭その他の職員に対して、保育の改善及び充実のために必要な指導及び助言を行う。

9．教諭は、幼児の保育をつかさどる。

10．特別の事情のあるときは、第一項の規定にかかわらず、教諭に代えて助教諭又は講師を置くことができる。

**学校教育法第37条**　小学校には、校長、教頭、教諭、養護教諭及び事務職員を置かなければならない。

2．小学校には、前項に規定するもののほか、副校長、主幹教諭、指導教諭、栄養教諭その他必要な職員を置くことができる。

3．第一項の規定にかかわらず、副校長を置くときその他特別の事情のあるときは教頭を、養護をつかさどる主幹教諭を置くときは養護教諭を、特別の事情のあるときは事務職員を、それぞれ置かないことができる。

4．校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。

5．副校長は、校長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

6．副校長は、校長に事故があるときはその職務を代理し、校長が欠けたときはその職務を行う。この場合において、副校長が２人以上あるときは、あらかじめ校長が定めた順序で、その職務を代理し、又は行う。

7．教頭は、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長）を助け、校務を整理し、及び必要に応じ児童の教育をつかさどる。

8．教頭は、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長）に事故があるときはその職務を代理し、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長）が欠けたときはその職務を行なう。この場合において教頭が二人以上あるときは、あらかじめ校長が定めた順序で、その職務を代理し、又は行なう。

9．主幹教諭は、校長（副校長を置く小学校にあつては、校長及び副校長）及び教頭を助け、命を

受けて校務の一部を整理し、並びに児童の教育をつかさどる。

10. 指導教諭は、児童の教育をつかさどり、並びに教諭その他の職員に対して、教育指導の改善及び充実のために必要な指導及び助言を行う。

11. 教諭は、児童の教育をつかさどる。

12. 養護教諭は、児童の養護をつかさどる。

13. 栄養教諭は、児童の栄養の指導及び管理をつかさどる。

14. 事務職員は、事務に従事する。

15. 助教諭は、教諭の職務を助ける。

16. 講師は、教諭又は助教諭に準ずる職務に従事する。

17. 養護助教諭は、養護教諭の職務を助ける。

18. 特別の事情のあるときは、第１項の規定にかかわらず、教諭に代えて助教諭又は講師を、養護教諭に代えて養護助教諭を置くことができる。

**同法第60条**　高等学校には、校長、教頭、教諭及び事務職員を置かなければならない。

２．高等学校には、前項に規定するもののほか、副校長、主幹教諭、指導教諭、養護教諭、栄養教諭、養護助教諭、実習助手、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

３．第一項の規定にかかわらず、副校長を置くときは、教頭を置かないことができる。

４．実習助手は、実験又は実習について、教諭の職務を助ける。

５．特別の事情のあるときは、第1項の規定にかかわらず、教諭に代えて助教諭又は講師を置くことができる。

６．技術職員は、技術に従事する。

**《教務主任・学年主任》**

**学校教育法施行規則第44条**　小学校には、教務主任及び学年主任を置くものとする。

２．前項の規定にかかわらず、第四項に規定する教務主任の担当する校務を整理する主幹教諭を置くときその他特別の事情のあるときは教務主任を、第五項に規定する学年主任の担当する校務を整理する主幹教諭を置くときその他特別の事情のあるときは学年主任を、それぞれ置かないことができる。

３．教務主任及び学年主任は、指導教諭又は教諭をもって、これに充てる。

４．教務主任は、校長の監督を受け、教育計画の立案その他教務に関する事項について連絡調整及び指導、助言に当たる。

５．学年主任は、校長の監督を受け、当該学年の教育活動に関する事項について連絡調整及び指導、助言に当たる。

**《保健主事》**

**同規則第45条**　小学校においては、保健主事を置くものとする。ただし、特別の事情のあるときは、これを置かないことができる。

２．前項の規定にかかわらず、第四項に規定する保健主事の担当する校務を整理する主幹教諭を置くときその他特別の事情のあるときは、保健主事を置かないことができる。

３．保健主事は、指導教諭、教諭又は養護教諭をもって、これに充てる。

４．保健主事は、校長の監督を受け、小学校における保健に関する事項の管理に当たる。

**《生徒指導主事》**

**同規則第69条**　中学校には、生徒指導主事を置くものとする。

２．前項の規定にかかわらず、第四項に規定する生徒指導主事の担当する校務を整理する主幹教諭を置くときその他特別の事情のあるときは、生徒指導主事を置かないことができる。

３．生徒指導主事は、指導教諭又は教諭をもって、これに充てる。

４．生徒指導主事は、校長の監督を受け、生徒指導に関する事項をつかさどり、当該事項について連絡調整及び指導、助言に当たる。

《進路指導主事》

**同規則第71条**　中学校には、進路指導主事を置くものとする。

２．前項の規定にかかわらず、大参考に規定する進路指導主事の担当する校務を整理する主幹教諭を置くときは、進路指導主事を置かないことができる。

３．進路指導主事は、指導教諭又は教諭をもって、これに充てる。校長の監督を受け、生徒の職業選択の指導その他の進路の指導に関する事項をつかさどり、当該事項について連絡調整及び指導、助言に当たる。

### (2)　職員としての服務や義務

《教育公務員》

**教育公務員特例法第21条**　教育公務員は、その職務を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。

**同法18条**　公立学校の教育公務員の政治的行為の制限については、当分の間、地方公務員法第36条の規定にかかわらず、国家公務員の例による。

２．前項の規定は、政治的行為の制限に違反した者の処罰につき国家公務員法第110条第１項の例による趣旨を含むものと解してはならない。

**国家公務員法第102条**　職員は政党又は政治的目的のために、寄附金その他の利益を求め、若しくは受領し、又は何らの方法を以てするを問わず、これらの行為に関与し、あるいは選挙権の行使を除く外、人事院規則で定める政治的行為をしてはならない。

２．職員は、公選による公職の候補者となることができない。

３．職員は、政党その他の政治的団体の役員、政治的顧問、その他これらと同様な役割をもつ構成員となることができない。

《服務の根本基準》

**地方公務員法第30条**　すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当っては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。

《法令等及び上司の職務上の命令に従う義務》

**同法第32条**　職員は、その職務を遂行するに当って、法令、条例、地方公共団体の規則及び地方公共団体の機関の定める規程に従い、且つ、上司の職務上の命令に忠実に従わなければならない。

《信用失墜行為の禁止》

**同法第33条**　職員は、その職の信用を傷つけ、又は職員の職全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

《秘密を守る義務》

**同法第34条**　職員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

## 1.8　発達障害者への教育

### (1)　発達障害者支援法の目的

**発達障害者支援法第１条（目的）**　この法律は、発達障害者の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進のために発達障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要であることにかんがみ、発達障害を早期に発見し、発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援、発達障害者支援センターの指定等について定めることにより、発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 発達障害者の定義

**発達障害者支援法第２条（定義）**　この法律において「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

２．この法律において「発達障害者」とは、発達障害を有するために日常生活又は社会生活に制限を受ける者をいい、「発達障害児」とは、発達障害者のうち十八歳未満のものをいう。

３．この法律において「発達支援」とは、発達障害者に対し、その心理機能の適正な発達を支援し、及び円滑な社会生活を促進するため行う発達障害の特性に対応した医療的、福祉的及び教育的援助をいう。

(3) 発達障害者への教育等

**発達障害者支援法第８条（教育）**　国及び地方公共団体は、発達障害児（十八歳以上の発達障害者であって高等学校、中等教育学校及び特別支援学校に在学する者を含む。）がその障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるようにするため、適切な教育的支援、支援体制の整備その他必要な措置を講じるものとする。

２．大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするものとする。

**同法第９条（放課後児童健全育成事業の利用）**　市町村は、放課後児童健全育成事業について、発達障害児の利用の機会の確保を図るため、適切な配慮をするものとする。

# ２．附属学校園などの紹介

## 2.1　教育学部附属小学校

### (1) 基本的性格

附属小学校は、一般の公立小学校と同様、初等普通教育を行う小学校であるとともに、大学教育学部の附属学校として、次のような特色ある性格をもつ教育施設です。

① 教育実習校としての性格

教育学部の学生が教育実習生として来校し、小学校の教師として必要な資質を身につけるため、参観や実習を行う。

② 研究、実験学校としての性格

教育上のさまざまな研究や実験をする学校である。したがって、教育研究の必要上、いろいろな学習指導法が実験されたり、調査研究が進められたりする。

③ 地域の学校教育へ協力する性格

県や市町村教育委員会と緊密な連絡のもとに地域学校の研究や現職教育に協力する。

### (2) 教育目標

附属小学校の大きな教育目標は、「勤労をいとわない自主的精神の旺盛な、人間性豊かなよき社会人を育成する。」と定めています。

### (3) 所在地

さいたま市浦和区常盤６丁目９番 44 号（〒330-0061）

電話（048)833-6291・6292，832-2101

## 2.2　教育学部附属中学校

### (1) 性　格

附属中学校は、一般の公立中学校と同様の中等普通教育を行う学校であり、加えて埼玉大学教育学部の附属中学校として次のような性格をもっています。

① 教育学部との連携をはかりながら、教育の理論と実際に関する研究並びにその実証をする。
② 教育学部学生の教育実習を担当し、その指導にあたる。
③ 県・市町村教育委員会との連携のもとに、県内教育機関との研究の交流をはかり、教育実践の拡充・発展に努める。

### (2) 教育目標

附属中学校の教育目標は、「正しい判断とたくましい実践力を持った自主的人間の形成」です。

### (3) 所在地

さいたま市南区別所４丁目２番５号（〒336-0021）
電話（048)862-2214　FAX（048)865-6484

## 2.3　教育学部附属特別支援学校

### (1) 附属特別支援学校の経営と特色

社会の変化をみきわめながら、21世紀の学校教育の姿を展望しつつ、その対応について考え、実践研究校・教育実習校としての附属特別支援学校のあり方を追求しています。

附属特別支援学校は、小学部・中学部・高等部と三つの学部から成りますが、全校で９学級、児童生徒60名と学校規模は小さい。しかし、「山椒は小粒でもピリリとからい」教育活動をめざし、子どもたちを中心に、教師と保護者が一体となって、みんな仲良く、自らを育てる主体者となる魅力ある学校作りを行っていきたいと考えています。

そのためには、教師は子どもや家庭や地球への奉仕者であり、同時に発達する主体でもあることを念頭に置き、広く情報を収集し、社会の変化や将来の姿を展望しつつ、お互いに協力しあい、自らが高まって行くような学校経営が必要と考えています。

### (2) 所在地

さいたま市北区日進町２丁目 480 番（〒331-0823）
電話（048)663-6803

## 2.4　教育学部附属幼稚園

### (1) 教育目標

附属幼稚園の教育目標は、「子どもの自らのびる力を育てる」ことです。

### (2) 経営の基本

上記の目標達成のために、以下のことを園経営の基本としています。

① 登降園は保護者同伴での徒歩によるものとし、登降園時の交通安全・事故防止に努めるとともに園児と家族との直接的な心の交流の場とし、併せて幼稚園と家族との日々の緊密な連携を図る機会として活用している。
② 教員個々の自主的自発的研修を重視することにより、教員の個性を尊重し、職務に対する責任感と情熱を主体的に喚起させ、子どもに感動と喜びをもたらす教員の輩出に努めている。
③ 調和のとれた教育課程の作成により、子どもに豊かな園生活を体験させる。また、保育実践の結果を綿密に吟味評価し、それらをフィードバックさせることにより教育課程の改善に努めている。
④ 施設・設備等の教育環境の保全と改善に努める。

⑤　附属幼稚園の社会に対する任務と役割として課せられている教育研究の成果の公表については、質の高さと正確さを旨としている。

(3) 所在地

さいたま市浦和区常盤８丁目 13 番１号（〒330-0061）
電話（048)833-6288, 831-2010

## 3　教育実践総合センターの紹介

(1) 教育実践総合センター

本センターは、教育実践に関する理論的、実践的研究を行い、学部や大学院の研究・教育はもとより、広く現場教育の充実に寄与することを目的として、附属小学校と隣接した場所に設置されました。

現在は次の三つの部門があり、それぞれ授業実践や、学校や子どもたちの現状に対応した研究と教育の活動を行っています。

構成部門・活動

1．教育実践部門　‥‥　授業実践に関する実証的研究、資料の収集整備、教師教育・教育実習のための基礎研究、現職教員との研究会・ワークショップ等を行っている。
　ビデオライブラリーの整備とインターネットによる公開への準備も進めている。

2．教育相談部門　‥‥　いじめ、不登校等の臨床的・実践的課題に対して学校や家庭・地域をめぐる相談活動を行ったり、またそれらに対応するカウンセラー養成講座、さらに埼玉県、さいたま市と協力しつつ臨床的問題についての実証的研究及び民間団体との連絡を行っている。
　附属校園との連携のもとに相談ネットワークの構築も進めている。

3．教員養成部門　‥‥　学部の各講座、埼玉県・さいたま市教育委員会、各市町村教育委員会等と連携して、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上を目指し、実践的な研究及び活動を行う。

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
〒330-0061　さいたま市浦和区常盤 6-9-44（附属小学校敷地内）
電話（048)832-9866　　FAX（048)831-0044

1996年５月25日　印刷
1996年５月31日　発行
2000年４月１日　改訂２版発行
2001年４月１日　改訂３版発行
2006年４月１日　改訂４版発行
2007年４月１日　改訂５版発行
2012年４月１日　小中合本改訂初版発行
2013年４月１日　小中合本改訂２版発行
2014年10月31日　小中合本改訂３版発行
2015年12月25日　小中合本改訂４版発行
2018年４月１日　小中合本改訂５版発行
2020年４月１日　小中合本改訂６版発行
2021年４月１日　小中合本改訂７版発行

発行　埼玉大学教育学部
『教育実習の手引き』編集委員会
〒338-8570
埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
電話：048-858-3144

印刷　株式会社　コームラ
〒501-2517
岐阜県岐阜市三輪ぷりんとぴあ３
電話：058-229-5858

Saitama University

# 埼玉大学
# 教育学部

Faculty of Education